

茨城県教育財団文化財調査報告第287集

田 島 遺 跡

(南光院地区・南光院下地区)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書2

平成20年3月

国 土 交 通 省
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第287集

た じま い せき
田 島 遺 跡
なんこういんちく なんこういんしたちく
(南光院地区・南光院下地区)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書2

平成20年3月

国 土 交 通 省
財団法人 茨城県教育財団



田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）全景



第59・60・103号土坑（墓坑）出土遺物

序

茨城県では均衡ある地域発展と地域交流圏の形成を図るため、人・物・情報・技術等が活発に交流できる開発を目指しており、県内の高速交通網を早期に形成するとともに、アクセス道路や地域間を結ぶ国道などの道路整備が計画的・効率的に進められています。

千代田石岡バイパスは、石岡市内を中心に発生している交通渋滞を解消するため、土浦市中貫地先から石岡市東大橋地先に至る延長15.7kmのバイパスとして計画されたものです。この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成16年1月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、当財団の文化財報告第253集として刊行したところです。

本書は、田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）のその後の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、石岡市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實 徳

例 言

- 1 本書は、国土交通省の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県石岡市大字石岡5,435番地の3ほかに所在する田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調 査 平成18年10月1日～平成19年2月28日
整 理 平成19年4月1日～平成19年11月30日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 川又 清明
主任調査員 田原 康司
主任調査員 小野 政美
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員小野政美が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、自然科学分析はパリノサーヴェイ株式会社に委託し、考察を付章として巻末に掲載した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +19,920\text{m}$ 、 $Y = +39,840\text{m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S K - 土坑 S D - 溝跡 S A - 柱穴列跡 S E - 井戸跡

U P - 地下式坑 H T - 方形竪穴遺構 T P - 陥し穴 P G - ピット群 P - 柱穴

遺物 P - 土器・陶磁器 T P - 拓本記録土器 D P - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品

土層 K - 攪乱


- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とし、種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・施釉・赤彩

 炉・火床面・繊維土器断面

 竈部材・粘土・炭化材・黒色処理

 煤・油煙

●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ■貝殻片 ----- 硬化面

- 5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の () 内の数値は現存値を、[] 内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m, cm, g で示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。

(2) 備考欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 「主軸」は、炉または竈を持つ竪穴住居跡についてはそれらを通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸（径）方向」は主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

抄 録

ふりがな	たじまいせき なんこういんちく・なんこういんしたちく								
書名	田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）								
副書名	一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書2								
巻次	2								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第287集								
著者名	小野 政美								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-225-6587								
発行日	2008（平成20）年3月24日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
たじまいせき 田島遺跡 （南光院地区・ 南光院下地区）	いばらきけん いしおか し 茨城県石岡市 おおあぎ いしおか あぎ た じま 大字石岡字田島 ほんち 5,435番地の3ほか	08205 - 146	36度 10分 47秒	140度 16分 34秒	5 m ～ 24m	20061001 ～ 20070228	7,869㎡	一般国道6号千代 田石岡BP（かすみ がうら市市川～石岡 市東大橋）建設工 事に伴う事前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
田島遺跡 （南光院地区・ 南光院下地区）	集落跡	縄文	竪穴住居跡	5軒	縄文土器（深鉢）、石器（楔 形石器・石鏃・敲石・台石・ 磨石）、剥片	縄文時代前期初頭の住 居跡からは、石核や剥片 が600点以上出土してい る。 平安時代の墓坑には灰 釉陶器や土師器が副葬さ れている。			
			陥し穴	4基					
		古墳	集石土坑	1基					土師器（坏・椀・高坏・甕・ 甑・甗）、石製品（白玉・ 紡錘車・棗玉）、土製品 （球状土錘・管状土錘・ 紡錘車・支脚）
			竪穴住居跡	11軒					
			奈良・平安	竪穴住居跡					
	墓跡	平安	中世	方形竪穴遺構	2基				土師質土器（小皿・内耳鍋）、 陶器（甕）、古銭
				地下式坑	1基				
				堀跡	1条				
				溝跡	3条				
				井戸跡	2基				
その他	時期不明	近世	粘土貼り土坑	1基	土師質土器（瓦灯皿・焙烙）、 陶磁器（碗・仏花瓶・香炉）、 土製品（土人形）、古銭				
			掘立柱建物跡	2棟					
			段切り状遺構	1か所					
			（溝跡1条、土坑12基、 ピット群1か所）						
			溝跡	2条					
その他	時期不明	近世	井戸跡	1基	土師器（坏・高台付椀）、 灰釉陶器（長頸瓶）				
			土坑	4基					
			粘土貼り土坑	1基					
			火葬土坑	8基		土師質土器（皿）、古銭			
			墓坑	1基					
土坑	12基								
近世	墓坑	4基	陶器・磁器（碗）、古銭						
土坑	25基								
溝跡	13条								
その他	時期不明	近世	土坑	136基					
			柱穴列跡	2か所					
			ピット群	3か所					
要約	当遺跡は縄文時代前期から近世までの複合遺跡である。河岸段丘の低地部（南光院下地区）と台地部（南光院地区）を調査し、低地部では縄文時代前期・古墳時代後期の集落跡や中世の火葬施設など、台地部からは平安時代の集落跡と平安時代から近世までの墓跡が確認されている。								

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 陥し穴	25
(3) 集石土坑	28
2 古墳時代の遺構と遺物	30
竪穴住居跡	30
3 奈良時代の遺構と遺物	57
竪穴住居跡	57
4 平安時代の遺構と遺物	76
(1) 竪穴住居跡	76
(2) 墓坑	80
5 中世の遺構と遺物	85
(1) 方形竪穴遺構	85
(2) 地下式坑	86
(3) 堀跡	88
(4) 溝跡	91
(5) 井戸跡	94
(6) 粘土貼り土坑	97
(7) 火葬土坑	98
(8) 墓坑	103
(9) 墓坑の可能性のある土坑	104
6 近世の遺構と遺物	107
(1) 掘立柱建物跡	107
(2) 段切り状遺構	109
(3) 溝跡	117
(4) 井戸跡	119
(5) 土坑	120
(6) 粘土貼り土坑	124
(7) 墓坑	125
(8) 墓坑の可能性のある土坑	129
7 その他の遺構と遺物	132
(1) 溝跡	132
(2) 土坑	135
(3) 柱穴列跡	156
(4) ビット群	157
(5) 遺構外出土遺物	161
第4節 まとめ	165
付章 田島遺跡から出土した炭化材の樹種	176
写真図版	
付図	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成10年11月12日、建設省関東地方建設局常陸工事事務所長（現国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長）は茨城県教育委員会教育長に対して一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成11年2月8日～3月3日に現地踏査を、平成12年8月24日、9月20日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年11月21日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、事業地内に田島遺跡が所在する旨及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成15年3月10日、国土交通省関東地方整備局長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現 第94条）に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年3月12日、国土交通省関東地方整備局長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成18年2月15日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道6号千代田石岡バイパスに係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成18年2月17日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年10月1日～平成19年2月28日まで田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成18年10月1日から平成19年2月28日まで実施した。以下、その概要を表で記載する。

【調査経過】

工程 \ 期間	10月	11月	12月	1月	2月
調査準備 遺構土除 表土確認	■				
遺構調査		■			
遺物洗浄 注記作業 写真整理		■			
補足調査 撤収					■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）は、茨城県石岡市大字石岡5,435番地の3ほかに所在している。

霞ヶ浦の北西、県中央部に広がる洪積台地を主体とした市域は、恋瀬川の低地を挟んで石岡・高浜地区と三村・関川地区に大別され、石岡市街地は恋瀬川左岸に広がる台地上に発達している。恋瀬川は筑波山系の加波山に流れを発生し、南東方向に流れながら霞ヶ浦の高浜入に注ぎ、両岸には標高20～30mのゆるやかな台地が広がっている。石岡台地は、園部川と恋瀬川に挟まれた平坦な洪積台地で、更に台地中央を山王川によって南北に二分されている。これらの河川は、台地縁辺部を複雑に浸食している。

地質は、未固結の砂を主とする石崎層、浅海性の貝化石を産する海成の砂層である見和層を基盤とし、その上に茨城粘土層と呼ばれる粘土層（0.3～5.0m）、さらに褐色の関東ローム層（0.5～2.5m）が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

当遺跡は、恋瀬川左岸に位置し、南光院地区は標高20～24mの台地上、南光院下地区は西部に下った標高5～6mの低地部である。台地部の南は20mほどの崖となっており、崖下の低地部は恋瀬川まで続く水田地帯である。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺には多くの遺跡が存在している²⁾。

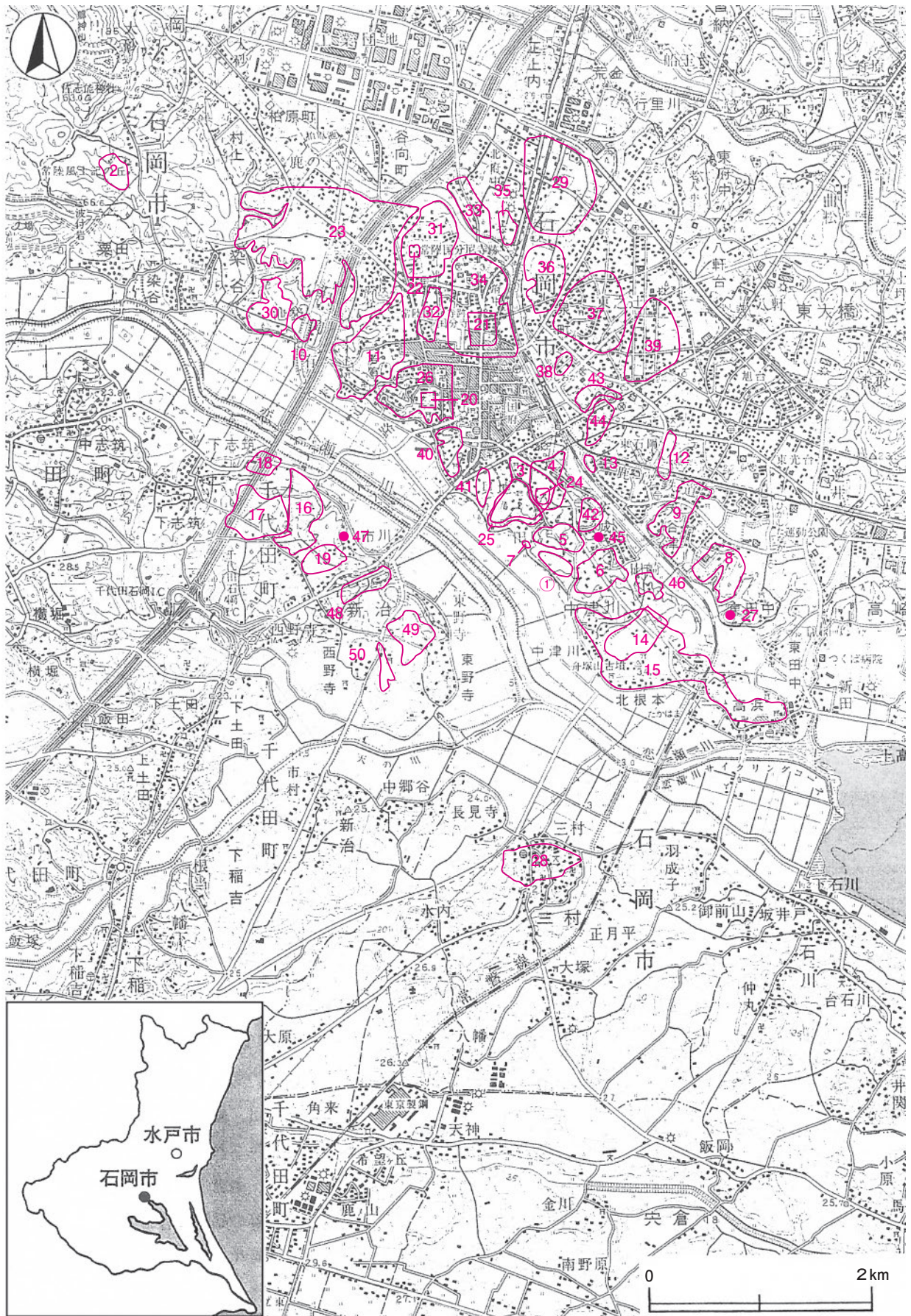
旧石器時代では、三村の正月平遺跡からナイフ形石器が確認されており、現在のところ二万年以前で、市内の遺跡では最古と考えられている。さらに、常陸風土記の丘建設に伴って発掘調査された宮平遺跡〈2〉からは、頁岩製のナイフ形石器が出土している。その他、十三塚C遺跡や弾正C遺跡からも細石刃が採集されている³⁾。これらの遺跡は、恋瀬川や園部川、天の川流域の台地上に分布しており、集落が営まれていたことがうかがえる⁴⁾。

縄文時代の遺跡は、草創期から晩期にかけて各時期確認されている。当遺跡周辺では、外城遺跡⁵⁾〈3〉、小目代遺跡〈4〉、三面寺遺跡〈5〉、田崎遺跡〈6〉などがある。これらの遺跡も旧石器時代と同様に、恋瀬川から霞ヶ浦にかけての舌状台地上に分布している。また、平成15～16年度にかけて調査された田島遺跡（田島下地区）〈7〉の第1号遺物包含層では、早期から前期の土器片と人為的に割られた胡桃1,000個体分以上が出土している⁶⁾。出土した土器は縄文時代前期初頭の花積下層式土器が主体であり、当時の生業活動の一端を解明するための好資料が確認されている⁷⁾。

当遺跡は、前述した第1号遺物包含層の東側台地縁辺部にあり、この時期の集落の一部が調査されている。また、市域における前期前半の土器群が発見されている遺跡は、外山遺跡⁸⁾〈8〉、大谷津遺跡〈9〉、餓鬼塚遺跡〈10〉、宮部遺跡⁹⁾〈11〉、新池台遺跡¹⁰⁾〈12〉などがあり、外山遺跡では集落跡も検出されている¹¹⁾。

弥生時代の遺跡は、新池台遺跡、宮平遺跡、外山遺跡が知られている。その分布を見ると、恋瀬川や園部川から延びる谷津を臨む台地縁辺部に集中しており、谷津地形を利用して集落を形成していたと考えられる。その他、兵崎遺跡〈13〉、田崎遺跡、中津川遺跡〈14〉などが確認されている。

古墳時代には遺跡が増加する。主な集落跡は前期集落として外山遺跡、後期集落として餓鬼塚遺跡、新池台



第2図 田島遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「真壁」・「石岡」・「土浦」・「玉造」）

表1 田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世
①	田島遺跡 (南光院地区・南光院下地区)	○		○	○	○	○	26	府中城跡						○	
2	宮平遺跡	○	○	○	○	○		27	高野浜城跡						○	
3	外城遺跡		○	○		○	○	28	三村城跡						○	
4	小目代遺跡		○			○	○	29	木間塚遺跡		○			○	○	○
5	三面寺遺跡		○			○	○	30	高根遺跡		○		○	○		○
6	田崎遺跡		○	○		○		31	尼寺ヶ原遺跡		○			○	○	○
7	田島遺跡 (田島下地区)		○		○	○	○	32	一本杉遺跡			○		○		○
8	外山遺跡		○	○	○	○		33	北ノ谷遺跡		○			○		○
9	大谷津遺跡		○			○	○	34	国分遺跡		○			○	○	○
10	餓鬼塚遺跡		○	○	○	○		35	木間長者屋敷遺跡		○			○	○	
11	宮部遺跡		○			○	○	36	杉ノ井遺跡			○		○		○
12	新池台遺跡		○	○	○			37	東ノ辻遺跡		○			○		○
13	兵崎遺跡		○	○		○		38	白久台遺跡		○					
14	中津川遺跡		○	○	○	○	○	39	大塚遺跡					○		○
15	舟塚山古墳群				○			40	幸町遺跡		○		○	○	○	
16	石岡別所遺跡		○		○	○	○	41	通安寺遺跡		○	○		○		○
17	松延遺跡		○	○	○		○	42	税所屋敷遺跡		○	○		○		○
18	六枚遺跡				○			43	山王遺跡				○	○		
19	市川遺跡				○			44	兵崎箕輪遺跡		○			○	○	
20	常陸国衙跡					○		45	茨城古墳				○			
21	常陸国分寺跡					○		46	石岡田崎遺跡		○			○		
22	常陸国分尼寺跡					○		47	三王原遺跡				○			
23	鹿の子遺跡		○	○	○	○	○	48	姥久保遺跡					○		
24	茨城廃寺跡					○		49	東野寺遺跡					○		○
25	茨城郡衙跡					○		50	宮台遺跡				○	○		

遺跡などが確認され、そのほかには石岡別所遺跡¹²⁾(16)、松延遺跡〈17〉、六枚遺跡〈18〉、市川遺跡〈19〉などがある。古墳も多く、18群132基が確認されている。その多くは恋瀬川左岸に分布している。特に中津川地区には舟塚山古墳をはじめ、愛宕山古墳、大日塚古墳など大形の古墳を含む舟塚山古墳群〈15〉が位置し、この地における有力豪族の存在がうかがえる¹³⁾。

奈良・平安時代の遺跡も数多く、常陸国の中心として常陸国衙跡¹⁴⁾(20)、常陸国分寺跡¹⁵⁾(21)、常陸国分尼寺跡¹⁶⁾(22)が所在する。常陸国衙跡は、近年継続的に調査が行われ、その全容が明らかになってきている。また、国分尼寺跡の北西には鹿の子遺跡〈23〉が広がり、調査された鹿の子C遺跡¹⁷⁾では漆紙文書が発見され、当時の様子を知る貴重な資料として注目された。さらに市街地の南部には、茨城郡に関連する茨城廃寺跡¹⁸⁾(24)、茨城郡衙跡〈25〉が所在する。

中世には武家が台頭して勢力争いが起こり、戦国乱世へ流れていく中、各地に城郭の築造が見られるようになる。当石岡では、鎌倉時代に大掾氏が外城に石岡城を築城した。南北朝時代には、大掾氏と小田氏との間で抗争が激化し、八代詮国は現在の石岡小学校所に城を移して府中城〈26〉とした。これにより石岡城は、府中城の出城としての性格を強めた(外城遺跡)。その他、市域には高野浜城跡〈27〉や三村城跡〈28〉などがあり、これらはこの時期に築城された出城跡である。また、南光院地区の名称については、中近世にこの地に南光院という寺院があったことに由来する。南光院は三面寺の末寺で、三面寺が衰えた文明の頃から暫く栄えたが、幕末に廃寺となっている。三面寺は税所氏の菩提寺で、仁和年間以前に同氏により建立され鎌倉時代まで続いたのち、文明十三年に万福寺に継承された。当地区は三面寺の南に位置し、東より突き出た半島状で、約3ヘクタールの地域である¹⁹⁾。

大掾氏や小田氏等の抗争の中、中世末期は北から勢力を伸ばしてきた佐竹氏の支配下に入り、やがて徳川家康が江戸に幕府を開くと、徳川頼隆が府中城主となって城下町が形成された。古来から水運交通に恵まれていた石岡の地は、周辺集落や各地からの物産集散地としての性格を色濃くし、特に酒・醤油など醸造業を中心に発展した。

近代以降も商人層の活躍は目覚ましく、常磐線から分岐する鹿島鉄道は、こうした商人層の資本力を背景に建設され、石岡の発展に貢献した。

※ 文中の〈〉内の番号は、表1及び第2図の該当番号と同じである。

註

- 1) 石岡市史編さん委員会『石岡市史 下巻』石岡市 1985年3月
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編、地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 石岡市史編さん委員会『石岡の歴史』石岡市 1984年11月
- 4) 石岡市文化財関係資料編纂会『常府石岡の歴史』石岡市教育委員会 1997年3月
- 5) 茨城県石岡市教育委員会『外城遺跡発掘調査報告書』石岡市教育委員会 1986年3月
- 6) 飯泉達司「一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書1 田島遺跡(田島下地区)」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第253集 2006年3月
- 7) 註6に同じ
- 8) 山本静男「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 兵崎遺跡 大谷津A遺跡 対馬塚遺跡 大谷津B遺跡 大谷津C遺跡 外山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書XⅢ』1982年3月
- 9) 註8に同じ
- 10) 和田雄次「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 新池台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第17集 1983年3月
- 11) 石岡市遺跡分布調査会『石岡市遺跡分布調査報告』石岡市教育委員会 2001年3月
- 12) 後藤孝行「一般県道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 石岡別所遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第244集 2004年3月
- 13) 註4に同じ
- 14) 箕輪健一『常陸国衙跡 石岡小学校温水プール建設事業に伴う調査』石岡市教育委員会生涯学習課 2001年3月
- 15) 安藤敏孝『常陸国分寺発掘調査報告書』石岡市教育委員会 1995年3月
- 16) 安藤敏孝『常陸国分寺発掘調査概報』石岡市教育委員会 1996年3月
- 17) 佐藤正好・川井正一「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(5) 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 1983年3月
- 18) 小笠原好彦・黒澤彰哉『茨城廃寺I』石岡市教育委員会 1980年3月
- 19) 石岡市市史編さん委員会『石岡市史 上巻』石岡市 1990年7月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）は、恋瀬川左岸の標高5～24mに発達した舌状の台地上に立地している。調査区は、この台地部（南光院地区）と西斜面裾部の低地部（南光院下地区）を南北幅25～60m東西幅310mに設定され、調査面積は7,869㎡である。調査前の現況は畑地、竹林、荒蕪地である。

今回の調査によって、縄文時代から近世までの遺構と遺物が確認された。検出された遺構は、竪穴住居跡26軒（縄文時代前期5、古墳時代11、奈良時代9、平安時代1）、掘立柱建物跡2棟、方形竪穴遺構2基、地下式坑1基、堀跡1条、溝跡18条、井戸跡3基、土坑140基（近世4、時期不明136）、粘土貼り土坑2基、火葬土坑8基、墓坑8基（平安時代3、中世1、近世4）、墓坑の可能性のある土坑37基（中世12、近世25）、陥し穴4基、集石土坑1基、柱穴列跡2か所、ピット群3か所、段切り状遺構1か所（溝跡1条、土坑12基、ピット群1か所）である。

遺物は、遺物コンテナ（60×40×20cm）に31箱出土している。主な遺物は縄文土器（深鉢）、弥生土器（壺）、土師器（坏・椀・高坏・高台付椀・甕・甑・甌）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・甕・甑）、灰釉陶器（長頸瓶）、土師質土器（小皿）、陶磁器（皿・碗・瓶子・壺・甕・播鉢）、土製品（紡錘車・管状土錘・支脚）、石器（石鏃・敲石・凹石・磨石・砥石）、石製品（白玉・紡錘車・棗玉）、金属製品（刀子・釘）、古銭（永楽通寶・寛永通寶）などである。

第2節 基本層序

調査区東部のF9b8区にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。地表面の標高は23.0mで、表土である第1層を除去した確認面から深さ1.5mまで掘り下げた。以下、第2層から記述する。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから11層に細分される。観察結果は、以下の通りである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層で、粘性・縮まりともに普通、層厚は20～25cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層への漸移層で、クラックが発達している。粘性は普通で縮まりは強く、層厚は5～30cmである。

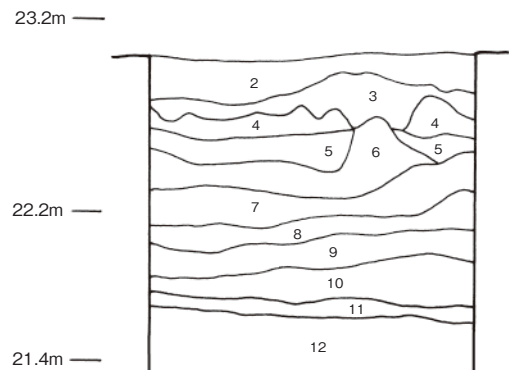
第4層は褐色を呈するハードローム層で、炭化粒子を微量含み、層厚は10～20cmである。

第5層は褐色を呈するハードローム層で、赤色粒子を微量含んで縮まりが強く、層厚は20～40cmである。

第6層は褐色を呈するハードローム層で、黒色粒子を微量含んで縮まりが強く、層厚は20～40cmである。

第7層は褐色を呈するハードローム層で、炭化粒子を微量含んで縮まりが強く、層厚は10～20cmである。

第8層は黄褐色を呈するハードローム層で、粘土粒子を少量含み、粘性はやや弱く、縮まりは強い。層厚は10～15cm



第3図 基本土層図

である。

第9層はにぶい黄褐色を呈し、砂粒・粘土粒子を含むハードローム層で、粘性はやや弱く、締まりは強い。層厚は10～15cmである。

第10層は褐色を呈する粘土層への漸移層で、ローム粒子多量の中に粘土粒子を含む。粘性・締まりともに強く、層厚は10～25cmである。

第11層はにぶい黄褐色を呈する粘土層である。鉄分を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は5～10cmである。

第12層はにぶい黄色を呈する粘土層である。鉄分を少量含み、粘性・締まりともに強い。遺構は、第2層上面で確認されている。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡5軒、陥し穴4基、集石土坑1基が確認された。これらの遺構のうち陥し穴2基は標高24mの台地部に、その他は標高5～6mの河岸段丘の低位段丘上に位置している。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

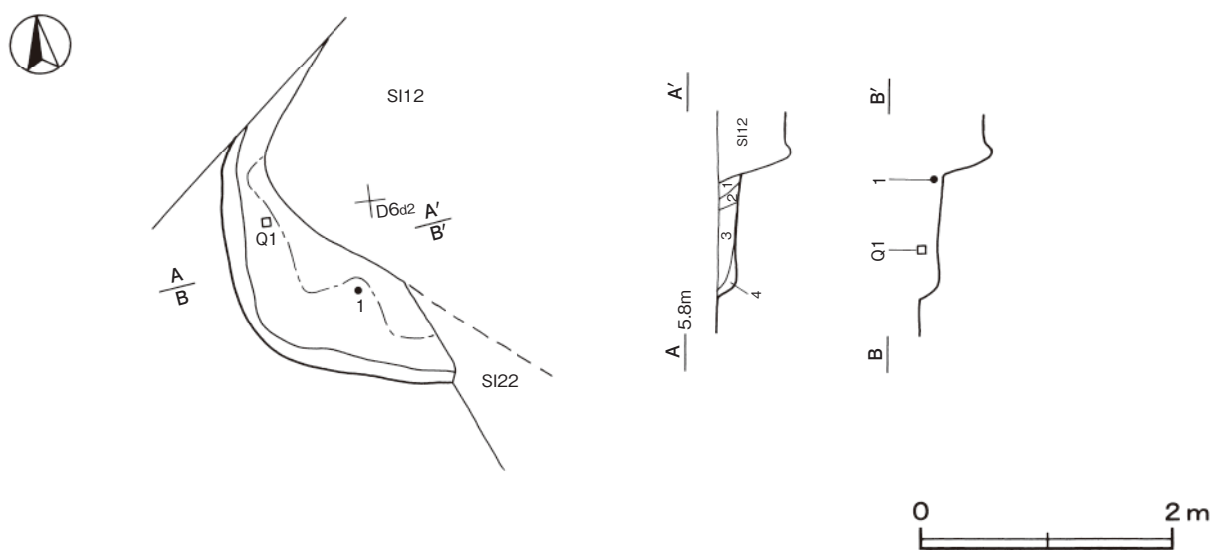
(1) 竪穴住居跡

第20号住居跡（第4・5図）

位置 調査I区西部のD6d1区、標高6.0mの微高地に位置している。

重複関係 南西コーナー部を除き、第12・22号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北西部は調査区域外に延びているため、東西軸1.00m、南北軸2.56mが確認されただけである。平面形、主軸方向は不明である。壁高は10～14cmで、外傾して立ち上がっている。



第4図 第20号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

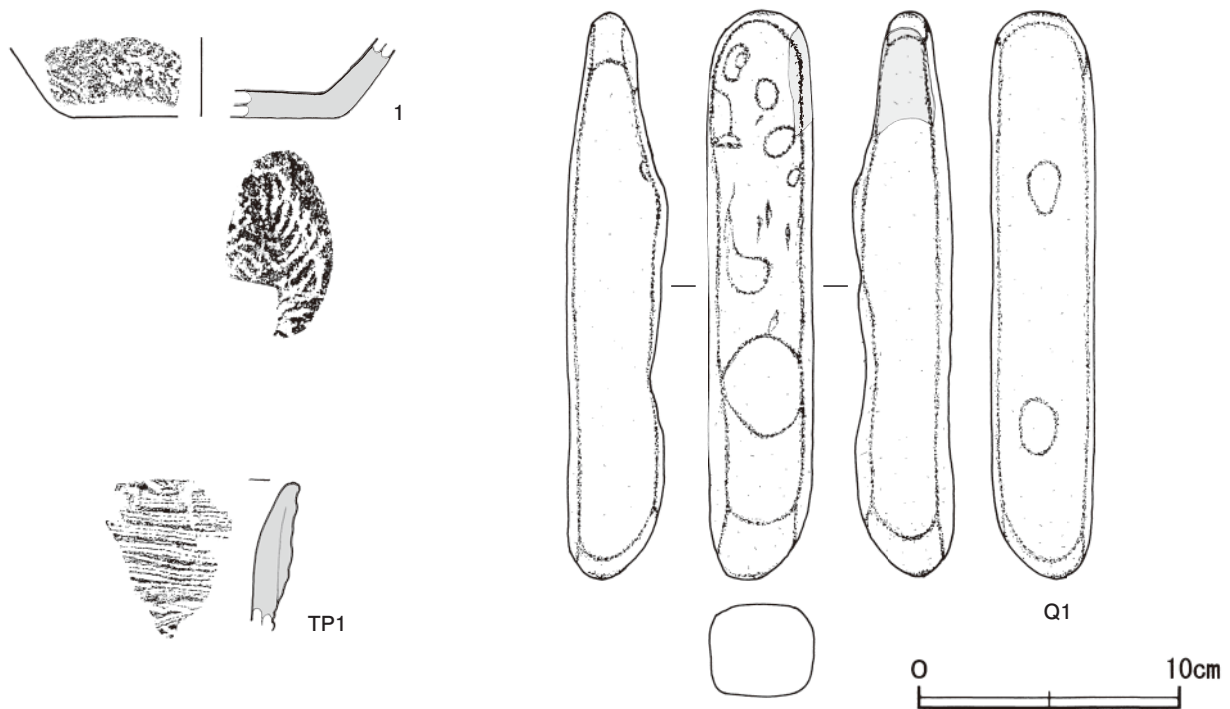
覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片5点（深鉢），石器1点（凹石）が出土している。その他，混入した土師器片28点，土師質土器片1点も覆土中から出土している。1は南西コーナー部の床面，Q1は西壁付近の覆土下層，TP1は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から縄文時代前期初頭（花積下層式期）と考えられる。



第5図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	[10.0]	石英・長石・繊維	褐	普通	胴部・底部単節羽状縄文 内面磨き	床面	5% 前期
TP1	縄文土器	深鉢				長石・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	口縁肥厚，2条一組の撚糸側面圧痕文 内面丁寧な磨き	覆土中	前期 PL20
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q1	凹石	21.7	4.1	3.8	580.0	砂岩	表面裏面に敲打痕 被熱痕有り		覆土下層	PL26	

第21号住居跡（第6・7図）

位置 調査I区西部のD6 d3区，標高6.0mの微高地に位置している。

重複関係 北西コーナー部を第12号住居，第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.20m，短軸1.94mの隅丸長方形で，主軸方向はN-19°-Eである。壁高は10～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 4か所。P1～P4は深さは6～18cmで，位置と規模から支柱穴と考えられる。

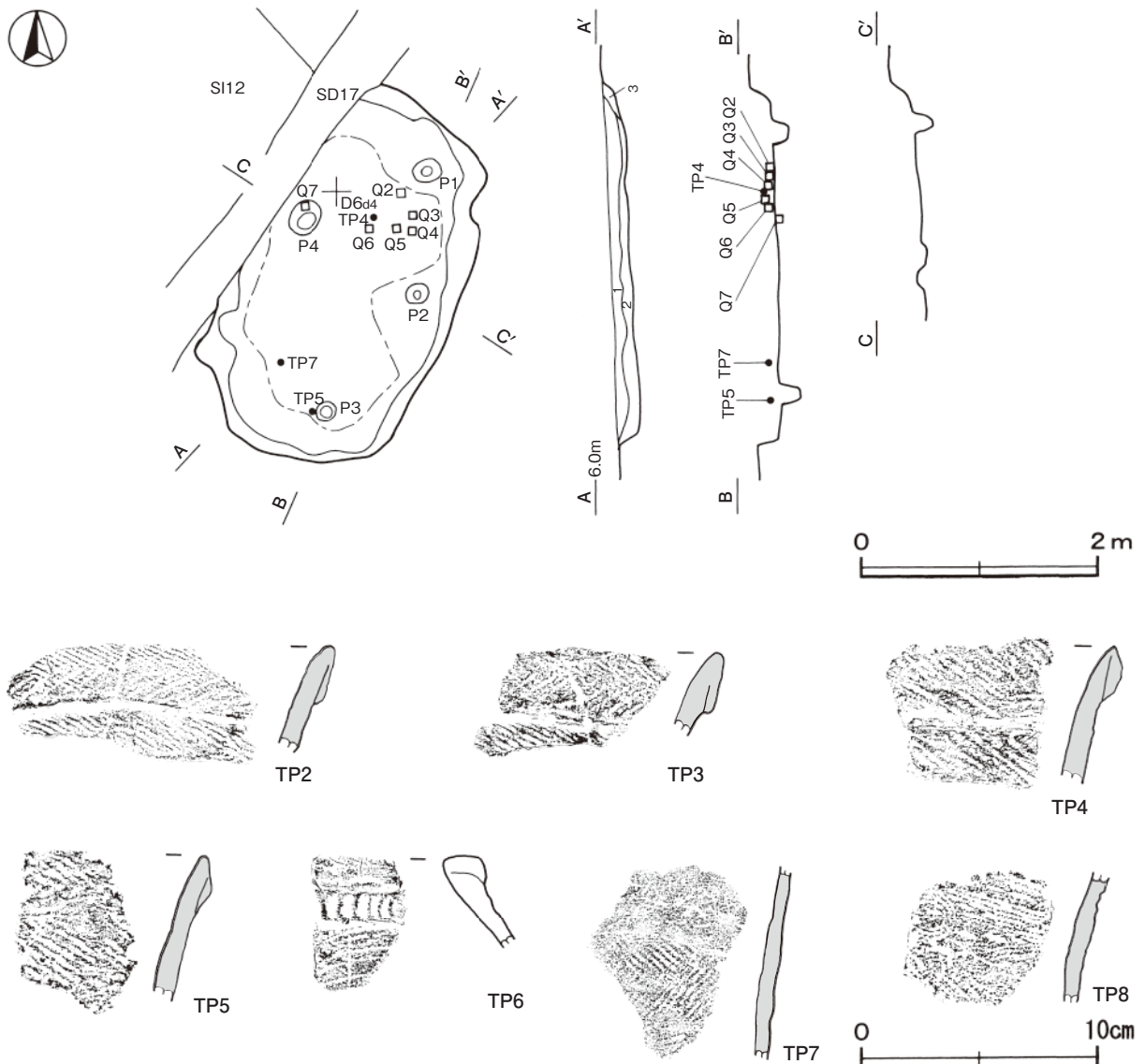
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

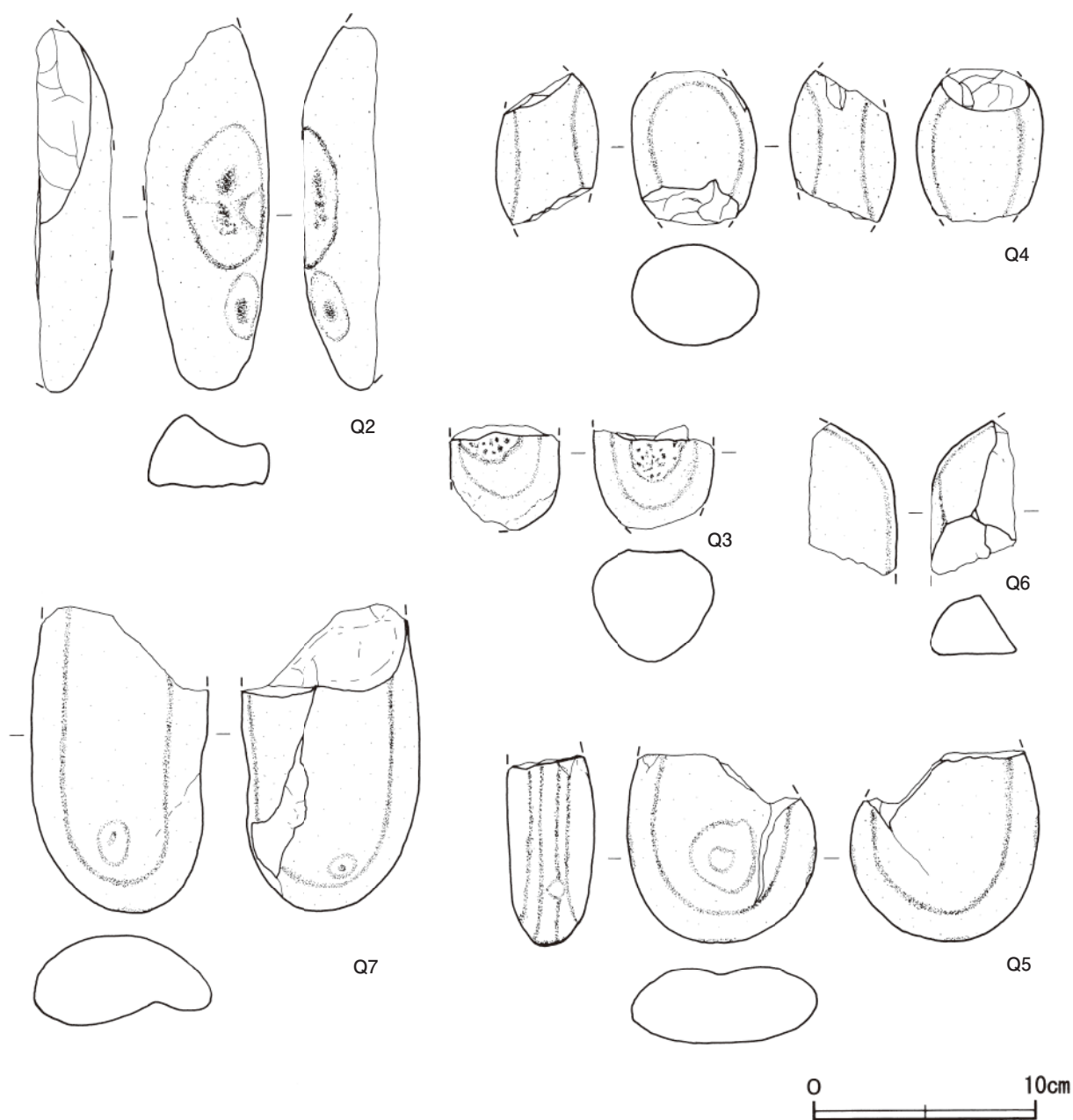
- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 3 極暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片58点（深鉢），石器7点（敲石5，磨石2）が出土している。その他，TP6と土師器片1点は混入したものである。TP4，Q2～Q7は中央部，TP5・TP7は南側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から縄文時代前期初頭（花積下層式期）と考えられる。



第6図 第21号住居跡・出土遺物実測図



第7図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第6・7図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい橙	普通	折り返しによる口縁肥厚 無節羽状縄文 内面磨き	覆土中層	前期 PL21
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	折り返しによる口縁肥厚 無節羽状縄文 内面磨き	覆土中層	前期 PL21
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	折り返しによる口縁肥厚 単節縄文 RL	床面	前期 PL20
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	折り返しによる口縁肥厚 単節縄文 RL 内面磨き	床面	前期 PL21
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部爪形文 胴部条線文	覆土上層	後期
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	胴部外面単節羽状縄文 内面磨き	床面	前期 PL21
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	撚糸側面圧痕による渦巻文と刺切文 胴部単節縄文 RL 内面磨き	覆土中層	前期 PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	敲石	(16.4)	5.6	3.5	(380.0)	砂岩	表面に敲打痕	床面	
Q 3	敲石	(4.7)	5.5	5.0	(130.0)	砂岩	表面と側面2か所に敲打痕	床面	
Q 4	敲石	(6.9)	5.6	4.6	(220.0)	砂岩	敲打痕1か所 側面に磨面	床面	
Q 5	敲石	(8.5)	8.5	3.3	(340.0)	砂岩	敲打痕2か所	床面	
Q 6	磨石	(6.8)	(4.0)	2.6	(60.0)	砂岩	表面と側面2か所に磨面	床面	
Q 7	敲石	(13.9)	9.4	4.0	(560.0)	安山岩	敲打痕2か所	床面	

第23号住居跡（第8～11図）

位置 調査Ⅰ区西部のD 6 f4区、標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 長軸4.42m、短軸3.16mの隅丸長方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は14～36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、南東コーナー部付近と中央部炉周辺の床面が硬化している。

炉 中央部よりやや北東寄りに付設されている。長径66cm、短径46cmの楕円形で、床面を12cmほど皿状に掘り込んだ地床炉である。炉床は火を受けて若干赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 明赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 明褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 10か所。P 1～P 5は深さ12～25cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P 6・P 7は深さ20cm、22cmで規模と位置から棟持柱の柱穴と考えられる。P 8～P 10の性格は不明である。

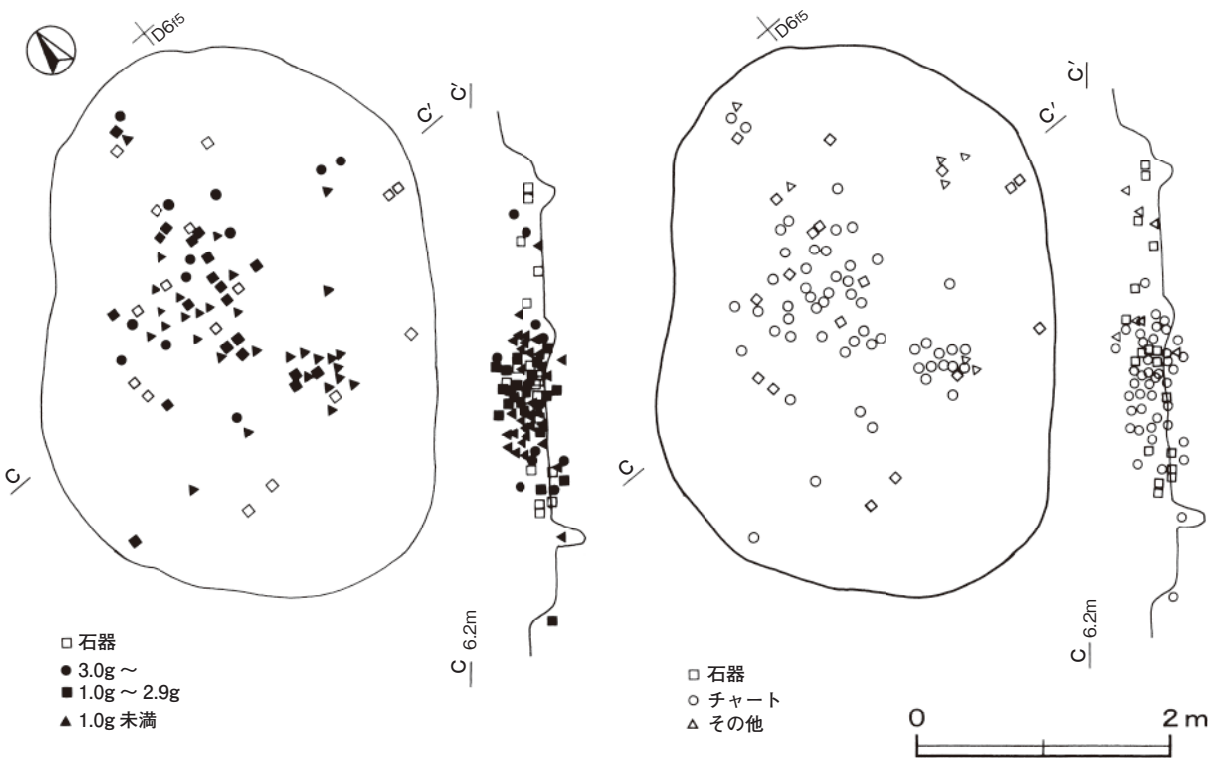
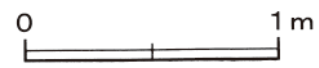
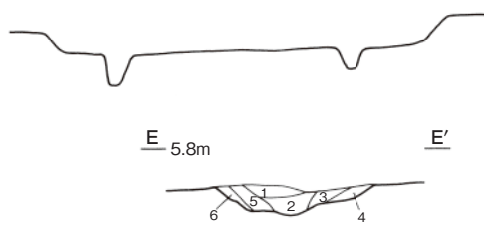
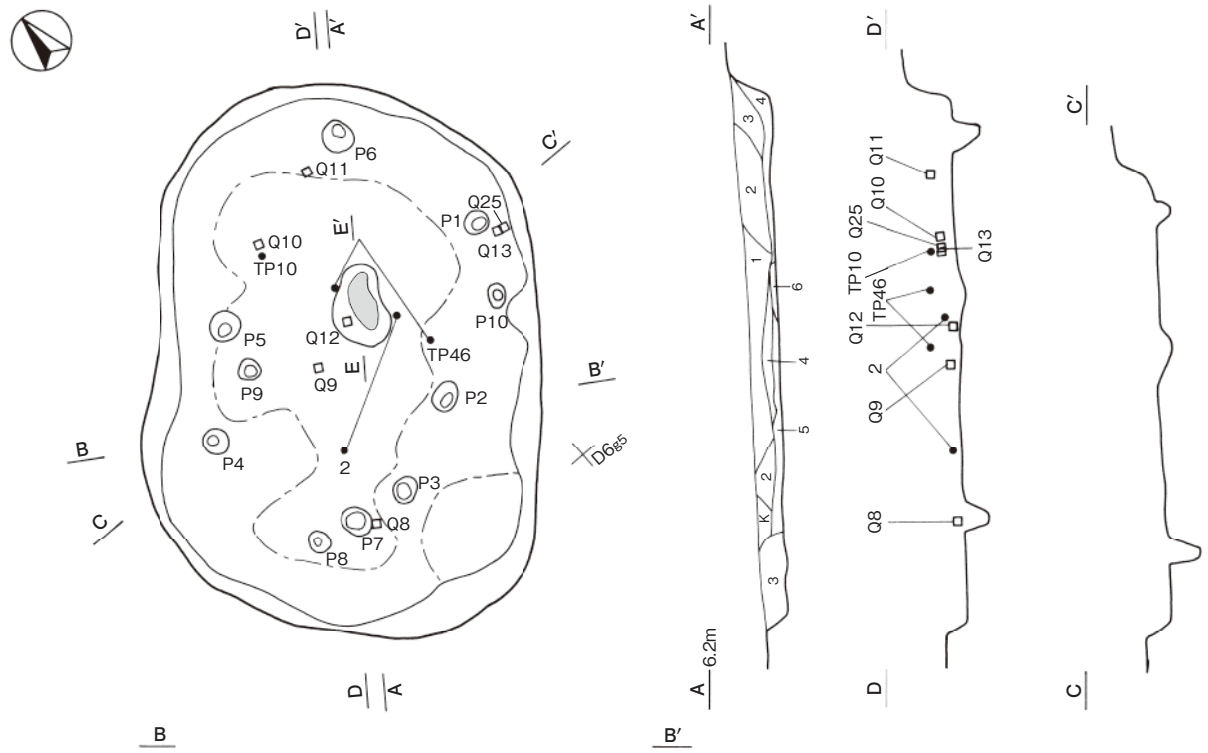
覆土 6層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

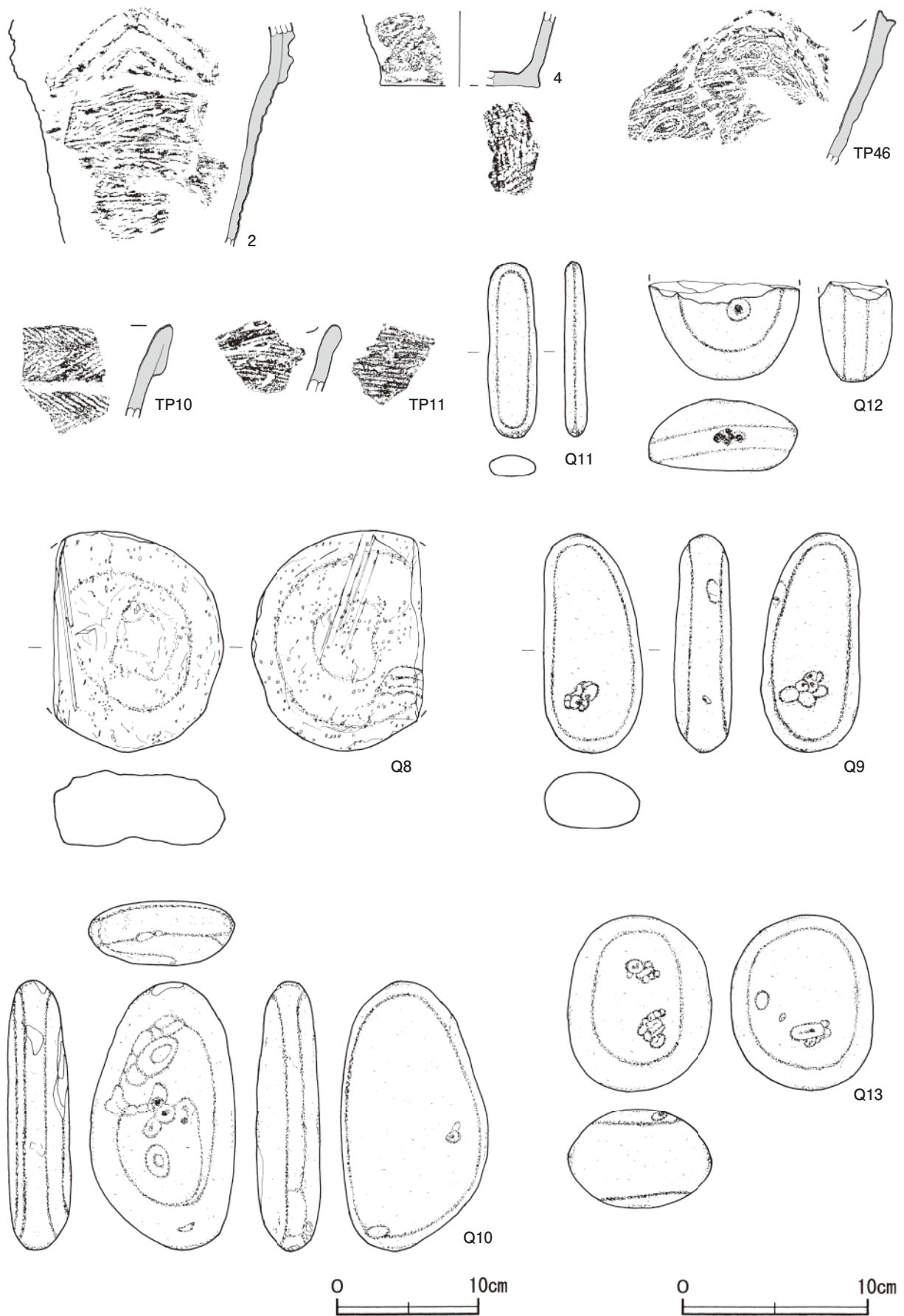
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量 | 4 黒褐色 | 炭化物・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 炭化粒子・砂粒微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片151点（深鉢）、石器19点（石核2、楔形石器6、尖頭器1、石鏃2、石匙1、磨石2、敲石3、凹石1、台石1）、剥片73点が出土している。その他、混入した土師器片2点、須恵器片5点も出土している。遺物は南東コーナー部以外の覆土中層から下層にかけて出土しており、特に炉の周辺に集中している。2は炉付近の床面、TP10・TP46は覆土中層からそれぞれ出土している。Q 8は南部、Q 9～Q 12は中央部の覆土下層から、Q 13は東壁付近の覆土中層からそれぞれ出土している。石核や剥片は覆土中層から床面にかけて出土しており、炉をはさんだ中央部北西寄りと南寄りの2か所に集中地点がみられる。その内、床面から出土したものは23点である。Q 14は西壁際、Q 15は東壁際の覆土下層、Q 16～Q 21は炉付近の覆土中層から床面、Q 22は中央部の床面、Q 23は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。Q 24は北壁際の覆土中層から出土している。

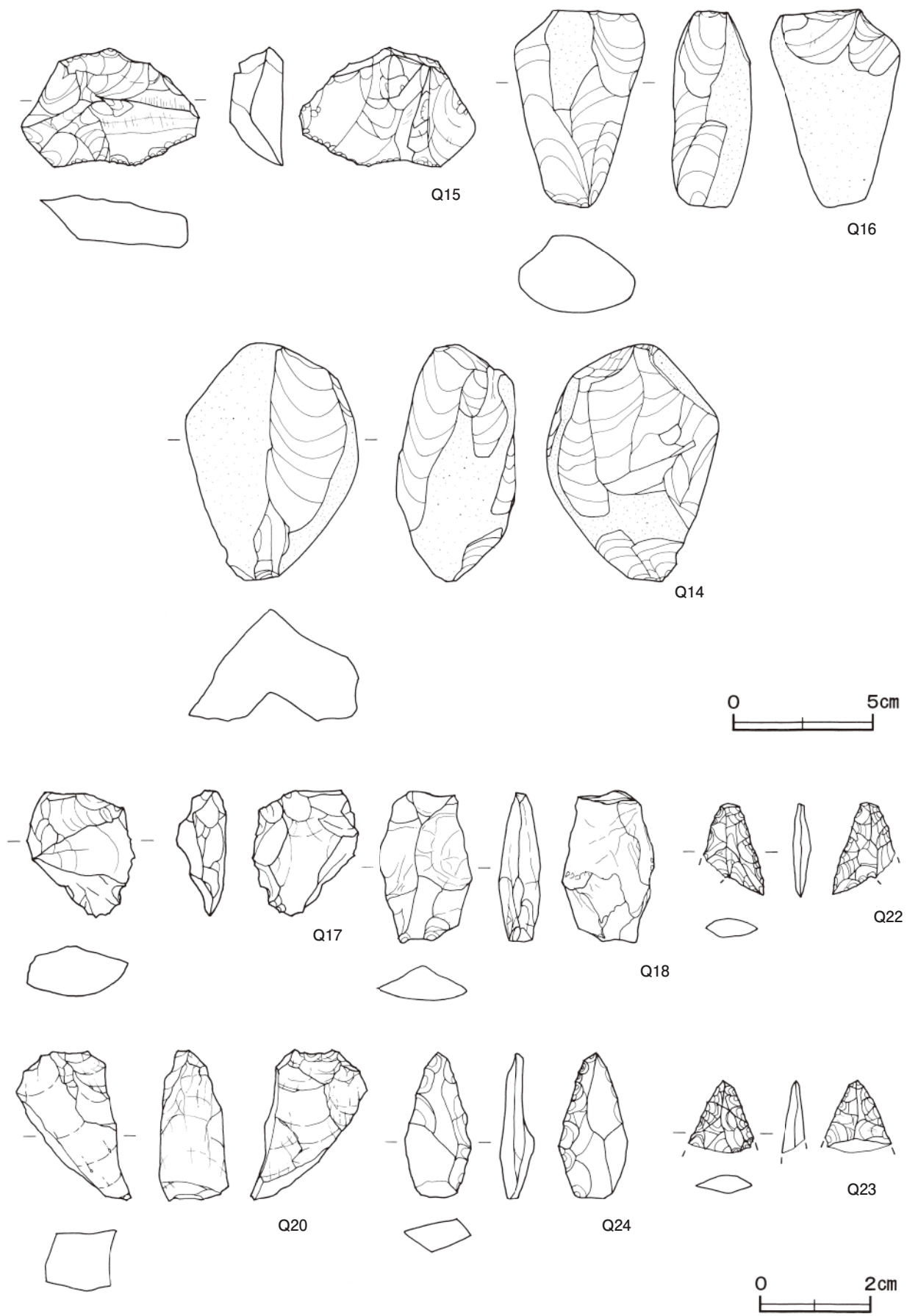
所見 敲石や台石の加工具類と石核や剥片などが出土していることから、周辺部で石器製作が行われていた可能性がある。石器類の石材はチャートが80%以上を占め、その他の石材は頁岩や黒曜石、砂岩などである。楔形石器が6点出土し、両極打撃による剥片剥離が行われていたと考えられる。時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭（花積下層式期）と考えられる。



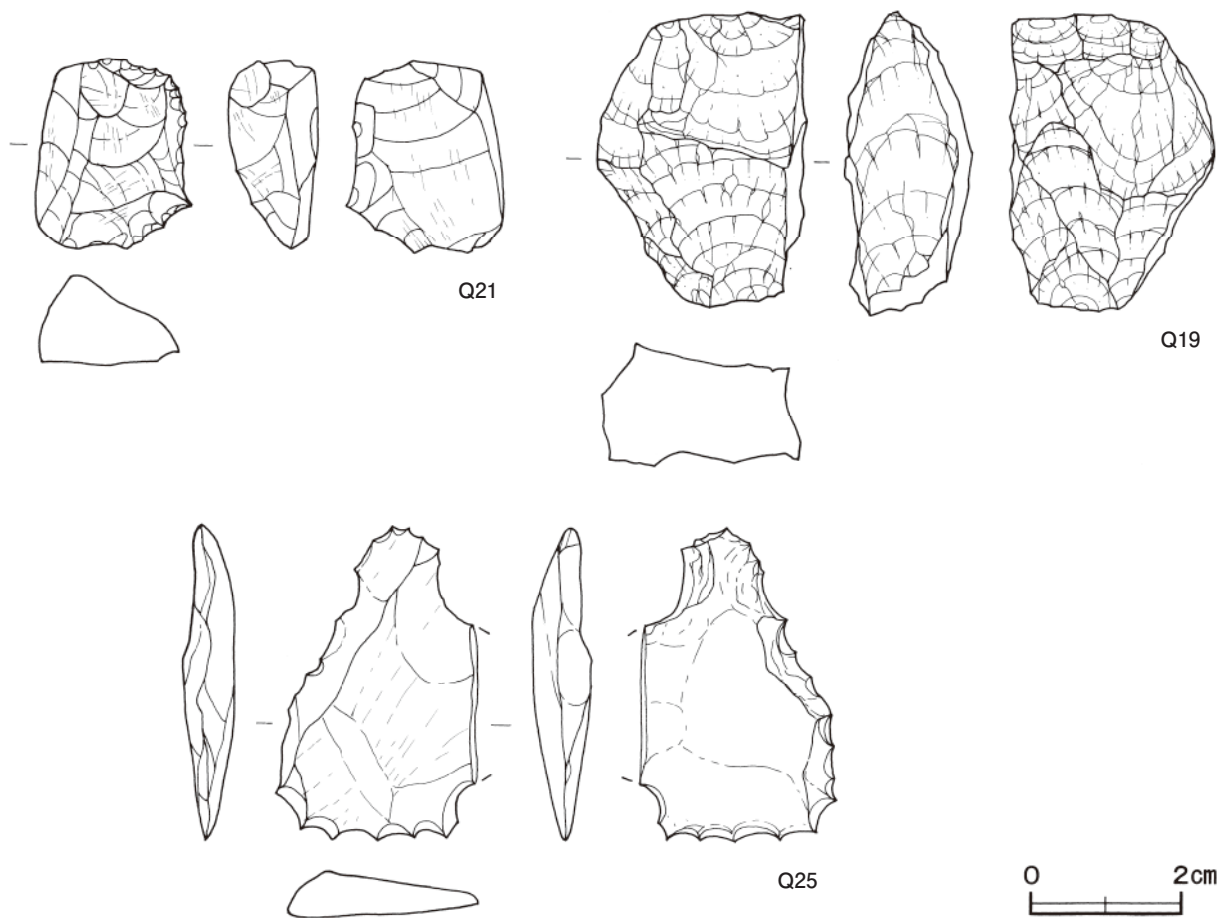
第8図 第23号住居跡実測図



第9图 第23号住居跡出土遺物実測図(1)



第10图 第23号住居跡出土遺物実測図(2)



第11図 第23号住居跡出土遺物実測図(3)

第23号住居跡出土遺物観察表 (第9～11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	砂粒・繊維	にぶい褐	普通	波状口縁 波状部に沿って降帯を3条貼り付けて口辺部文様帯とする 胴部横位に撚糸側面圧痕文と刺切文	床面	10%前期 PL20
4	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	[8.6]	砂粒・繊維	明赤褐	普通	胴部・底部単節羽状縄文 内面磨き	覆土中	5%前期

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	折り返しによる口縁肥厚 無節羽状縄文 内面磨き	覆土中層	前期 PL21
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	波状口縁 外面無節縄文 r 内面条痕文	覆土中	前期 PL20
TP46	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい褐	普通	波状口縁 波状に沿って降帯を1条貼付 撚糸側面圧痕による蕨手状文と刺切文	覆土中層	前期 PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	凹石	12.0	(9.1)	4.1	(350.0)	安山岩	表面裏面の2か所に凹部と研磨痕	床面	PL26
Q 9	敲石	11.8	5.3	3.2	300.0	砂岩	敲打痕4か所	覆土下層	PL26
Q 10	台石	19.0	10.4	4.5	1310.0	安山岩	表面に凹部 裏面と側面に磨痕	覆土中層	PL26
Q 11	敲石	9.5	2.7	1.2	50.0	ホルンフェルス	側面に敲打痕	覆土中層	PL26
Q 12	磨石	(5.3)	8.1	4.0	(170.0)	安山岩	使用面2面 表面と側面に敲打痕	床面	
Q 13	敲石	9.6	7.6	5.3	530.0	花崗岩	表面と裏面に敲打痕	覆土中層	
Q 14	石核	8.5	6.2	4.3	200.0	トロトロ石	原石面を残し、両極打撃によって不定形の剥片を剥離	床面	PL24
Q 15	石核	4.3	6.4	1.9	38.3	チャート	両極打撃によって不定形の剥片を剥離	覆土下層	PL24
Q 16	楔形石器	7.2	4.7	2.7	100.3	トロトロ石	両極打撃による剥離痕	床面	PL24
Q 17	楔形石器	2.4	1.8	0.9	3.6	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 18	楔形石器	2.6	1.6	0.8	2.5	チャート	両極打撃による剥離痕	床面	PL24
Q 19	楔形石器	4.0	2.8	1.8	23.1	石英	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL25
Q 20	楔形石器	3.2	1.8	1.4	7.9	チャート	両極打撃による剥離痕	床面	PL25
Q 21	楔形石器	2.5	2.1	1.2	6.3	安山岩	両極打撃による剥離痕	覆土上層	PL25
Q 22	石鏃	1.7	(1.1)	0.3	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部と左脚部欠損	覆土下層	PL25
Q 23	石鏃	(1.3)	(1.2)	0.4	(0.4)	チャート	両面押圧剥離調整 脚部欠損	床面	PL25
Q 24	尖頭器	2.6	1.2	0.6	1.4	安山岩	木葉形尖頭器 両面押圧剥離調整	覆土中層	PL25
Q 25	石匙	4.1	(2.6)	0.7	(6.5)	安山岩	縦長石匙 両面押圧剥離調整	覆土中層	PL25

第25号住居跡 (第12～16図)

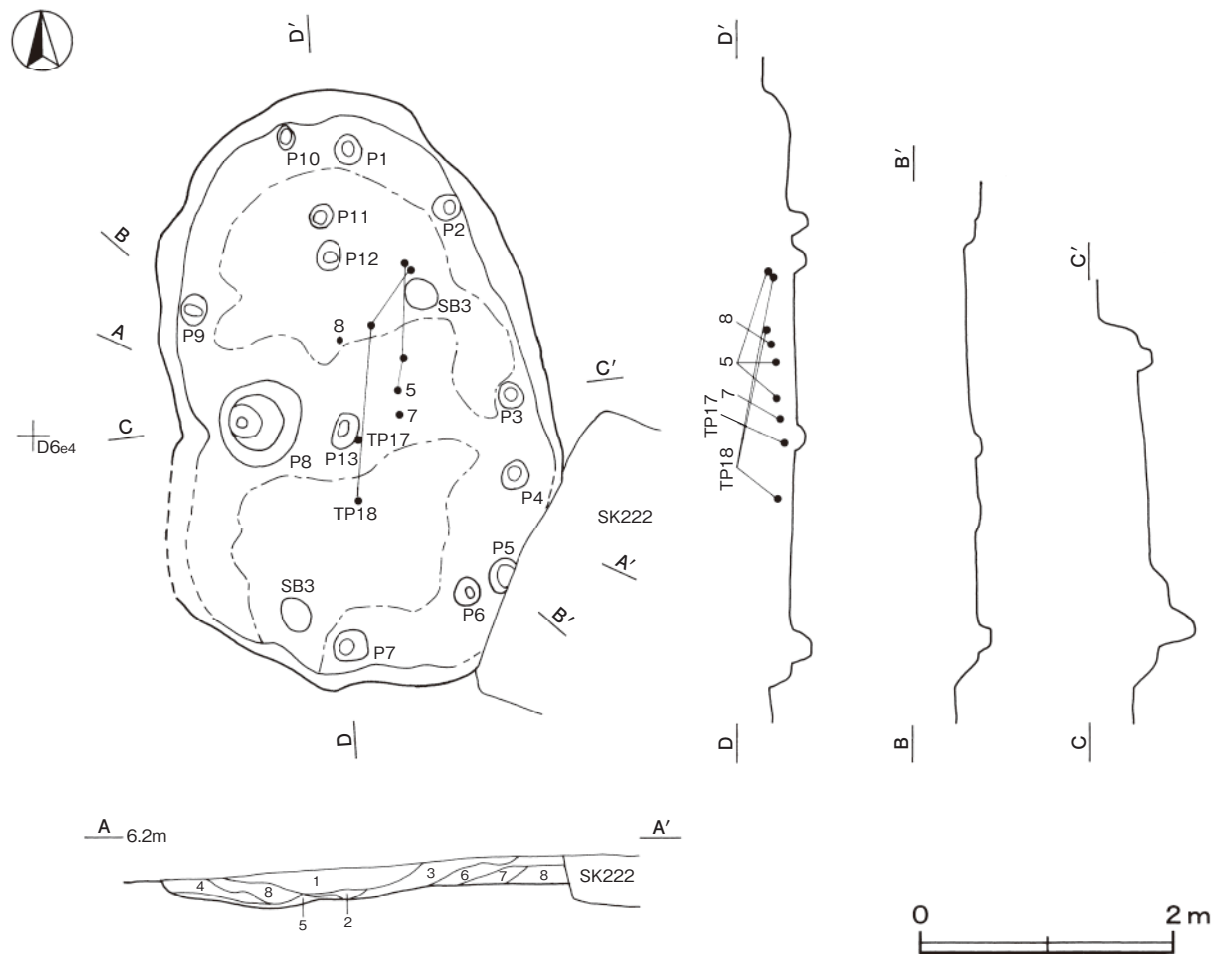
位置 調査I区西部のD 6 d4区、標高6.0mの微高地に位置している。

重複関係 中央部の覆土を第3号掘立柱建物、南東コーナー部を第222号土坑に掘り込まれている。

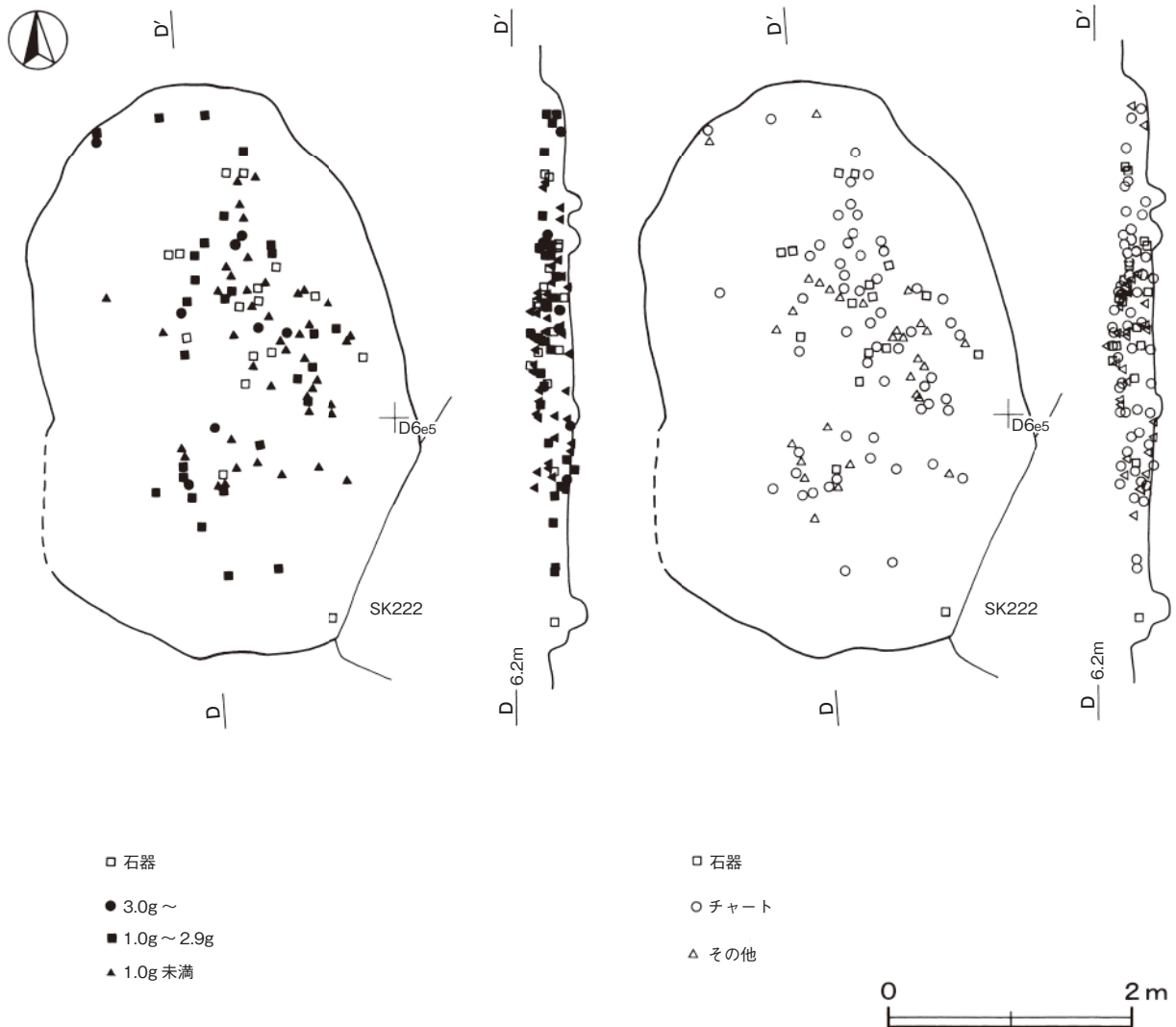
規模と形状 長軸4.76m、短軸3.04mの隅丸長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は16～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北部と南部が踏み固められている。

ピット 13か所。P 1～P 13は深さ8～31cmである。これらは、位置と規模から柱穴の可能性も考えられるが明確ではない。



第12図 第25号住居跡実測図(1)



第13図 第25号住居跡実測図(2)

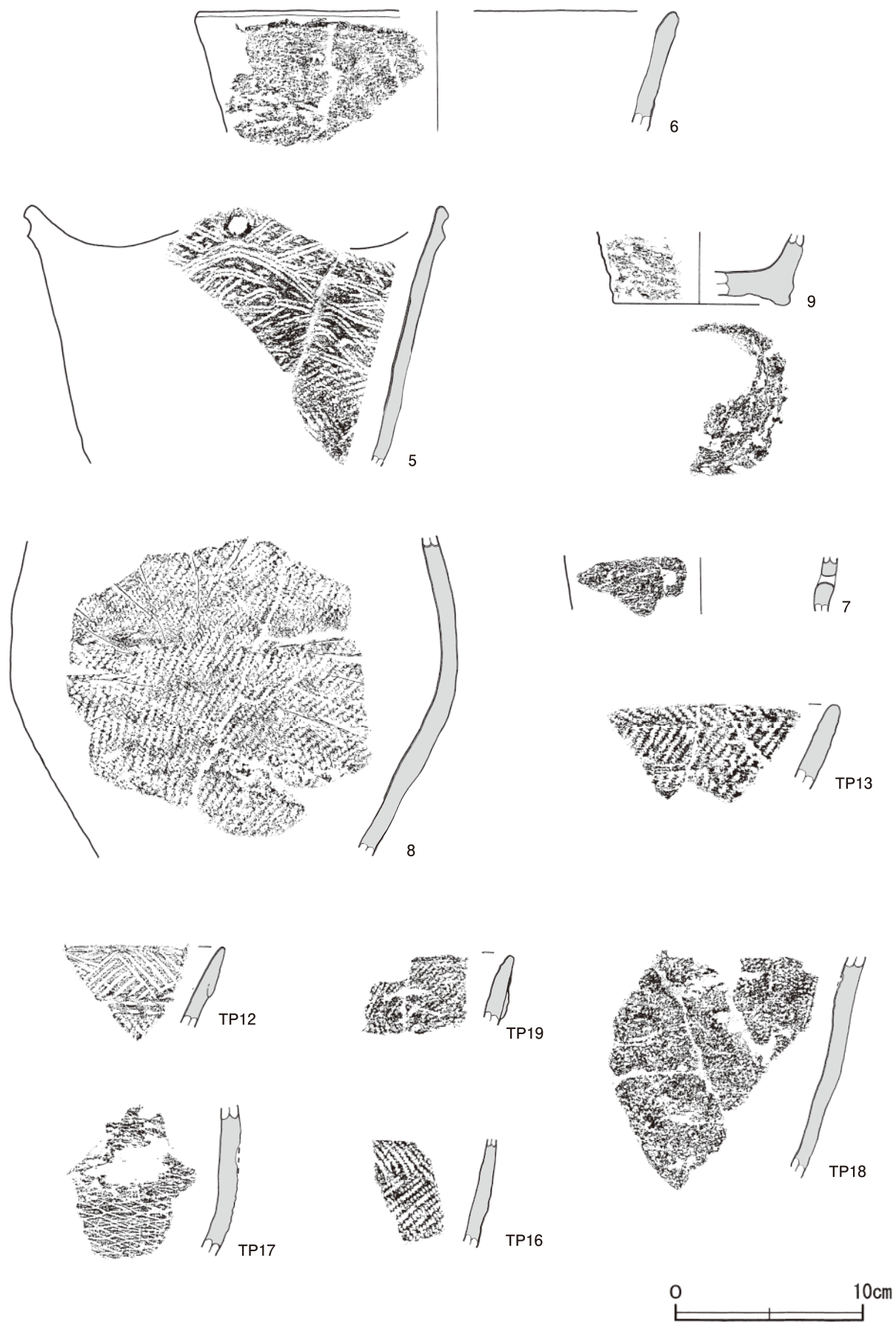
覆土 8層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

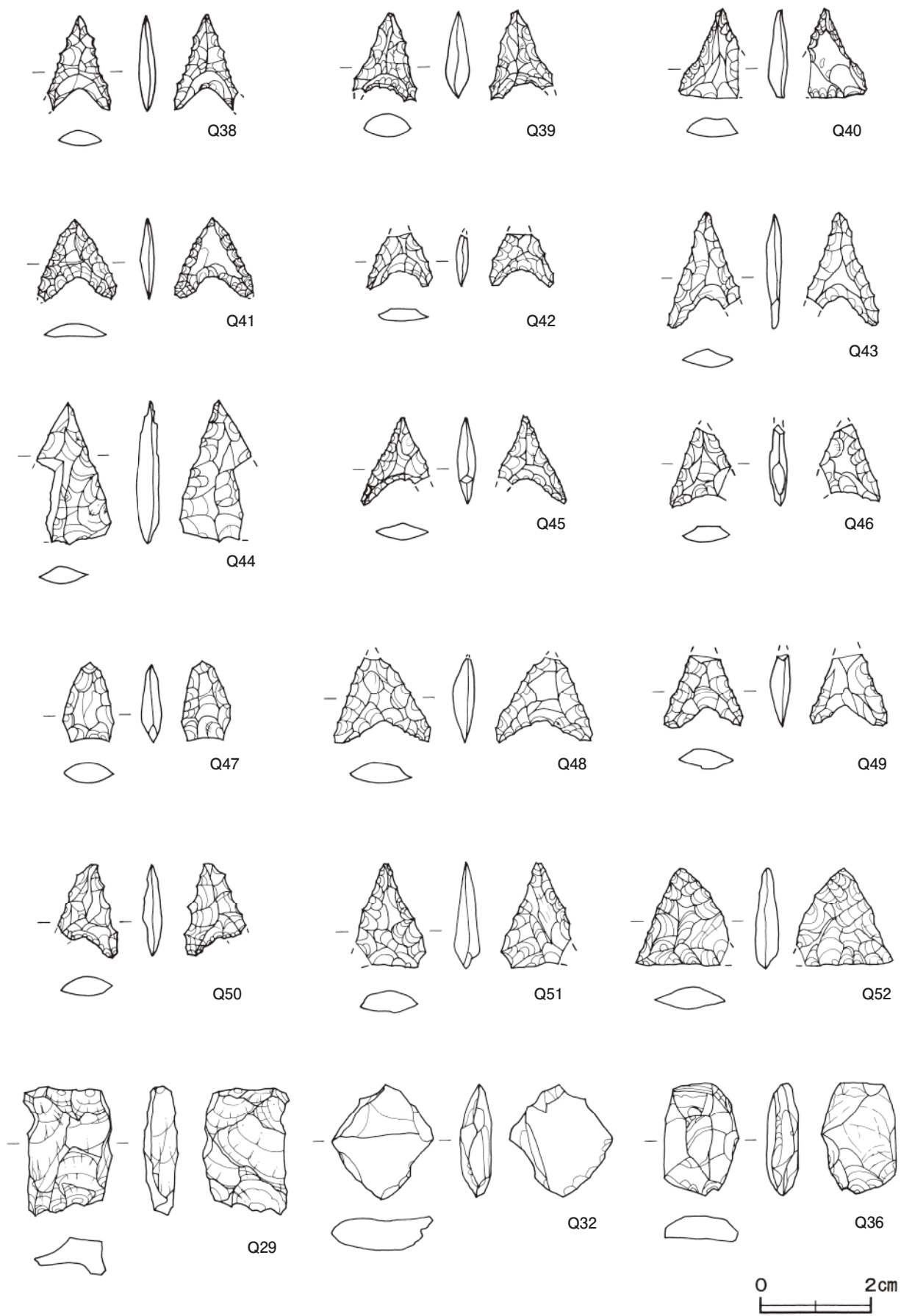
- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・砂粒微量 | 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化物・砂粒微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 7 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 縄文土器片397点(深鉢), 石器29点(楔形石器9, 石鏃15, 磨石2, 敲石2, 台石1), 剥片575点が出土している。遺物は, 中央部から北東コーナー部の覆土上層から下層にかけて集中している。5・7・8・TP17・TP18は中央部の覆土下層から出土している。Q26・Q27は北東コーナー部, Q28は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。石鏃や剥片はほぼ全面の覆土上層から下層にかけて出土しているが, 床面から出土しているものは16点ある。Q29~Q35は中央部の覆土中層, Q38~Q43は中央部から東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

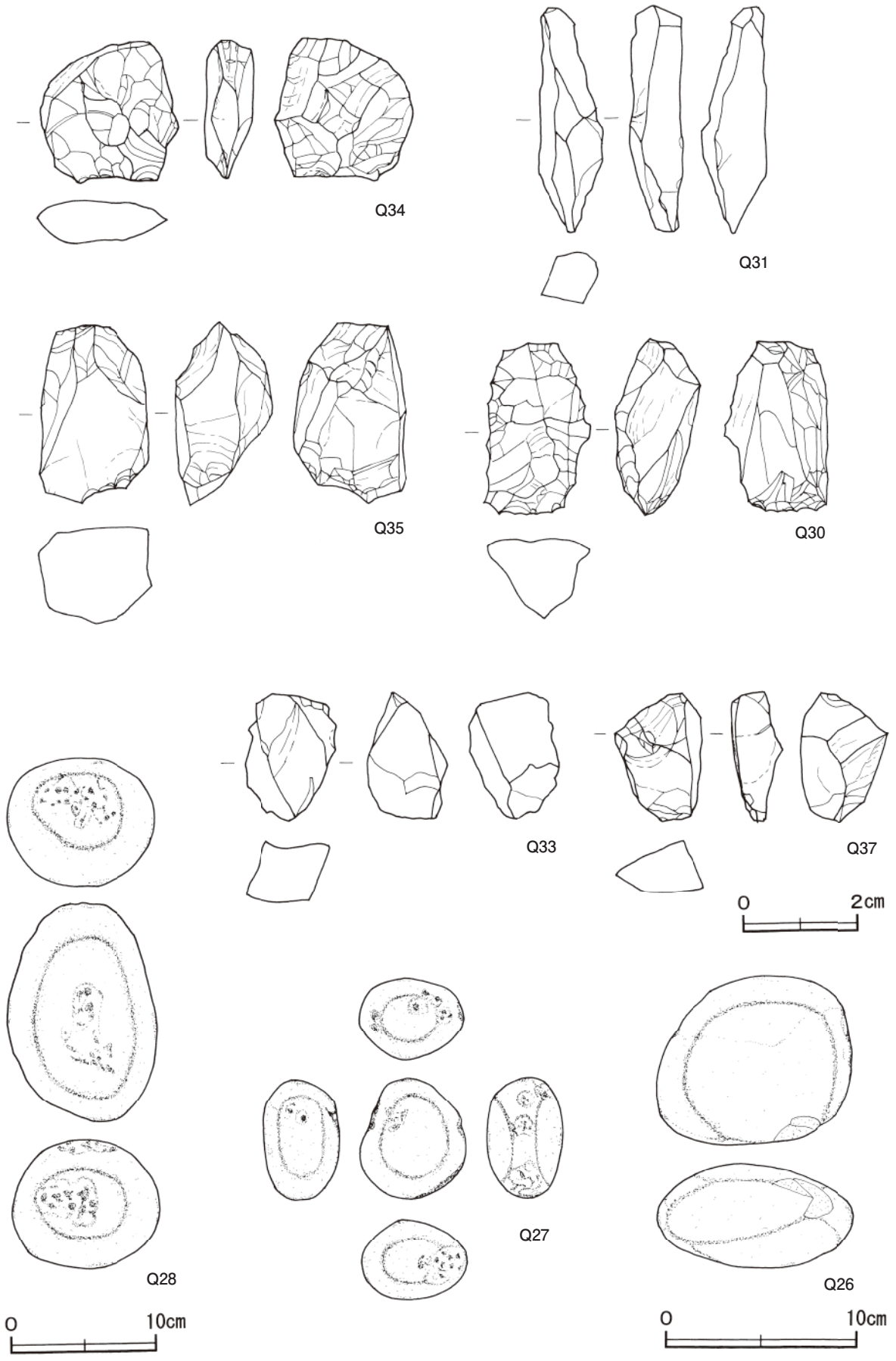
所見 石鏃や剥片は覆土上層から中層により多く出土していることから, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。時期は, 出土土器から縄文時代前期初頭(花積下層式期)と考えられる。



第14図 第25号住居跡出土遺物実測図(1)



第15图 第25号住居跡出土遺物実測図(2)



第16図 第25号住居跡出土遺物実測図(3)

第25号住居跡出土遺物観察表 (第14～16図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	[21.9]	(14.1)	-	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	口辺部に撚糸側面圧痕文と刺切文 撚糸側面圧痕による蕨手状文 胴部単節羽状縄文	覆土下層	5%前期 PL20
6	縄文土器	深鉢	[25.3]	(6.5)	-	長石・石英・繊維	暗褐	普通	摩耗のため不鮮明 文カ 内面磨き	覆土中	5%前期 PL20
7	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母・繊維	暗褐	普通	摩耗のため不鮮明 文カ 内面磨き	覆土下層	5%前期
8	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	-	長石・石英・繊維	褐	普通	単節縄文LR 内面ヘラ状工具による磨き	覆土下層	10%前期
9	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	9.2	長石・石英・繊維	橙	普通	胴部単節縄文 底部上げ底	覆土中	5%前期

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	普通	折り返しによる口縁肥厚 口辺部鋸歯状の集合沈線文 口辺部に横位2条の刺切文 内面丁寧な磨き	覆土中	前期 PL22
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐	普通	単節羽状縄文 内面ヘラ状工具による丁寧な磨き	覆土中	前期 PL21
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	胴部単節羽状縄文 内面丁寧な磨き	覆土中	前期
TP17	縄文土器	深鉢	石英・繊維	灰褐	普通	胴部網目状撚糸文 内面丁寧な磨き	覆土下層	前期 PL21
TP18	縄文土器	深鉢	石英・繊維	橙	普通	摩耗のため不鮮明 内面丁寧な磨き	覆土下層	前期 PL20
TP19	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	明赤褐	普通	口縁肥厚 単節縄文LR 内面丁寧な磨き	覆土中	前期 PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 26	敲石	9.0	10.3	5.5	650.0	安山岩	側面に敲打痕	覆土上層	
Q 27	敲石	6.4	5.6	4.1	180.0	砂岩	正面と側面に敲打痕	覆土上層	
Q 28	台石	15.0	10.3	8.8	1770.0	花崗岩	正面に凹部	覆土中層	PL26
Q 29	楔形石器	2.3	1.6	0.6	2.5	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL24
Q 30	楔形石器	3.0	1.8	1.5	6.7	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL24
Q 31	楔形石器	3.9	1.1	0.9	4.0	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	
Q 32	楔形石器	2.0	1.8	0.6	1.8	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL24
Q 33	楔形石器	2.2	1.6	1.4	4.2	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL24
Q 34	楔形石器	2.5	2.5	0.9	4.9	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	PL24
Q 35	楔形石器	3.1	1.9	1.7	11.1	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中層	
Q 36	楔形石器	1.9	1.3	0.6	11.2	瑪瑙	両極打撃による剥離痕	覆土中	PL24
Q 37	楔形石器	2.1	1.5	0.9	2.1	チャート	両極打撃による剥離痕	覆土中	PL24
Q 38	石鏃	1.7	1.1	2.2	(0.2)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土上層	PL25
Q 39	石鏃	1.5	1.1	0.5	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土上層	PL25
Q 40	石鏃	1.6	(1.1)	0.3	(0.4)	砂岩	三角鏃 両面押圧剥離調整	覆土上層	PL25
Q 41	石鏃	1.4	1.4	0.2	(0.3)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土上層	PL25
Q 42	石鏃	(0.9)	1.1	0.2	(0.2)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	覆土上層	PL25
Q 43	石鏃	2.0	(1.3)	0.3	(0.5)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土上層	PL25
Q 44	石鏃	2.5	(1.3)	0.4	(1.0)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 未製品	覆土中	PL25
Q 45	石鏃	1.6	(1.3)	0.3	(0.3)	赤玉石	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	PL25
Q 46	石鏃	1.4	1.1	0.3	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部と基部欠損	覆土中	PL25
Q 47	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	PL25
Q 48	石鏃	(1.5)	1.7	0.4	(0.6)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	覆土中	PL25
Q 49	石鏃	(1.2)	1.4	0.4	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	覆土中	PL25
Q 50	石鏃	1.7	1.1	0.3	(0.3)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	PL25
Q 51	石鏃	1.9	1.3	0.4	(0.7)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	PL25
Q 52	石鏃	1.8	1.7	0.4	(0.9)	瑪瑙	三角鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	PL25

第26号住居跡 (第17・18図)

位置 調査I区中央部のD6j7区, 標高6.0mの微高地に位置している。

重複関係 中央部を第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.34m, 短軸2.20mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-9°-Wである。壁高は6~10cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 11か所。P1~P11は深さは11~19cmである。これらは, 位置と規模から柱穴の可能性も考えられるが明確ではない。

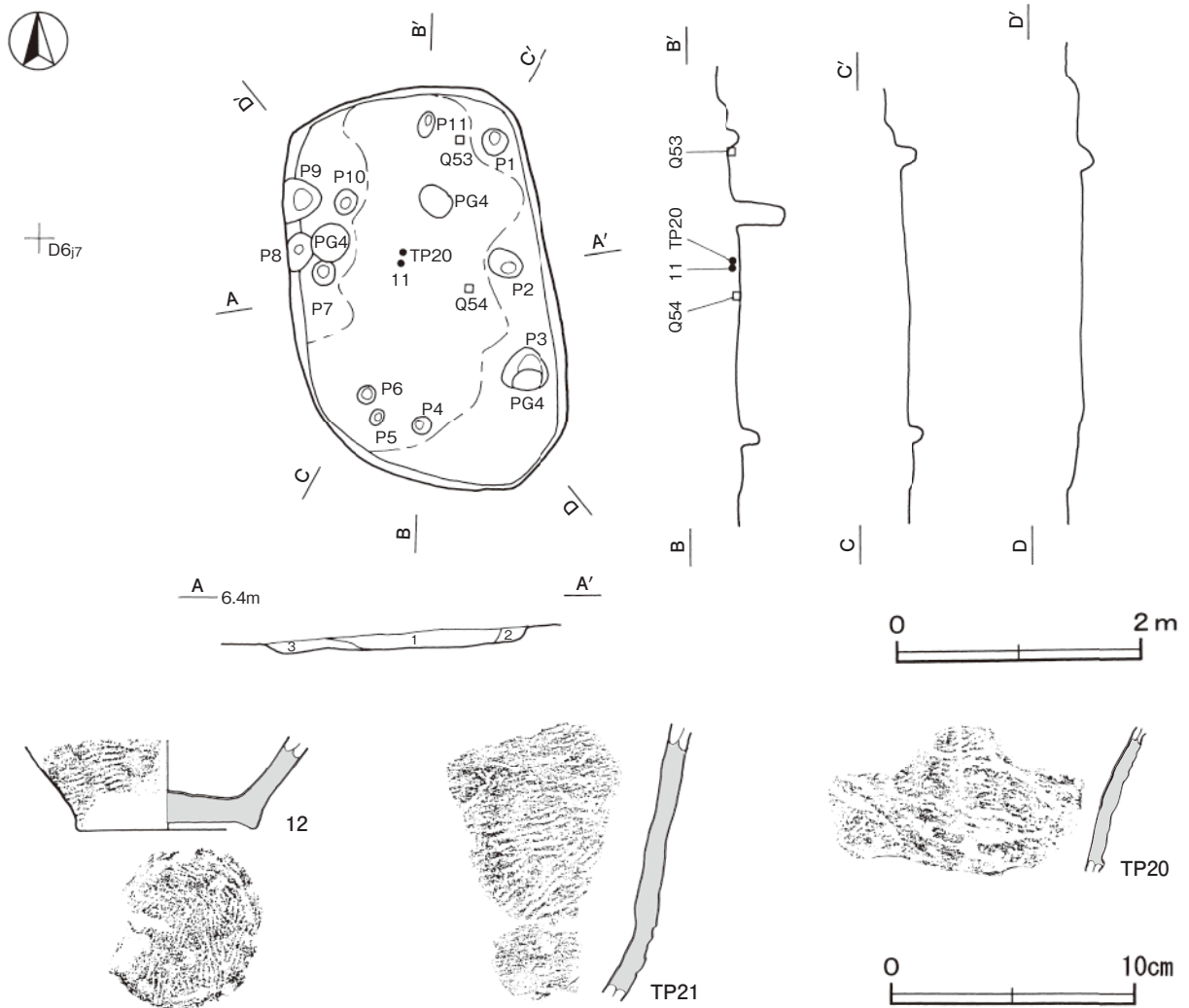
覆土 3層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

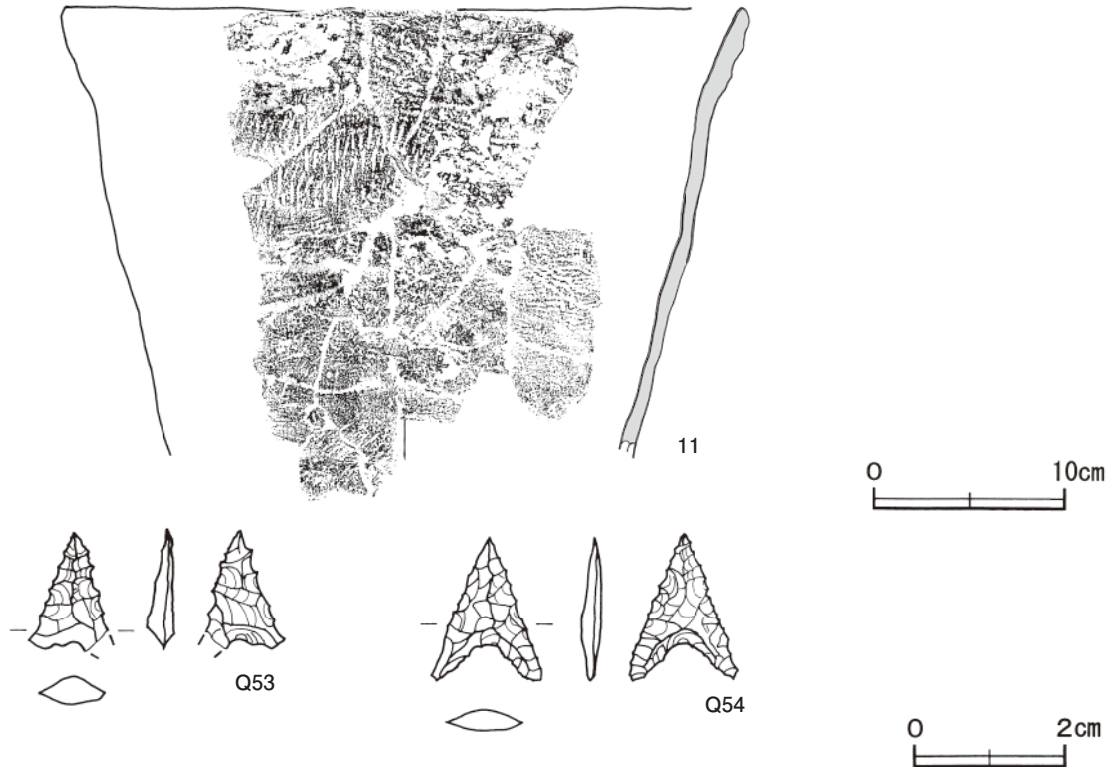
- 1 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢), 石器2点(石鏃), 剥片3点が東半部の覆土下層から床面にかけて出土している。11・TP20は中央部の床面からつぶれた状態で出土している。Q53は北東コーナー部, Q54は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から縄文時代前期初頭(花積下層式期)と考えられる。



第17図 第26号住居跡・出土遺物実測図



第18図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表 (第17・18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	[36.0]	(23.5)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	口縁肥厚 摩耗のため不鮮明 胴部外面に貝殻背圧痕文 内面へラ状工具による横位の磨き	床面	20%前期
12	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	7.4	長石・石英・ 繊維	橙	普通	胴部外面に貝殻背圧痕文 内面磨き 底部上げ底で貝殻背圧痕文	覆土中	10%前期 PL18

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 繊維	橙	普通	摩耗のため不鮮明	床面	前期 PL20
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 繊維	明赤褐	普通	単節縄文 LR 内面磨き	覆土中	前期 PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 53	石鎌	1.6	1.0	0.4	(0.3)	チャート	無茎鎌 両面押圧剥離調整 基部欠損	床面	PL25
Q 54	石鎌	1.9	1.5	0.3	0.3	チャート	無茎鎌 両面押圧剥離調整	床面	PL25

表2 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉				
20	D 6 d1	-	不明	(2.56) × (1.00)	10 ~ 14	平坦	-	-	-	-	-	人為	縄文土器, 石器 (凹石)	前期初頭	本跡→SI22→SI12
21	D 6 d3	N-19°-E	隅丸長方形	3.20 × 1.94	10 ~ 18	平坦	-	4	-	-	-	自然	縄文土器, 石器 (敲石・磨石)	前期初頭	本跡→SI12→SD17
23	D 6 f4	N-42°-E	隅丸長方形	4.42 × 3.16	14 ~ 36	平坦	-	5	-	5	1	人為	縄文土器, 石器 (敲石・磨石・石楔・ 形石器・石匙・ 尖頭器・石匙)	前期初頭	
25	D 6 d4	N-10°-W	隅丸長方形	4.76 × 3.04	16 ~ 30	平坦	-	-	-	13	-	人為	縄文土器, 石器 (敲石・磨石・石楔・ 形石器・石鎌)	前期初頭	本跡→SK222, SB 3
26	D 6 j7	N-9°-W	隅丸長方形	3.34 × 2.20	6 ~ 10	平坦	-	-	-	11	-	人為	縄文土器, 石器 (石鎌)	前期初頭	本跡→PG4

(2) 陥し穴

第1号陥し穴 (第19・20図)

位置 調査I区西部のD6e2区、標高5.6mの微高地の緩斜面に位置している。

重複関係 第2号陥し穴を掘り込み、第184号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.80m、短径2.50mの楕円形で、長径方向はN-37°-Wである。深さは120cm、底面はややくぼみ、壁は外傾して立ち上がっている。逆茂木を立てたと考えられるピット3か所が確認された。P1~P3は径12~20cmの円形で、深さは5~24cmである。

覆土 22層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

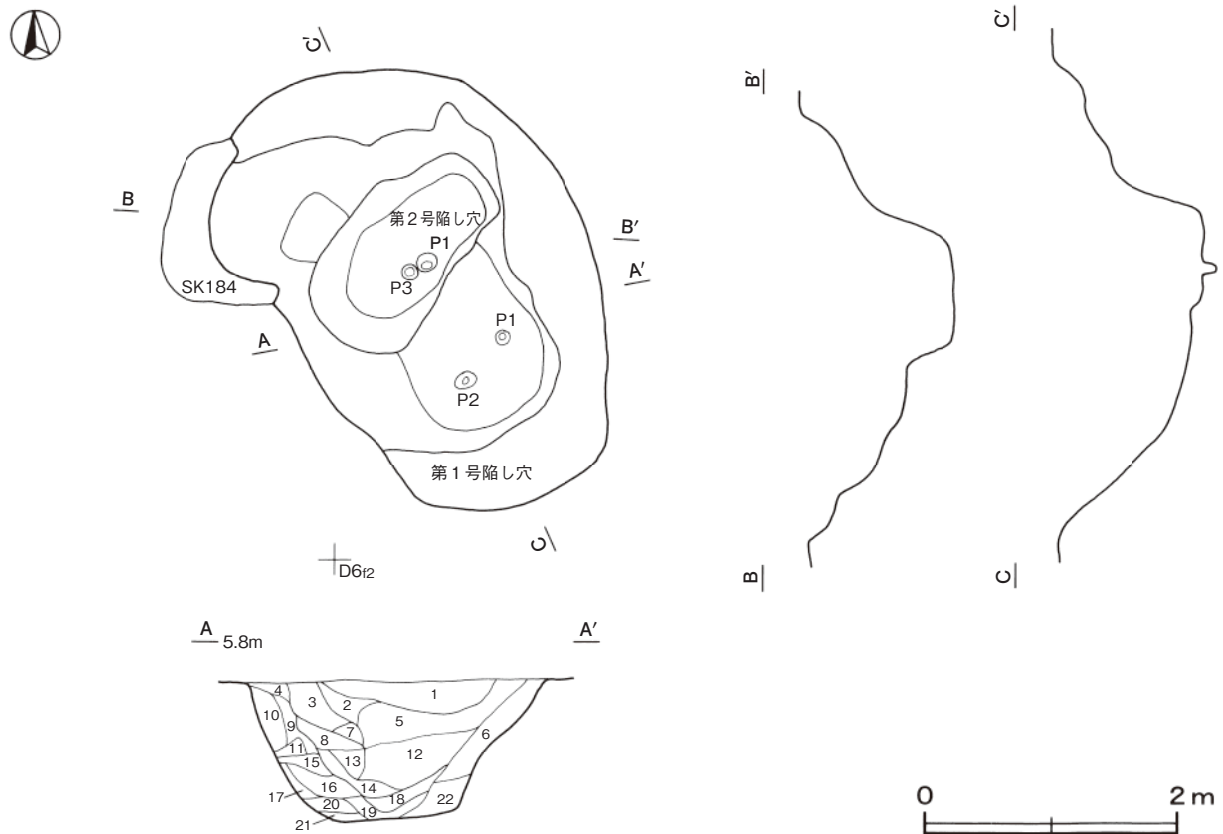
土層解説

1 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	13 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 明黄褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	15 にぶい黄褐色	ローム粒子多量, 炭化物微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	16 黄褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
6 黄褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	17 明黄褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	19 黄褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量
9 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	20 明黄褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
10 明黄褐色	ロームブロック中量	21 明黄褐色	粘土粒子多量, ロームブロック中量
11 褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	22 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量

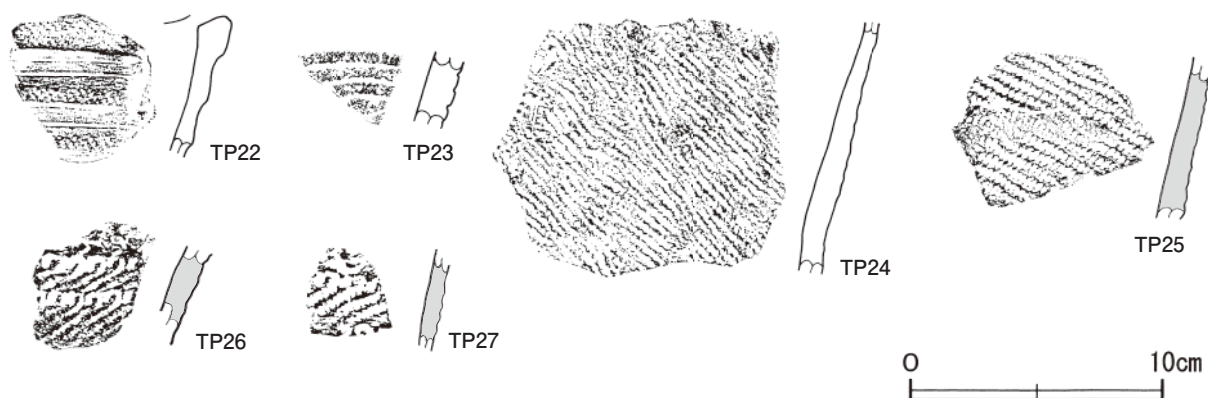
遺物出土状況 縄文土器片50点(深鉢)が出土している。その他、混入した土師器片8点も出土している。

TP22~TP27は、覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器からは判定できないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。



第19図 第1・2号陥し穴実測図



第20図 第1号陥し穴出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表 (第20図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	砂粒・赤色粒子	にぶい橙	普通	波状口縁 単節RLの帯縄文	覆土中	後期 PL22
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	横位の平行沈線文	覆土中	前期
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL	覆土中	後期 PL20
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文RL 内面丁寧な磨き	覆土中	前期 PL22
TP26	縄文土器	深鉢	石英・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文LR ループ文	覆土中	前期
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文LR ループ文	覆土中	前期

第2号陥し穴 (第19図)

位置 調査Ⅰ区西部のD 6 e2区, 標高5.6mの微高地の緩斜面に位置している。

重複関係 第1号陥し穴, 第184号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第1号陥し穴に掘り込まれているため, 確認できた長径は1.90m, 短径は0.90mで, 平面形は楕円形と推測され, 長径方向はN-33°-Eである。深さは118cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。逆茂木を立てたと考えられるピット1か所が確認された。P 1は径14cmの円形で, 深さは12cmである。

覆土 第1号陥し穴に底面まで掘り込まれているため, 土層観察ができなかった。

所見 時期は, 出土遺物がないため不明であるが, 重複関係と形状から縄文時代と考えられる。

第3号陥し穴 (第21図)

位置 調査Ⅱ区東部のH11a0区, 標高24.0mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.08m, 短径1.83mの楕円形で, 長径方向はN-37°-Wである。深さは88cmで, 底面はやや皿状にくぼみ, 壁は外傾して立ち上がっている。

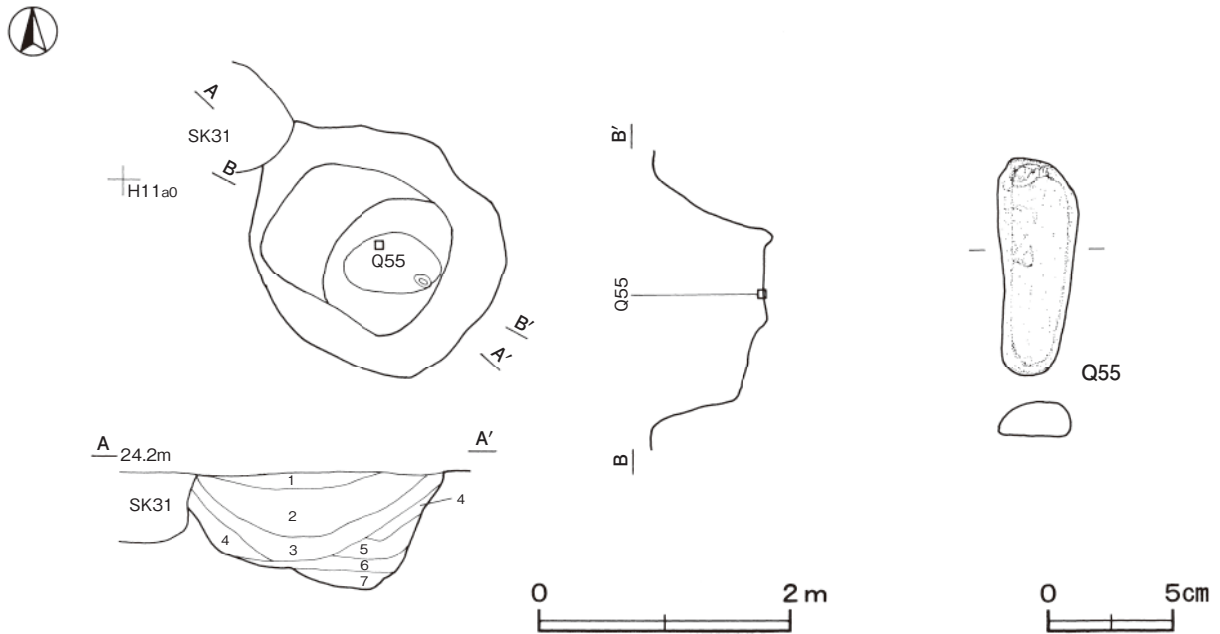
覆土 7層に分層される。第1~4層は自然堆積, 第5~7層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|---------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック少量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化材微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | | |

遺物出土状況 石器3点（敲石2，磨石1），剥片2点が覆土下層から出土している。その他，混入した土師器片1点も出土している。

所見 時期は，規模と形状から縄文時代と考えられる。



第21図 第3号陥し穴・出土遺物実測図

第3号陥し穴出土遺物観察表（第21図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 55	敲石	8.7	3.1	(1.4)	(57.2)	砂岩	敲打痕3か所 裏面の一部が欠損	覆土下層	

第4号陥し穴（第22図）

位置 調査Ⅱ区東部のG11i7区，標高24.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

規模と形状 長径2.52m，短径1.94mの楕円形で，長径方向はN-38°-Wである。深さは168cmで，底面はややくぼみ，壁は外傾して立ち上がっている。

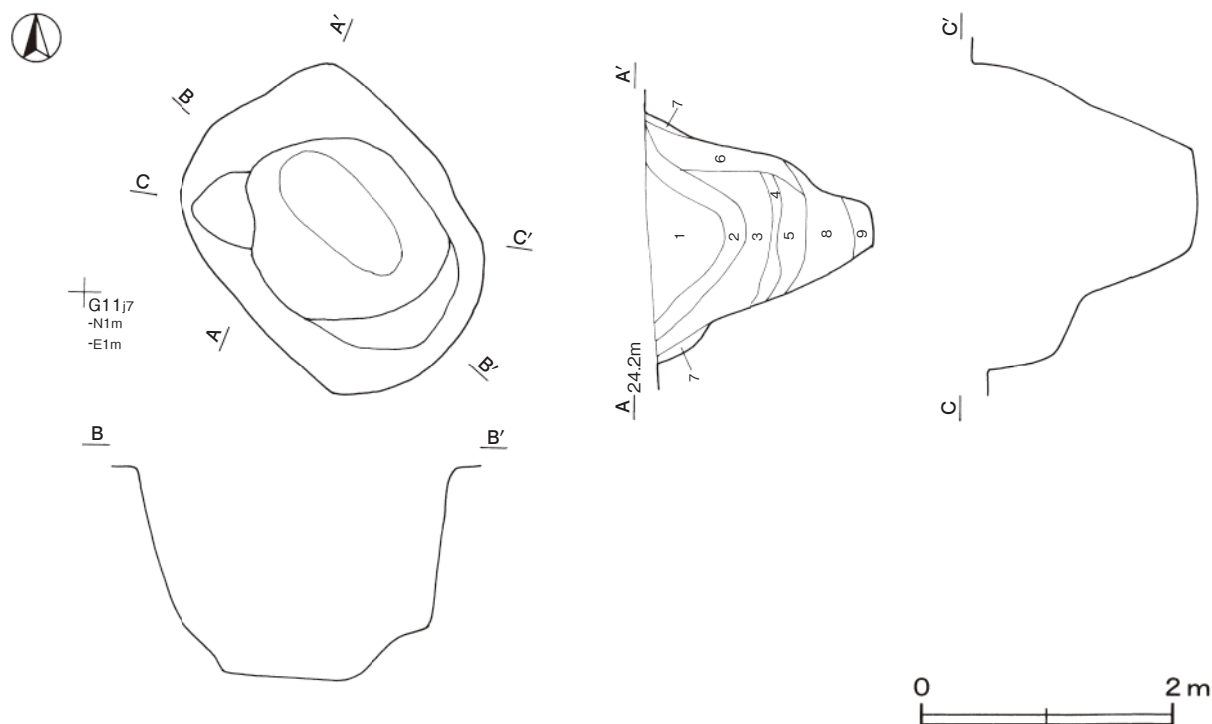
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 7 橙色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 9 にぶい褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が覆土中層，剥片2点が覆土上層から出土している。その他，混入した須恵器片1点も出土している。遺物は小破片のため，図示できない。

所見 時期は，出土土器からは判定できないが，規模や形状から縄文時代と考えられる。



第22図 第4号陥し穴実測図

表3 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径 (軸) × 短径 (軸)							重複関係 (古→新)
1	D 6 e2	N - 37° - W	楕円形	3.80 × 2.50	120	外傾	平坦	人為	縄文土器	TP 2 → 本跡 → SK184	
2	D 6 e2	N - 33° - E	楕円形	(1.90) × (0.90)	118	外傾	平坦	-		本跡 → TP1 → SK184	
3	H 11 a0	N - 37° - W	楕円形	2.08 × 1.83	88	外傾	皿状	自然 人為	石器 (敲石・磨石), 剥片	本跡 → SK31	
4	G 11 i7	N - 38° - W	楕円形	2.52 × 1.94	168	外傾	平坦	自然	縄文土器, 剥片		

(3) 集石土坑

第1号集石土坑 (第23図)

位置 調査I区南西部のD 6 fl区, 標高5.4mの微高地の平坦面に位置している。

規模と形状 長径1.00m, 短径0.94mの円形で, 深さは34cm, 底面はややくぼみ, 壁は外傾して立ち上がっている。

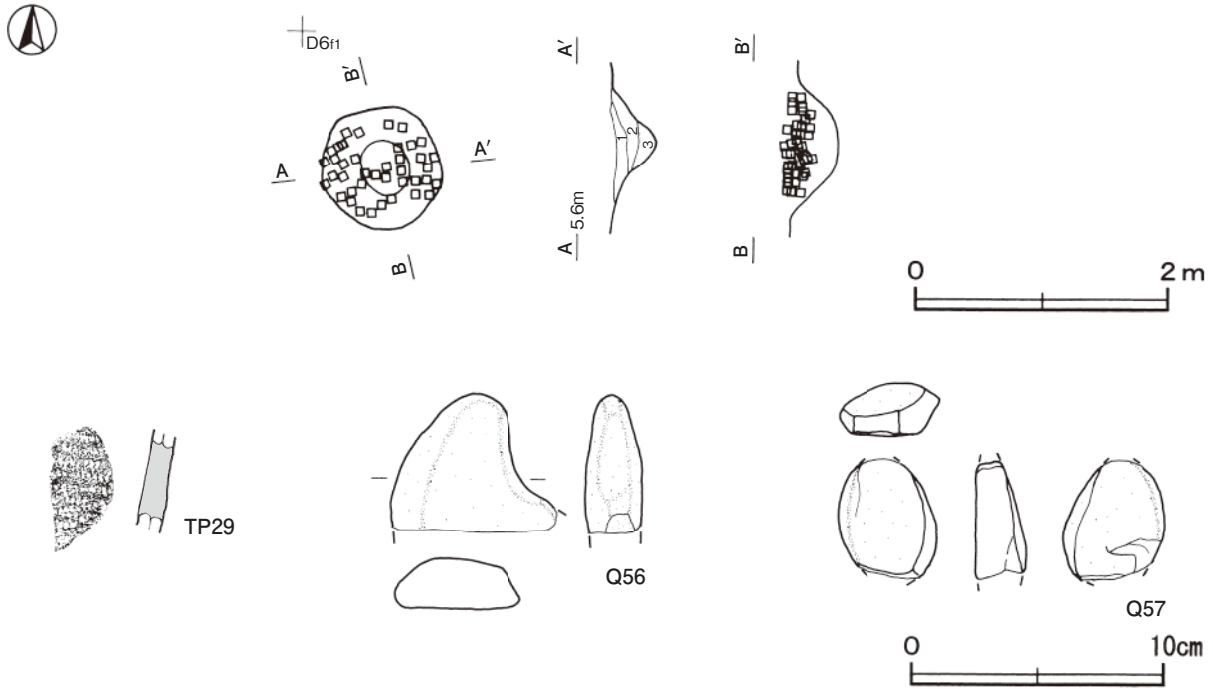
覆土 3層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片1点 (深鉢), 礫111点 (火を受けて赤変しているもの103点) が覆土上層から中層にかけて出土している。礫は覆土上層に集中しており, 円形にまとまって全体を覆っている。TP29は礫の中に混入していたものである。

所見 出土した礫は、50g前後の拳大の大きさのものが主体を占めているが、100～200g以上の大形のものも存在している。石材はチャート、石英斑岩、砂岩、安山岩等であり、いずれも恋瀬川流域の河岸で得られるものである。礫の総数は111点、総重量は8,993gで、火を受けている礫は重量8,363gである。また覆土上層には焼土が見られるが下層からは検出されていない。焼礫を利用した食料調理に係わる遺構の可能性が高く、時期は規模と形状から縄文時代と考えられる。



第23図 第1号集石土坑・出土遺物実測図

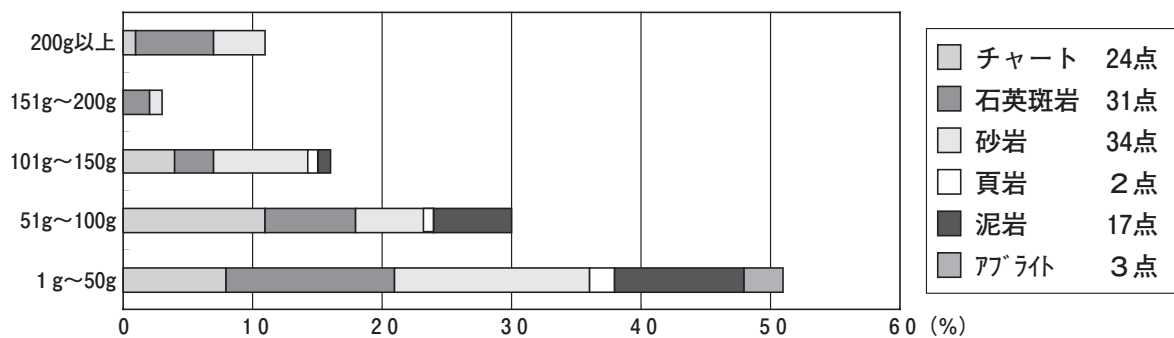
第1号集石土坑出土礫の重量

	チャート 24点	石英斑岩 31点	砂岩 34点	頁岩 2点	泥岩 17点	アブライト 3点	合計
1～50g	8	13	15	2	10	3	51
51～100g	11	7	6	0	6	0	30
101～150g	4	3	8	0	1	0	16
151～200g	0	2	1	0	0	0	3
200g以上	1	6	4	0	0	0	11
合計	24	31	34	2	17	3	111

第1号集石土坑出土礫の被熱の状況

	熱の影響を受けた石				熱の影響を受けていない石				
	被熱・割れ	被熱痕	計	割合	割れ痕	自然石	計	割合	
チャート	24	13	6	19	79%	4	1	5	21%
石英斑岩	31	13	17	30	97%	0	1	1	3%
砂岩	34	22	12	34	100%	0	0	0	0%
頁岩	2	2	0	2	100%	0	0	0	0%
泥岩	17	11	4	15	88%	2	0	2	12%
アブライト	3	3	0	3	100%	0	0	0	0%
合計	111	64	39	103	93%	6	2	8	7%

第1号集石土坑礫の重量別出土量



第1号集石土坑出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP29	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	にぶい褐	普通	単節縄文 LR	覆土中	前期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 56	敲石	(5.5)	(6.6)	2.3	(93.5)	砂岩	敲打痕 1 か所	覆土中	
Q 57	敲石	(4.7)	(3.9)	2.1	(45.5)	砂岩	敲打痕 1 か所	覆土中	

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡11軒が確認された。これらの遺構は、調査Ⅰ区南部から中央部にかけて標高5～6mの河岸段丘部の低位段丘上と、調査Ⅱ区東部の標高24～26mの台地上に位置している。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第1号住居跡（第24・25図）

位置 調査Ⅱ区東部のH12d3区、標高23.5mの河岸段丘上の平坦部に位置している。

重複関係 第1号土坑と第1号溝に掘り込まれている。

確認状況 中央部から南壁まで耕作による削平を受け、床面が一部露出した状況で確認された。竈やピットの配置から形状を推定した。

規模と形状 確認できた壁から東西軸3.45m、南北軸3.30mの方形または長方形と推測される。残存する壁と竈から主軸方向はN-25°-Wと推定される。確認された壁高は27～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 残存する部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅は80cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ、火床面にはわずかに焼土が確認されている。煙道部は壁外に68cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量	7 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	8 黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
4 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物微量
5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ22～46cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P5は深さ30cmで南壁下付近に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

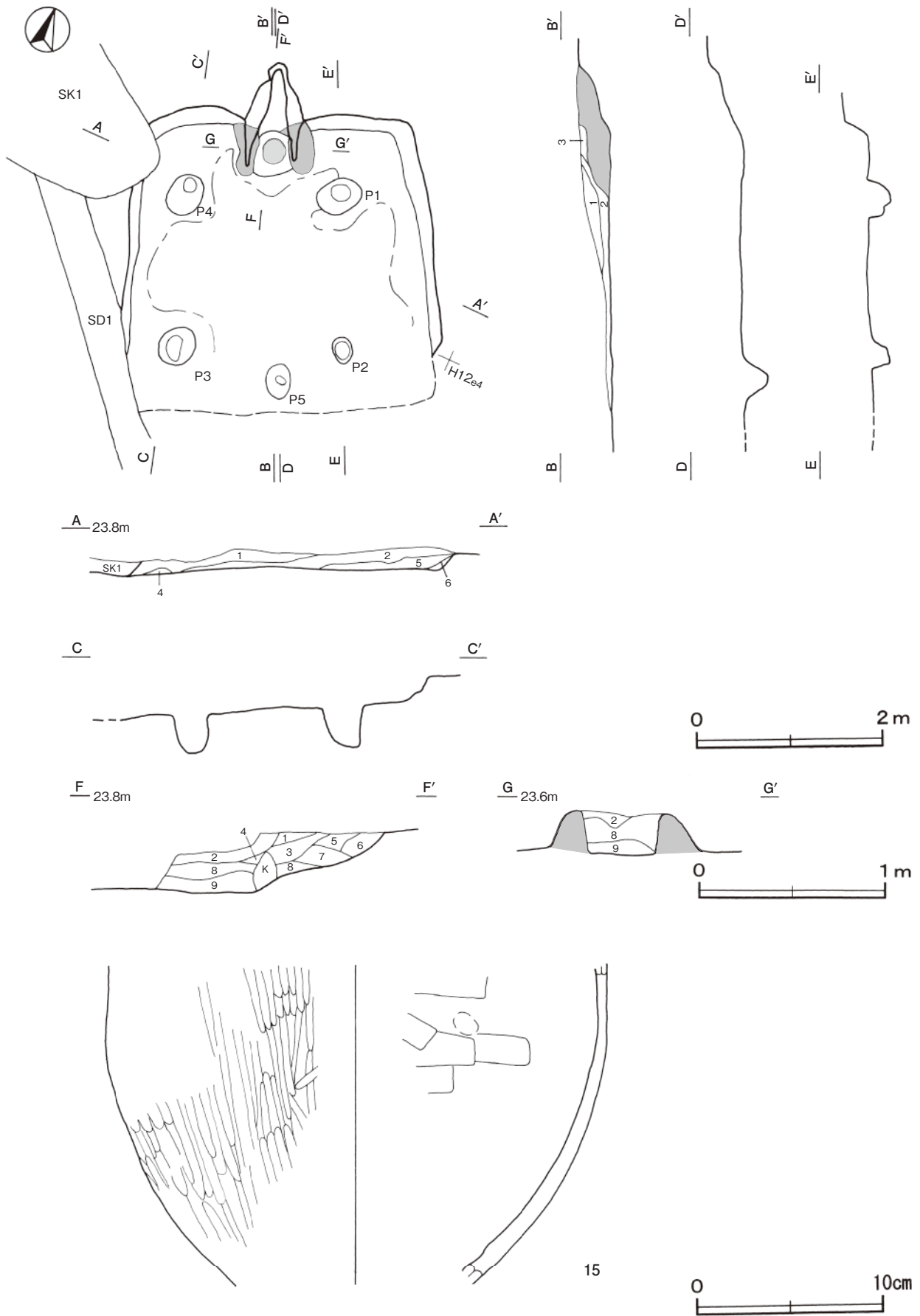
覆土 6層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

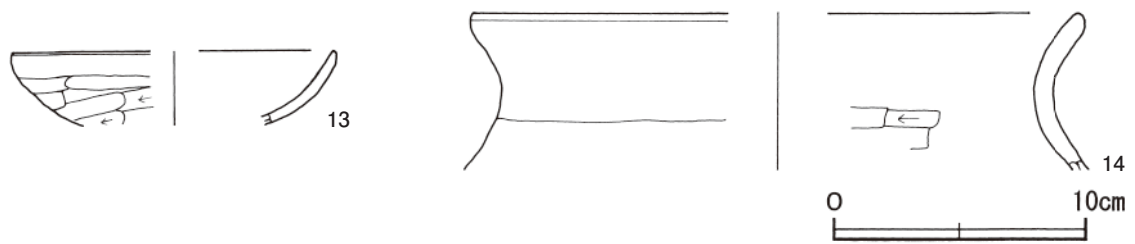
1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量
3 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片16点（坏1、甕15）、粘土塊12点が出土している。その他、弥生土器片16点、磁器片1点も出土している。13～15は北西部の覆土下層から出土しているがいずれも小片であり、廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第24図 第1号住居跡・出土遺物実測図



第25図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第24・25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	土師器	坏	[12.8]	(2.9)	-	赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
14	土師器	甕	[24.0]	(6.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
15	土師器	甕	-	(17.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	10%

第9号住居跡（第26・27図）

位置 調査Ⅰ区南西部のD5g0区、標高6.0mの微高地の緩斜面に位置している。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部は土地改良事業によって削平されている。南北軸3.44m、東西軸2.60mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-9°-Wと推測される。壁高は35～54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。軟質ではないが、特に踏み固められている部分は認められない。東壁の一部に壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで72cm、左袖部は削平され一部しか確認できなかった。袖部は砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられて使用され、火床面は弱く赤変している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ31cmで、主柱穴と考えられる。P2は深さ21cmで、竈右袖部の東側20cmに位置し、竈の付属施設と想定される。

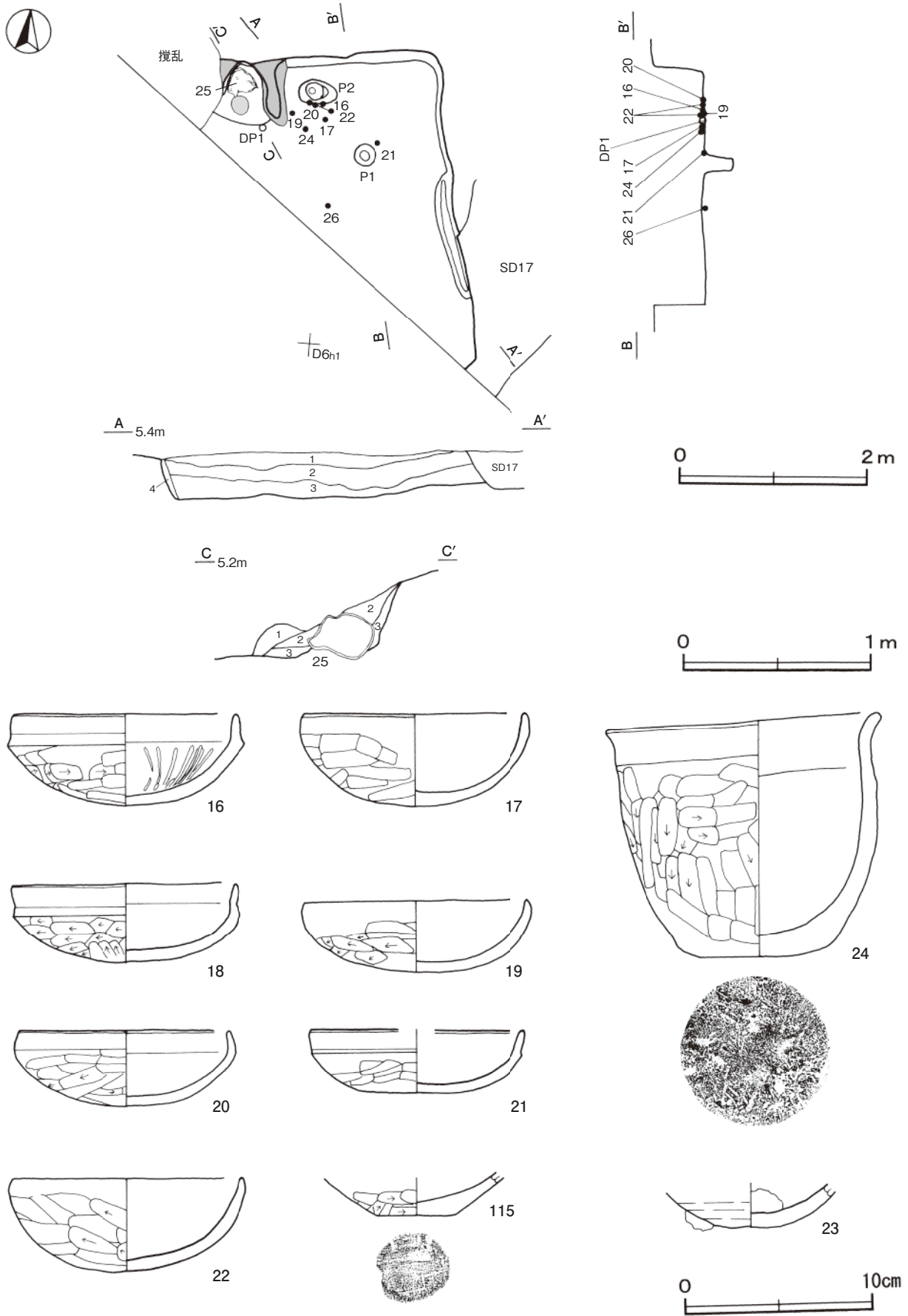
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

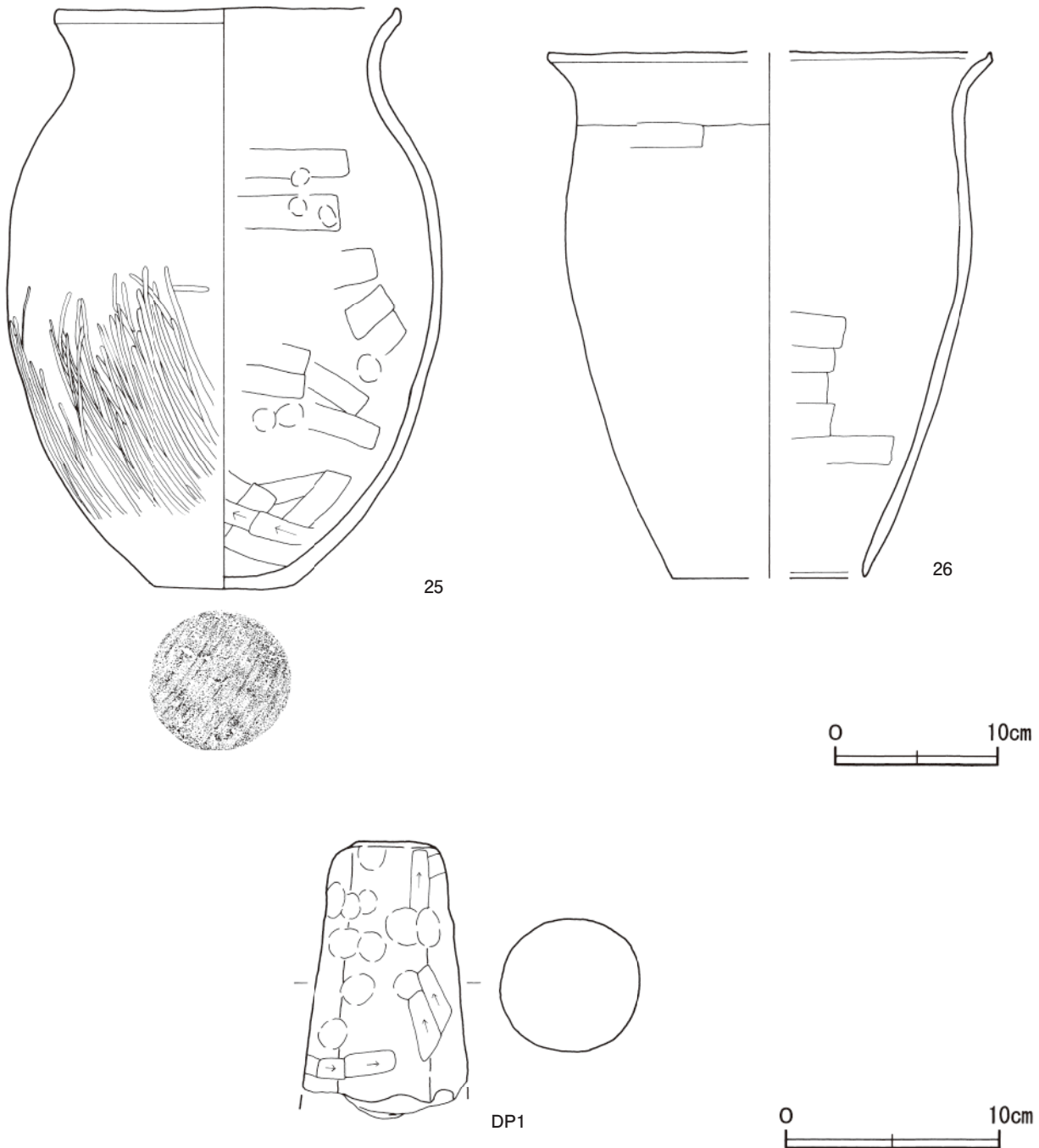
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片46点（坏8、甕37、甗1）、須恵器片1点（短頸壺）、土製品1点（支脚）、粘土塊1点が竈右袖部付近の覆土下層から床面にかけて出土している。その他、縄文土器片24点、須恵器片5点、陶器片2点、礫3点も覆土上層から出土している。16・17・19・20・22・24は竈右袖部付近、21はP1付近、26は中央部の床面、DP1は竈焚口部の底面からそれぞれ出土している。25は竈の燃焼室に横位で出土し、内部に土師器坏の小破片2点が検出された。これらは出土状況から、廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第26図 第9号住居跡・出土遺物実測図



第27図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第26・27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
16	土師器	坏	11.9	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ 面放射状のヘラ磨き	体部内	床面 100% PL14
17	土師器	坏	11.9	5.0	-	砂粒・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ	体部	床面 100% PL14
18	土師器	坏	12.0	4.2	-	砂粒・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ	体部	覆土中 95% PL14
19	土師器	坏	12.0	3.9	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ	体部	床面 90% PL14
20	土師器	坏	11.2	4.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ	体部	床面 90% PL14
21	土師器	坏	[11.5]	3.3	-	砂粒・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ	体部	床面 70% PL14

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
22	土師器	坏	12.4	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ	床面	70% PL14
23	須恵器	短頸壺	-	(2.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロ成形後ナデ	覆土下層	5%
24	土師器	小形甕	14.4	13.1	8.1	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL18
25	土師器	甕	20.8	35.9	8.5	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈内	95%
26	土師器	甗	[27.2]	32.3	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部下端ヘラ削り	床面	60%
115	土師器	小形甕	-	(2.3)	4.0	石英	明赤褐	普通	体部下端ヘラ削り	覆土中	5%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(13.0)	7.7	5.4	(667.0)	長石・石英・雲母	ヘラ削り後ナデ 指頭圧痕	焚口部底面	PL24

第10号住居跡（第28・29図）

位置 調査I区南部のE 6 b8区，標高6.0mの微高地に位置している。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部は土地改良事業によって削平されている。南北軸5.26m，東西軸2.90mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で，主軸方向はN-47°-Wと推測される。壁高は28～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cmで，左袖部が削平されて一部だけが確認されている。右袖部は砂質粘土を積み上げて構築されている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ50・60cmで，位置と形状から主柱穴と考えられる。P3は，深さ16cmで南壁の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸110cm，短軸78cmの長方形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色	炭化物・粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	4 極暗褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量		
3 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

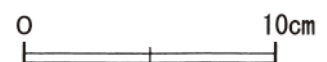
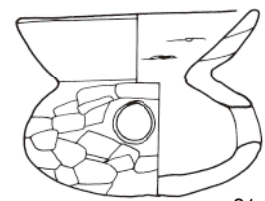
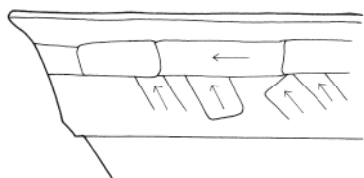
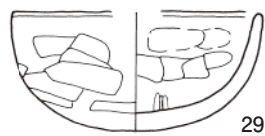
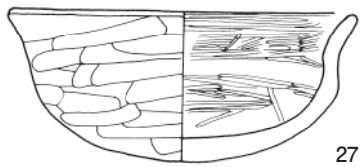
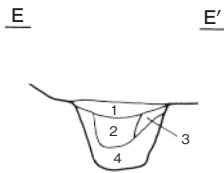
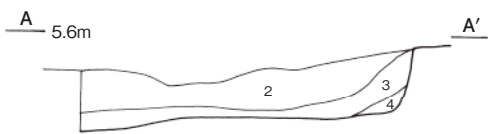
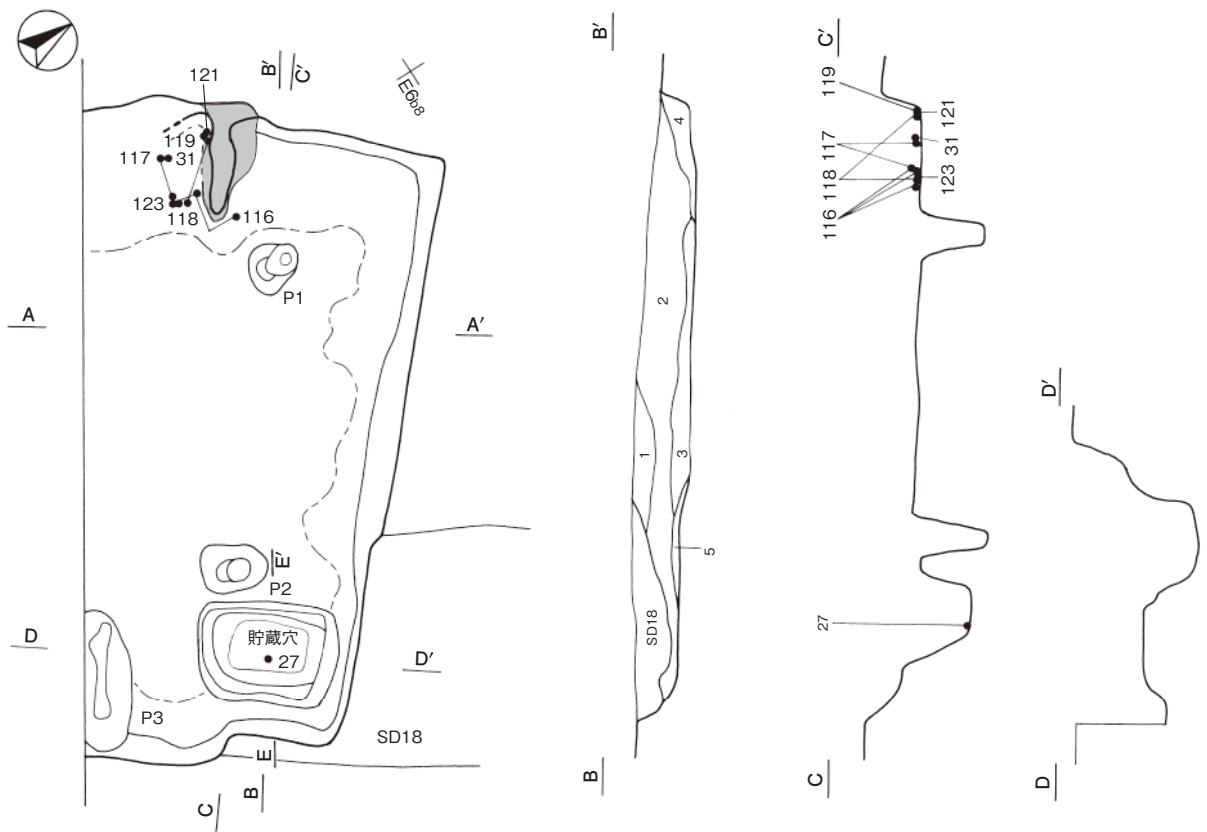
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

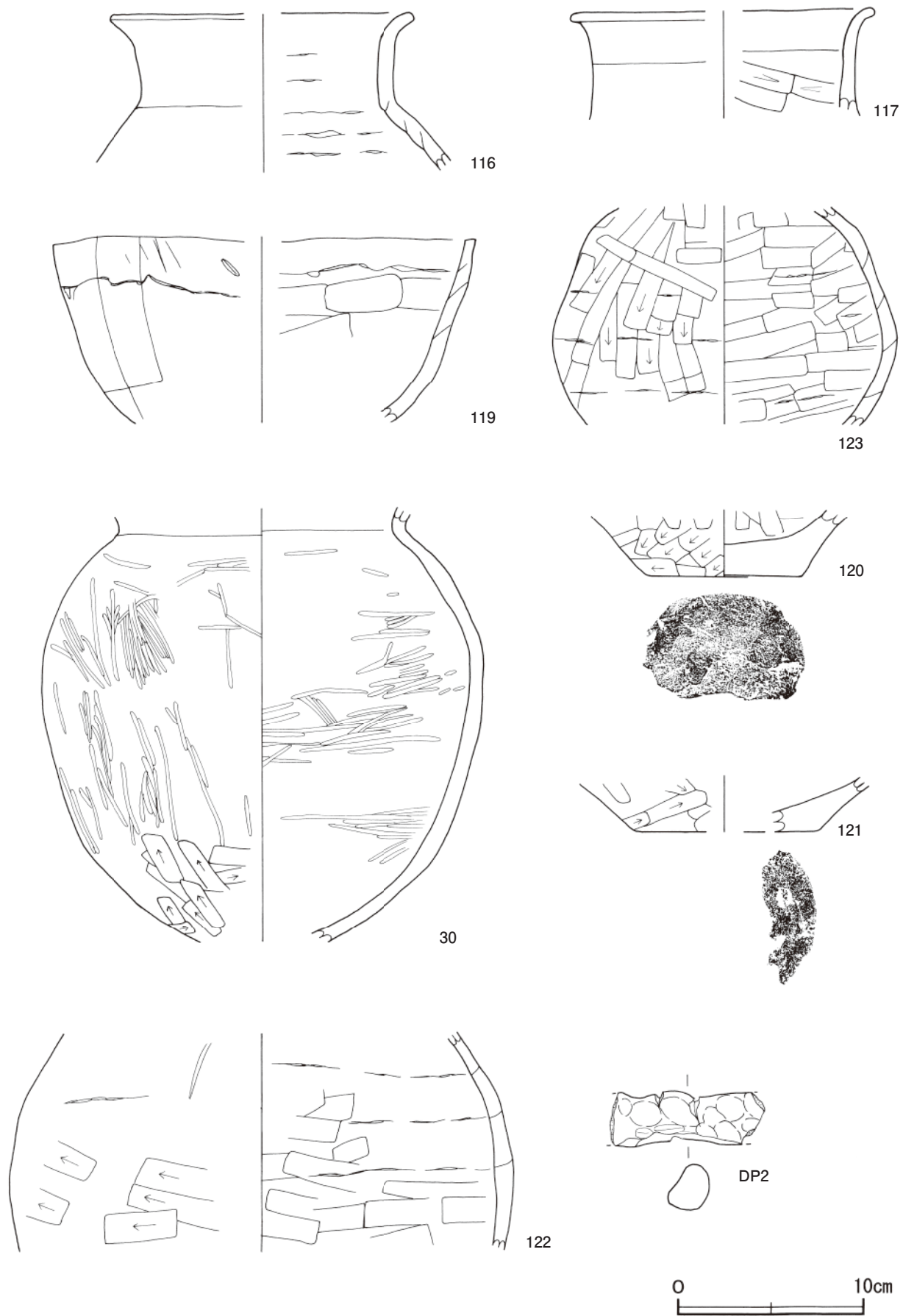
1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量	5 極暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片326点（坏33，碗1，高台付坏1，小形甕1，鉢4，甕285，甗1），粘土塊6点が出土している。その他，縄文土器片82点，須恵器片9点，石器13点も覆土上層から出土している。27は貯蔵穴中央部の底面からはほぼ完形で出土しており，廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。116・117・119・121・123は竈内の覆土下層，31はそれらの土器の上に伏せて置いた状態で出土している。これらは出土状況から，廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第28図 第10号住居跡・出土遺物実測図



第29図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表 (第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
27	土師器	坏	13.6	6.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内面横方向のヘラ磨き 外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	貯蔵穴底面	70% PL14
28	須恵器	坏	-	(1.7)	-	黒色粒子	灰白	良	ロクロ成形後ナデ	覆土中	10%
29	土師器	椀	[9.8]	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 指頭痕 内底面ヘラ磨き	覆土中	50% PL15
30	土師器	甕	-	(23.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面縦方向のヘラ磨き 下端ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土中	50%
31	土師器	甕	9.4	7.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	竈内	80% PL17
116	土師器	甕	[16.2]	(8.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈内	10%
117	土師器	甕	[16.0]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈内	5%
118	土師器	壺	[29.8]	(6.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面ヘラ削り後ナデ 外面縦方向のヘラ削り	竈内	10%
119	土師器	甕	-	(10.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 鉢として二次転用カ	竈内	5%
120	土師器	甕	-	(3.6)	8.6	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	5%
121	土師器	甕	-	(2.9)	[9.7]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り	竈内	5%
122	土師器	甕	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	10%
123	土師器	甕	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	竈内	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP2	不明	(8.4)	3.0	2.2	(45.6)	長石・石英・雲母・細礫	指頭圧痕	覆土中	PL24

第11号住居跡 (第30・31図)

位置 調査Ⅰ区南西部のD 6 e3区、標高5.6mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.34m、短軸5.29mの方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は20～38cmで、外傾して立ち上がっている。

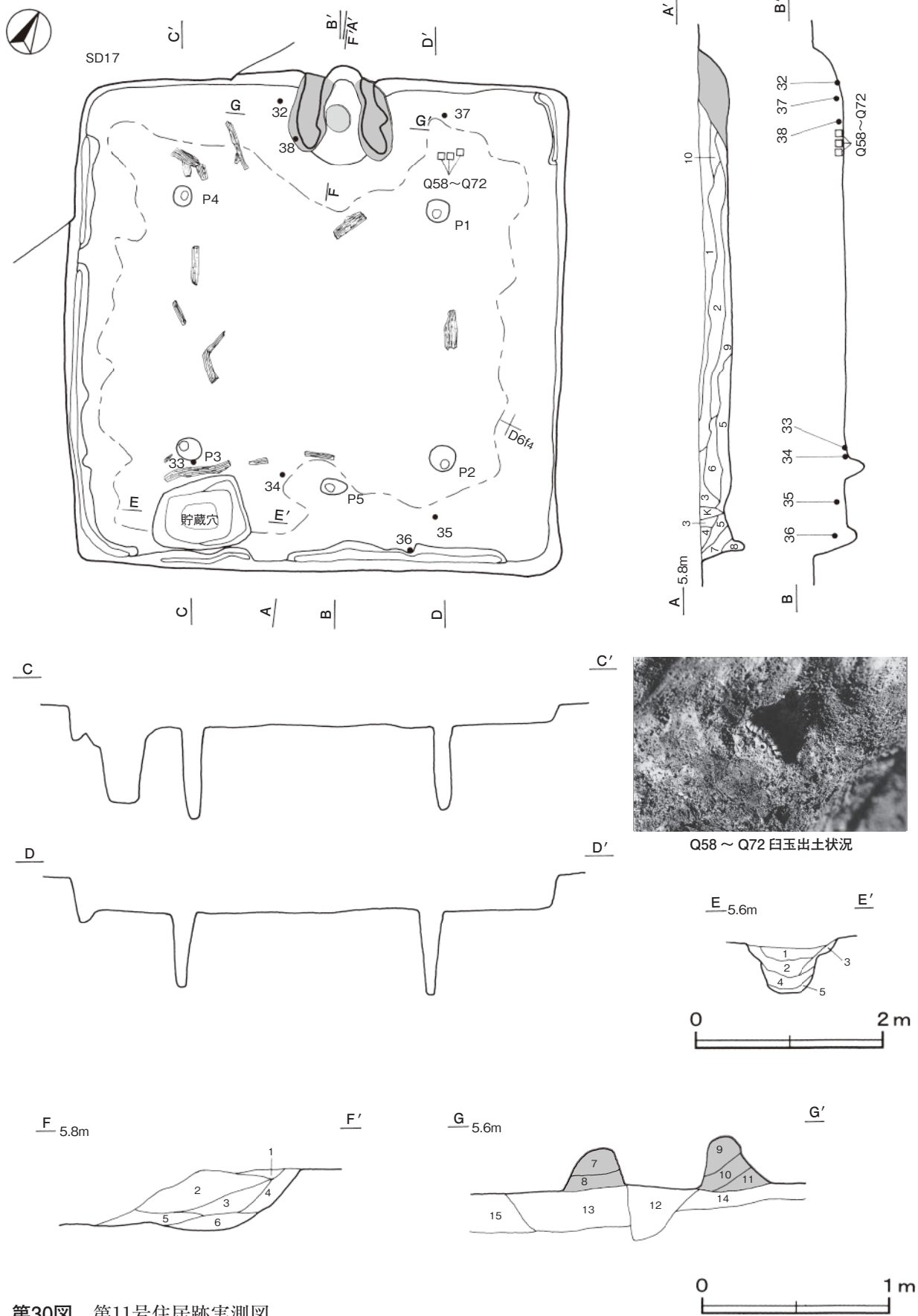
床 平坦である。壁溝は南から西壁下に認められ、北東コーナー部下にも一部が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cm、袖部幅110cmである。袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。第12層は竈の掘り方の土層で、地山を28cm掘り込み、火床部を構築するために埋土をされている。第13～15層は床面の構築土である。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ8cm掘り込み、火床面から外傾して立ち上がっている。

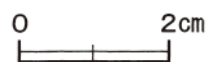
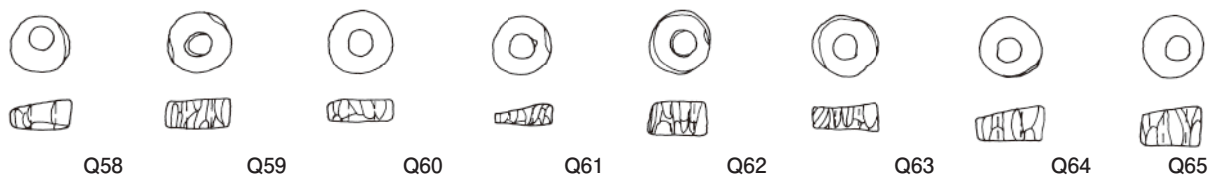
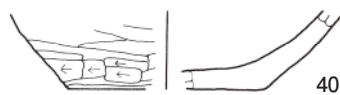
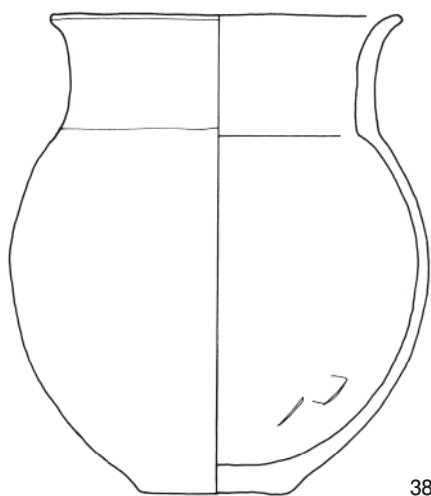
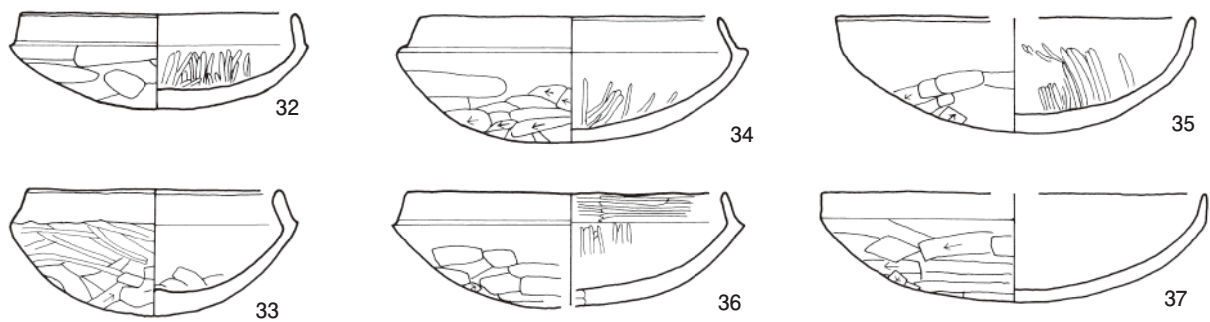
竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8	黒褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
2	明黄褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
3	黒色	焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
4	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	11	黒色	砂質粘土ブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	12	褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・炭化物少量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	13	褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック微量
7	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	14	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
			15	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量、黒色粒子少量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ79～99cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第30图 第11号住居跡実測图



第31图 第11号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長軸101cm, 短軸72cmの長方形で、深さは77cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

覆土 10層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 9 褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片227点 (坏101, 甕126), 石製品15点 (白玉), 粘土塊1点が出土している。その他, 縄文土器片162点, 弥生土器片19点, 石器9点も覆土上層から出土している。32・38は竈左袖部, 37は北壁際の床面からそれぞれ出土している。Q58～Q72は北東部の床面から繋がった状態で出土している。これらの遺物は、完形に近い状態で竈周辺から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。33～36は南壁際の覆土下層からほぼ完形の状態で出土しているが、出土状況から廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また、炭化材が柱穴を繋ぐように覆土下層から床面にかけて出土している。

所見 本跡は焼失住居と考えられ、炭化材が柱穴に沿って方形にめぐるように出土していることから柱や梁・桁の建材の可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表 (第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
32	土師器	坏	10.7	3.7	-	雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面放射状の磨き	床面	100% PL14
33	土師器	坏	9.9	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ削り	覆土下層	100% PL14
34	土師器	坏	12.0	5.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状の磨き	覆土下層	95% PL15
35	土師器	坏	[14.0]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	60% PL14
36	土師器	坏	12.6	4.5	-	雲母	にぶい橙	普通	口縁部内面ヘラ磨き外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラ磨き	覆土下層	60% PL15
37	土師器	坏	[15.2]	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	45% PL15
38	土師器	小形甕	13.7	19.0	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面摩擦のため調整不明 内面ヘラナデ	床面	80%
39	土師器	甕	-	(5.0)	-	赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部内・外面横ナデ	覆土中	5%
40	土師器	甕	-	(3.2)	[7.7]	砂粒	橙	普通	体部下端ヘラ削り	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 58	白玉	0.76	0.33	0.30	0.24	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 59	白玉	0.79	0.39	0.36	0.34	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 60	白玉	0.80	0.27	0.32	0.23	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 61	白玉	0.76	0.28	0.29	0.18	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 62	白玉	0.82	0.43	0.32	0.38	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 63	白玉	0.81	0.33	0.32	0.25	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 64	白玉	0.78	0.38	0.32	0.30	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 65	白玉	0.78	0.48	0.34	0.34	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 66	白玉	0.78	0.50	0.35	0.32	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 67	白玉	0.80	0.38	0.35	0.29	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 68	白玉	0.79	0.50	0.36	0.34	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 69	白玉	0.81	0.39	0.30	0.34	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 70	白玉	0.78	0.34	0.35	0.23	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 71	白玉	0.80	0.40	0.34	0.34	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26
Q 72	白玉	0.72	0.60	0.34	0.42	滑石	円筒状 片面穿孔	床面	PL26

第12号住居跡（第32・33図）

位置 調査I区南西部のD6c2区、標高5.6mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第20・21・22号住居跡を掘り込み、第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北壁が調査区域外に延びているため、東西軸6.28m、南北軸6.54mが確認されただけである。平面形はほぼ方形で、主軸方向はN-49°-Wと推測される。壁高は28～51cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。壁溝が北壁下では確認されていないが、他の壁下では一部途切れるが巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。火床部の一部と煙道部は調査区域外に延びている。袖部幅は120cmである。

火床部は床面を少し掘りくぼめて使用され、火床面は火を受けて若干赤変している。

竈土層解説

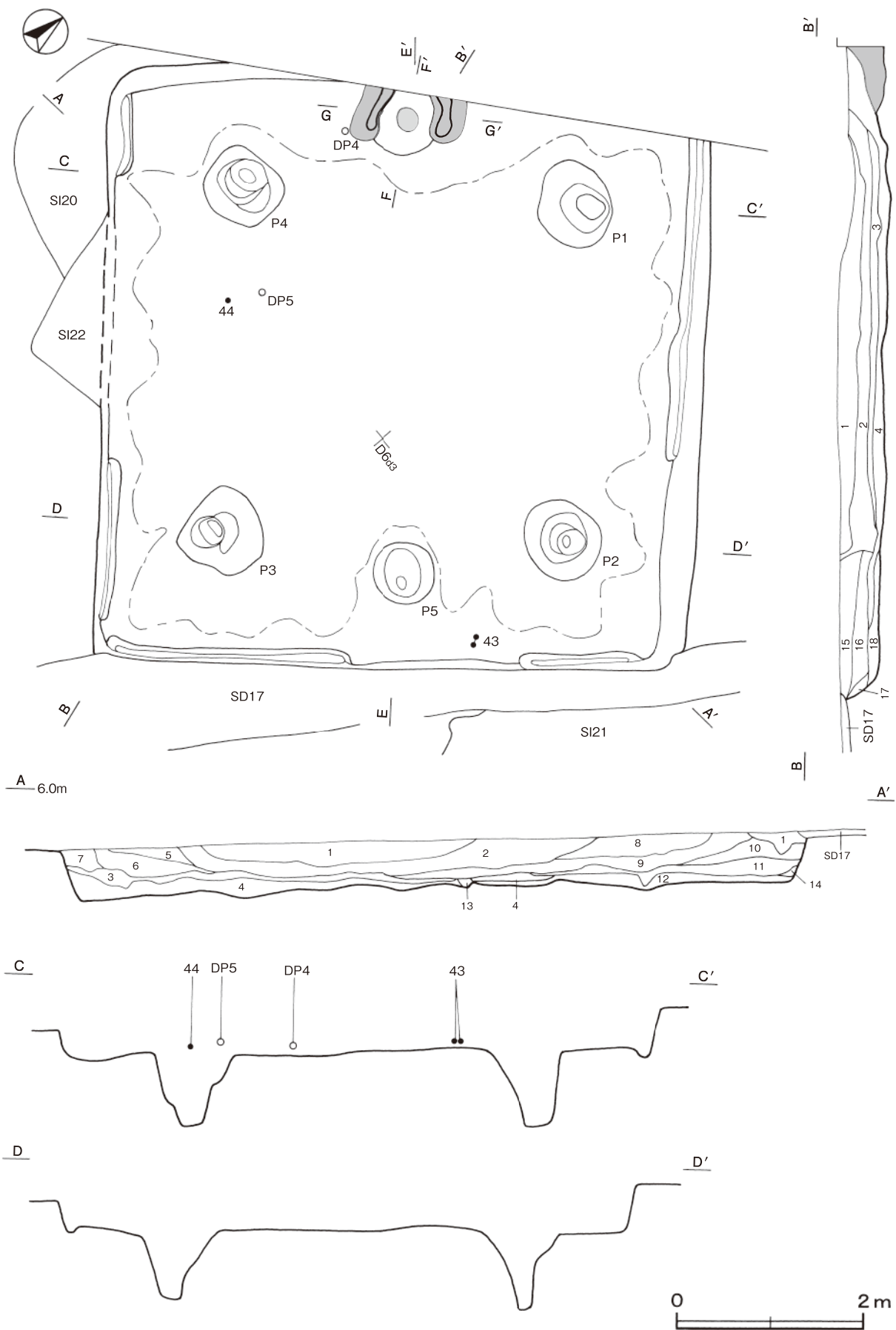
1 極暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	6 極暗赤褐色	炭化粒子中量、砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
4 極暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	9 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
5 極暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ76～80cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

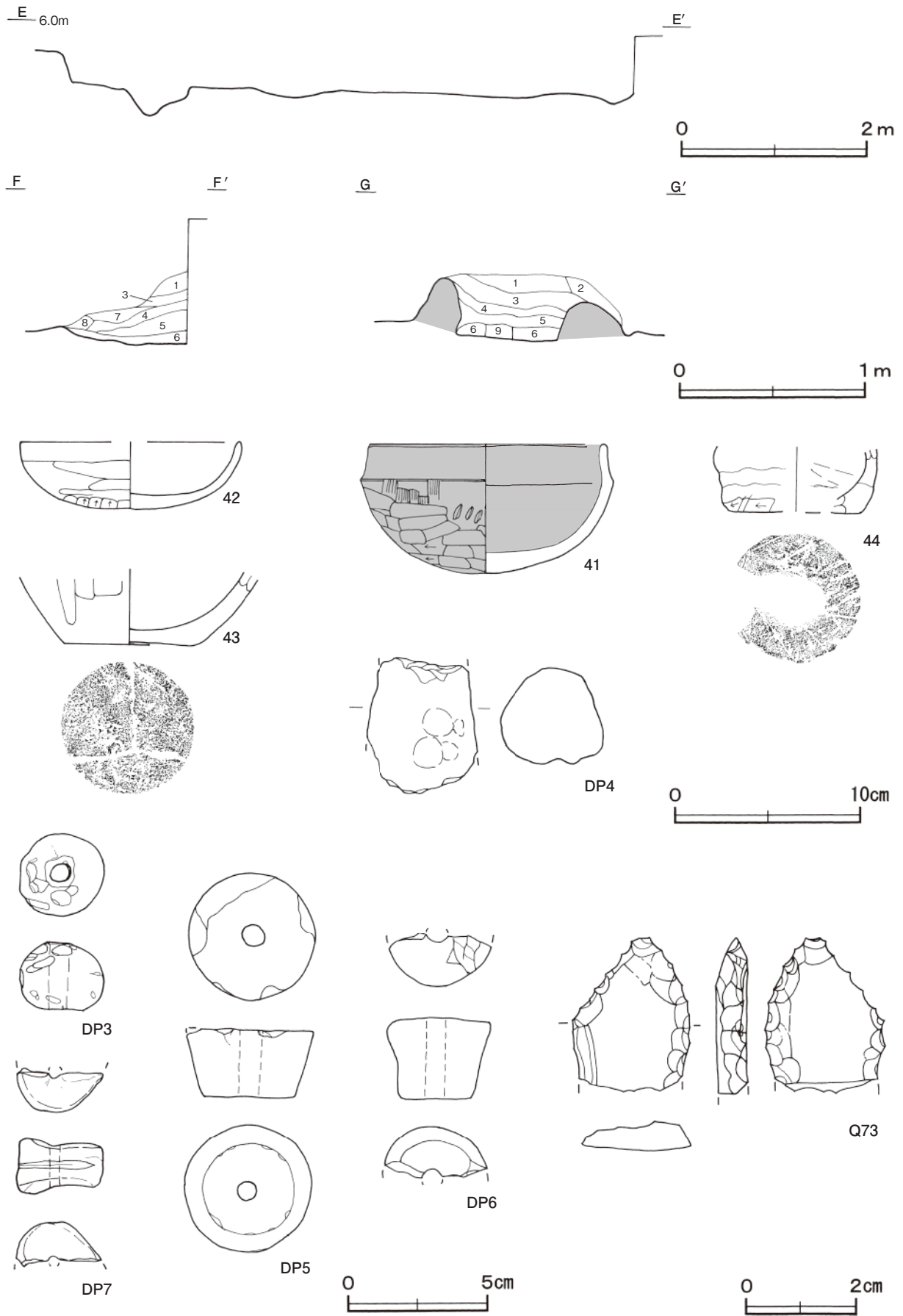
覆土 18層に分層される。ロームブロック・焼土ブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	11 灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12 褐色	焼土ブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 極暗褐色	ロームブロック微量
4 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	14 暗褐色	ローム粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	15 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
6 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土ブロック微量	16 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック微量	17 極暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	18 黒褐色	ロームブロック少量
9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		
10 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量		



第32图 第12号住居跡実測图



第33図 第12号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片129点（坏69，甕59，手捏土器1），土製品6点（土玉1，支脚2，紡錘車3）が，中央部から南西部にかけた覆土中から出土している。その他，縄文土器片390点，石器3点も出土している。43は南壁際，44・DP5は西部，DP4は竈左袖部付近の床面からそれぞれ出土しており，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
41	土師器	坏	12.8	7.0	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部内・外面横ナデハケ目調整後へら削り 内・外面黒色処理	体部外面内面ナデ	覆土下層	95% PL14
42	土師器	坏	[11.7]	3.6	-	砂粒・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデへら削り後ナデ	体部外面	覆土下層	70% PL15
43	土師器	甕	-	(3.9)	7.0	長石・石英	橙	普通	体部外面へら削り後ナデ		床面	5%
44	手捏土器	-	-	(3.5)	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	輪積痕 指頭痕 指ナデ指頭痕	体部下端へら削り 内面底部焼成後に穿孔	床面	50% PL17

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP3	球状土錘	2.9	2.4	0.8	20.1	長石・雲母	ナデ	覆土中	PL24
DP5	紡錘車	4.6	2.4	0.9	54.9	長石・石英	側面削り調整	床面	PL24
DP6	紡錘車	(3.8)	2.9	0.7	(17.5)	長石・雲母	側面削り調整	覆土下層	
DP7	紡錘車	(3.1)	2.0	(0.4)	(7.7)	雲母・赤色粒子	中央部に横位1条の沈線	覆土下層	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP4	支脚	(7.4)	(6.0)	(4.9)	(179.8)	長石・石英・雲母	指頭圧痕 上部下部欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 73	石鏃	(2.7)	2.1	0.5	(4.0)	チャート	未製品 両面押圧剥離	覆土下層	PL24

第15号住居跡（第34・35図）

位置 調査I区中央部のD6c5区，標高6.5mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 中央部から北西部にかけて，第13・14号住居，第219・220号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.45m，短軸4.90mの長方形で，主軸方向はN-67°-Eである。壁高は12～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ54～72cmで，規模と形状から支柱穴と考えられる。

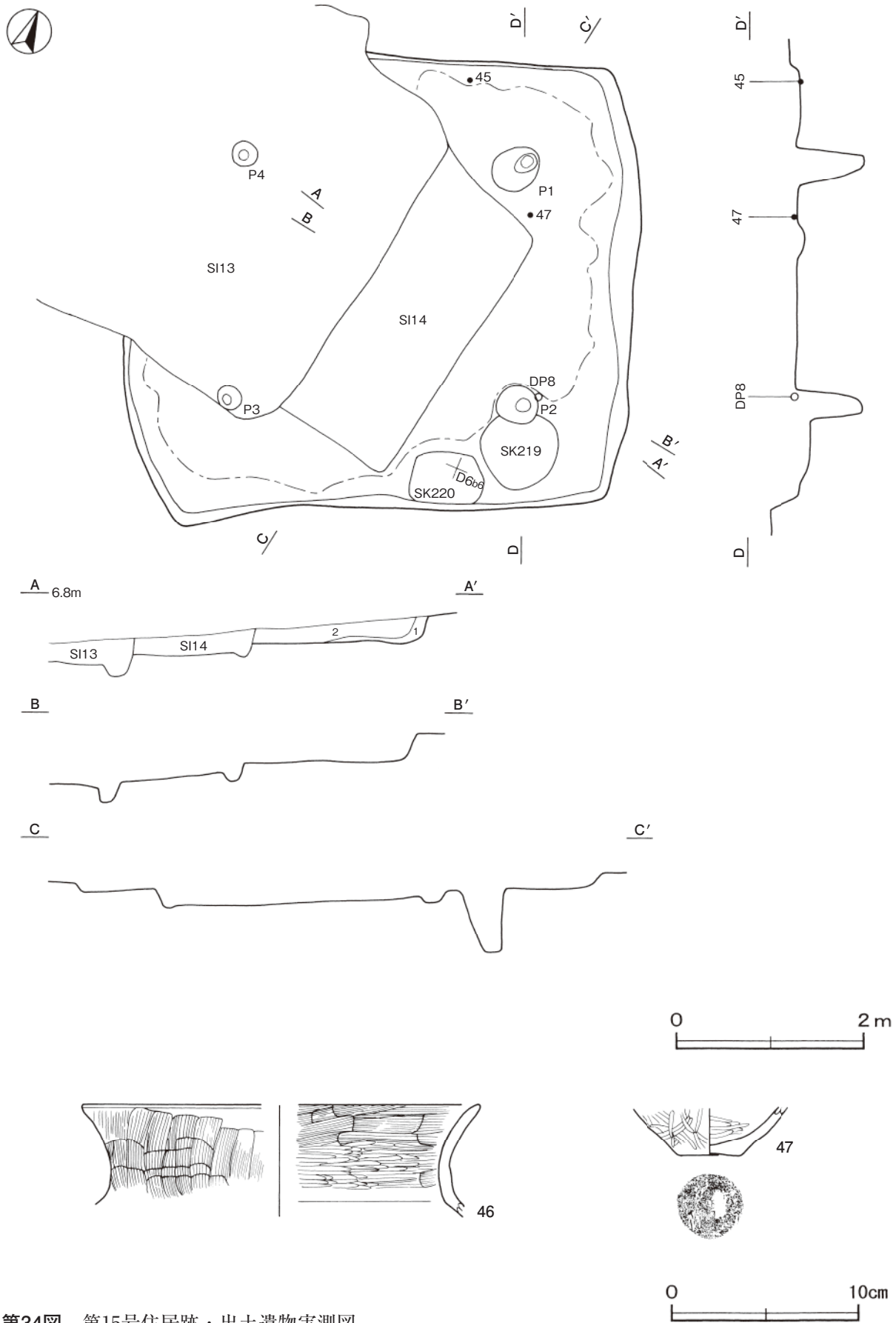
覆土 2層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

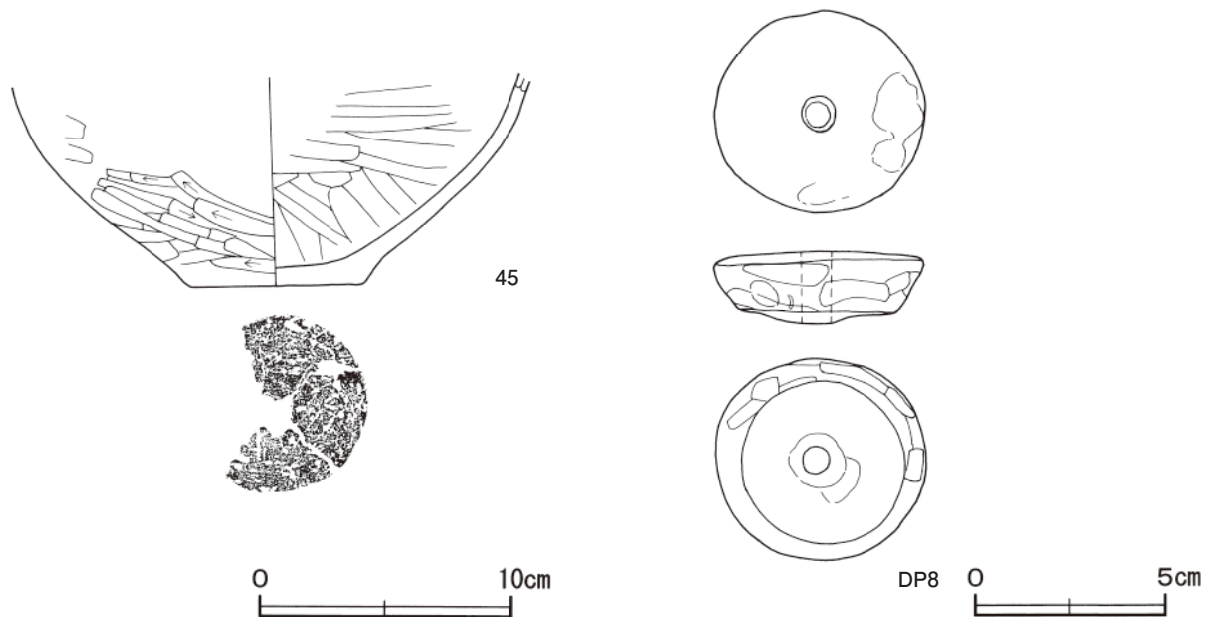
1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 2 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片21点（坏10，甕10，ミニチュア土器1），土製品1点（紡錘車）が出土している。その他，流れ込んだ剥片2点も出土している。45は北壁際，47はP1付近，DP8はP2付近の床面からそれぞれ出土しているが，いずれも小片であり，廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から4世紀後半と考えられる。



第34図 第15号住居跡・出土遺物実測図



第35図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表 (第34・35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
45	土師器	甕	-	(8.3)	7.0	長石	明赤褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ	床面	10%
46	土師器	甕	[21.0]	(6.0)	-	砂粒・赤色 粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面縦位のハケ目調整 内面ハケ目調整後へラ磨き	覆土中	5% PL17
47	ミニチュア土器	-	-	(2.5)	3.3	雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面へラ磨き	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP8	紡錘車	5.5	1.8	0.8	55.4	長石・雲母	側面削り調整後ナデ	床面	PL24

第16号住居跡 (第36図)

位置 調査 I 区中央部の D 6 c6 区, 標高 6.0m の微高地の斜面部に位置している。

重複関係 第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸 4.28m, 南北軸 3.31m が確認されただけである。平面形は方形または長方形で, 主軸方向は $N-32^{\circ}-W$ と推測される。壁高は 6~17cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで 80cm, 袖部幅 92cm である。袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を 18cm 掘りくぼめて使用しており, 火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁外へ 26cm 掘り込み, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 橙 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 明 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | | |

ピット 6 か所。P 1~P 4 は深さ 22~27cm で, 規模と位置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 12cm で, 南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 20cm で, 性格は不明である。

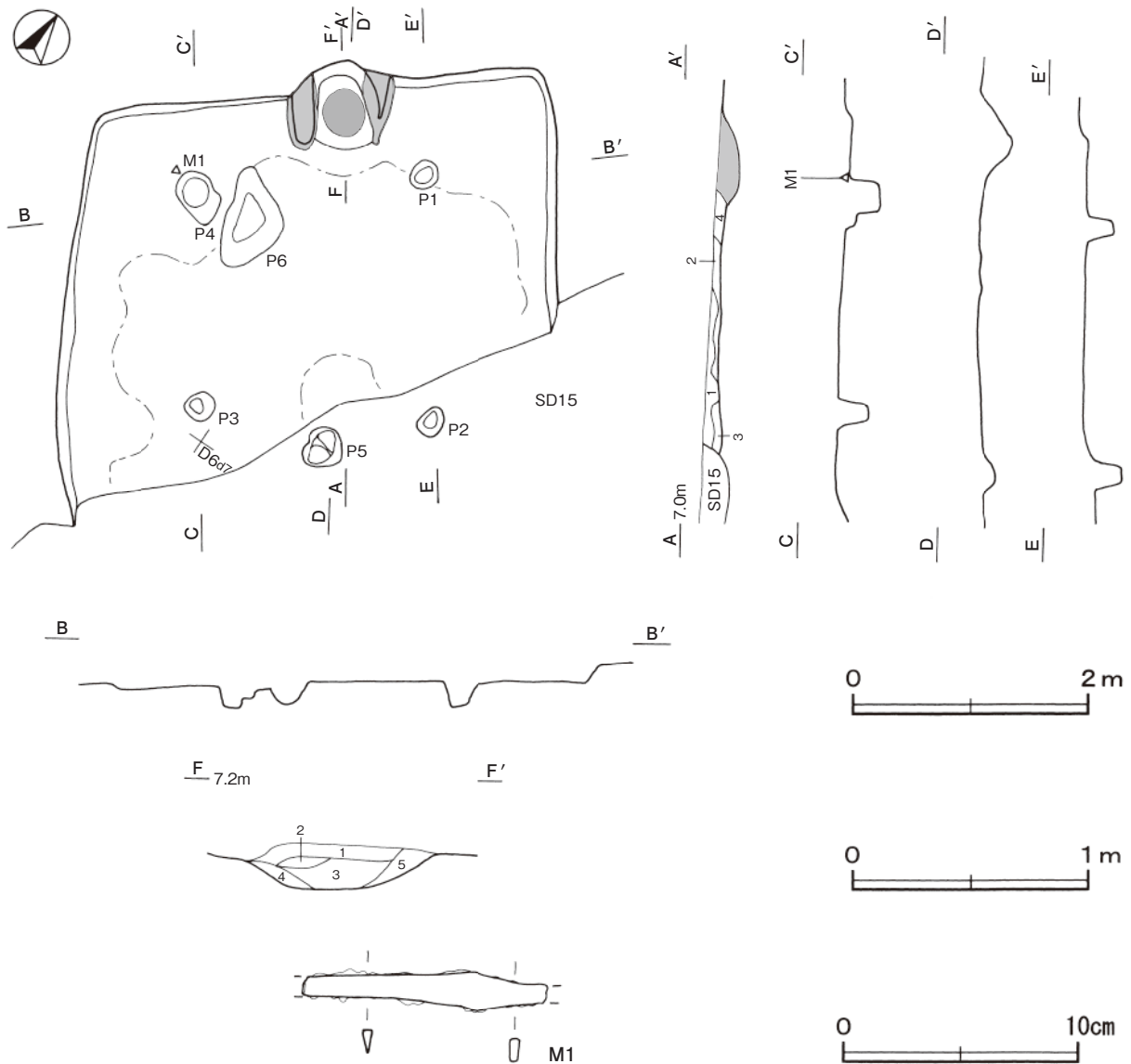
覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 橙色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片79点（坏13, 甕66）, 鉄製品1点（刀子）が竈付近と北西部の覆土下層から出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。出土した土器はいずれも小片であり, 図示することができない。M1は, 北西コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は, 判定できる土器がないが, 遺構の様相と遺物から6世紀後半と考えられる。



第36図 第16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第36図）

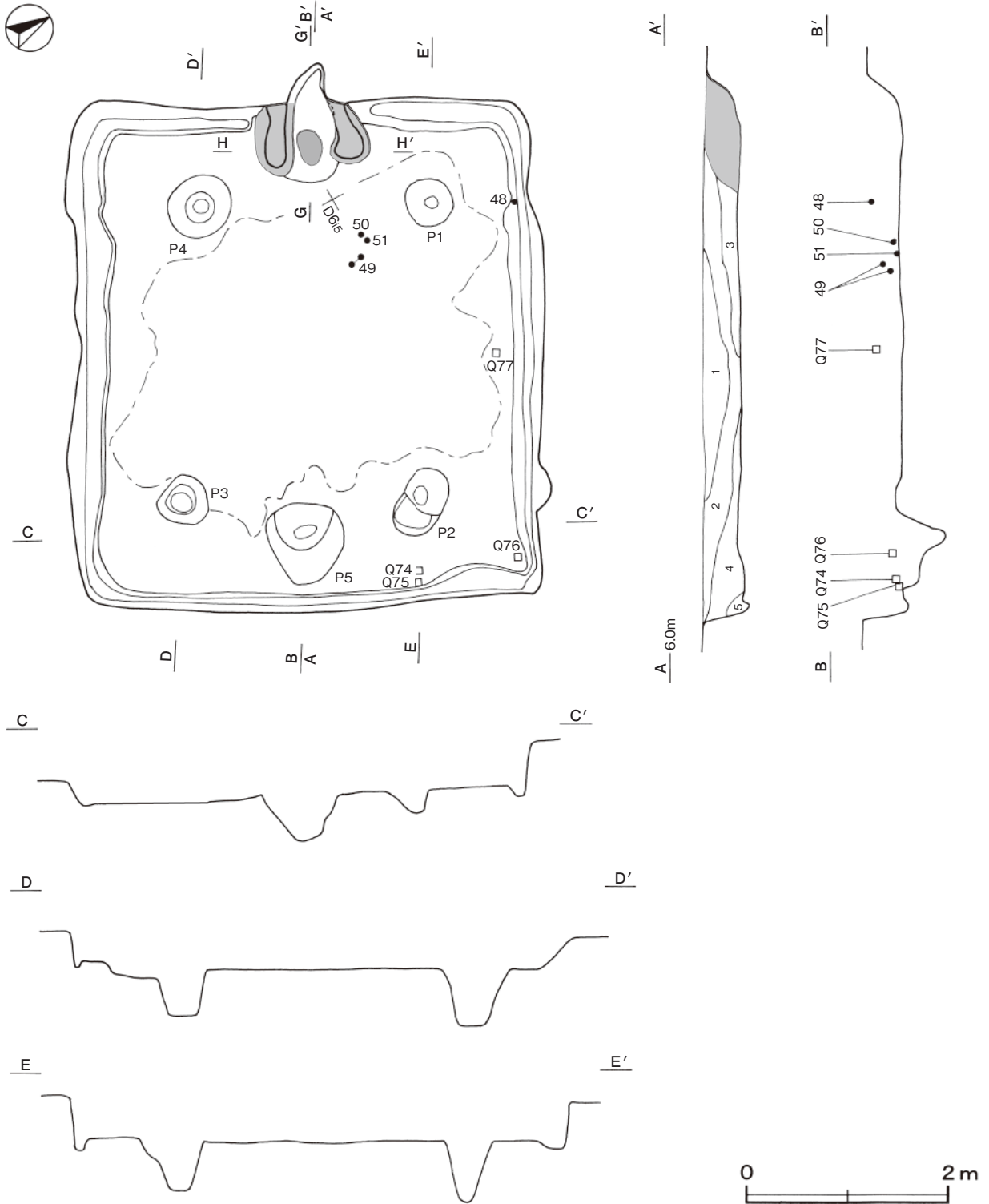
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(10.5)	1.7	0.4	(19.4)	鉄	刃部から茎部の破片 両関	床面	PL27

第17号住居跡 (第37・38図)

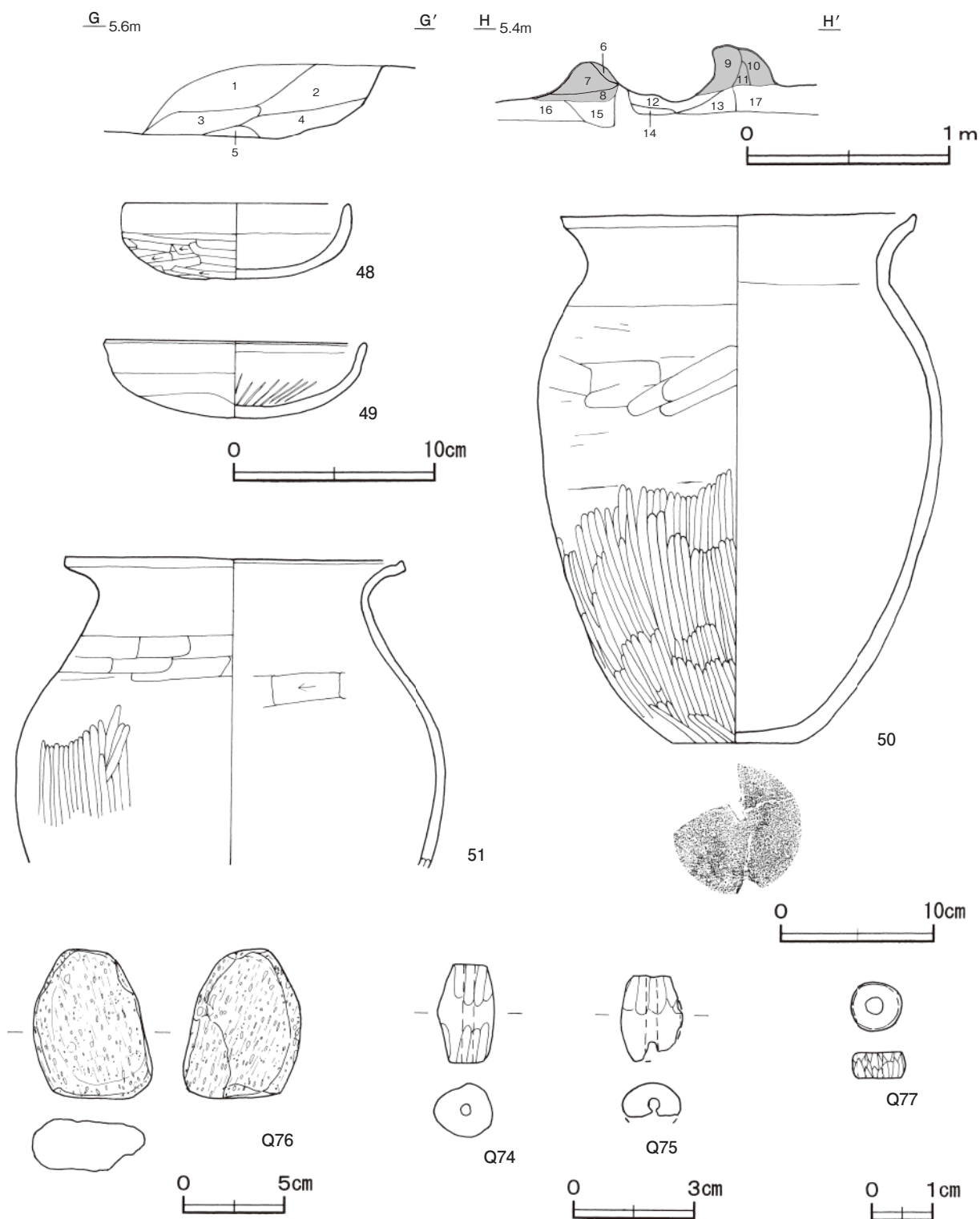
位置 調査I区南部のD 6 i5区, 標高5.8mの微高地の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸5.01m, 短軸4.66mの方形で, 主軸方向はN-61°-Wである。壁高は24~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。壁溝は全周している。



第37図 第17号住居跡実測図



第38図 第17号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cm，袖部幅120cmである。右袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。左袖部は一部地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。第12～14層は竈の掘り方の土層で，地山を10cmほど掘り込み，火床部を構築するために埋土をしている。第15～17層は床面の構築土である。火床面及び内壁は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ38cm掘り込み，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	9 褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
2 褐色	砂質粘土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	10 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	12 にぶい赤褐色	焼土粒子多量
5 赤褐色	焼土ブロック多量	13 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック少量
7 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量
8 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	16 褐色	ローム粒子多量, 砂質粘土粒子少量
		17 暗褐色	砂質粘土粒子中量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ46～56cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ46cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4 黒褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量	5 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片159点（坏46, 甕111, 甔1, 手握土器1）, 粘土塊3点が出土している。その他、縄文土器片94点, 須恵器片5点, 石器5点も覆土上層から出土している。49～51は竈付近, Q74・Q75は南壁溝付近の床面からそれぞれ出土しており、出土状況から廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
48	土師器	坏	11.0	3.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土上層	70% PL15
49	土師器	坏	12.8	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面放射状の磨き 暗文	床面	70% PL15
50	土師器	甕	23.2	34.5	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 頸部ヘラナデ	床面	80% PL18
51	土師器	甕	22.0	(20.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 頸部ヘラナデ	床面	40%

番号	器種	長さ(径)	径(厚さ)	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 74	棗玉	2.5	0.9～1.4	0.3	2.5	琥珀	側面二方向の研磨痕 片面穿孔	床面	PL26
Q 75	棗玉	2.1	1.0～1.5	0.3	(1.8)	琥珀	側面二方向の研磨痕 片面穿孔 一部欠損	床面	
Q 77	白玉	0.8	0.4	0.3	0.3	滑石	側面が膨らむ太鼓状 研磨痕 片面穿孔	覆土中層	PL26

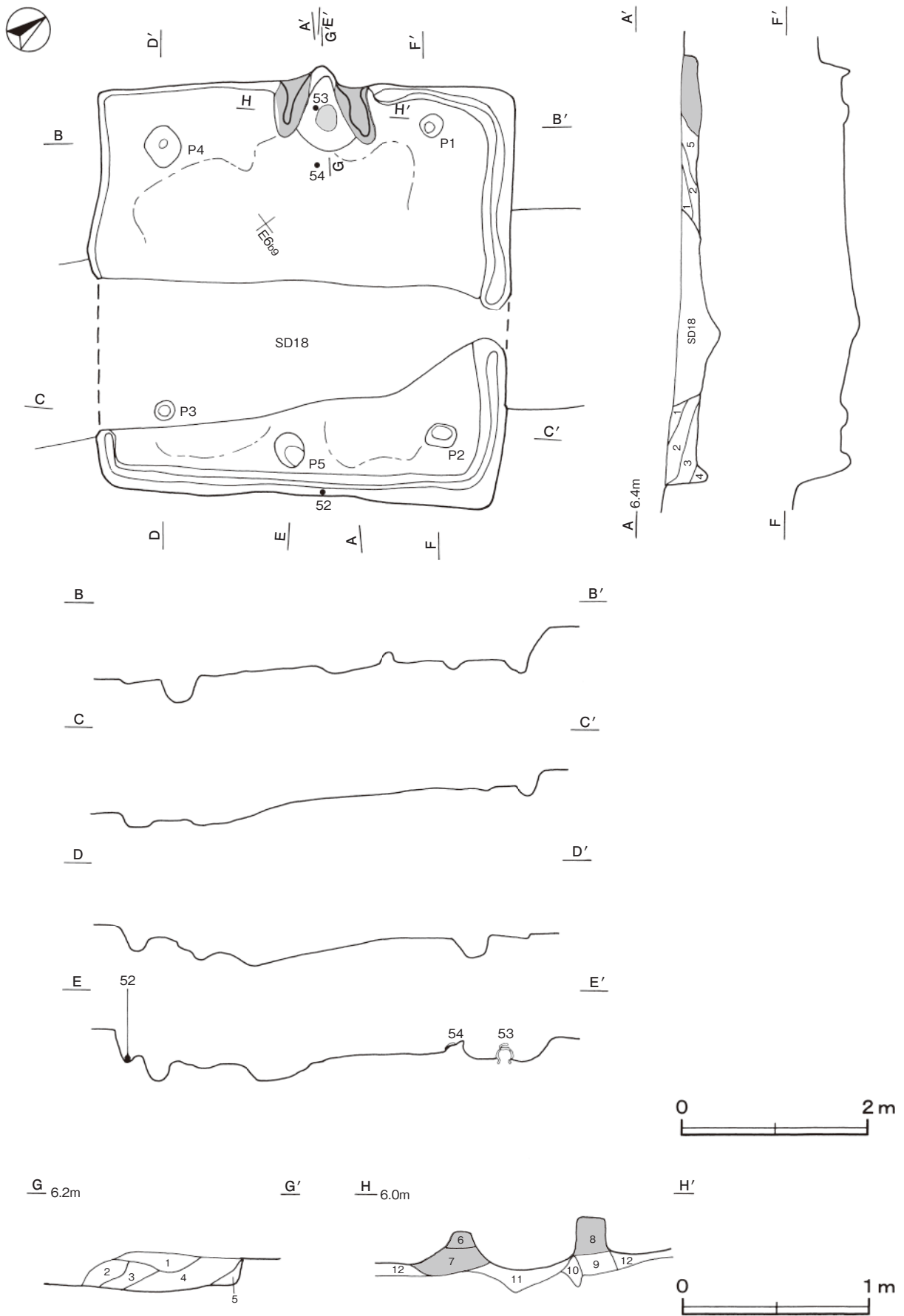
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 76	浮子カ	7.5	5.9	2.5	31.3	軽石	側面に研磨痕	床面	PL26

第18号住居跡（第39・40図）

位置 調査I区南東部のE 6 b9区, 標高5.5～6.0mの微高地の緩斜面に位置している。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m, 短軸4.50mの方形で、主軸方向はN-49°-Wである。壁高は6～40cmで、外傾して立ち上がっている。



第39图 第18号住居跡実測图

床 北東から南西方向にわずかに傾斜している。中央部は第18号溝に掘り込まれているため、硬化面が確認できなかったが、竈の周辺及び東壁付近が踏み固められている。壁溝が、東・南壁下を巡っている。

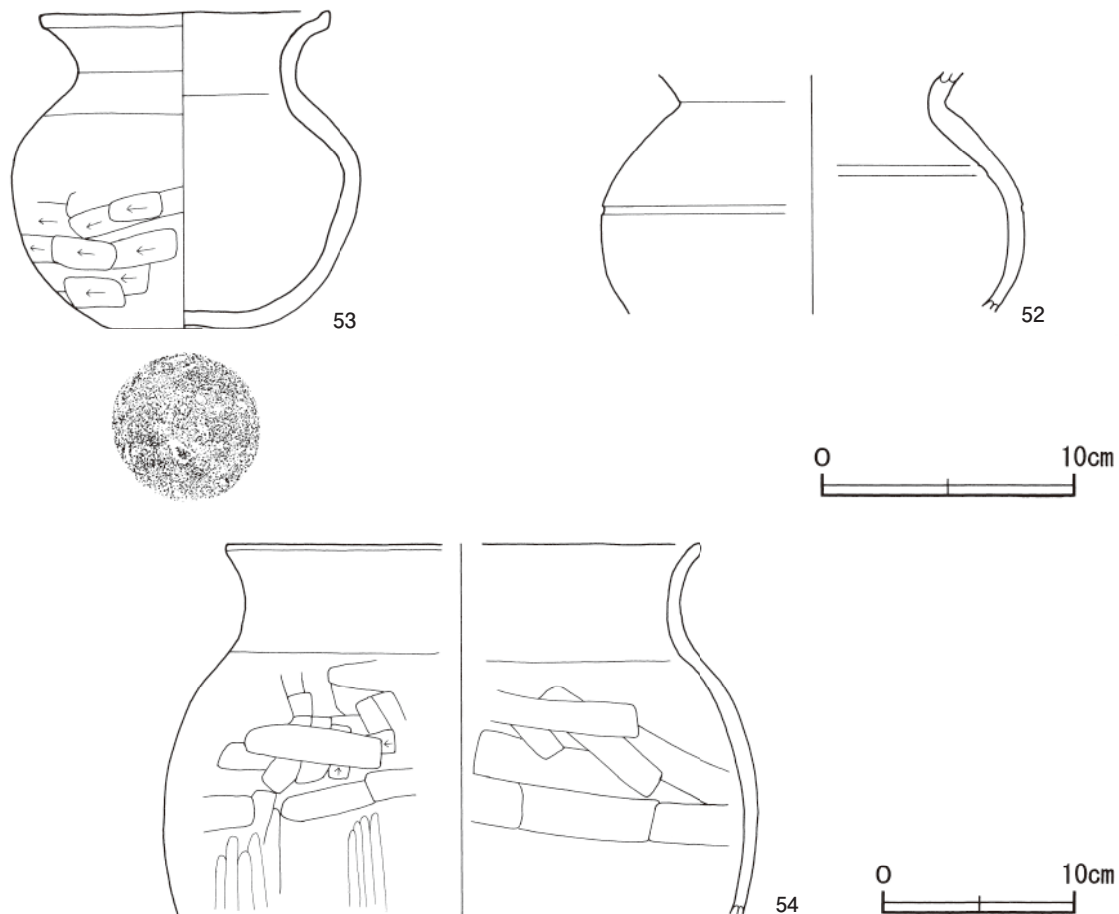
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅106cmである。袖部は地山を基部とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。第11層は竈の掘り方の土層で、地山を12cm掘り込み、火床部を構築するために埋土をしている。第12層は床面の構築土である。火床部は皿状に掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁外へ20cm掘り込み、火床面から外傾して立ち上がり、端部で直立している

竈土層解説

1 明 褐 色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	6 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
2 明 赤 褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量	7 暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
3 にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	8 黄 褐 色	焼土粒子・細礫少量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量	9 褐 色	粘土ブロック多量, 焼土粒子少量
5 明 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	10 にぶい黄褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
		11 灰 黄 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
		12 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ8～28cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P5は深さ28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



第40図 第18号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片143点(坏39, 甕103, 小形甕1), 須恵器片1点(壺)が竈内と北東コーナー部を中心に出土している。その他, 縄文土器片35点, 弥生土器片9点, 須恵器片11点, 陶器片1点, 磁器片1点も出土している。53は竈の火床面から逆位で出土していることから, 廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。52は南壁溝の底面, 54は竈の焚口付近の床面からそれぞれ出土している。これらは廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表(第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
52	須恵器	壺	-	(9.5)	-	長石・石英・赤色粒子	灰	良好	体部内・外面に横位1条の沈線	壁溝底面	15%
53	土師器	小形甕	11.5	12.5	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	竈内	100% PL18
54	土師器	甕	(24.6)	(19.4)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き内面ヘラナデ 頸部ヘラナデ	床面	30%

第22号住居跡(第41図)

位置 調査I区南西部のD6d2区, 標高5.6mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第20号住居跡を掘り込み, 第12号住居に南西コーナー部を除き掘り込まれている。

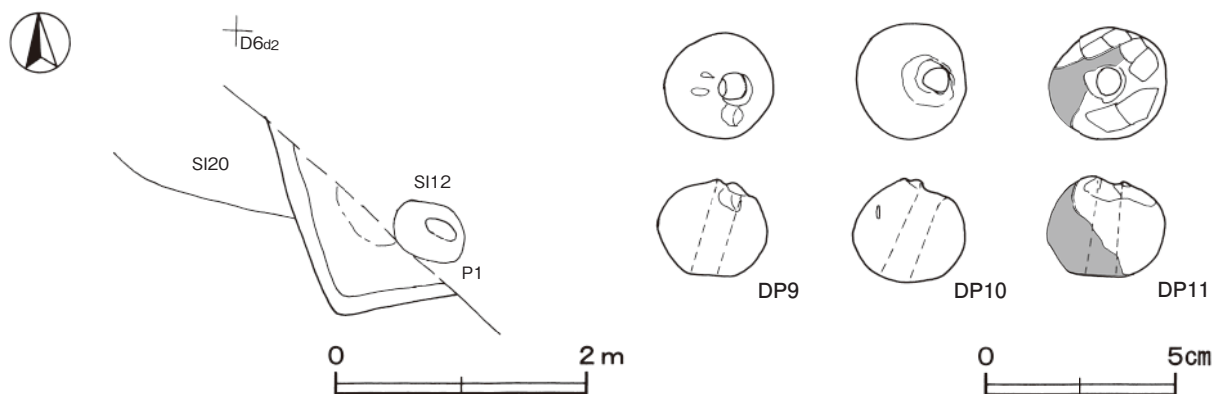
規模と形状 北側部分が調査区域外に延びていることや, 東側が住居跡と重複していることから, 南北軸1.60m, 東西軸0.90mが確認されただけである。平面形は方形または長方形と推測され, 主軸方向は不明である。壁高は30cmで, 直立している。

床 平坦である。確認できた壁際近くまで踏み固められている。

ピット 深さ38cmで, 規模と位置から支柱穴の一つと考えられる。

遺物出土状況 土師器片13点(坏4, 甕9), 土製品3点(球状土錘)が出土している。土師器片は覆土上層から出土し, 廃絶後に混入したものと考えられる。土器片はいずれも小破片であり, 図示することができない。

所見 時期は, 判定できる土器がないが, 重複関係から6世紀後葉以前と考えられる。



第41図 第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP9	球状土錘	2.9	2.5	0.7	18.4	長石・雲母	ナデ	覆土中	PL24
DP10	球状土錘	3.0	2.7	0.8	23.1	長石・雲母	ナデ	覆土中	PL24
DP11	球状土錘	3.1	2.6	0.7	22.6	長石・雲母	ナデ	覆土中	煤付着 PL24

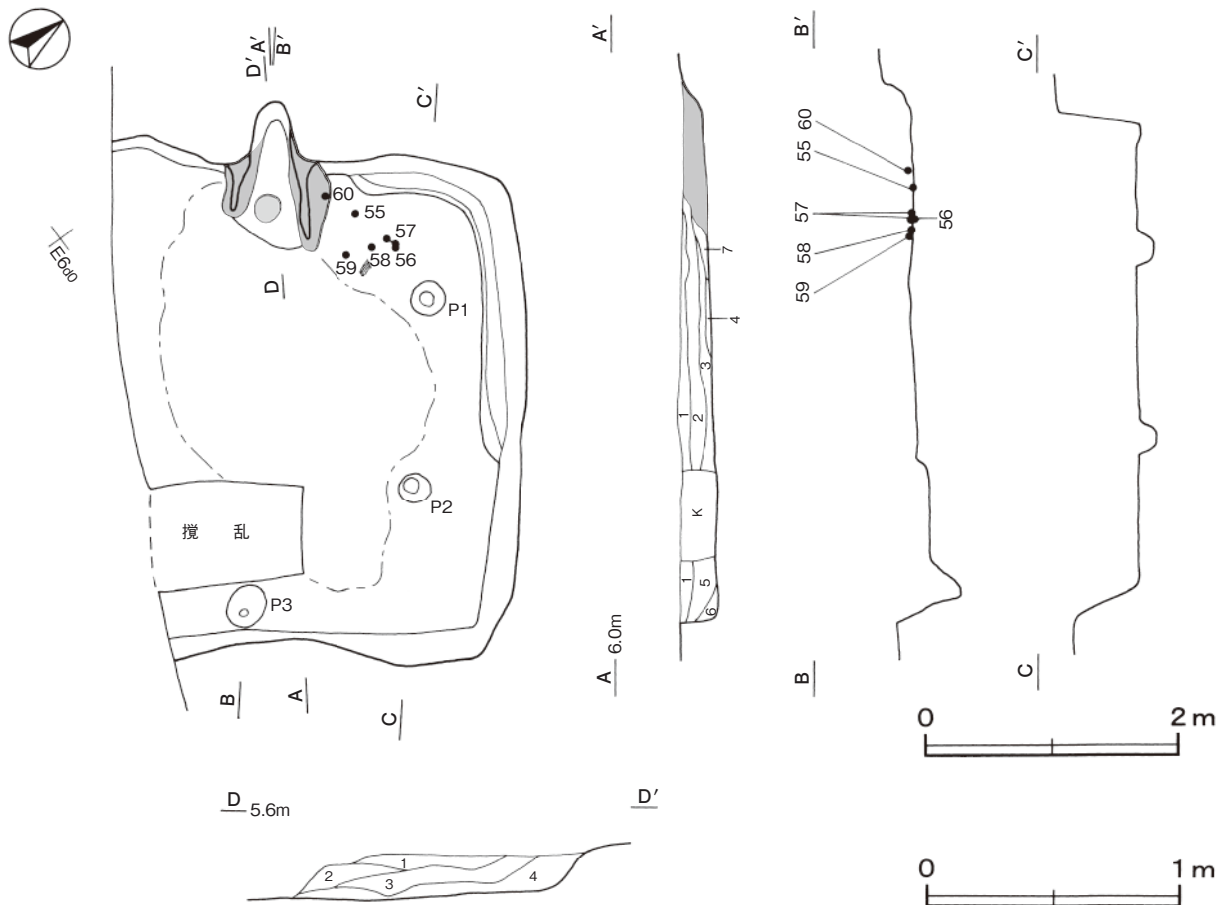
第24号住居跡 (第42・43図)

位置 調査I区南東部のE6c0区, 標高5.5~5.8mの微高地の緩斜面に位置している。

規模と形状 南部は土地改良事業によって削平されている。南北軸4.06m, 東西軸3.27mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で, 主軸方向はN-52°-Wと推測される。壁高は20~64cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は北東コーナー部下に確認されている。また, 北東部の床面に炭化材が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cm, 袖部幅82cmである。袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は地山を浅く皿状に掘りくぼめて使用し, 火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁外へ46cm掘り込み, 火床面から外傾して立ち上がっている。



第42図 第24号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量 4 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ14cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3は深さ29cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

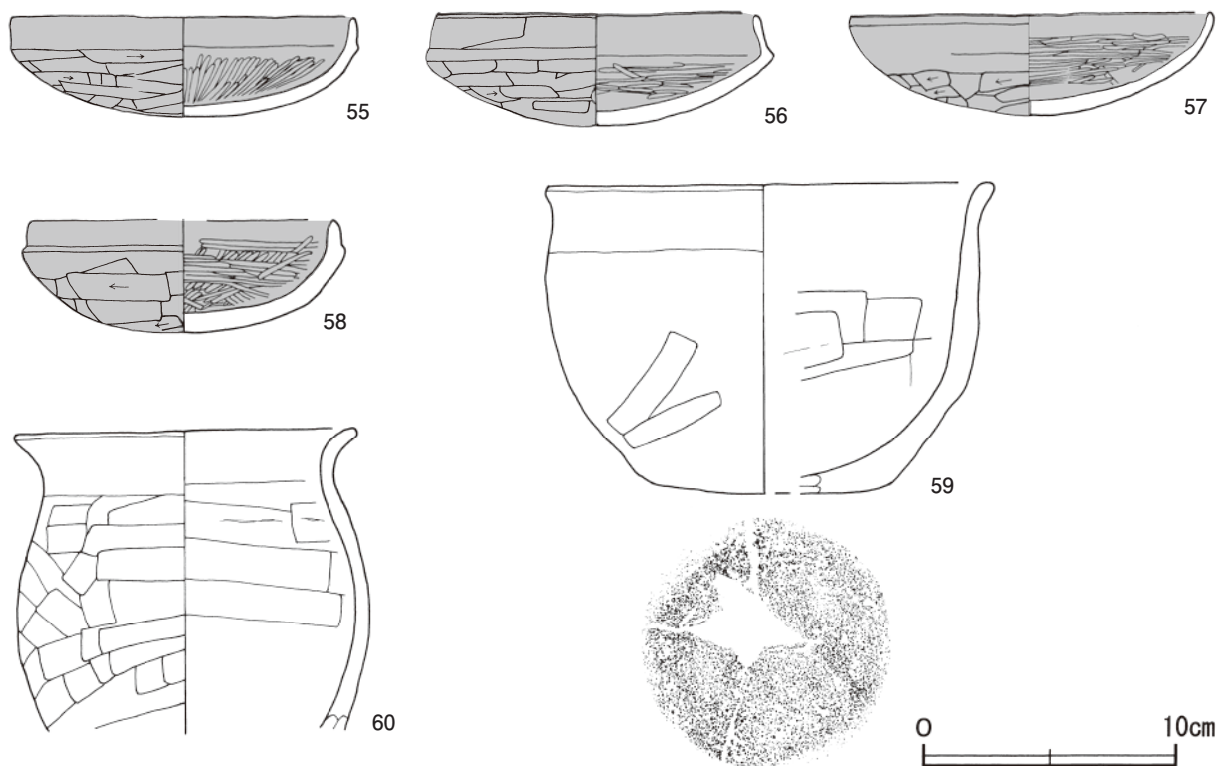
覆土 7層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 5 明褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 6 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量
 4 暗赤褐色 炭化材中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片50点(坏12, 甕36, 小形甕2)が北東コーナー部の覆土下層を中心に出土している。その他、縄文土器片11点, 須恵器片1点, 陶器片3点, 磁器片2点, 平瓦1点も出土している。55～58は北東部, 59は竈右袖部付近の床面からそれぞれ出土している。60は竈右袖部に埋まった状態で出土している。これらはほぼ完形であり、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第43図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表(第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
55	土師器	坏	13.5	4.0	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り後ナデ内面放射状のヘラ磨き内・外面黒色処理	床面	90%煤附着 PL15
56	土師器	坏	12.7	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き内・外面黒色処理	床面	95%煤附着 PL15
57	土師器	坏	14.1	4.0	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き内・外面黒色処理	床面	90% PL15
58	土師器	坏	[12.0]	4.5	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き内・外面黒色処理	床面	65% PL15

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	土師器	小形甕	17.4	12.3	9.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	95% PL18
60	土師器	小形甕	13.2	(12.0)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ ヘラナデ 内面ヘラナデ	竈右袖部	65% PL18

表4 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
1	H 12d3	N-25°-W	[方形・長方形]	3.45 × (3.30)	27 ~ 40	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器 (坏・甕), 粘土塊	7世紀前葉	本跡 → SK 1 → SD1
9	D 5g0	N-9°-W	[方形・長方形]	(3.44) × (2.60)	45 ~ 54	平坦	一部	1	-	1	1	-	自然	土師器 (坏・甕・甗), 須恵器 (短頸壺, 甕)	6世紀後葉	本跡 → SD17
10	E 6b8	N-47°-W	[方形・長方形]	5.26 × (2.90)	28 ~ 42	平坦	-	2	1	-	1	1	自然	土師器 (坏・鉢・甕・甗), 土製品 (白玉)	6世紀前葉	本跡 → SD18
11	D 6e3	N-25°-W	方形	5.34 × 5.29	20 ~ 38	平坦	半周	4	1	-	1	1	自然	土師器 (坏・甕), 石製品 (白玉)	6世紀後葉	本跡 → SD17
12	D 6c2	N-49°-W	方形	6.28 × 6.54	28 ~ 51	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器 (坏・甕), 手捏土器, 土製品 (土玉・支脚・紡錘車)	6世紀後葉	SI20・21 → SI22 → 本跡 → SD17
15	D 6c5	N-67°-E	長方形	5.45 × 4.90	12 ~ 28	平坦	-	4	-	-	-	-	人為	土師器 (高坏・甕), ミニチュア土器, 土製品 (紡錘車)	4世紀後半	本跡 → SI14 → SI13, SK219・220
16	D 6c6	N-32°-W	[方形・長方形]	4.28 × (3.31)	6 ~ 17	平坦	-	4	1	1	1	-	人為	土師器 (坏・甕), 鉄製品 (刀子)	6世紀後半	本跡 → SD15
17	D 6i5	N-61°-W	方形	5.01 × 4.66	24 ~ 40	平坦	全周	4	1	-	1	-	自然	土師器 (坏・甕・甗), 石製品 (碧玉)	6世紀後葉	
18	E 6b9	N-49°-W	方形	4.54 × 4.50	6 ~ 40	傾斜	半周	4	1	-	1	-	自然	土師器 (坏・甕), 須恵器 (壺)	6世紀後葉	本跡 → SD18
22	D 6d2	-	[方形・長方形]	(1.60) × (0.90)	30	平坦	-	1	-	-	-	-	不明	土師器 (坏・甕), 土製品 (球状土錘)	6世紀後葉 以前	SI20 → 本跡 → SI12
24	E 6c0	N-52°-W	[方形・長方形]	4.06 × (3.27)	20 ~ 64	平坦	一部	2	1	-	1	-	人為	土師器 (坏・甕)	6世紀後葉	

3 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の遺構は、堅穴住居跡9軒が確認された。これらの遺構は、調査I区南部から中央部にかけての標高5~6mの低位段丘上と、調査II区東部の標高24~26mの台地上に位置している。以下確認された遺構と遺物について記述する。

堅穴住居跡

第2号住居跡 (第44図)

位置 調査II区東部のH12e1区、標高23.5mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

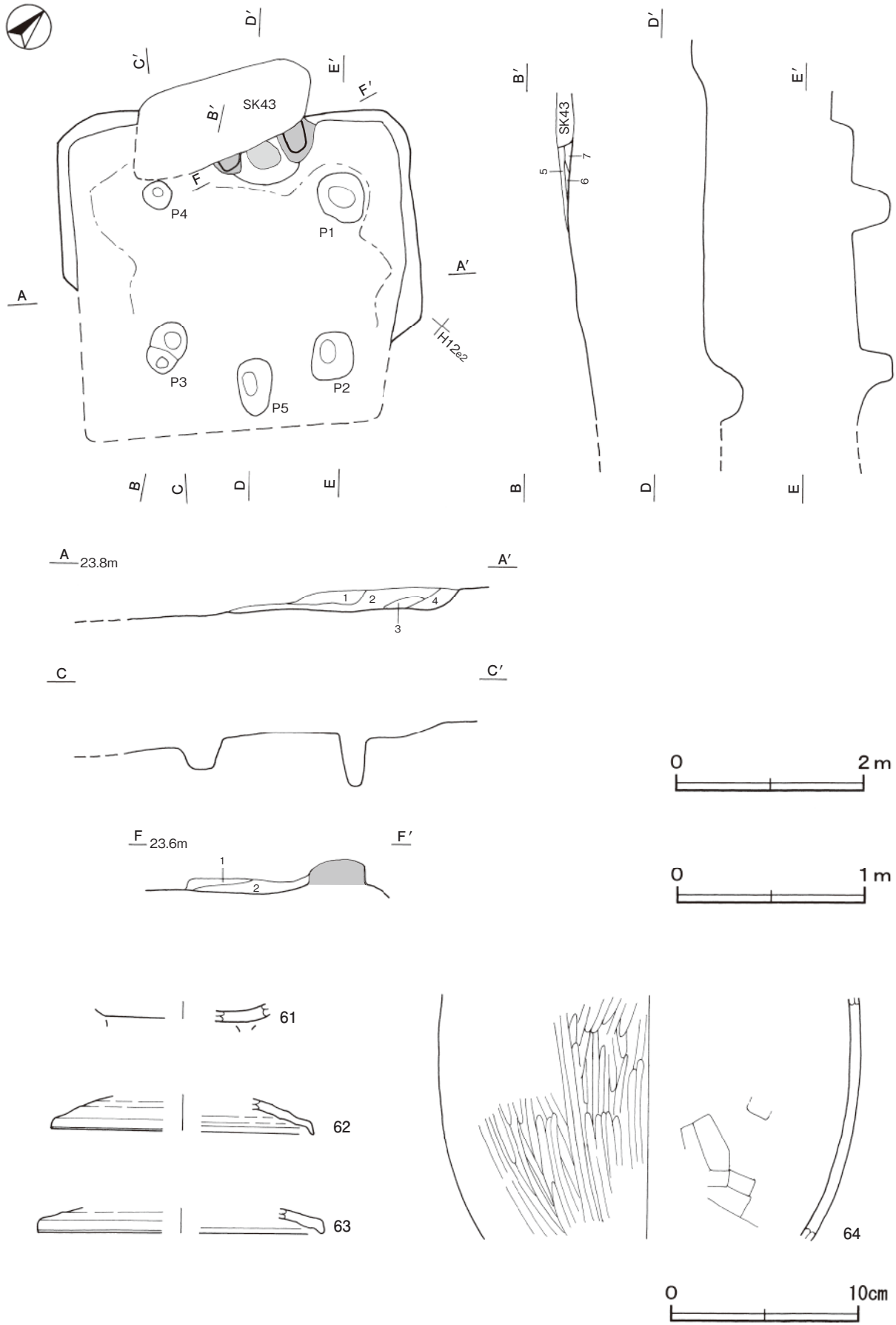
重複関係 第43号土坑に掘り込まれている。

確認状況 中央部から南西部まで耕作による削平を受け、床面が一部露出した状況で確認された。竈やピットの配置から形状を推定した。

規模と形状 長軸3.82m、短軸3.52mの方形と推測され、主軸方向はN-37°-Wである。確認された壁高は16~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部やや東寄りに付設されている。燃焼室及び煙道部は第43号土坑に掘り込まれているため、袖部と火床面の一部が残存しているだけである。袖部幅は112cmで、床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は第43号土坑に掘り込まれていて、確認できなかった。



第44图 第2号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 2 暗赤褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ40～58cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ46cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 6 褐色 粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 7 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片29点（坏11, 甕18）, 須恵器片3点（高台付坏1, 蓋2）, 粘土塊3点が竈右袖部付近の覆土下層から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片31点, 弥生土器片2点も出土している。61～64は竈付近の覆土下層から出土しているがいずれも小片であり、廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、判定できる土器がないが、遺構の様相と遺物から8世紀前半と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
61	須恵器	高台付坏	-	(1.0)	-	長石・赤色粒子	灰	良好	底部ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	5%
62	須恵器	蓋	[14.0]	(1.8)	-	石英	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	5%
63	須恵器	蓋	[15.2]	(1.3)	-	長石	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	5%
64	土師器	甕	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	5%

第3号住居跡（第45図）

位置 調査Ⅱ区東部のH11d9区、標高23.6mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 南部を第4号土坑、西部を第1号方形竪穴遺構、竈左袖部を第87号土坑に掘り込まれている。

確認状況 南西コーナー一部が耕作による削平を受け、床面が一部露出した状況で確認された。竈やピットの配置から形状を推定した。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.57mの方形と推測され、主軸方向はN-38°-Wである。確認された壁高は10～24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は南壁下の一部で確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで76cmで、残存している袖部幅は136cmである。袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁外に10cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

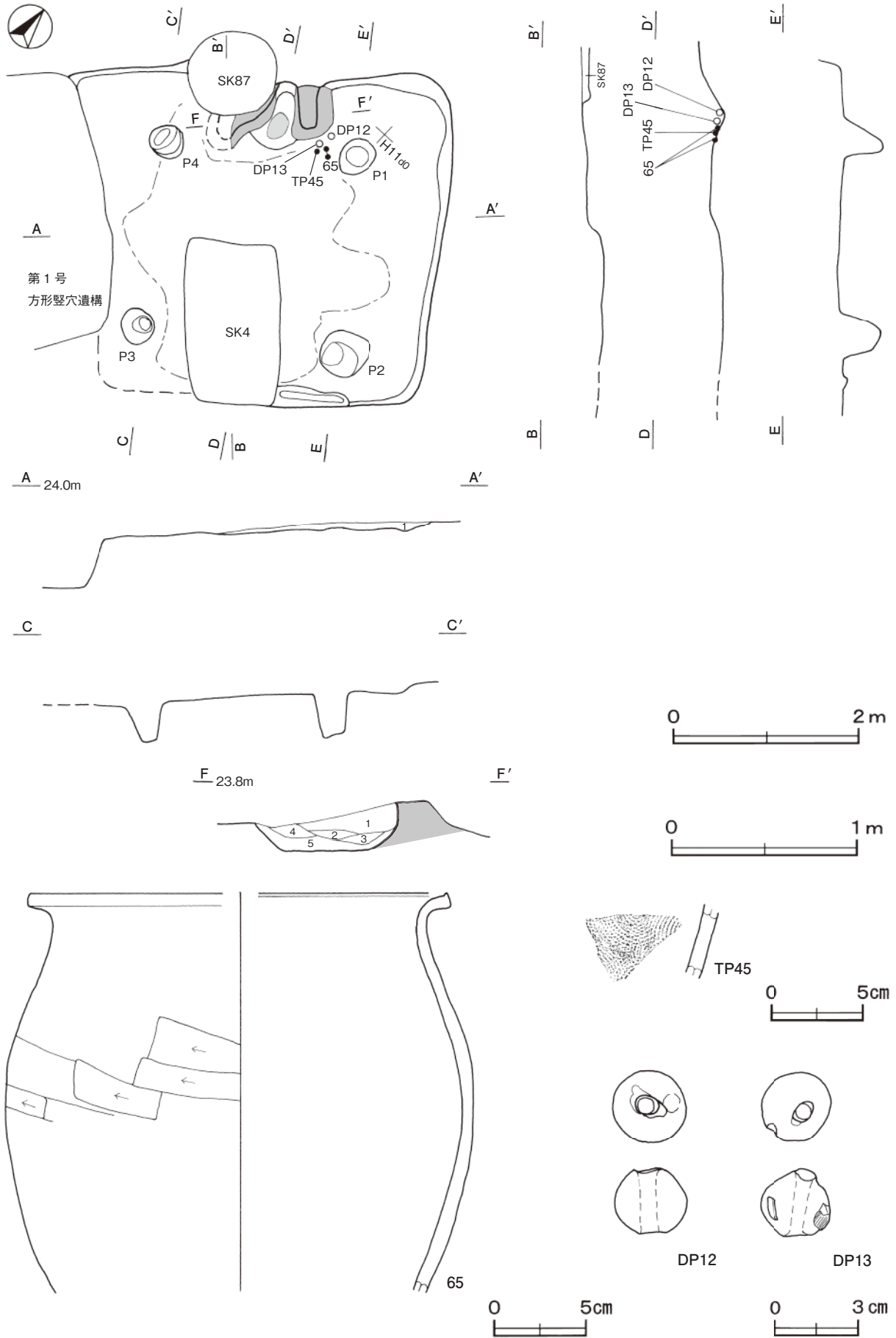
- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 4 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
 2 赤褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
 3 橙褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 5 褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ42～54cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土 単層で、層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第45図 第3号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片25点（甕），須恵器片9点（坏6，甕3），土製品2点（球状土錘）が出土している。65・TP45・DP12・DP13は、いずれも竈右袖部付近の床面から出土しているがいずれも小片であり、廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
65	土師器	甕	[22.5]	(21.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	30%
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
TP45	須恵器	甕	石英			灰	良好	体部外面同心円状の叩き	床面	5%	
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考		
DP12	球状土錘	2.6	2.3	0.6	14.3	長石・雲母	ナデ	床面	PL24		
DP13	球状土錘	2.5	2.4	0.5	13.0	雲母	ナデ	床面	PL24		

第4号住居跡（第46図）

位置 調査Ⅱ区東部のH11b0区，標高24.0mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸3.98m，短軸3.49mの長方形で，主軸方向はN-24°-Wである。壁高は12～29cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。壁際を除いてほぼ全面が踏み固められている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで100cm，袖部幅92cmである。袖部は床面に砂質粘土とローム土を混ぜ込んだ土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁外に26cm掘り込み，火床面から立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 におい赤褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土ブロック微量 |
| 2 黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 におい赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 | 6 におい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ16～46cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P6は深さ22cmで南壁付近の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ22cmで，性格は不明である。

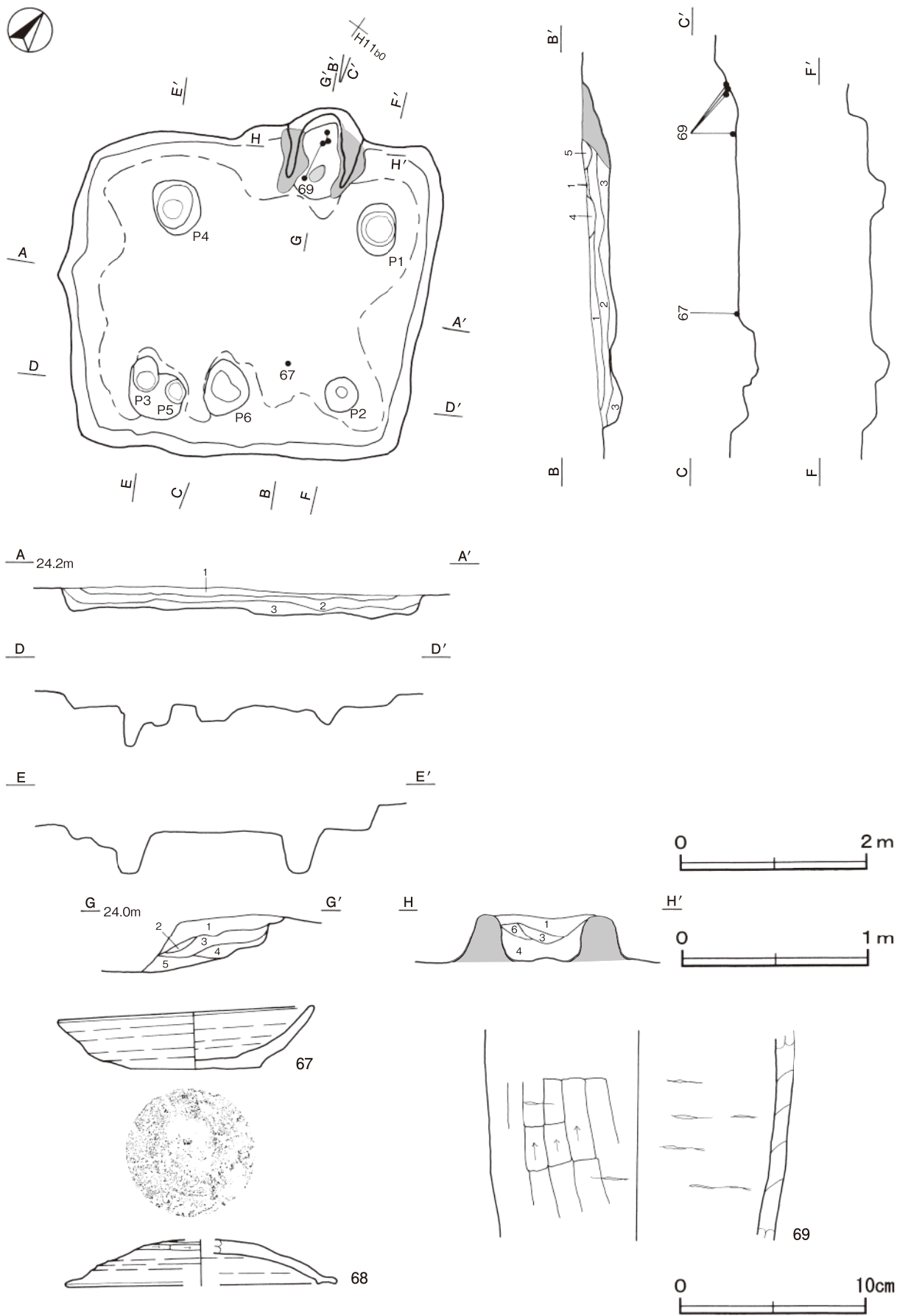
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 4 明褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 5 褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片38点（坏1，甕37），須恵器片8点（坏3，蓋1，甕4）が北部の覆土下層から出土している。68・69は竈内の覆土中層から火床面にかけて出土した破片が接合したものである。67は南東部の床面から出土している。これらは廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



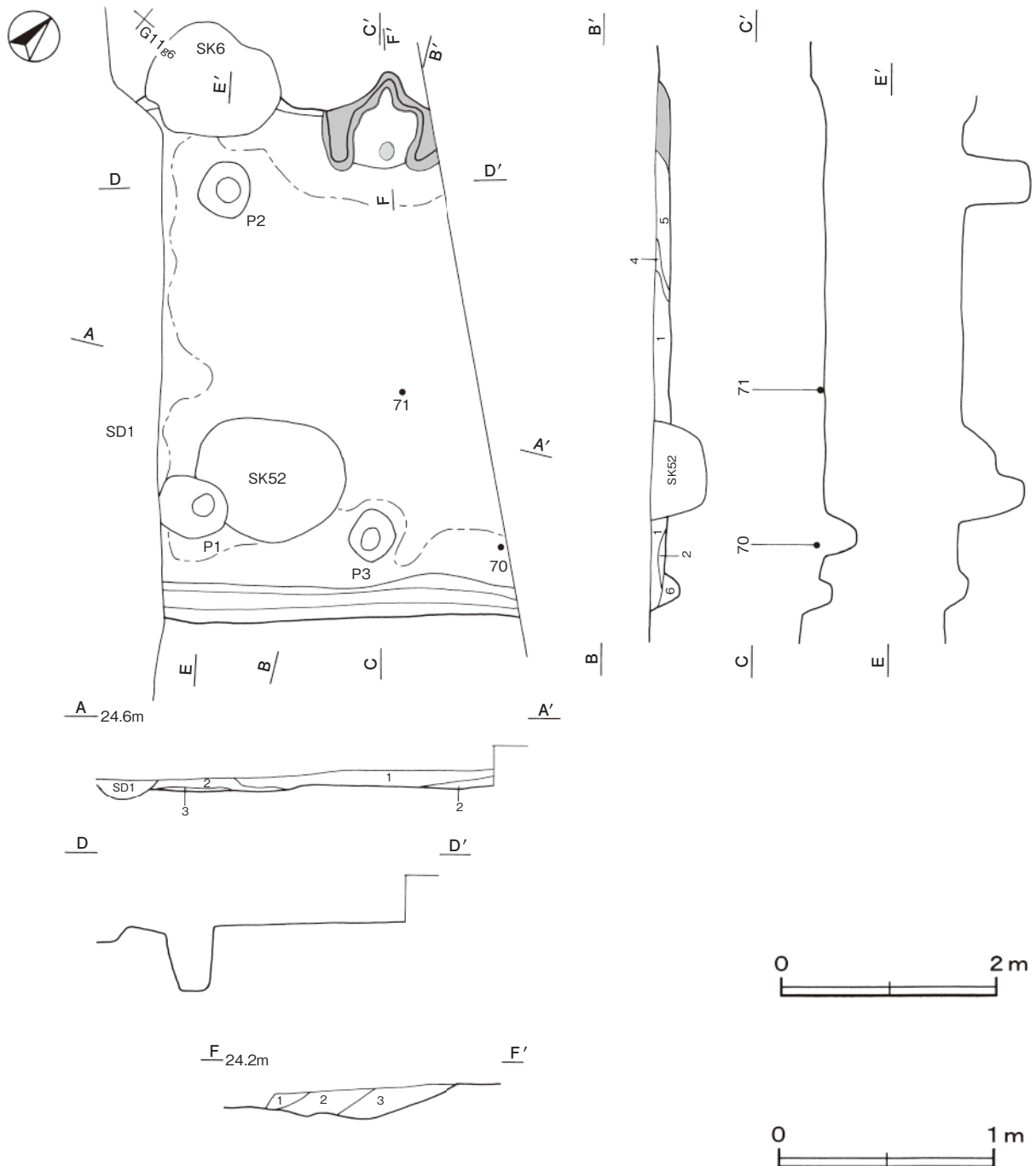
第46图 第4号住居跡・出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表 (第46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
67	土師器	坏	13.6	3.3	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形後ナデの手持ちヘラ削りに1条の沈線が巡る	床面	100% PL17
68	須恵器	蓋	[14.5]	(2.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	30%
69	土師器	甕	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り	竈内	10%

第5号住居跡 (第47・48図)

位置 調査Ⅱ区東部のG11g6区, 標高24mの河岸段丘上の平坦面に位置している。



第47図 第5号住居跡実測図

重複関係 第6・52号土坑，第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため，南北軸4.78m，東西軸3.17mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で，主軸方向はN-38°-Wと推測される。壁高は12～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で，壁際を除いて全体的に踏み固められている。南壁下に壁溝が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅は102cmのみ確認された。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土とローム土を混ぜ込んだ土を積み上げて構築している。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用しており，火床面は若干赤変している。煙道部は壁外へ44cm掘り込み，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 橙 色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量

ピット 3か所。P1・P2は深さ60cmで，規模と位置から支柱穴と考えられる。P3は深さ30cmで南壁付近の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

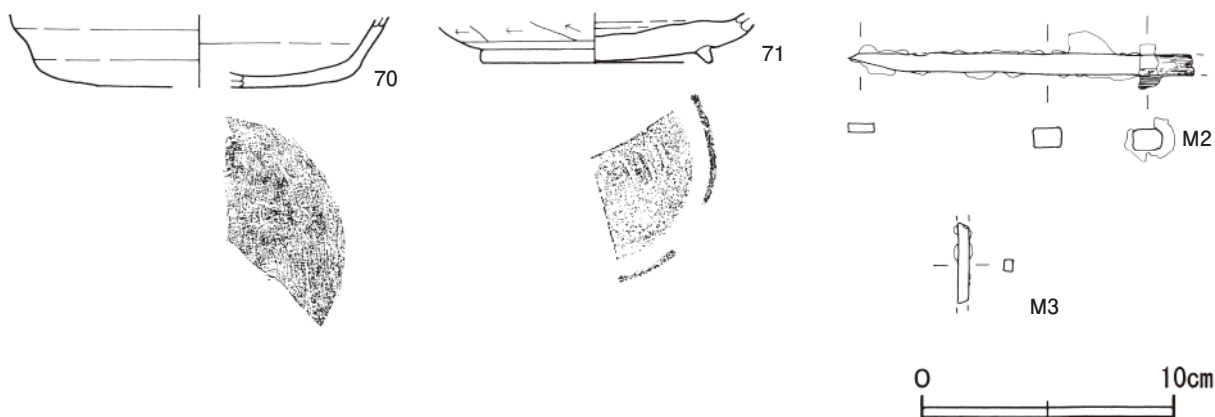
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
- 3 橙 色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック中量，炭化物微量
- 6 明褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片92点（坏11，甕81），須恵器片9点（坏7，高台付坏1，甕1），鉄製品2点（釘，鑿カ），粘土塊1点が覆土下層から出土している。その他，流れ込んだ剥片2点，礫4点，磁器片1点も出土している。70は南壁際，71は中央部の床面，M2・M3は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土しており，廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第48図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
70	土師器	坏	-	(2.8)	[11.8]	砂粒・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面横ナデ ヘラ削り	床面	10%
71	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	9.0	砂粒	灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鑿カ	(13.7)	1.1~2.0	0.8~1.8	(59.5)	鉄	木質残存 断面長方形の棒状 先端部は扁平で尖る	覆土下層	PL27
M3	釘	(3.3)	0.5	0.5	(2.0)	鉄	断面方形	覆土下層	

第6号住居跡 (第49・50図)

位置 調査Ⅱ区中央部のG10b0区、標高23.0mの河岸段丘上の傾斜面に位置している。

重複関係 第45号土坑に掘り込まれている。

確認状況 中央部から南西壁まで耕作による削平を受け、床面が一部露出した状況で確認された。竈やピットの配置から形状を推定した。

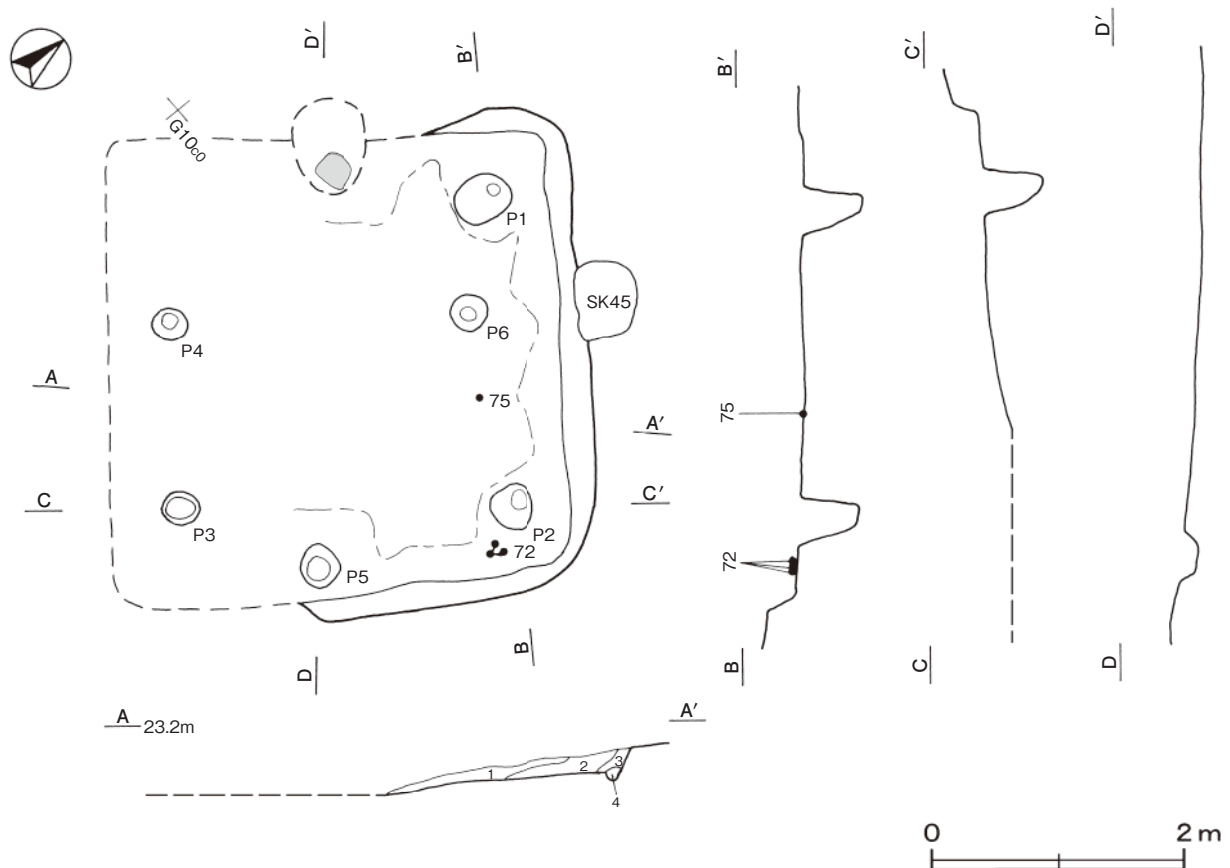
規模と形状 南北軸3.90m、東西軸3.86mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-51°-Wと推測される。確認された壁高は19~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分は東から西に傾斜し、高低差は6cmである。中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されていたと推測され、火床部のみ確認された。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用しており、火床面は若干赤変している。

ピット 6か所。P1~P3は深さ38~47cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P5は深さ13cmで南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4・P6は深さ46cmで、性格は不明である。

覆土 4層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈する自然堆積である。



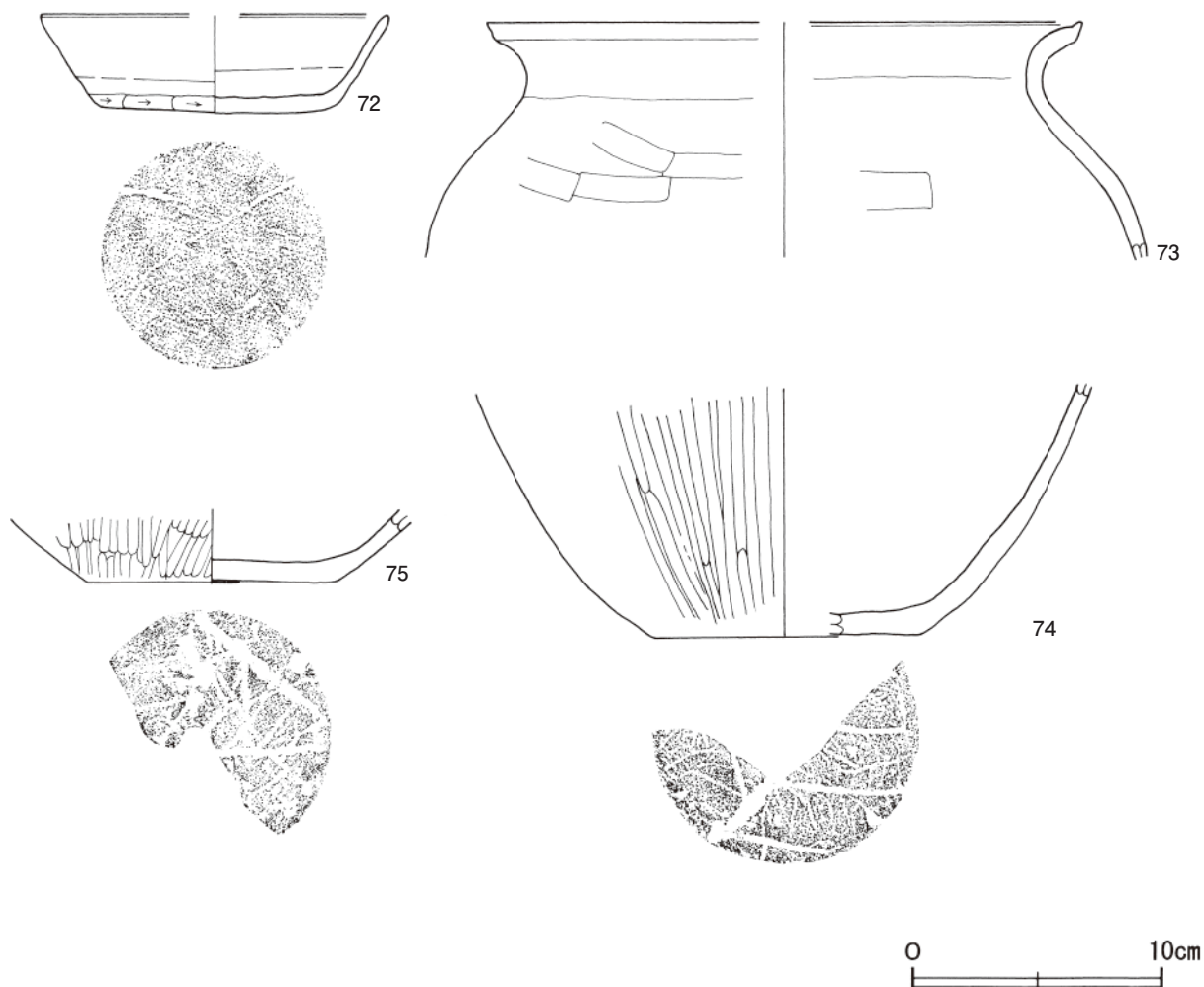
第49図 第6号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片39点（坏1，甕38），須恵器片3点（坏，蓋，甕）が出土している。その他，混入した陶器片1点も出土している。遺物は北東部の覆土下層を中心に出土している。72は東コーナー部，75は東部の床面から出土しているがいずれも小片であり，廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第50図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
72	須恵器	坏	[14.0]	4.0	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	60%
73	土師器	甕	[23.8]	(9.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内：外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
74	土師器	甕	-	(10.0)	10.8	長石・石英・雲母	暗褐	普通	体部外面ヘラ磨き	覆土下層	10%
75	土師器	甕	-	(3.0)	10.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き	床面	10%

第7号住居跡（第51・52図）

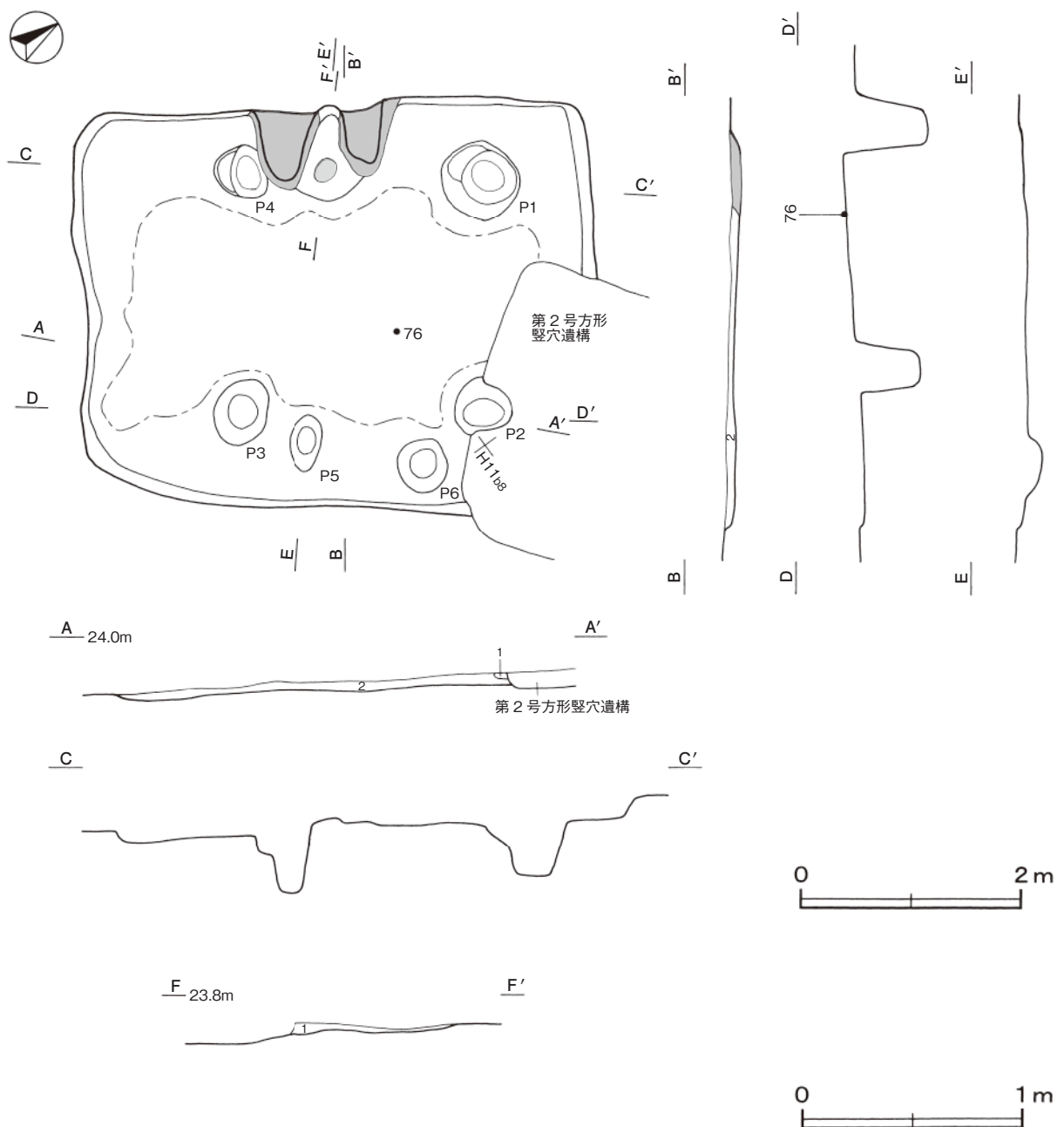
位置 調査Ⅱ区東部のH11b7区，標高23.7mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 第2号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.71m，短軸3.80mの長方形で，主軸方向はN-55°-Wである。壁高は11～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅124cmである。袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cm掘り下げて使用しており，火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁とほぼ同じ所に位置し，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。



第51図 第7号住居跡実測図

竈土層解説

1 明褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ47～71cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P5は深さ14cmで南壁付近の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ18cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層される。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

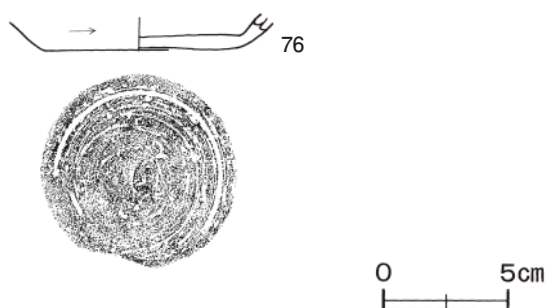
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点(甕)、須恵器片2点(坏)が出土している。76は中央部の床面から出土している小片であり、廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確でないが、遺構の様相から8世紀前半と考えられる。



第52図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
76	須恵器	坏	-	(1.3)	7.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	床面	20%

第8号住居跡 (第53～55図)

位置 調査I区北西部のD6a5区、標高6.2mの微高地の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸4.27m、短軸3.97mの長方形で、主軸方向はN-26°-Eである。壁高は16～31cmで、直立している。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 2か所。竈1は、北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cm、袖部幅106cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を18cm掘り下げた後、黒褐色土で埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。竈2は東壁中央部に付設されている。焚口部は壁

溝に掘り込まれ、袖部も遺存していない。火床部は床面から少しくぼんでおり、火床面はわずかに焼土が見られる。煙道部は壁外へ42cm掘り込み、奥壁が外傾して立ち上がっている。袖部の遺存状態と壁溝の配置から、竈2から竈1へ作り替えられている。

竈1土層解説

1 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	6 褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量
2 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量
4 暗褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	砂質粘土ブロック少量
5 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	砂質粘土粒子少量
		11 黒褐色	焼土ブロック・黒色粒子少量

竈2土層解説

1 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	4 褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	6 極暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量

ピット 8か所。P1～P4は深さ42～54cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P5は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ10～15cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長軸68cm, 短軸58cmの長方形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	3 極暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	4 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量

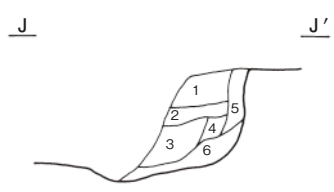
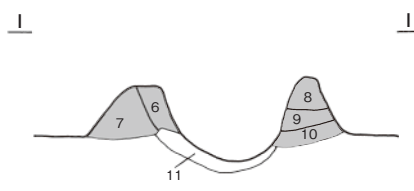
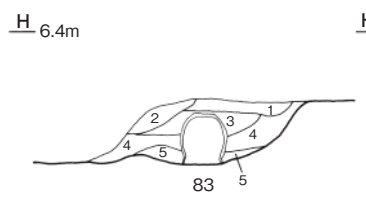
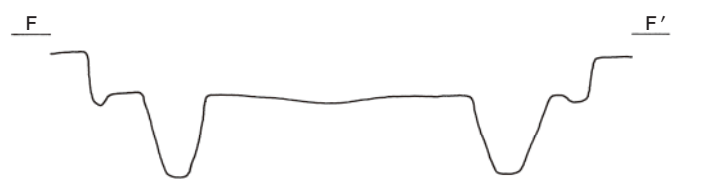
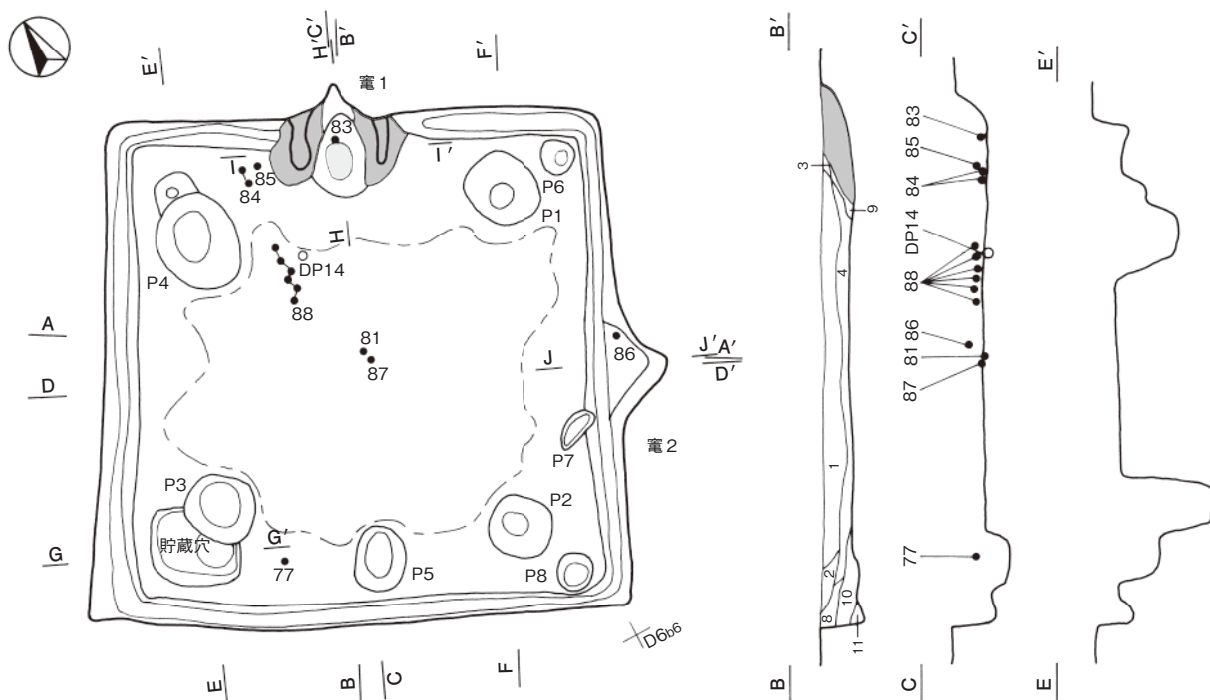
覆土 11層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

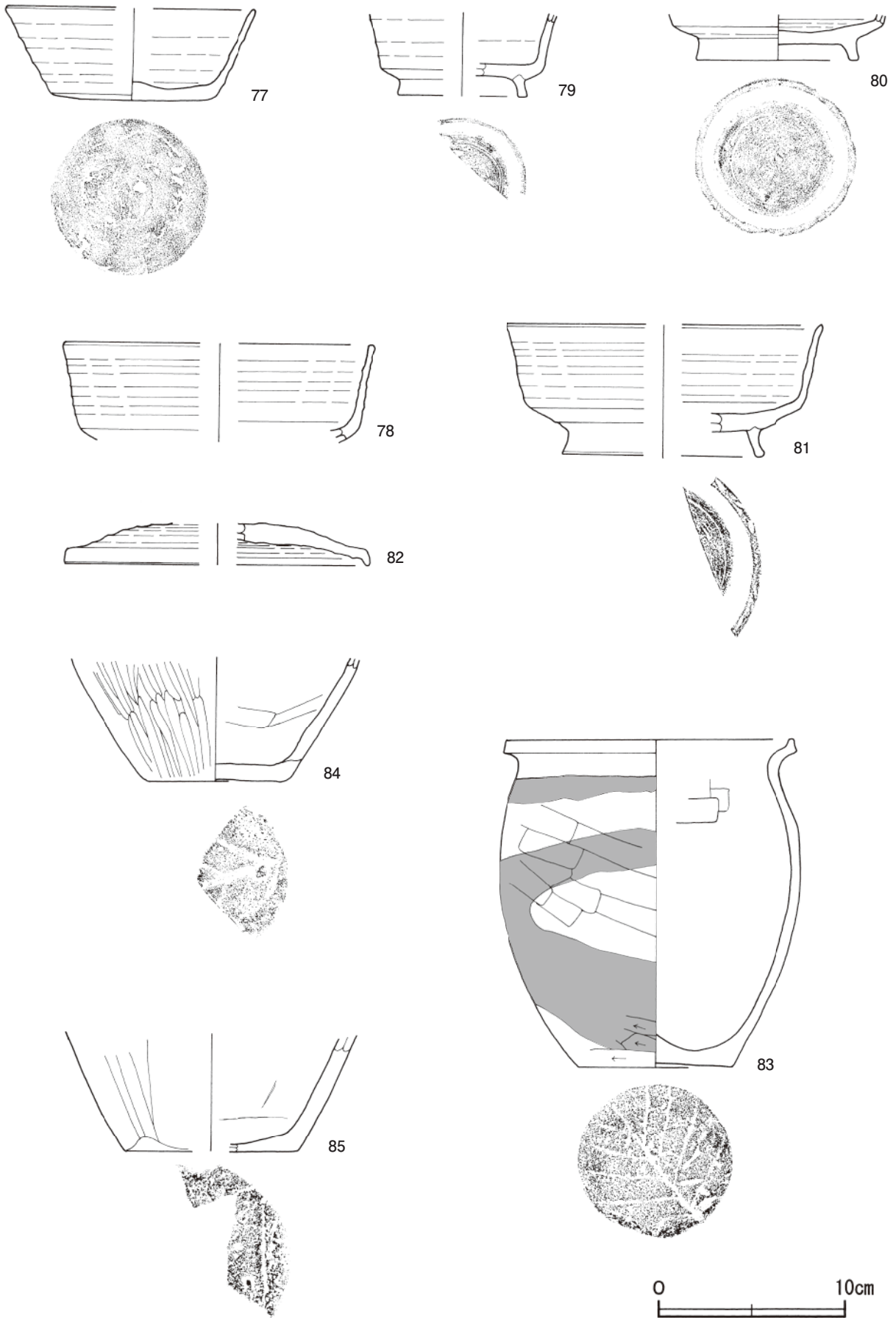
1 黒褐色	炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	7 褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量
2 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	8 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	11 灰褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片101点(坏21, 甕79, 甗1), 須恵器片67点(坏46, 高台付坏4, 蓋9, 甕7, 甗1), 土製品1点(土玉), 粘土塊5点, 鉄製品1点(釘), 銅製品1点(鉈尾カ)が出土している。特に北西コーナー部から中央部にかけての覆土中層から床面に集中している。その他, 流れ込んだ剥片3点, 礫11点も出土している。83は竈の燃焼室から逆位で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。84・85は北西部, 81・87は中央部, DP14は中央部北寄り, 86は第2竈のそれぞれ床面から出土している。77は南壁際, 88は中央部北寄りのいずれも覆土下層から出土している。これらは廃棄されたものと考えられる。

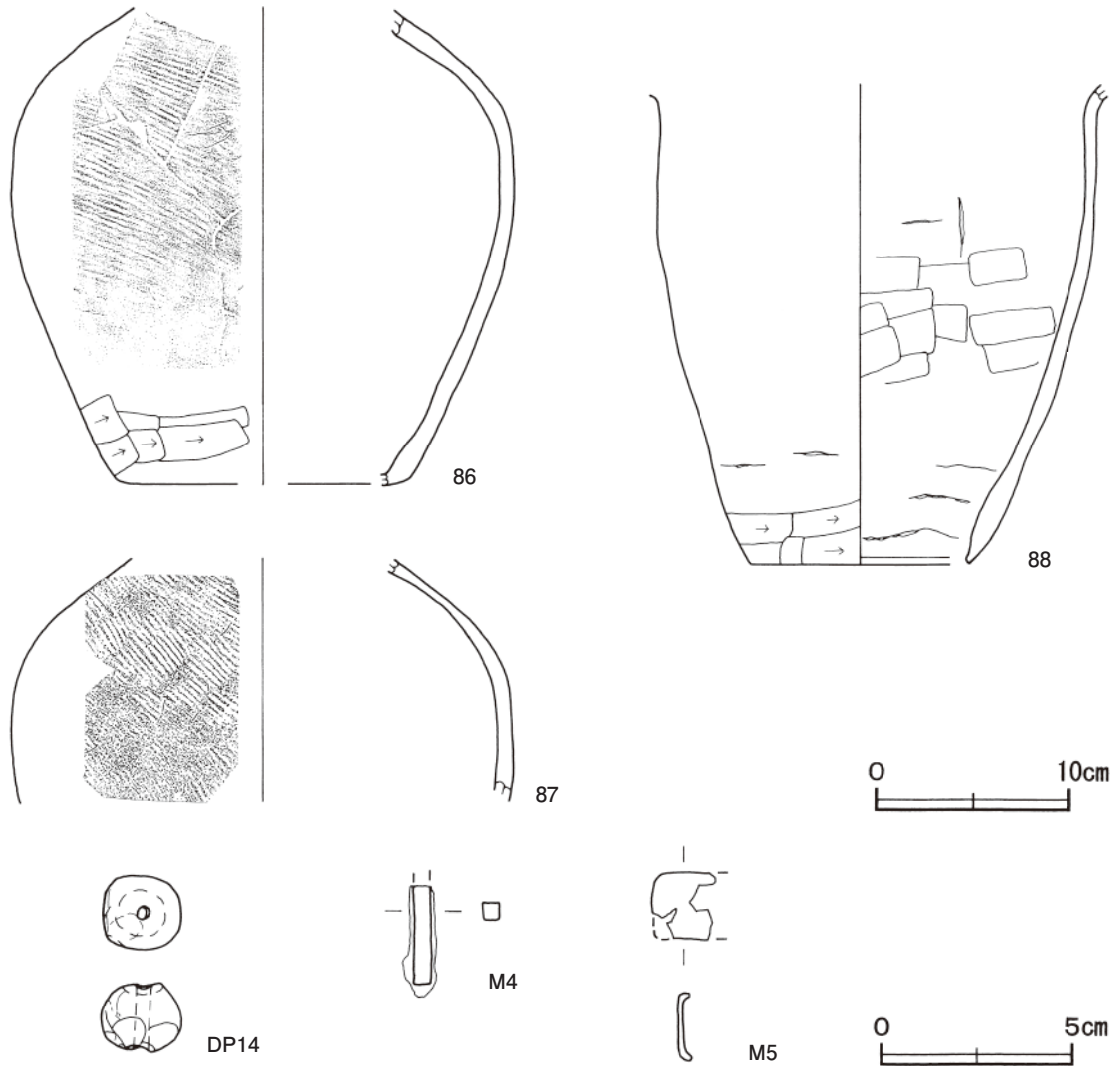
所見 83は内部には土が詰められ逆位の状態で出土し, 火を受け赤変し, 煤が付着している部位が見られ, 支脚として使用された可能性がある。時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第53图 第8号住居迹实测图



第54图 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第55図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表 (第54・55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	須恵器	坏	[13.0]	5.0	8.6	黒色粒子・細礫	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土下層	50% PL17
78	須恵器	高台付坏	[16.7]	(5.4)	-	長石・石英	灰	良好	ロクロ調整ナデ	覆土中	10%
79	須恵器	高台付坏	-	(4.5)	[6.9]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	20%
80	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	8.7	黒色粒子・細礫	暗灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	40%
81	須恵器	高台付坏	[16.9]	7.0	[10.7]	長石・石英・細礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	30% PL17
82	須恵器	蓋	[16.3]	(2.3)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	30%
83	土師器	小形甕	15.5	17.7	8.3	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	竈内	95%煤附着 PL18
84	土師器	小形甕	-	(6.7)	[7.8]	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	5%
85	土師器	小形甕	-	(6.4)	[9.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	10%
86	須恵器	甕	-	(24.9)	[14.8]	長石・石英・赤色粒子	灰黄	良好	体部外面横位の平行叩き 体部下端ヘラ削り	床面	30%
87	須恵器	甕	-	(12.7)	-	雲母子・赤色	灰	良好	体部外面横位の平行叩き	床面	10%
88	土師器	甗	-	(25.0)	11.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP14	土玉	2.0	1.8	0.4	5.5	長石・細礫	ナデ	床面	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	釘	(2.7)	0.5	0.5	(3.5)	鉄	断面方形	覆土中層	
M5	鉈尾カ	(1.7)	1.8	0.3	(1.4)	銅	一部欠損	覆土中層	

第14号住居跡（第56図）

位置 調査I区中央部のD6c5区で、標高6.0mの微高地の平坦部に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込み、中央部から西部を第13号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸3.34m、東西軸1.28mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-11°-Eと推測される。壁高は10~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。確認された範囲では、壁溝が全周している。

ピット 深さ8cmで、性格は不明である。

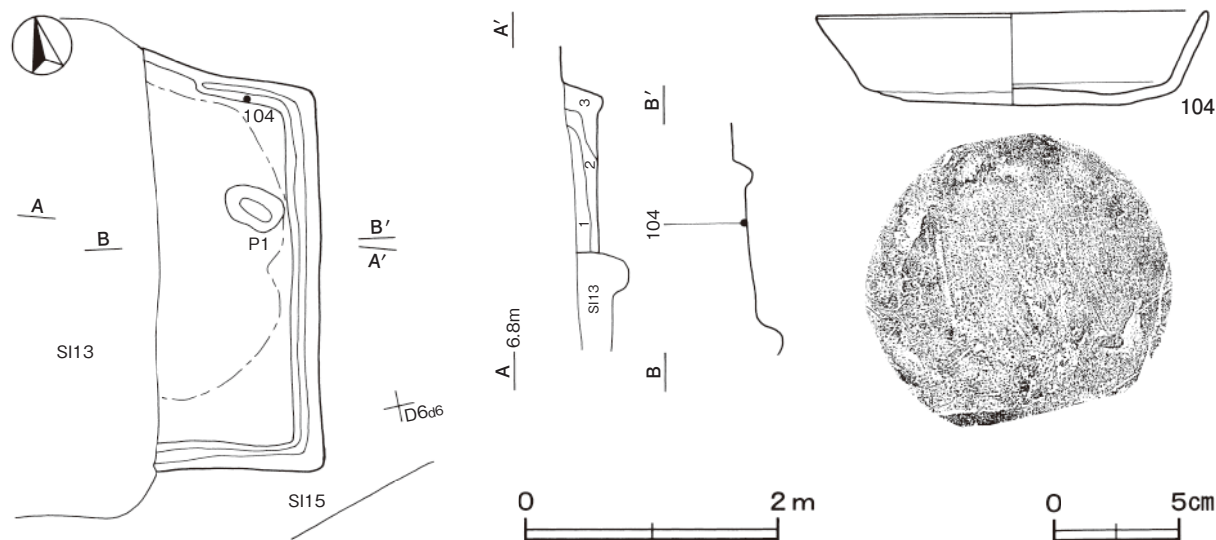
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物微量
 2 黒色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片72点（坏13、甕59）が、北部から中央部にかけての覆土中から出土している。その他、縄文土器片29点、須恵器片1点も出土している。出土遺物のほとんどは小片で、覆土上層から出土している。104は北東コーナー部の床面から出土しており、廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第56図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
104	土師器	坏	15.4	3.7	12.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面横ナデ 底部多方向の手持ちヘラ削り	床面	70% PL15

第19号住居跡（第57・58図）

位置 調査I区東部のD6f6区、標高6.0mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 中央部から西側を第15号溝に、中央部から東側は一部を除いて第148～151号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸3.94m、東西軸3.26mが確認されただけであり、残存する壁と竈から平面形は方形または長方形、主軸方向はN-21°-Eと推測される。確認できた東壁は壁高10cmで、外傾して立ち上っている。

床 平坦である。中央部が若干踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。火床部・煙道部及び左袖部は第15号溝に掘り込まれているため、右袖部しか確認できなかった。

ピット 2か所。P1は深さ30cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P2は深さ26cmで、南壁付近の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

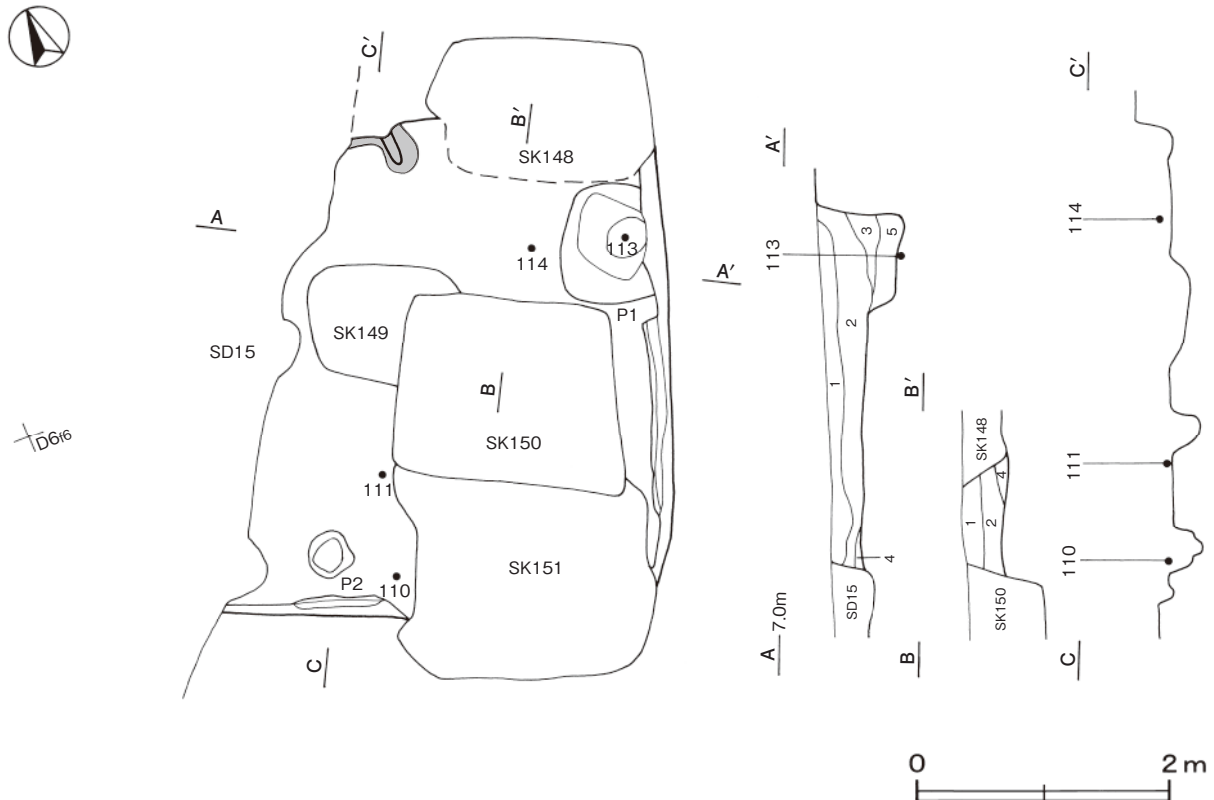
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

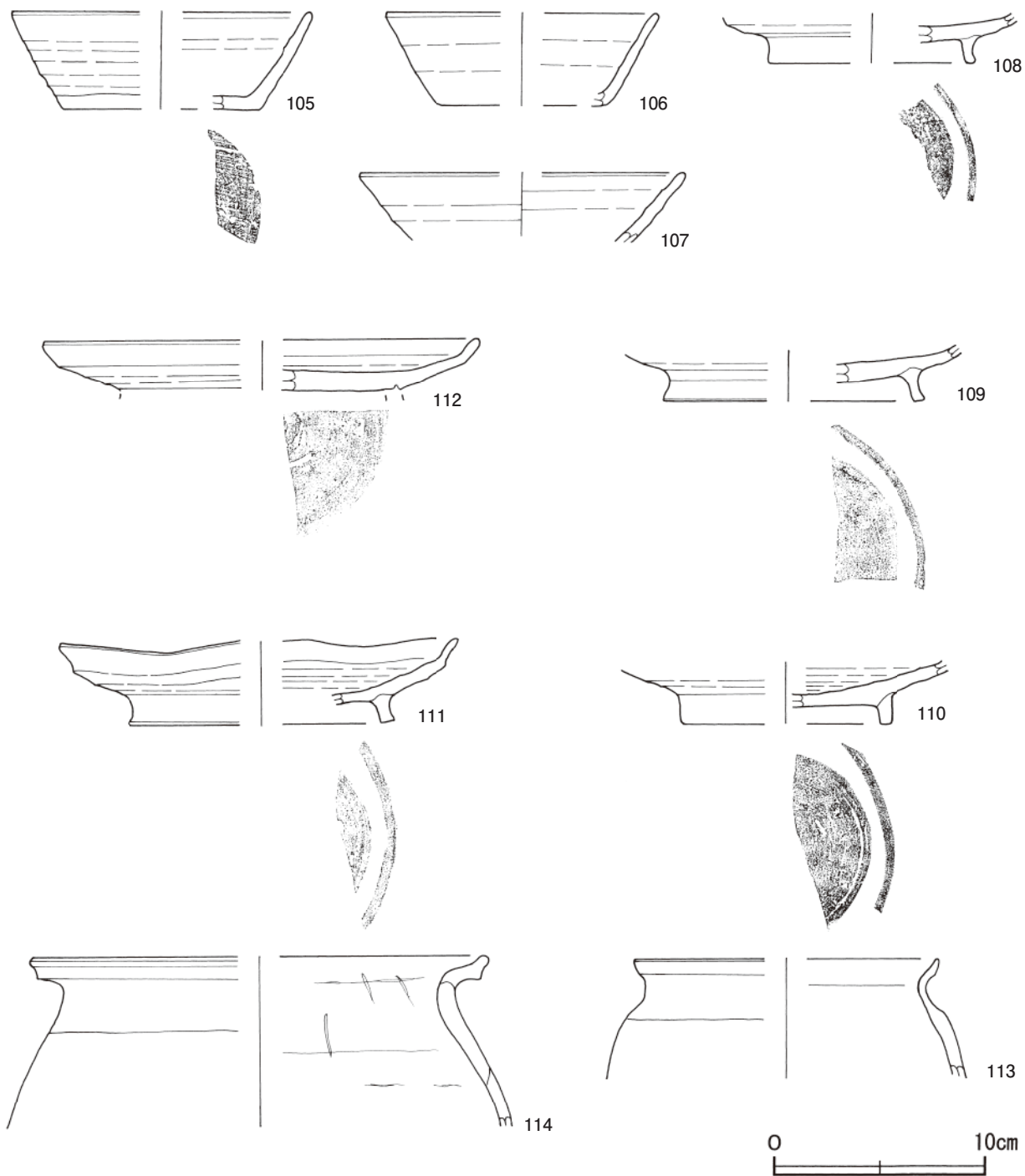
- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 3 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| | 5 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師器片74点（坏2，甕70，小形甕1，甌1），須恵器片36点（坏26，高台付坏3，盤4，甕3）が竈周辺から東壁にかけての覆土下層から出土している。その他、縄文土器片22点，陶器片1点も出土している。113はP1の底面，110は南壁際，111は中央部南寄り，114は東壁付近の覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土しており，廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第57図 第19号住居跡実測図



第58図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
105	須恵器	坏	[14.2]	4.6	[9.2]	長石・石英	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部ヘラ切り	覆土中層	10%
106	須恵器	坏	[13.0]	4.4	[8.2]	長石・石英	灰	良好	体部下端ヘラ削り	覆土中層	15%
107	須恵器	坏	[15.3]	(3.2)	-	雲母	灰	良好	体部ロクロナデ	覆土中層	20%
108	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	[9.8]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中層	10%
109	須恵器	盤	-	(2.6)	[12.4]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中層	10%
110	須恵器	盤	-	(2.9)	[10.0]	長石	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土下層	20%
111	須恵器	盤	[18.9]	4.0	[12.5]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
112	須恵器	盤	[20.6]	(2.4)	-	長石	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付け 高台剥離	覆土下層	20%
113	土師器	小形甕	[14.4]	(5.7)	-	長石・石英・ 雲母	赤	普通	摩滅のため調整不明	P1の底面	5%
114	土師器	甕	[21.5]	(8.1)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部・内外面横ナデ 体部中位までのヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	5%

表5 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長(東西)軸×短(南北)軸					主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴	重複関係(古→新)					
2	H 12e1	N-37°-W	[方形]	3.82 × [3.52]		16~23	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器 須恵器	8世紀前半	本跡→SK43		
3	H 11d9	N-38°-W	[方形]	(4.00) × 3.57		10~24	平坦	一部	4	-	-	1	-	不明	土師器 須恵器 球状土錘	8世紀前葉	本跡→SK 4・87, HT 1		
4	H 11b0	N-24°-W	長方形	3.98 × 3.49		12~29	平坦	-	4	1	1	1	-	自然	土師器 須恵器	8世紀前葉			
5	G 11g6	N-38°-W	[方形・ 長方形]	4.78 × (3.17)		12~18	平坦	一部	2	1	-	1	-	自然	土師器 須恵器 釘 鑿カ	8世紀前葉	本跡→SK 6・52, SD 1		
6	G 10b0	N-51°-W	[方形・ 長方形]	3.90 × [3.86]		19~23	傾斜	-	3	1	2	1	-	自然	土師器 須恵器	8世紀前葉	本跡→SK45		
7	H 11b7	N-55°-W	長方形	4.71 × 3.80		11~24	平坦	-	4	1	1	1	-	不明	土師器 須恵器	8世紀前半	本跡→HT2		
8	D 6 a5	N-26°-E	方形	4.27 × 3.97		16~31	平坦	全周	4	1	3	2	1	自然	土師器 須恵器 釘 鈍尾カ	8世紀後葉			
14	D 6 c5	N-11°-E	[方形・ 長方形]	3.34 × (1.28)		10~22	平坦	一部	-	-	1	-	-	自然	土師器 須恵器	8世紀前葉	SI15→本跡→SI13		
19	D 6 f6	N-21°-E	[方形・ 長方形]	3.94 × (3.26)		10	平坦	一部	1	1	-	1	-	自然	土師器 須恵器	8世紀後葉	本跡→SD15, SK148~151		

4 平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺構は、竪穴住居跡1軒と墓坑3基が確認された。竪穴住居跡は、調査I区南部から中央部にかけての標高5~6mの低位段丘上、墓坑3基は、調査II区東部の標高24~26mの台地上に位置している。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第13号住居跡 (第59~61図)

位置 調査I区中央部のD 6 c5区、標高6.0mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第14・15号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.02m、短軸3.72mの長方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は16~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。中央部が踏み固められている。壁溝が東壁下の一部で確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅124cmである。袖部は床面に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて若干赤変している。煙道部は壁外へ28cm掘り込み、火床面から外傾して立ち上がり、端部で直立している。

竈土層解説

1	灰 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	褐 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3	黄 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			
5	褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量			

ピット 4か所。P1・P2は深さ16cm・21cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P3は深さ26cmで、南壁付近の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ28cmで、性格は不明である。

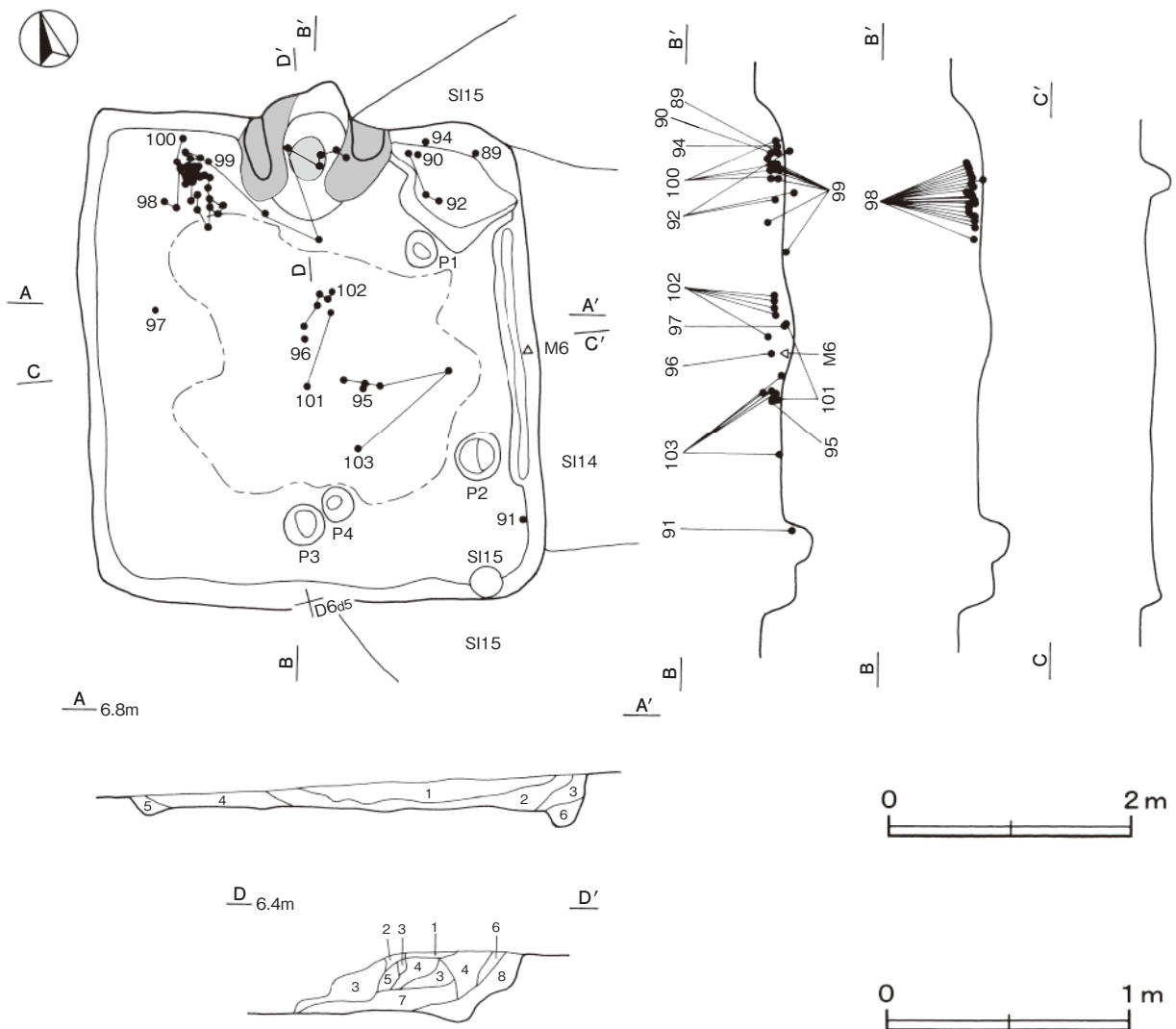
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

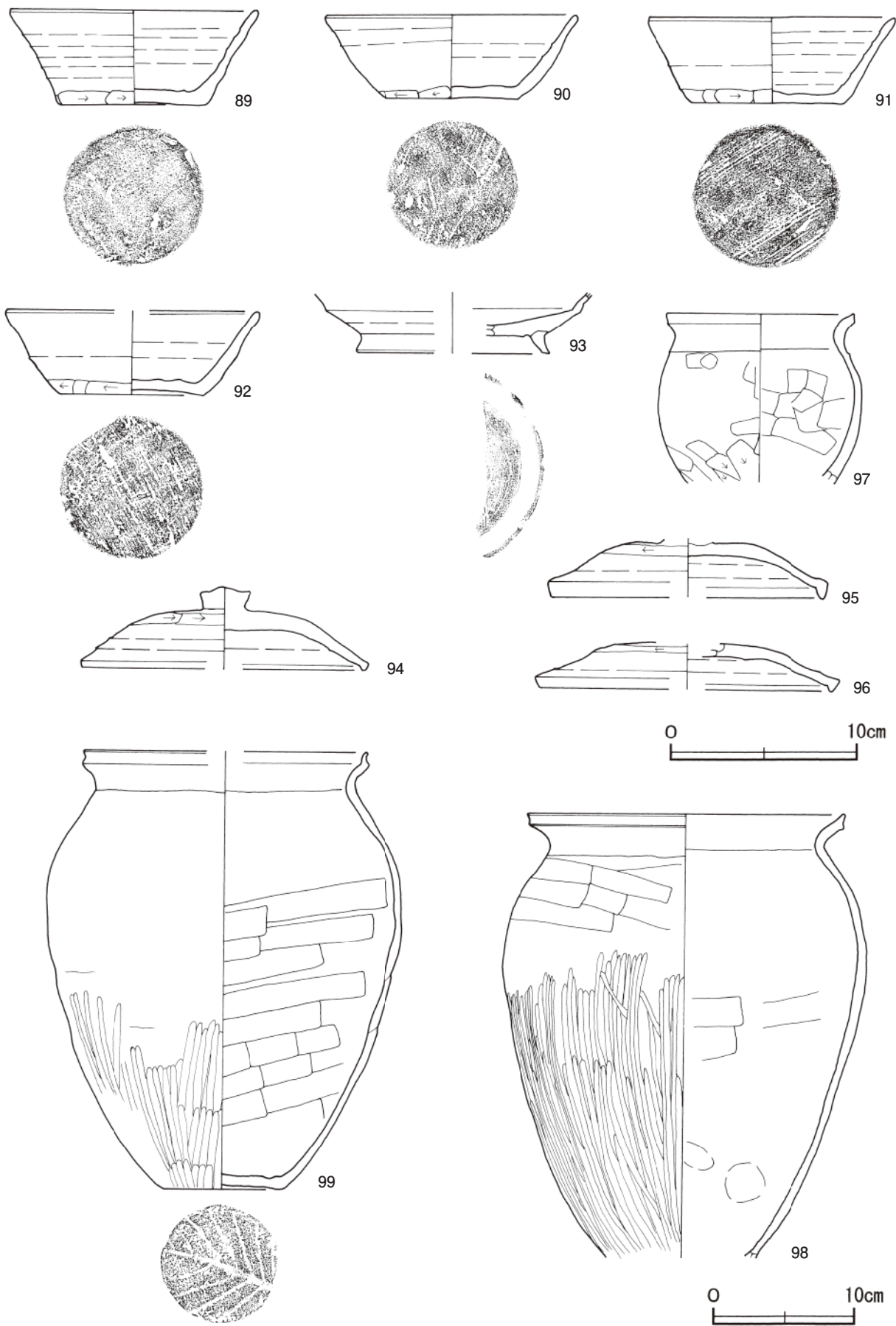
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片191点(坏7, 甕184), 須恵器片47点(坏21, 高台付坏1, 蓋5, 盤1, 甕18, 甑1), 土製品2点(支脚), 鉄製品1点(刀子)が南西コーナー部を除くほぼ全面から出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片63点, 石器4点も出土している。89・90・92・94は北東コーナー部, 91・M6は東壁際, 97は西部の床面からそれぞれ出土しており, 廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。95・96・101~103は中央部, 98・100は北壁際の覆土下層, 99は竈内と周辺に散在した破片がそれぞれ接合したもので, いずれも出土状況から廃絶後に一括投棄されたものと考えられる。

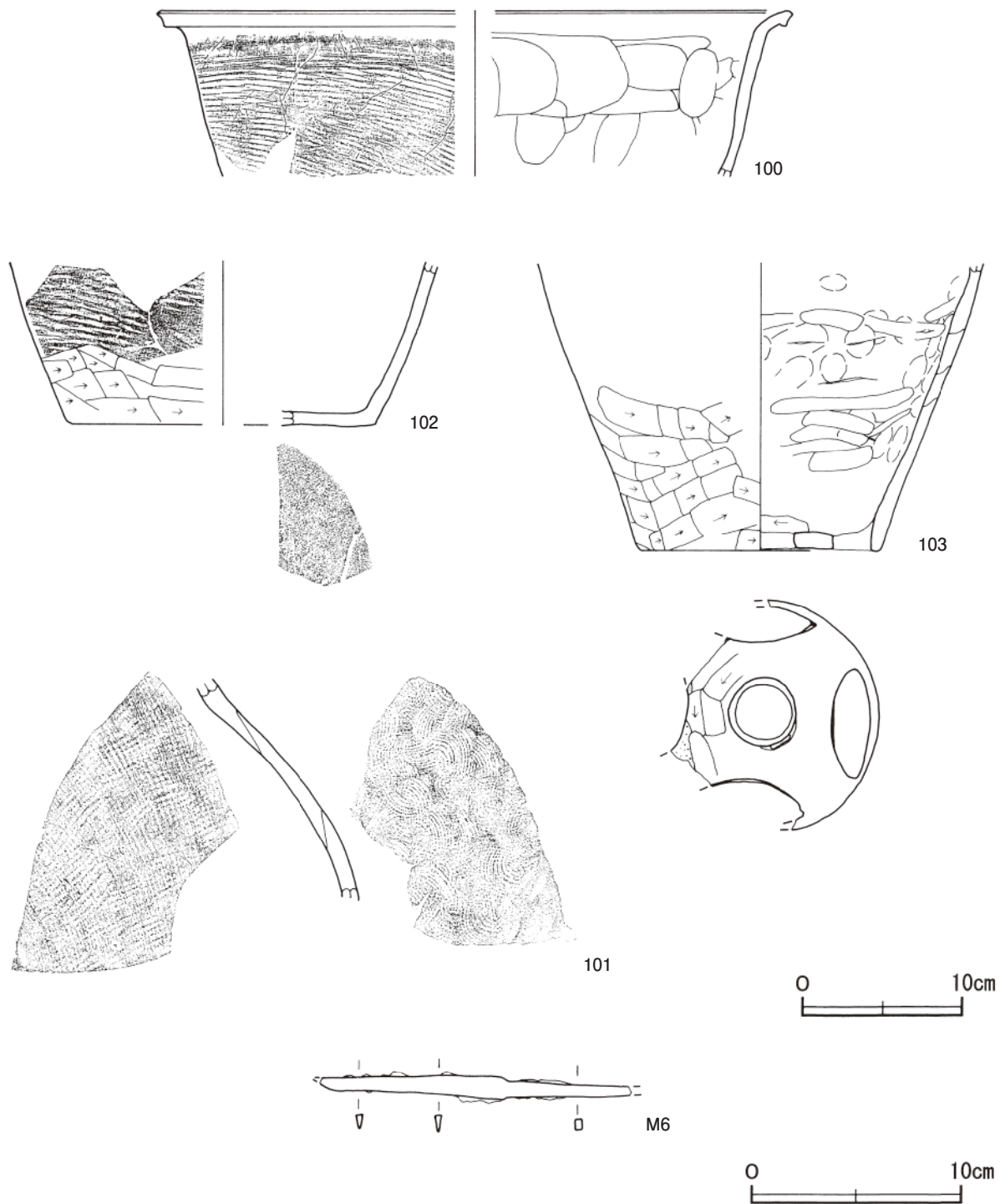
所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第59図 第13号住居跡実測図



第60图 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第61図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表 (第60・61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
89	須恵器	坏	13.0	5.1	7.8	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端へら削り後多方向のへら削り	底部回転へら切り	床面	100% PL17
90	須恵器	坏	13.3	4.6	7.1	長石・石英	灰白	良好	体部下端へら削り後一方方向のへら削り	底部回転へら切り	床面	95% PL17
91	須恵器	坏	13.0	4.6	8.1	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端へら削り後多方向のへら削り	底部回転へら切り	床面	100% PL17
92	須恵器	坏	[13.4]	4.6	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端へら削り後一方方向のへら削り	底部回転へら切り	床面	50%
93	須恵器	盤	-	(3.4)	[10.2]	雲母	灰白	普通	底部回転へら削り後高台貼付け		覆土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
94	須恵器	蓋	[15.1]	4.5	-	長石・石英・細礫	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	70% PL19
95	須恵器	蓋	[14.5]	(3.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	50% PL19
96	須恵器	蓋	[15.6]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
97	土師器	小形甕	10.0	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	70% PL18
98	土師器	甕	22.3	(31.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面中位までのヘラ磨き 上位ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	80% PL18
99	土師器	甕	[19.8]	31.1	8.3	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面中位までのヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	50%
100	須恵器	甕	[39.0]	(10.4)	-	長石・石英	灰	良好	体部外面縦方向のタタキ目 内面無文の当て具痕	覆土下層	5%
101	須恵器	甕	-	(13.8)	-	長石	灰	良好	体部外面偽格子目の叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	5%
102	須恵器	甕	-	(10.2)	[19.2]	長石・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 体部外面横方向の平行叩き	覆土下層	10%
103	須恵器	甕	-	(18.0)	[15.0]	長石・石英	褐	良好	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭痕	覆土下層	20% PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	刀子	(14.7)	1.1	0.4	(16.3)	鉄	刃先部欠損 両関 断面三角形 茎尻部が細る	床面	PL27

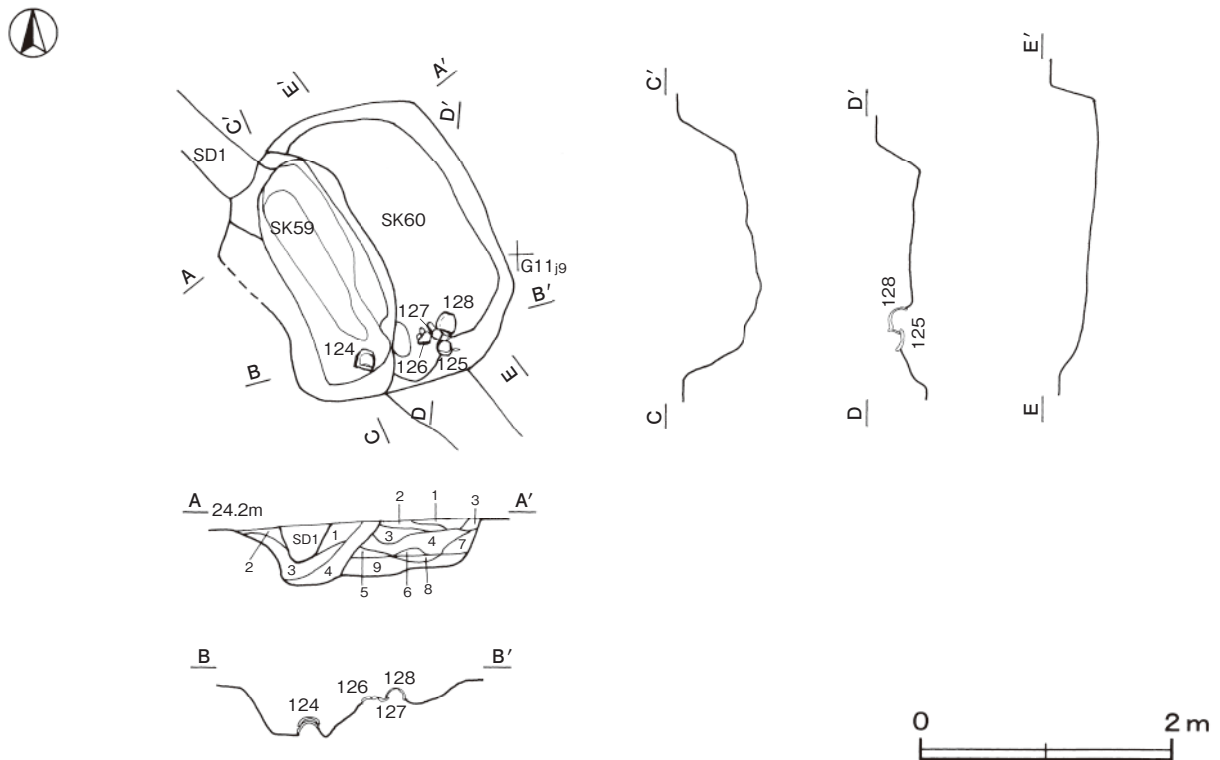
(2) 墓坑

第59号土坑 (第62・63図)

位置 調査Ⅱ区の東部G11i8区, 標高24.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

重複関係 第60号土坑を掘り込み, 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.08m, 短径1.02mの不整楕円形で, 長径方向はN-22°-Wである。深さは59cm, 底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。



第62図 第59・60号土坑実測図

覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

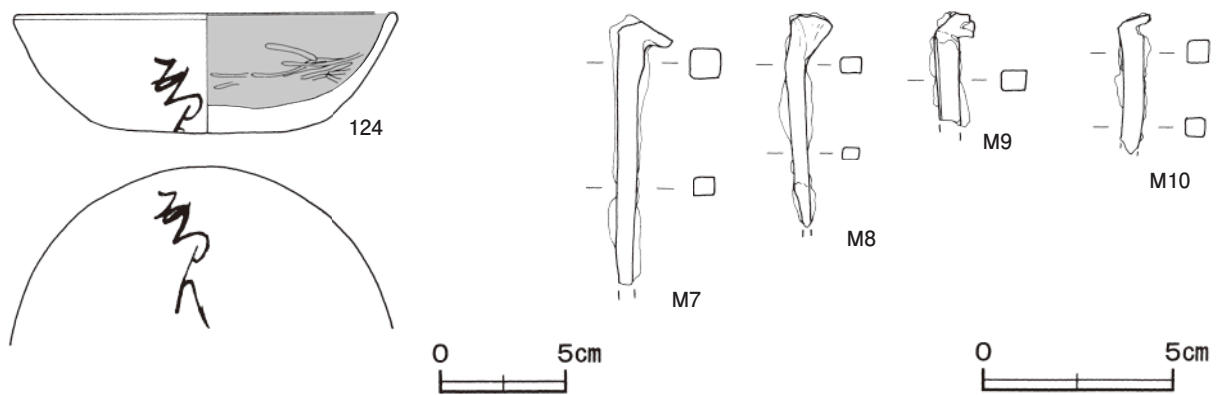
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器1点(坏), 鉄製品4点(釘)が出土している。その他流れ込んだ土師器片6点, 須恵器片3点も出土している。124は南壁付近の覆土下層から逆位で出土している。M7~M10は覆土中からの出土である。

所見 骨片は検出されていないが, 形状と出土遺物から墓坑と考えられる。124には『□』の墨書があり, 逆位で出土しているが, 副葬品と考えられる。また, 釘が出土していることから木棺が使用された可能性がある。

時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第63図 第59号土坑出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
124	土師器	坏	14.9	4.9	8.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部	覆土下層	100% PL17 墨書 □
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M7	釘	(7.1)	0.8	0.8	(10.2)	鉄	断面長方形 脚部欠損			覆土中	PL27
M8	釘	(5.6)	0.5	0.4	(3.6)	鉄	断面長方形 脚部欠損			覆土中	PL27
M9	釘	(2.9)	0.6	0.5	(3.5)	鉄	断面長方形 脚部欠損			覆土中	PL27
M10	釘	(4.3)	1.1	0.7	(5.1)	鉄	断面長方形 脚部欠損			覆土中	

第60号土坑 (第62・64図)

位置 調査Ⅱ区の東部G11i8区, 標高24.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

重複関係 西部を第59号土坑と第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西壁を第59号土坑に掘り込まれているため, 長径2.31m, 短径1.15mが確認されただけである。平面形は楕円形で, 長径方向はN-25°-Wと推測される。深さは37cm, 底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

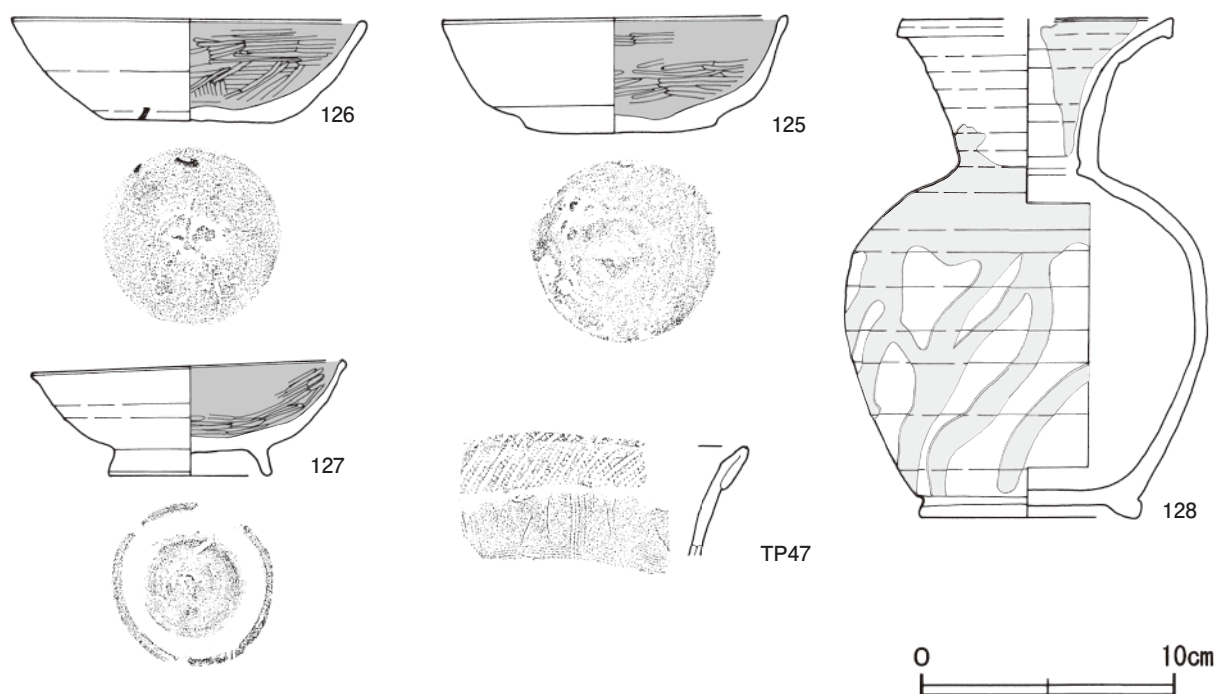
覆土 9層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器3点(坏2, 高台付碗1), 灰釉陶器1点(長頸瓶), 鉄製品1点(釘)が出土している。その他, 混入した土師器片5点, 須恵器片3点, 弥生土器片1点も出土している。125~128は南壁付近の底面から出土している。125は正位, 128は横位で口縁部が125に掛かるように出土している。126は逆位, 127は斜位で出土している。

所見 骨片は検出されていないが, 形状と出土遺物から墓坑と考えられる。125~128は出土状況から副葬品とみられ, また, 釘が出土していることから木棺が使われていた可能性がある。灰釉陶器が出土していることから役人もしくは富裕層の墓坑と想定される。時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第64図 第60号土坑出土遺物実測図

第60号土坑出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	土師器	坏	13.5	4.7	7.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	南部床面	100% PL16
126	土師器	坏	13.9	4.1	7.1	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	南部床面	70% PL16 墨書 □
127	土師器	高台付碗	12.4	4.5	6.3	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	南部床面	80% PL16
128	灰釉陶器	長頸瓶	[10.7]	19.8	8.5	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 口縁部内面から体部外面にかけて灰釉を施す	南部床面	90% PL19 折戸53号窯式
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
TP47	弥生土器	壺	長石・石英・雲母			灰黄褐	普通	口唇部縄文原体押圧 複合口縁附加条一種(附加2条) 施文 頸部輪状工具(8本輪歯)による横走文を縦走文で区画 胴部附加条一種(附加2条)施文	覆土中	PL23	

第103号土坑（第65・66図）

位置 調査Ⅱ区東部のG11e2区，標高23.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

規模と形状 長径3.10m，短径1.30mの楕円形で，長径方向はN-12°-Wである。深さは30cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

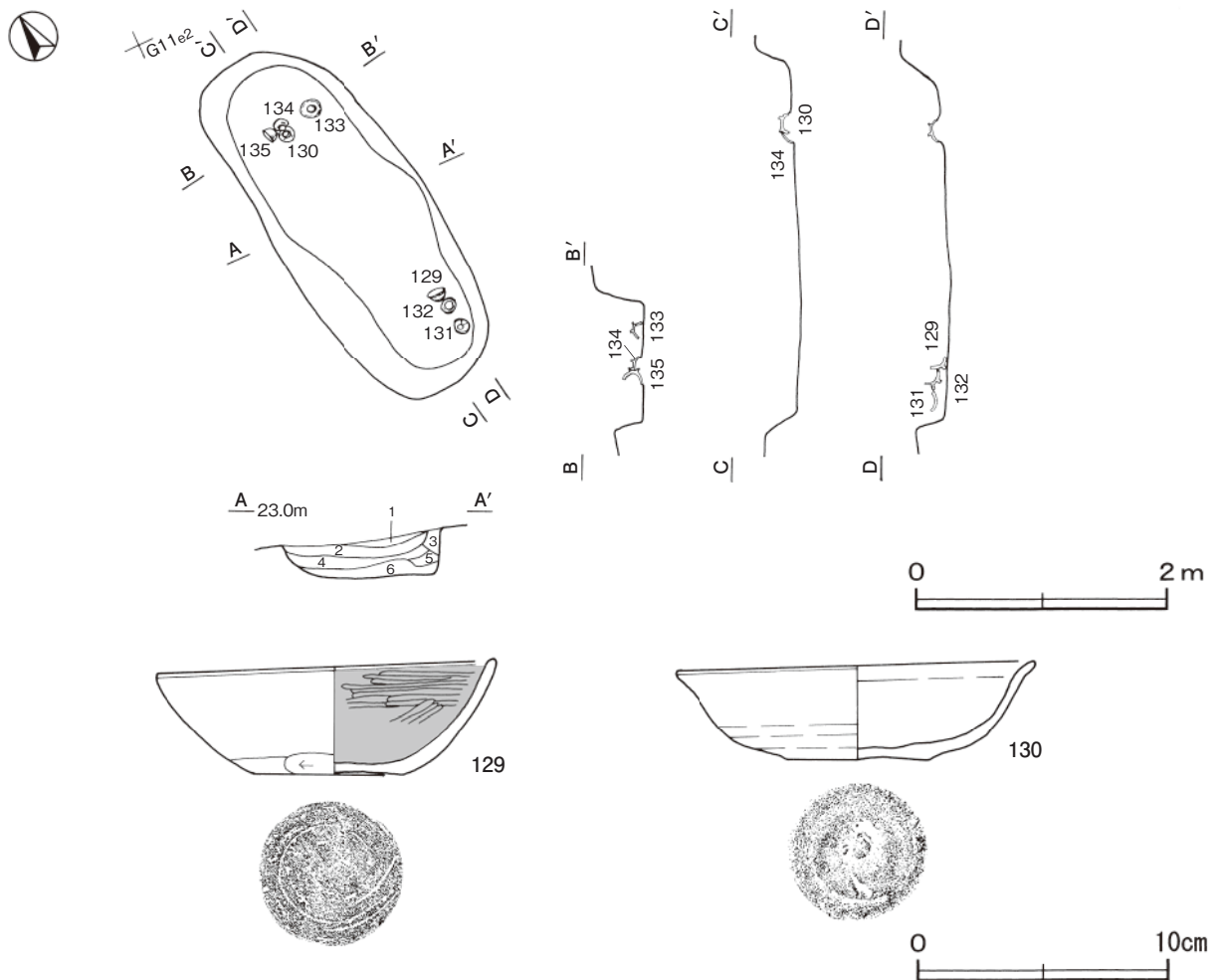
覆土 6層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

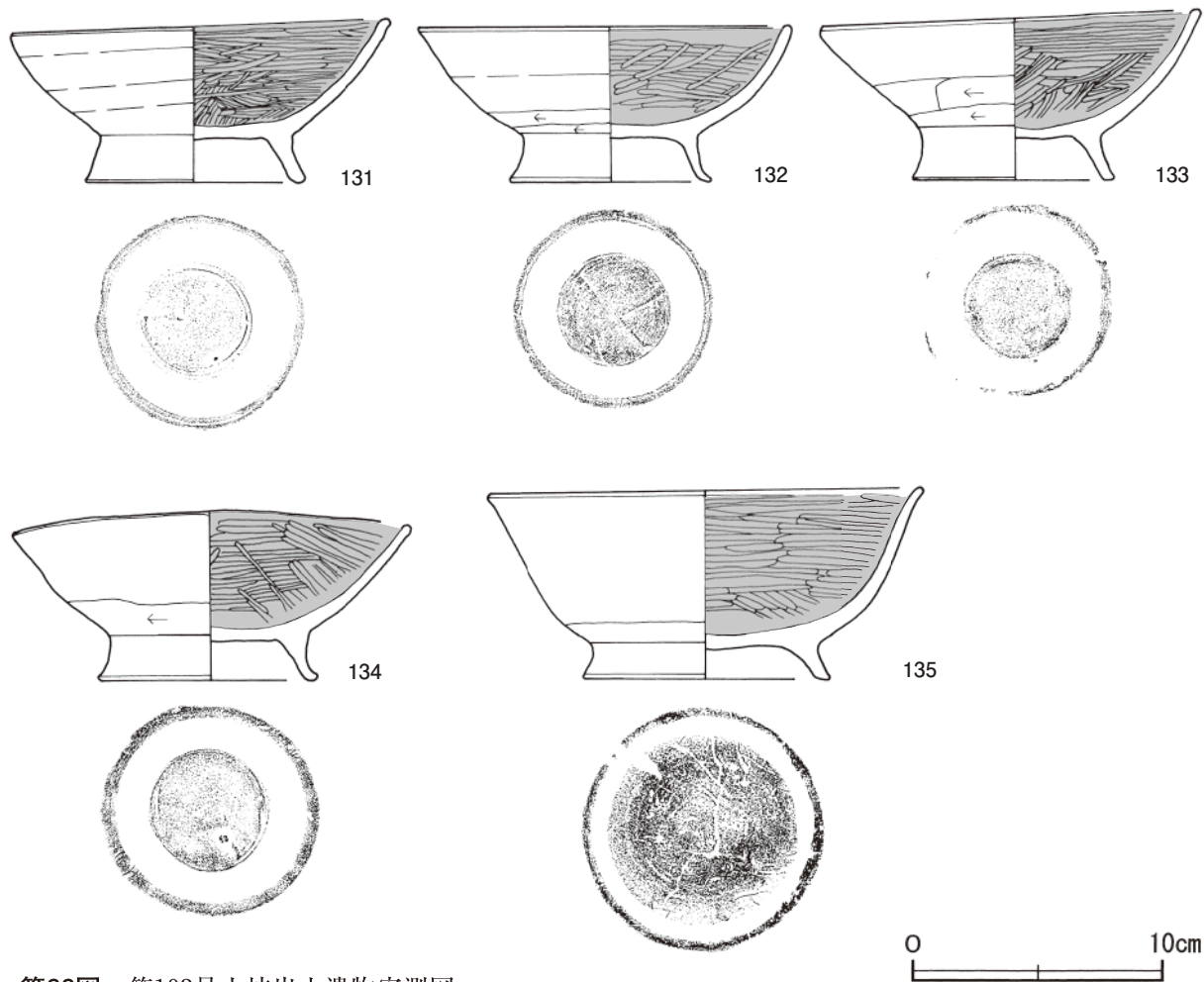
1 明褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	4 橙色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量，炭化物微量	5 明褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	6 にぶい橙色	ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況 土師器7点（坏2，高台付碗5），鉄製品1点（釘）が出土している。遺物は北・南壁付近の2か所を中心に出土している。その他，土師器片5点，須恵器片3点も出土している。129・131・132は正位で南壁付近に南北方向に並んだ状態で出土している。130・133・134は，逆位で北壁付近に東西方向に並んだ状態で出土している。135は，134に立て掛けられた斜位の状態で出土している。いずれの土器も床面から出土しており，副葬品とみられる。

所見 骨片は検出されていないが，形状と出土遺物から墓坑と考えられる。時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。同時期の墓坑である第59・60号土坑とは長径方向がほぼ同じで関連が想定されるが，本跡は規模がやや大きく，土器の出土位置が2か所に集中する点で違いがみられる。



第65図 第103号土坑・出土遺物実測図



第66図 第103号土坑出土遺物実測図

第103号土坑出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
129	土師器	坏	13.5	4.5	5.9	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	南部底面	100% PL16
130	土師器	坏	14.2	4.0	5.6	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	北部底面	90% PL16
131	土師器	高台付碗	14.9	6.5	8.7	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	南部底面	100% PL16
132	土師器	高台付碗	14.8	6.2	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	南部底面	100% PL16
133	土師器	高台付碗	15.0	6.8	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	北部底面	100% PL16
134	土師器	高台付碗	15.9	6.7	8.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	北部底面	100% PL16
135	土師器	高台付碗	17.3	7.7	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 内面黒色処理後ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	北部底面	100% PL16

表6 平安時代墓坑一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径 (軸) × 短径 (軸)								重複関係 (古→新)
59	G11i8	N - 22° - W	不整楕円形	2.08 × 1.02	59	外傾	皿状	人為	土師器 釘	10世紀前葉	SK60 → 本跡 → SD1	
60	G11i8	N - 25° - W	[楕円形]	2.31 × (1.15)	37	緩斜	平坦	人為	土師器 灰釉陶器 釘	10世紀前葉	本跡 → SK59 → SD1	
103	G11e2	N - 12° - W	楕円形	3.10 × 1.30	30	外傾	平坦	人為	土師器 釘	10世紀前半		

5 中世の遺構と遺物

中世の遺構は、方形竪穴遺構2基、地下式坑1基、堀跡1条、溝跡3条、井戸跡2基、粘土貼り土坑1基、火葬土坑8基、墓坑1基、墓坑と考えられる土坑12基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構（第67図）

位置 調査Ⅱ区東部のH11d9区、標高24.0mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 第3号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸2.98m、南北軸1.08mが確認されている。平面形は方形または長方形で、長軸方向はN-52°-Wと推測される。壁高は55cmで、外傾して立ち上がっている。また、東壁際に幅40cm、底面から高さ10cmの地山を掘り残した部分が階段状に確認されており、出入口施設の一部と考えられる。

底面 ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

ピット 2か所。深さは12・16cmで、性格は不明である。

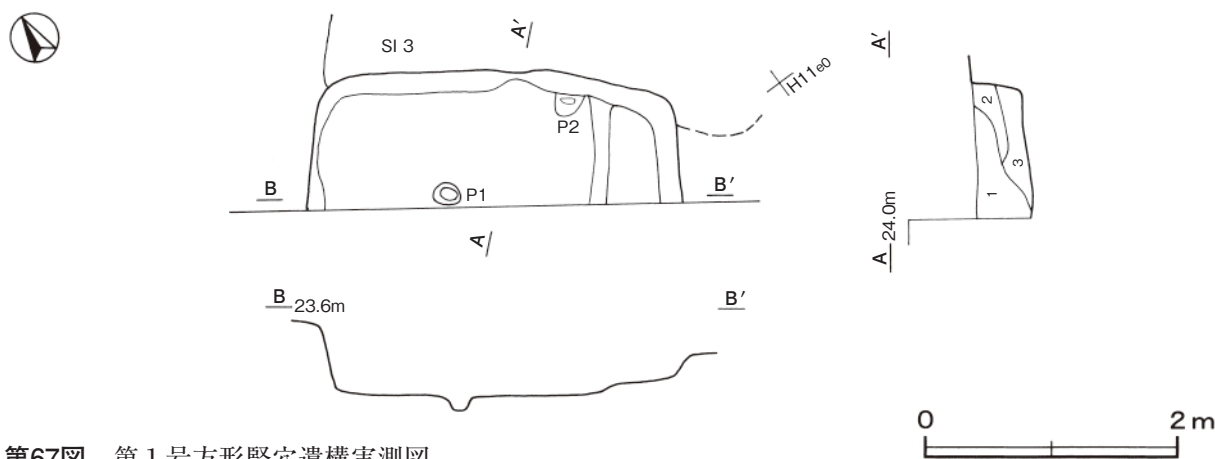
覆土 3層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片16点（甕）、須恵器片4点（坏）、鉄製品1点（釘）、剥片1点が出土している。いずれも混入によるものと考えられる。

所見 時期は、形状と重複関係から中世と考えられる。



第67図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構（第68図）

位置 調査Ⅱ区東部のH11a8区、標高24.0mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 第7号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.53m、短軸2.47mの方形で、長軸方向はN-41°-Wである。壁高は26cmで、外傾して立ち上がっている。東コーナー部はわずかに突出している。

底面 ほぼ平坦であり，硬化面は認められない。

ピット 3か所。P1・P2は深さ25・20cmで，規模と配置から柱穴と考えられる。P3は深さ33cmで南壁際に位置しているが性格は不明である。

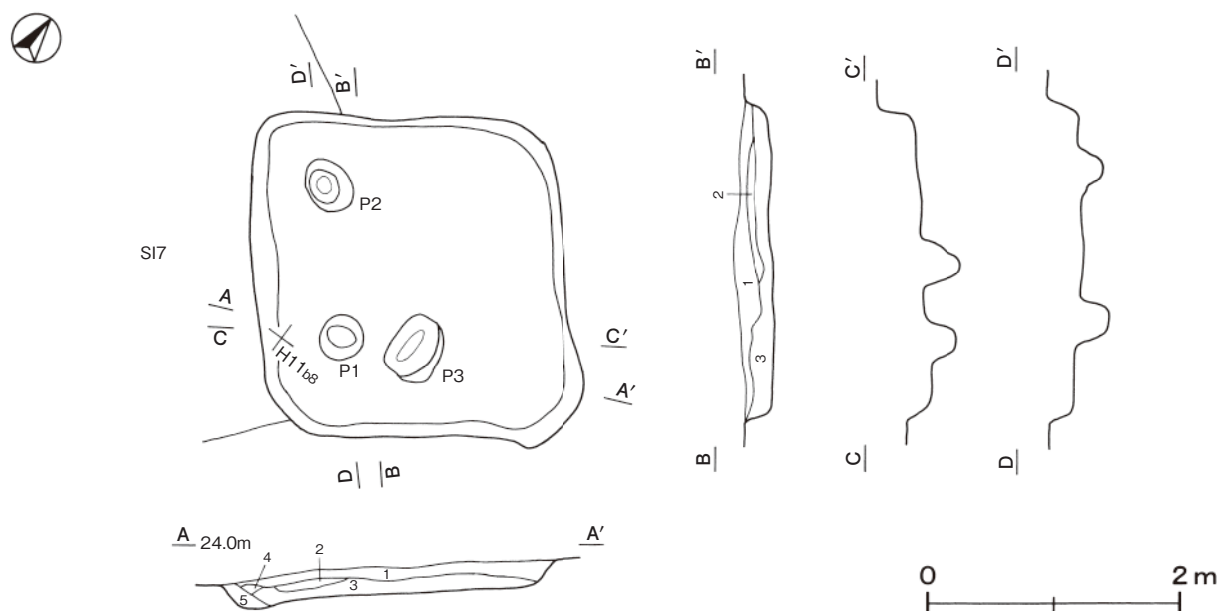
覆土 5層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片10点（坏7，甕3），須恵器片9点（坏7，蓋1，甕1），剥片1点が出土している。いずれも混入によるものと考えられる。

所見 時期は，形状と重複関係から中世と考えられる。



第68図 第2号方形竪穴遺構実測図

表7 中世方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長径 (軸) × 短径 (軸)	壁高 (cm)	壁面	底面	内部施設			覆土	主な出土遺物	備考
								柱穴	ピット	出入口部			
1	H 11d9	N-52°-W	[方形・長方形]	2.98 × (1.08)	55	緩斜・外傾	平坦	-	2	-	人為		SI 3 → 本跡
2	H 11a8	N-41°-W	方形	2.53 × 2.47	26	外傾	平坦	2	1	-	人為		SI 7 → 本跡

(2) 地下式坑

第1号地下式坑 A・B (第69・70図)

位置 調査Ⅱ区東部のD6 h0区，標高7.4mの微高地に位置している。

重複関係 主室の東部は調査区域外に延びているため，確認できなかった。遺構確認では1基の地下式坑として調査を開始したが，竪坑の底面がさらに掘り下げられることから，遺構の重複が確認できた。新しい遺構を地下式坑A，古い遺構を地下式坑Bとして報告する。

竪坑 主室西壁の中央に位置し、上面は長軸2.32m、短軸1.96mの長方形である。壁高は132cmで、外傾して立ち上がっている。底面は竪坑上部から主室に向って傾斜し、スロープ状に掘り込まれている。

主室 東部は調査区域外に延びているため、東西軸0.98m、南北軸1.81mが確認されただけである。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-71°-Wと推測される。底面から天井部までの高さは145cmで、天井部は厚さ48cmのローム土で構築されている。

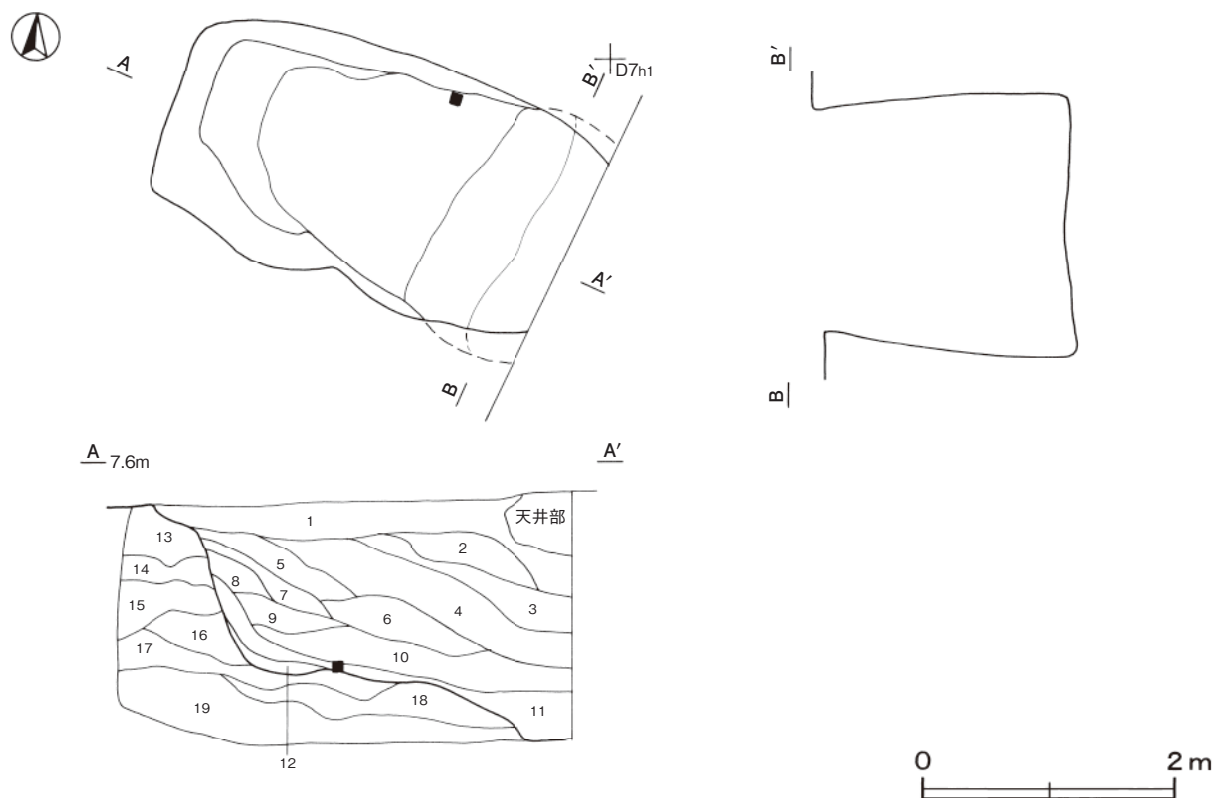
覆土 19層に分層される。第1～12層は、地下式坑Aが廃絶された後の堆積で、ロームブロックを含む不均質な堆積状況から人為堆積である。第13～19層は地下式坑Bの覆土で、第17～19層がローム土を多く含む褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

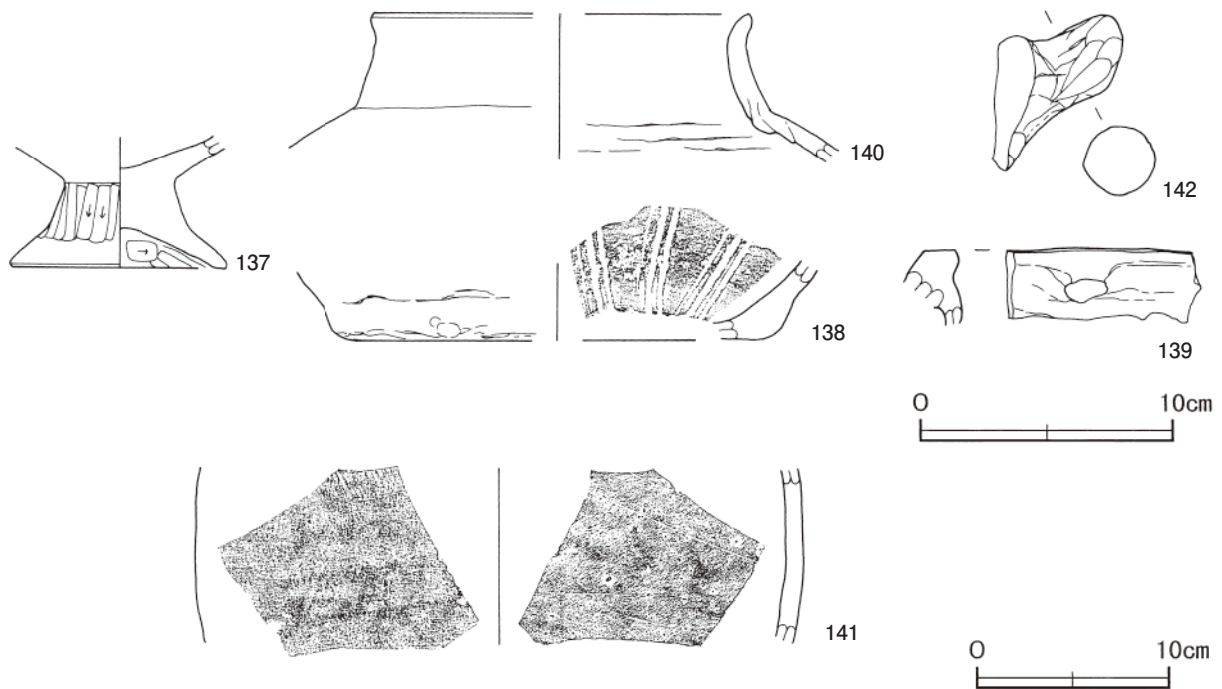
1 暗褐色	ローム粒子中量、砂粒少量、炭化物・焼土粒子微量	10 明黄褐色	粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、炭化物・焼土粒子微量	11 極暗褐色	粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量
3 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 褐色	砂粒少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	13 極暗褐色	ロームブロック少量、砂粒微量
5 褐色	砂粒少量、炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量、砂粒少量
6 褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量	15 褐色	砂粒中量、ローム粒子少量、礫・粘土粒子微量
7 褐色	砂粒中量、ローム粒子微量	16 褐色	砂粒中量、ローム粒子少量
8 褐色	砂粒少量、ローム粒子微量	17 褐色	ローム粒子・砂粒中量
9 暗褐色	砂粒中量、ロームブロック少量	18 褐色	ローム粒子・砂粒中量、細礫微量
		19 褐色	ローム粒子・砂粒中量、粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片3点（播鉢1、内耳鍋2）、陶器片1点（大皿）、貝殻174g（ヤマトシジミ、オオタニシ）が出土している。その他、土師器片10点、須恵器片1点も混入している。138・139は覆土中からの出土で、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。貝殻はほとんどが細片であり、竪坑のスロープ面から出土している。遺物はすべて第1～12層からの出土で、地下式坑Aの覆土中の遺物である。

所見 時期は、形状と出土土器から中世と考えられる。



第69図 第1号地下式坑A・B実測図



第70図 第1号地下式坑A・B出土遺物実測図

第1号地下式坑出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
137	土師器	高坏	-	(5.3)	8.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラ削り後ナデ	覆土中	30%
138	土師質土器	播鉢	-	(3.1)	[17.5]	石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面ヘラナデ 内面3条1単位の播り目	覆土中	5% PL19
139	土師質土器	内耳鍋	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	耳貼り付け 内・外面ナデ	覆土中	5%
140	土師器	甕	[14.8]	(5.8)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%
141	須恵器	甕	-	(9.3)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土中	5%
142	土師器	甌	-	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	把手部 ヘラ削り	覆土中	5%

(3) 堀跡

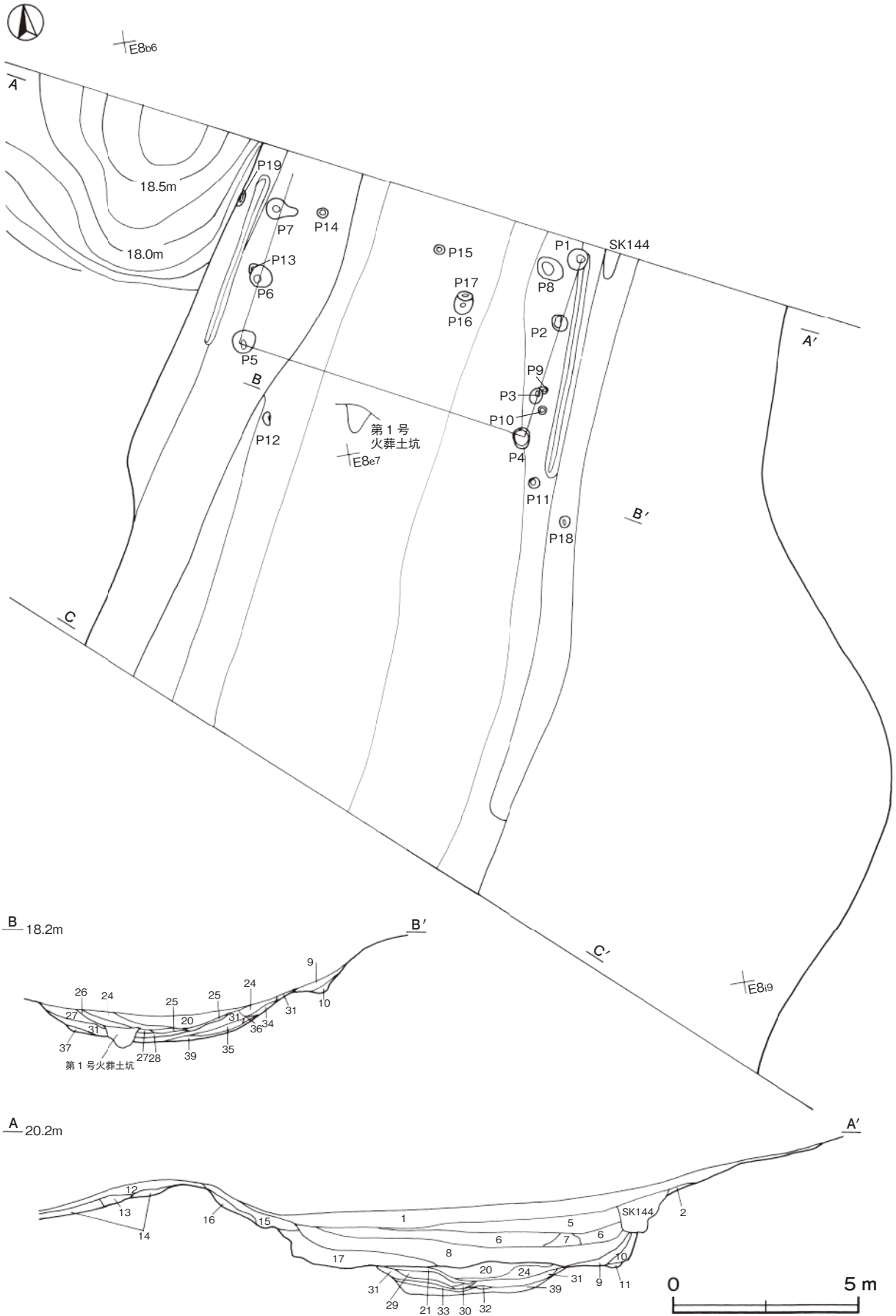
第1号堀跡（第71・72図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 8 c6～E 8 i9区、標高21.0～23.0mの河岸段丘の西斜面に位置している。

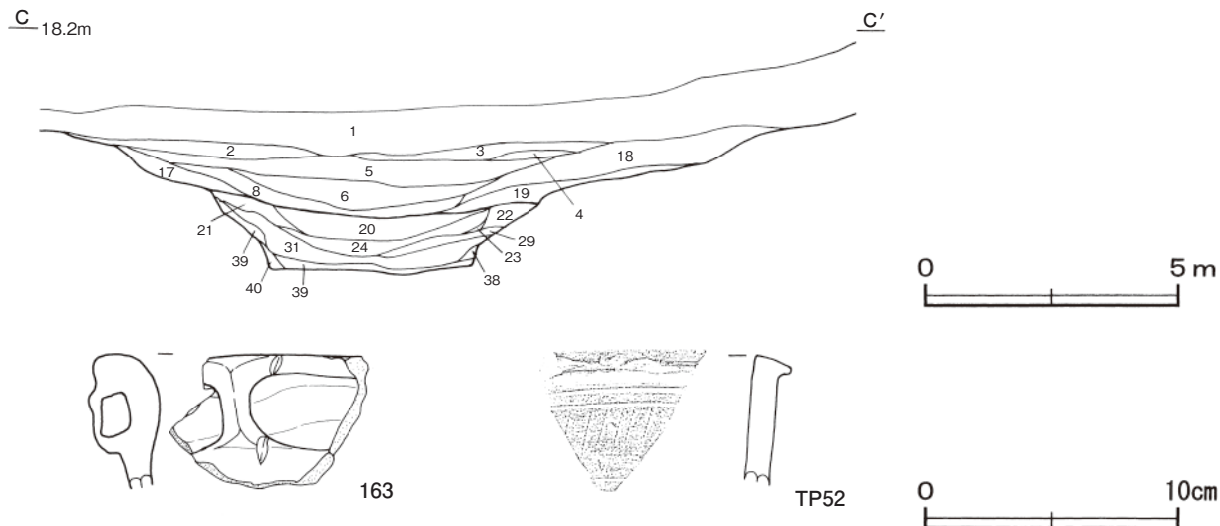
確認状況 東西方向に半島状に突き出している河岸段丘の、微高地から上位段丘に向かう西端部に確認された。北部と南部は調査区域外に延びている。本跡の東側には近世の墓坑群、西側の微高地には中世の火葬土坑や墓坑群が確認されている。また、北東側の調査区域外と北西側の一部に、本跡に沿うように高さ60cmほどの土塁状の高まりが確認されている。東側上面では地山であるローム土が確認されず、砂質粘土層（テストピットの第11層）が露出している。

重複関係 中央部第27層上面から底面を第1号火葬土坑に、北東部壁の一部を第144号土坑にそれぞれ掘り込まれている。また、2回の掘り込みが認められ、上段の堀（新堀）と下段の堀（旧堀）が確認された。

規模と形状 北部と南部は調査区域外に延びているため、確認できた長さは16.06mである。南北方向（N-32°-E）へ直線的に延びており、新堀の規模は上幅16.70～22.50m、下幅6.75～8.60m、深さ162～225cm



第71图 第1号掘迹实测图



第72図 第1号堀跡・出土遺物実測図

である。旧堀は第20層を上面とし、規模は上幅2.04～7.50m、下幅3.3～4.1m、深さ80～130cmが確認されただけで、全容は不明である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 19か所。P1～P17は新堀の底面に位置することから、関連するピットと考えられる。P1～P7は底面の東西に位置し、径40～80cmの円形もしくは楕円形で、深さは20～80cmである。東部のP1～P4の柱間寸法は1.2～2.0m、西部のP5～P7の柱間寸法は1.8m（6尺）を基調としていることから、木橋の橋脚が立てられた柱穴の可能性が考えられる。P8～P14は深さ8～30cmで性格は不明である。P15～P17は深さ46～71cmで溝の中央部で新堀の底面を掘り込み、旧堀の底面には達していないことから、新堀に架けられた木橋と関連するピットと考えられる。P18・P19は東西の壁に横方向に20～30cm掘られたピットで、性格は不明である。

覆土 40層に分層され、上層（第1～19層）と下層（第20～40層）に大別され、下層は旧堀の、上層は新堀のそれぞれ覆土で、いずれもレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第1層は後世に農道を構築した際の埋土である。北西部の土塁状の高まりに確認された第12層～14層は、新堀が掘り込まれた際に地山に置かれた土であり、また、第16・17層の下部が地山を掘り込んでいることから、北西部に土塁を構築したとは考えにくく、自然地形を削り出して平場を構築したものと想定される。

土層解説

1 褐色	炭化粒子微量	19 褐色	砂粒多量, 礫微量
2 褐色	砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量	20 極暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・砂粒微量	21 暗褐色	砂粒中量, ローム粒子・炭化粒子・細礫微量
4 暗褐色	ロームブロック・砂粒微量	22 褐色	砂粒多量, 細礫微量
5 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量	23 褐色	砂粒多量, 細礫少量
6 暗褐色	炭化物・ローム粒子・細礫微量	24 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量
7 褐色	砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子・細礫微量	25 におい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化物・細礫微量	26 褐色	ロームブロック・砂粒微量
9 褐色	ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子・細礫微量	27 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量
10 暗褐色	砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量	28 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
11 褐色	砂粒中量, 炭化粒子微量	29 におい黄褐色	砂粒少量, 炭化粒子微量
12 暗褐色	砂粒少量, ロームブロック・細礫微量	30 褐色	砂粒中量, 炭化粒子微量
13 褐色	砂粒中量, 細礫微量	31 暗褐色	砂粒少量, ロームブロック・炭化粒子微量
14 褐色	ローム粒子・砂粒少量	32 褐色	砂粒中量
15 明褐色	砂粒多量, 細礫微量	33 褐色	砂粒少量
16 褐色	ロームブロック・砂粒・細礫微量	34 褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
17 褐色	砂粒多量, 細礫少量	35 褐色	ロームブロック・砂粒少量
18 褐色	砂粒中量, ロームブロック・炭化粒子・細礫微量	36 暗褐色	砂粒中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量

37 褐色 砂粒中量, ローム粒子・炭化粒子微量
38 明褐色 砂粒多量, 砂質粘土粒子・細礫微量

39 褐色 砂質粘土ブロック・砂粒少量, 炭化物微量
40 黄褐色 砂粒多量, 細礫微量

遺物出土状況 土師器片25点(甕), 須恵器片8点(甕), 土師質土器1点(内耳鍋), 縄文土器片2点が出土しているが, いずれも流れ込みによるものと考えられる。

所見 恋瀬川と平行に東西方向に延びている河岸段丘の西端部を南北方向に掘り込んでいることから, 台地上と周辺部を区画する機能を有していたと想定される。また, 規模と形態から, 防御施設としても機能していた可能性がある。底面を掘り込んでいる第1号火葬土坑は, 旧堀が第27層まで埋没した時期に掘り込まれたもので, 時期は出土土器から16世紀代と考えられることから, 旧堀の時期は16世紀以前と考えられる。旧堀が第20層まで埋没した後に掘り広げて新堀の底面を構築し, 木橋が設置されたと想定されることから新堀の時期は, 16世紀以後で近世と考えられる。

第1号堀跡出土遺物観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け後ナデ	覆土中	5%
番号	種別	器種	胎土			色調	焼成	文様の特徴		出土位置	備考
TP52	須恵器	甕	長石			灰黄	良好	口縁部横位の沈線文と櫛歯状工具による刺突を縦位に施文		覆土中	PL23

(4) 溝跡

第15号溝跡(第73図)

位置 調査I区中央部のD 6 b7 ~ D 6 i3区, 標高6.0mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第16・19号住居跡を掘り込み, 第19号溝, 第3号井戸, 第1号粘土貼り土坑に掘り込まれている。

確認状況 東側へ約22m離れた区域に方向が同じ第18号溝跡が確認されている。本跡と第18号溝跡の間には地下式坑1基, 火葬土坑7基, 墓坑9基が確認されている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため, 確認された長さは34.85mである。D 6 b8区から南西方向(S-36°-W)へ直線的に延びており, 規模は上幅2.16~3.28m, 下幅1.44~1.98m, 深さ14~64cmである。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 底面の一部と両壁面の中段には長径20~40cm, 深さ30cm以下のピットが並び, 柵状に杭が並んでいたと推測される。

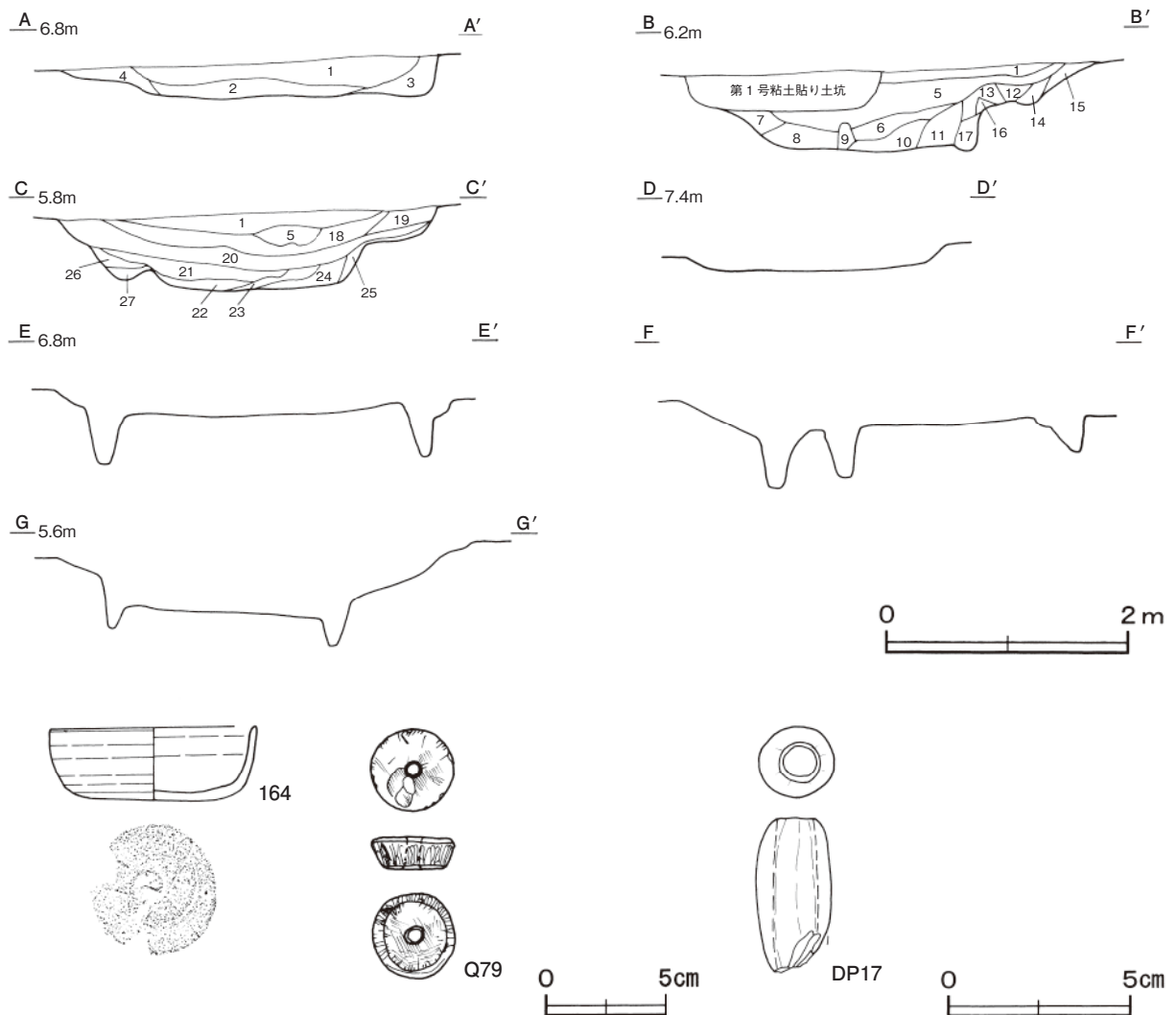
覆土 27層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	14 褐色	ロームブロック少量
2 極暗褐色	ローム粒子微量	15 にぶい褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・細礫微量	16 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	砂粒微量	17 暗褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量	18 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	19 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子少量, 砂粒微量	20 極暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
8 暗褐色	ローム粒子中量	21 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
9 黒褐色	ロームブロック微量	22 褐色	ロームブロック中量・粘土粒子・砂粒微量
10 暗褐色	ローム粒子少量	23 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量, 砂粒微量
11 黒褐色	ローム粒子少量	24 褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・砂粒微量
12 褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	25 灰褐色	ロームブロック少量
13 暗褐色	ロームブロック少量	26 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
		27 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片88点（坏34，甕54），須恵器片22点（坏12，高台付坏3，蓋7），縄文土器片37点，土製品1点（管状土錘），石製品1点（紡錘車）が出土している。いずれも混入である。

所見 北部と南部の底面の高低差が50cmあることから，排水施設として機能していたと考えられる。時期は，第1号粘土貼り土坑との重複関係から中世に埋没したものと考えられる。



第73図 第15号溝跡・出土遺物実測図

第15号溝跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
164	須恵器	坏	8.5	3.2	5.4	長石・石英	灰	良好	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	40%

番号	器種	長さ	最大径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	管状土錘	4.3	2.1	0.9	(12.3)	赤色粒子・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 外面一部欠け	覆土下層	PL24

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 79	紡錘車	3.5	1.3	0.7	25.3	滑石	上面底面に擦痕 側面に縦方向の研磨痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL26

第17号溝跡（第74図）

位置 調査I区西部のD 6 c4～D 6 g1区，標高5.6mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第9・11・12・21号住居跡を掘り込み，第1・2号井戸，第176号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため，確認された長さは21.55mである。D 6 c4区から南西方向（S-29°-W）へ直線的に延び，規模は上幅0.58～0.91m，下幅0.23～0.59m，深さ34cmである。底面は平坦で，壁は緩斜して立ち上がっている。

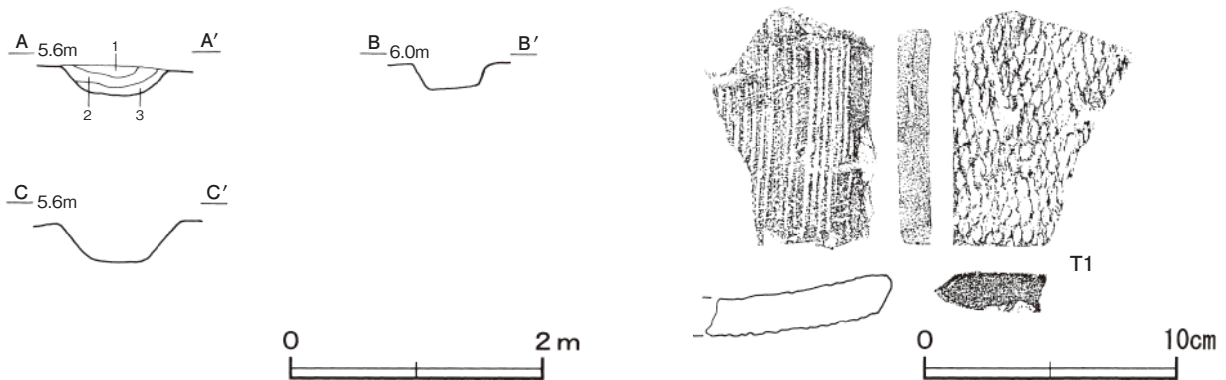
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片71点（坏25，甕46），縄文土器片56点，平瓦1点が出土している。いずれも混入と考えられる。

所見 時期は，重複関係から中世と考えられる。



第74図 第17号溝跡・出土遺物実測図

第17号溝跡出土遺物観察表（第74図）

番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 1	平瓦	(9.5)	(7.6)	1.5	(114.0)	長石・石英・細礫	凹面布目痕 凸面縄叩き 側面・端部ヘラ削り	覆土中	PL23

第18号溝跡（第75図）

位置 調査I区東部のD 7 i1～E 6 b8区，標高6.0mの微高地の緩斜面に位置している。

重複関係 第10・18号住居跡を掘り込んでいる。

確認状況 西側へ約22m離れた区域に，方向が同じ第15号溝跡が確認されている。本跡と第15号溝跡の間には地下式坑1基，火葬土坑7基，墓坑9基が確認されている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため，確認された長さは15.66mである。D 7 i1区から南西方向（S-35°-W）へ直線的に延びており，規模は上幅1.60～2.12m，下幅0.10～0.22m，深さ38～68cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がり，東壁面の中段には幅0.45mほどの平坦面が確認されている。

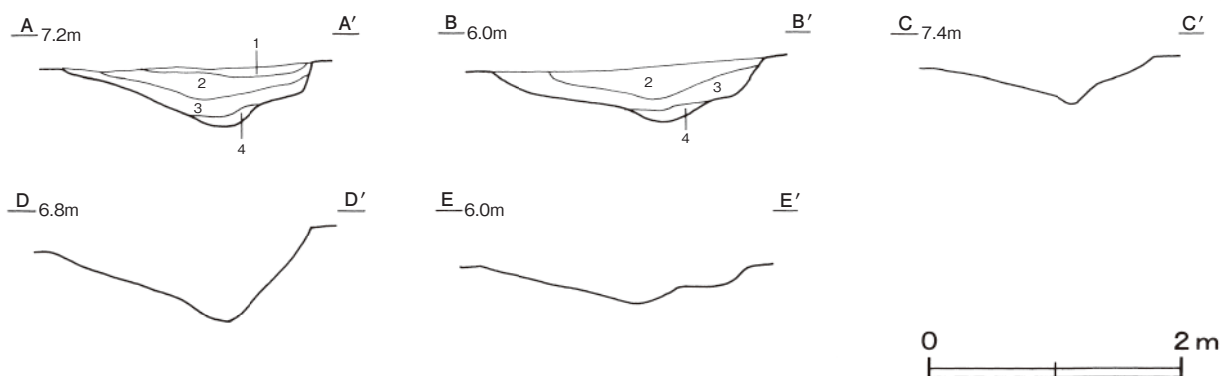
覆土 4層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|-------|-------------------|
| 1 明 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 3 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 4 褐 色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片16点（坏1，甕15），須恵器片1点（坏），陶器片2点（碗，壺類）が出土している。いずれも混入と考えられる。

所見 北部と南部の底面の高低差が40cmあることから，排水施設として機能していたと考えられる。第15号溝と方向がほぼ同じことから，同時期に機能していたと想定される。時期は，重複関係と第15号溝の年代観から中世と考えられる。



第75図 第18号溝跡実測図

表8 中世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					重複関係(古→新)
15	D 6 b8 ~ D 6 i3	S - 36° - W	直線状	(34.85)	2.16 ~ 3.28	1.44 ~ 1.98	14 ~ 64	緩斜	平坦	人為	土師器 須恵器 管状土錘 石製紡錘車	SI16・19 → 本跡 → SD19・SE3・第1号粘土貼り土坑
17	D 6 c4 ~ D 6 g1	S - 29° - W	直線状	(21.55)	0.58 ~ 0.91	0.23 ~ 0.59	34	緩斜	平坦	自然	土師器 須恵器	SI9・11・12・21, → 本跡 → SE1・2, SK176
18	D 7 i1 ~ E 6 b8	S - 35° - W	直線状	(15.66)	1.60 ~ 2.12	0.10 ~ 0.22	38 ~ 68	緩斜	皿状	人為	土師器 須恵器 陶器	SI10・18 → 本跡

(5) 井戸跡

第1号井戸跡（第76図）

位置 調査I区南西部のD 6 g1区，標高5.0mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第17号溝を掘り込んでいます。

規模と形状 径1.55mの円形である。確認面から漏斗状に92cm掘り込み，下部は円筒状に掘り込まれている。

深さ200cmほどで崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

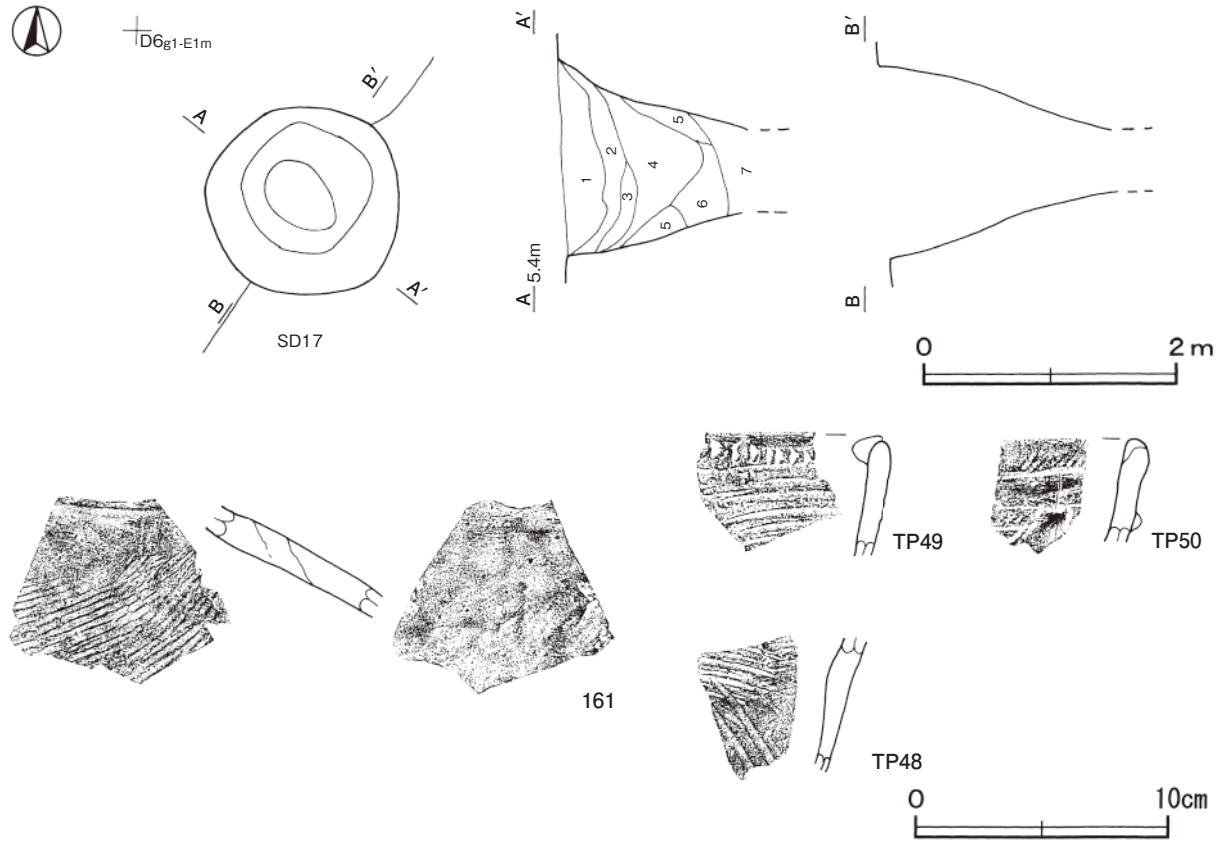
覆土 7層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 黒 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 黒 色 | 粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 黒 色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒 色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 陶器片1点(常滑系甕)が出土している。その他、流れ込んだ須恵器片6点(甕), 縄文土器片19点(深鉢)も出土している。陶器片は細片のため図示できなかった。

所見 素掘りの構造である。時期は、判定できる土器はないが、重複関係や形状から中世と考えられる。



第76図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
161	須恵器	甕	-	(4.4)	-	石英	灰	良好	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP48	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰褐	普通	条線文	覆土中	後期 PL22
TP49	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部爪形文 条線文	覆土中	後期 PL22
TP50	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	口辺部帯縄文 横位の沈線文で無文帯を区画 帯縄文上に瘤状の貼付文	覆土中	後期

第2号井戸跡(第77図)

位置 調査I区南西部のD6g2区, 標高5.0mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第17号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.44m, 短径1.18mの楕円形で, 長径方向はN-9°-Eである。確認面から漏斗状に深さ94cm掘り込み, 下部は円筒状に掘り込まれている。深さ120cmほどで崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

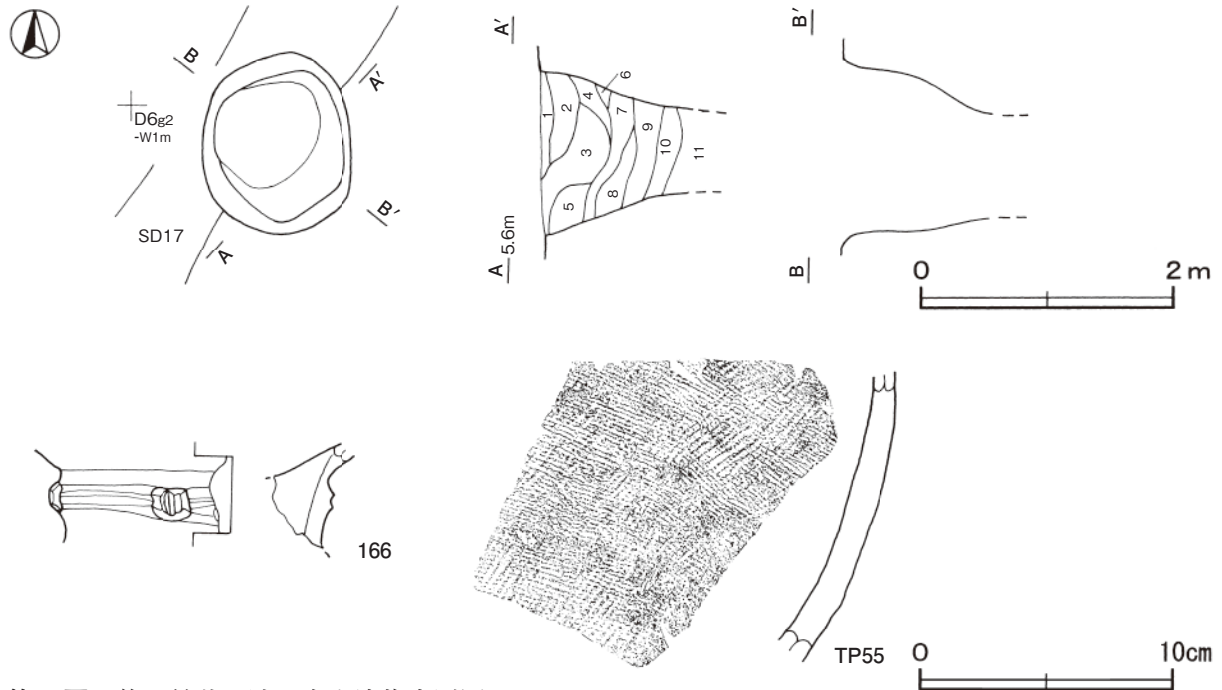
覆土 11層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片16点（坏4，甕12），須恵器片2点（甕），縄文土器片3点（深鉢2，台付鉢1）が出土している。いずれも埋め戻される際に混入したものと考えられる。

所見 素掘りの構造である。時期は、判定できる土器はないが、重複関係や形状から中世と考えられる。



第77図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
166	縄文土器	台付鉢	-	(4.2)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部の破片 貼瘤に刻み目	覆土中	5% PL18
番号	種別	器種	胎土		色調	焼成	文様の特徴		出土位置	備考	
TP55	須恵器	甕	長石・石英		灰	良好	体部外面擬格子状の叩き		覆土中	PL 23	

表9 中世井戸跡一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)					(重複関係 古→新)
1	D 6 g1	N-0°	円形	1.55 × 1.55	(200)	漏斗状	不明	人為	陶器 須恵器 縄文土器	SD17 → 本跡
2	D 6 g2	N-9°-E	楕円形	1.44 × 1.18	(120)	漏斗状	不明	人為	土師器 須恵器 縄文土器	SD17 → 本跡

(6) 粘土貼り土坑

第1号粘土貼り土坑 (第78図)

位置 調査I区西部のD6g4区, 標高5.8mの微高地に位置している。

重複関係 第15号溝の覆土上層を掘り込んでいる。

確認状況 本跡の南西部には, 中世の井戸が確認され, 東部には火葬土坑7基が並んでいる。

規模と形状 長軸1.71m, 短軸1.56mの隅丸方形で, 長軸方向はN-37°-Eである。深さは26cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。壁面・底面に厚さ6cmほどの粘土が貼られている。

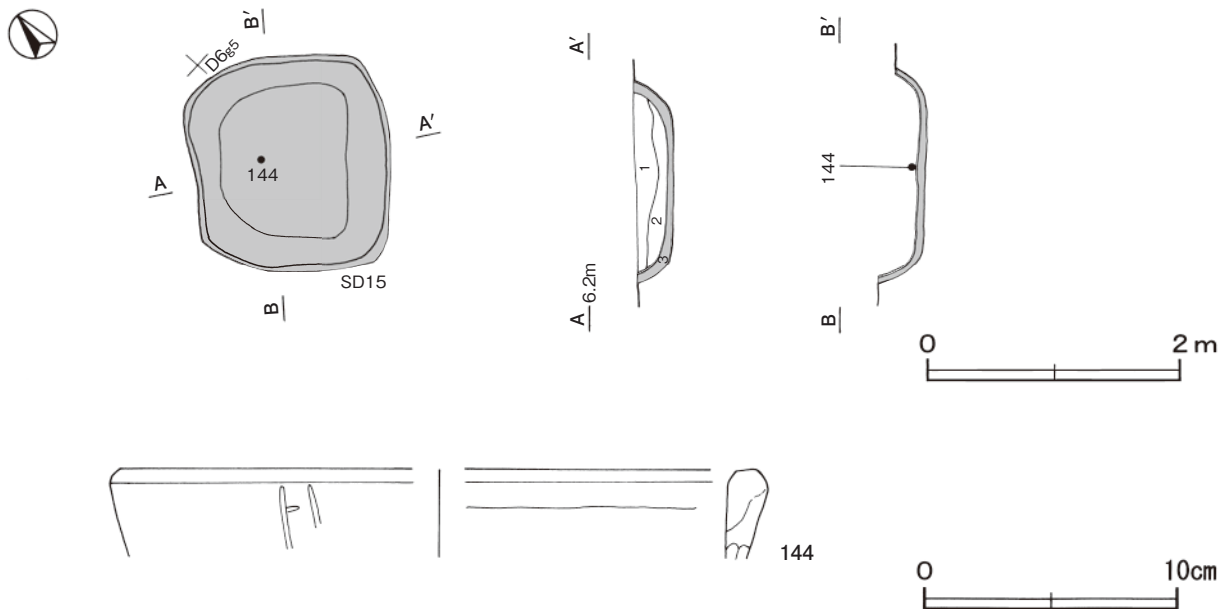
覆土 3層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。第3層は底面・壁面を構築する粘土層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 3 にぶい黄色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器1点(火鉢カ)が出土している。その他, 流れ込んだ土師器片7点, 須恵器片3点, 縄文土器片13点も出土している。144は中央部の底面から出土している。

所見 底面と壁面を粘土で構築した粘土貼り土坑である。遺物は流れ込んだものが多く, また, 覆土には粘土粒子がほとんど含まれないことから, 上面は塞がれていなかったものと考えられる。本跡の南西部には中世の井戸跡が確認されており, 東部には火葬土坑7基が並んでいることから, 墓地に関連するものと想定される。時期は, 判定できる土器はないが, 重複関係と形状から中世と考えられる。



第78図 第1号粘土貼り土坑・出土遺物実測図

第1号粘土貼り土坑出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	土師質土器	火鉢カ	[25.2]	(3.5)	-	砂粒・赤色粒子	橙	普通	口縁部の破片 内・外面横ナデ 外面に縦位2条の沈線	中央部底面	5%

(7) 火葬土坑

火葬土坑が8基確認されている。D 6 h8～D 6 j9区に位置している第2～8号火葬土坑は、1～2mの間隔を空けて2列に並ぶように確認されている。

第1号火葬土坑 (第79図)

位置 調査Ⅱ区西部のE 8 d7区、標高15.5mの河岸段丘上に位置している。

重複関係 第12号溝の中央部下層の下部層(第27層)から底面を掘り込んでいる。

規模と形状 不定形で、全長は0.95m、長径方向はN-19°-Eである。燃烧部は長径0.95m、短径0.92mの円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。底面と壁面の一部は火を受けて赤変硬化している。

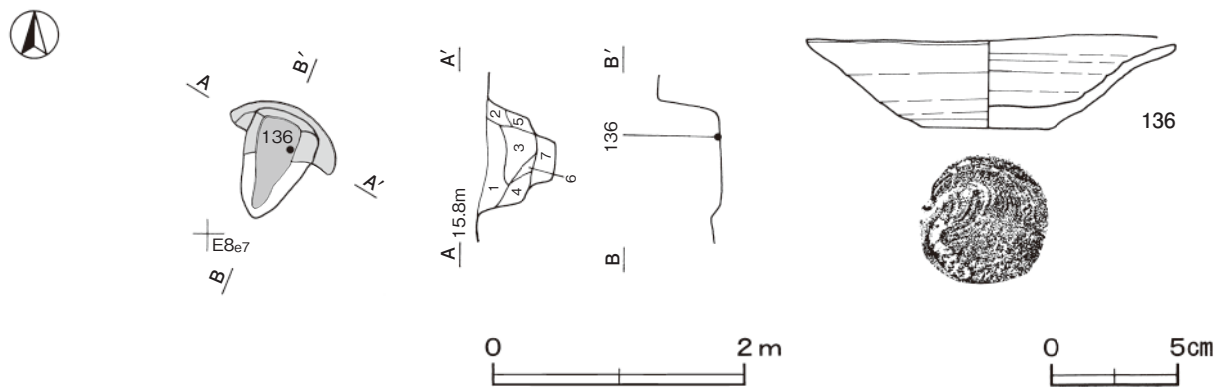
覆土 7層に分層される。炭化物や焼土粒子を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量、炭化物微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子・砂粒微量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 7 黒色 | 炭化粒子多量、砂粒中量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒色 | 炭化物多量、焼土ブロック・砂粒微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器1点(皿)が出土している。また、第3・6・7層から骨片が出土している。136は東壁際から第7層中に斜位で出土しており、二次焼成を受けている。

所見 下層に骨片・焼土・炭化物が多いことから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。出土した土師質土器は、二次焼成を受けていることから、遺骸とともに焼かれた可能性がある。時期は、重複関係と出土土器から16世紀代と考えられる。



第79図 第1号火葬土坑・出土遺物実測図

第1号火葬土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
136	土師質土器	皿	14.5	3.8	5.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL19

第2号火葬土坑（第80図）

位置 調査I区東部のD6h8区，標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 不定形で，全長は1.31m，長径方向はN-35°-Eである。燃烧部は長径0.86m，短径0.50mの不整楕円形で，深さは16cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。底面と壁面の一部は火を受けて赤変硬化している。開口部は燃烧部と直交し，南端部が東方向にやや曲がって掘り込まれており，長さ0.86m，上幅0.46m，下幅0.24m，深さは12cmである。底面は開口部から燃烧部へ緩やかに傾斜している。

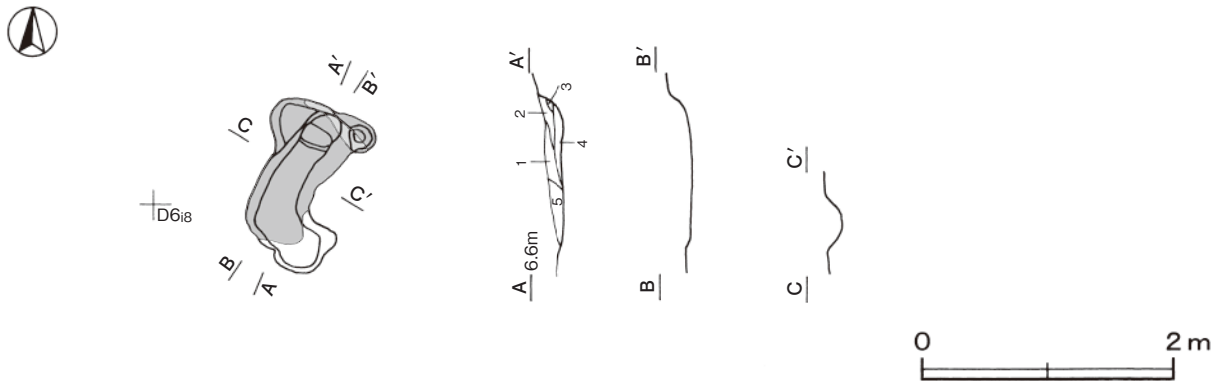
覆土 5層に分層される。炭化物や焼土粒子を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	明褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
2	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	5	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量			

遺物出土状況 燃烧部の覆土下層から底面にかけて，骨片・焼土・炭化物が出土している。

所見 遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，形状から中世と考えられる。



第80図 第2号火葬土坑実測図

第3号火葬土坑（第81図）

位置 調査I区東部のD6i8区，標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 楕円形を二つ連結したような双円形で，全長は0.99m，長径方向はN-37°-Eである。燃烧部は長径0.86m，短径0.50mの楕円形で，深さは20～27cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。底面と壁面の一部は火を受けて若干赤変している。開口部は燃烧部と直交し，長さ0.46m，上幅0.54m，下幅0.22m，深さは14～20cmである。底面は開口部から燃烧部へ緩やかに傾斜している。

ピット 開口部の東壁の外側にP1が確認されているが，性格は不明である。

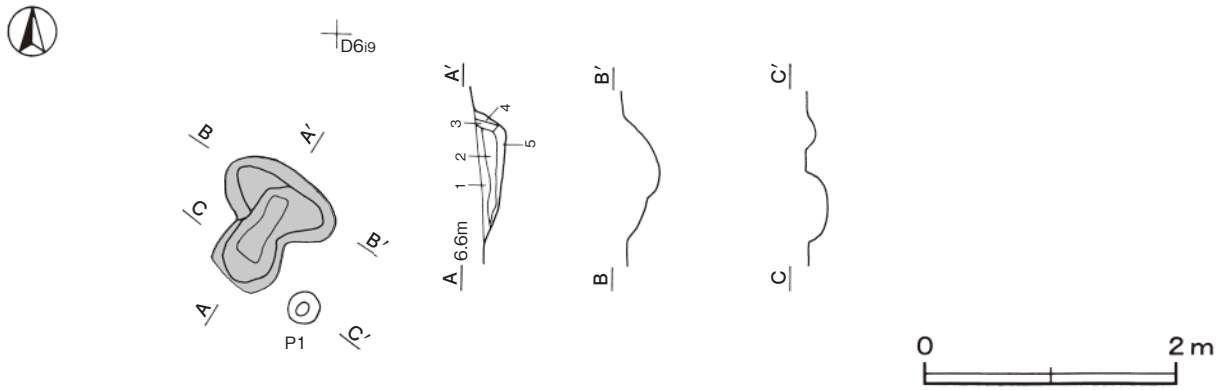
覆土 5層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	4	橙色	ローム粒子・焼土粒子中量
2	暗褐色	炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量	5	暗褐色	炭化粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子微量
3	明褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量			

遺物出土状況 覆土下層に骨粉・焼土・炭化物が出土している。

所見 遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は，形状から中世と考えられる。



第81図 第3号火葬土坑実測図

第4号火葬土坑（第82図）

位置 調査I区東部のD6i9区、標高6.0mの微高地に位置している。

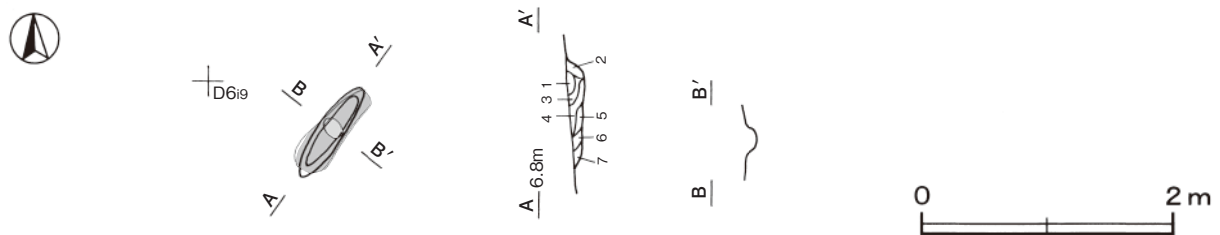
規模と形状 燃焼部のみが確認された。長径0.85m、短径0.24mの長楕円形で、長径方向はN-35°-Eである。深さは14cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。底面の中央部は火を受けて赤変硬化している。

覆土 7層に分層される。炭化物や焼土粒子を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 明褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | 炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |

所見 付近の火葬土坑と似た形状を呈していることから、火葬土坑と考えられる。時期は、形状から中世と考えられる。



第82図 第4号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑（第83図）

位置 調査I区東部のD6i8区、標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 燃焼部のみが確認された。長径0.86m、短径0.50mの不整楕円形で、長径方向はN-73°-Eである。深さは9cm、底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。底面は火を受けて若干硬化している。

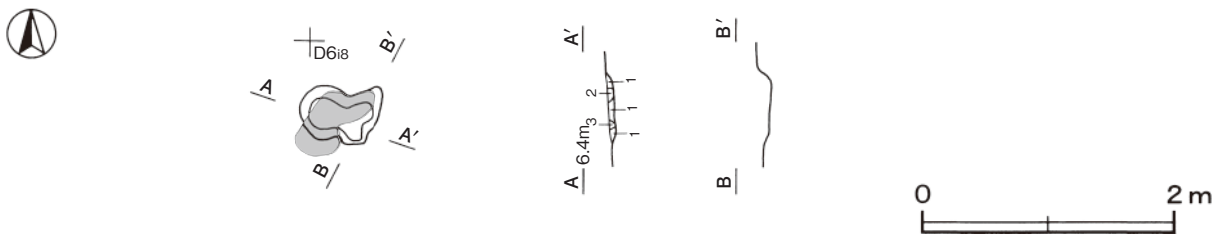
覆土 3層に分層される。炭化物を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 明 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化物中量, ローム粒子微量

- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

所見 付近の火葬土坑と似た形状を呈していることから、火葬土坑と考えられる。時期は、形状から中世と考えられる。



第83図 第5号火葬土坑実測図

第6号火葬土坑 (第84図)

位置 調査I区東部のD6i8区, 標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 不定形で, 全長は1.87m, 長軸方向はN-27°-Eである。燃烧部は長軸0.70m, 短軸0.62mの隅丸長方形で深さは12cmである。燃烧部と開口部の境目には長さ1.10m, 上幅0.32m, 下幅0.18m, 深さ14cmの通気溝が主軸と直交して掘り込まれている。燃烧部, 通気溝ともに底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。底面と壁面の一部は火を受けて赤変硬化している。開口部は長径0.88m, 短径0.51mの不整楕円形で, 深さは6cm, 底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

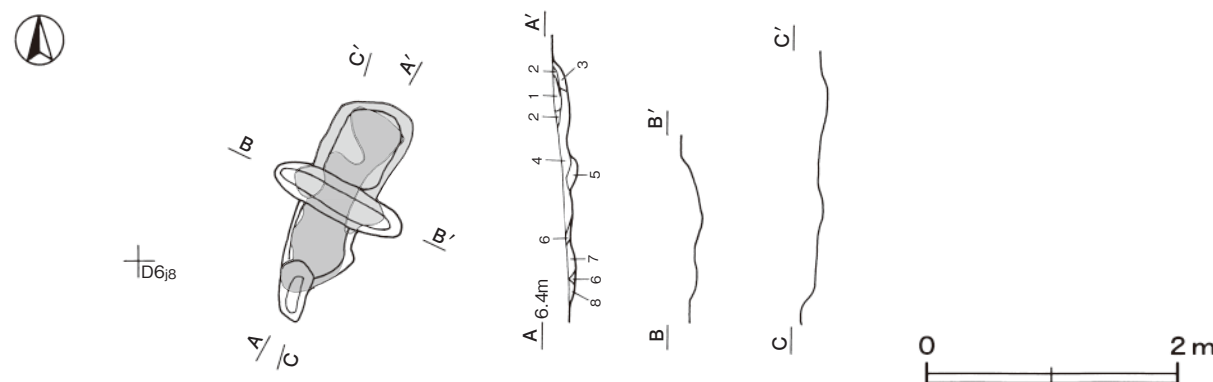
覆土 8層に分層される。炭化物や焼土粒子を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 橙 色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 5 褐 色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 橙 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 明 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 3 明 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 褐 色 | 炭化物・ローム粒子少量 |
| 4 橙 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 覆土中から骨粉・焼土・炭化材が出土している。

所見 遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、形状から中世と考えられる。



第84図 第6号火葬土坑実測図

第7号火葬土坑（第85図）

位置 調査I区東部のD6j8区、標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 不定形で、全長は1.32m、長径方向はN-43°-Wである。燃焼部は長径0.94m、短径0.84mの楕円形で、深さは23cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。底面と壁面の一部は火を受けて赤変硬化している。開口部は長径1.02m、短径0.52mの楕円形で、深さ16cmである。底面は開口部から燃焼部へ緩やかに傾斜している。

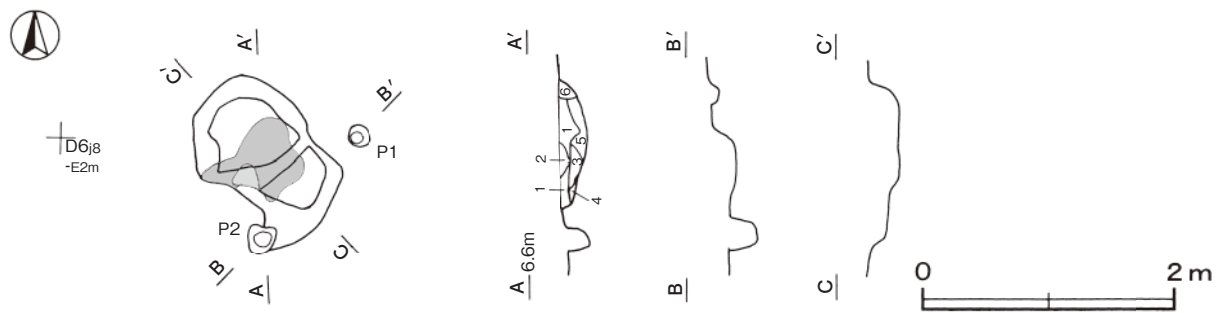
ピット 開口部の東壁の外側にP1、西壁にP2が確認されているが、性格は不明である。

覆土 6層に分層される。炭化物や焼土粒子を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 炭化物中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |

所見 付近の火葬土坑と似た形状を呈していることから、火葬土坑と考えられる。時期は、形状から中世と考えられる。



第85図 第7号火葬土坑実測図

第8号火葬土坑（第86図）

位置 調査I区東部のD6j9区、標高6.0mの微高地に位置している。

規模と形状 不整形で、全長は1.62m、長径方向はN-41°-Eである。燃焼部は長径1.42m、短径0.78mの不整楕円形で、深さは12cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。底面と壁面の一部は火を受けて赤変硬化している。開口部は長軸0.62m、短軸0.36mの不整長方形で、深さは8cmである。底面は開口部から燃焼部へ緩やかに傾斜している。

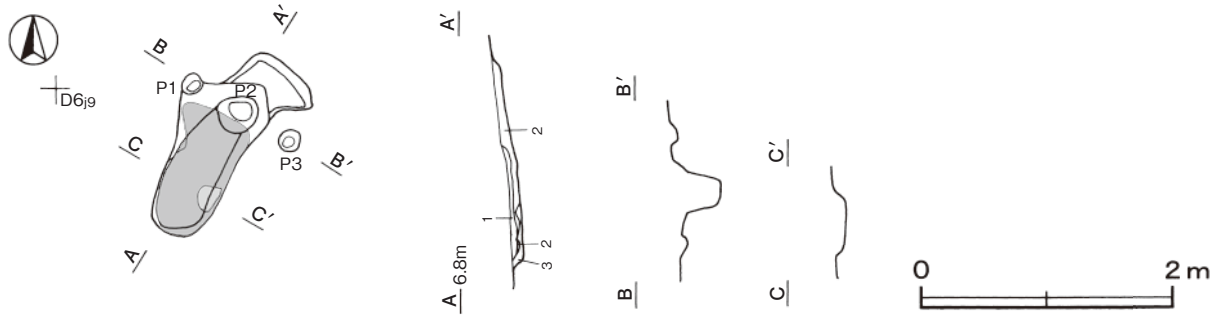
ピット 燃焼部の北壁側にP1～P3が確認されたが、性格は不明である。P1は径18cmの円形で深さは6cm、P2は径32cmの円形で深さは26cm、P3は径18cmの円形で深さは6cmである。

覆土 3層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 3 明褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |

所見 付近の火葬土坑と似た形状を呈していることから、火葬土坑と考えられる。時期は、形状から中世と考えられる。



第86図 第8号火葬土坑実測図

表10 中世火葬土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)								覆土	主な出土遺物 及び 人骨の有無	備考 (重複関係 告→新)
				開口部 (m)				燃烧部 (m)						
				長軸(径)×短軸(径)	深さ (cm)	平面形	底面	長軸(径)×短軸(径)	深さ (cm)	平面形	底面			
1	E 8 d7	N - 19° - E	不定形	-	-	-	-	(0.95) × (0.92)	48	外傾	平坦	人為	土師質土器 人骨有	SD12 → 本跡
2	D 6 h8	N - 35° - E	不定形	0.86 × 0.46	12	不整楕円形	平坦	0.86 × 0.50	16	不整楕円形	凹状	人為	- 人骨有	
3	D 6 i8	N - 37° - E	不定形	0.54 × 0.46	14~20	楕円形	平坦	0.86 × 0.50	20~27	楕円形	皿状	人為	- 人骨有	
4	D 6 i9	N - 35° - E	楕円形	-	-	-	-	0.85 × 0.24	14	楕円形	平坦	人為	- 人骨有	
5	D 6 i8	N - 73° - W	不整楕円形	-	-	-	-	0.86 × 0.50	9	不整楕円形	皿状	人為	- 人骨無	
6	D 6 i8	N - 27° - E	不定形	0.88 × 0.51	6	不整楕円形	緩斜	0.70 × 0.62	12	隅丸長方形	緩斜	人為	- 人骨無	
7	D 6 j8	N - 43° - W	不定形	1.02 × 0.52	16	不整楕円形	緩斜	0.94 × 0.84	23	楕円形	平坦	人為	- 人骨無	
8	D 6 j9	N - 41° - E	不定形	0.62 × 0.36	8	不整長方形	緩斜	1.42 × 0.78	12	不整楕円形	平坦	人為	- 人骨有	

(8) 墓坑

第162号土坑 (第87図)

位置 調査I区北東部のD 6 h9区、標高6.8mの微高地に位置している。

確認状況 東側には地下式坑、南側には火葬土坑7基が確認されている。

重複関係 第161号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.13m、短軸1.00mの長方形で、長軸方向はN - 25° - Eである。深さは36cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

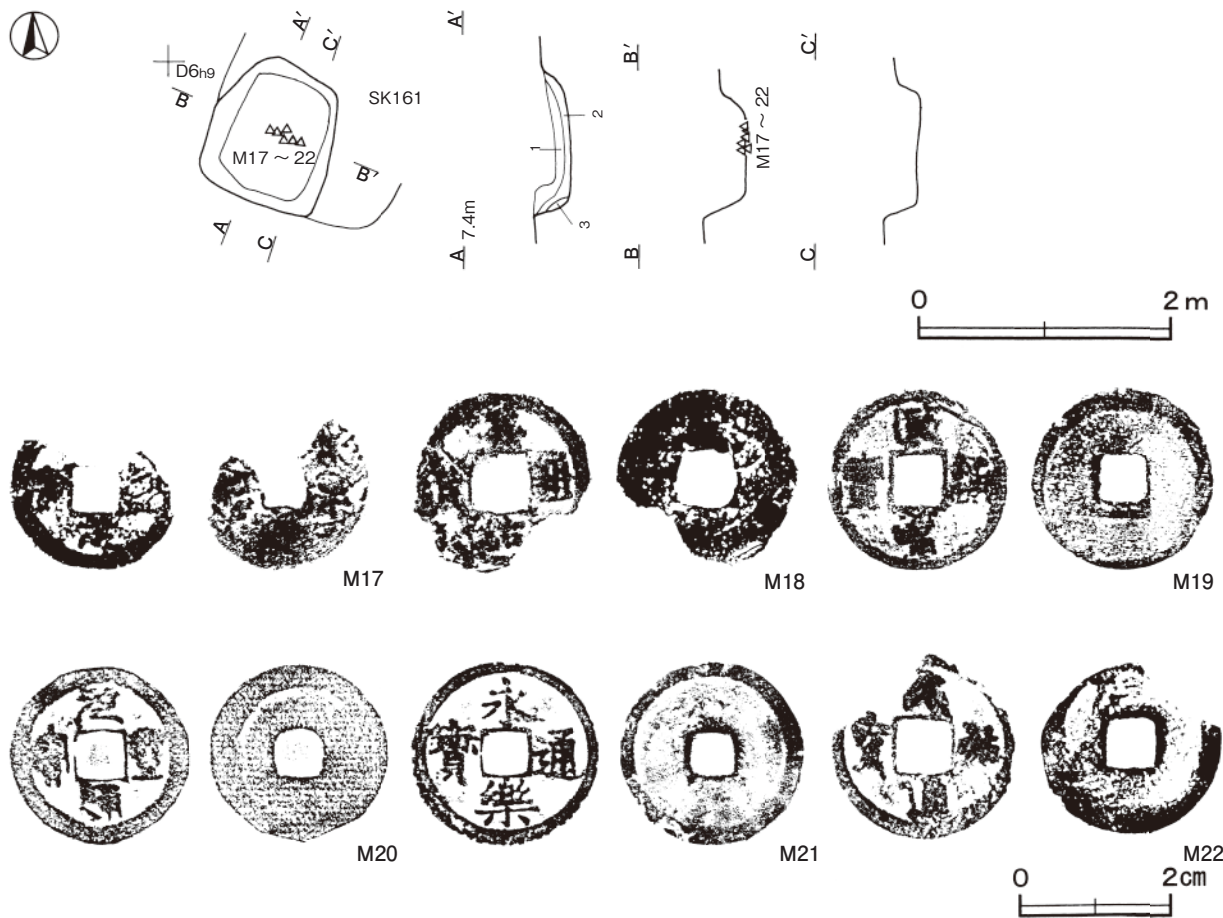
覆土 3層に分層される。各層に粘土や砂粒を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 明褐色 粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・砂粒微量
- 3 明黄褐色 砂粒中量, 粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量

遺物出土状況 埋銭と考えられる古銭6点(□□元寶, 嘉祐通寶, 政和通寶, 元豊通寶, 永樂通寶, 元祐通寶)が中央部の底面から出土し、北東コーナー部の底面から人骨(頭蓋骨)が検出されている。

所見 本跡が掘り込んでいる第161号土坑は、第159・160号土坑にも掘り込まれている。本跡を含めて4基の土坑は重複関係と形状が似ていることから、ほぼ同時期の遺構で、一族の墓の可能性が想定される。同規模の土坑群の重複は調査I区の中に3か所確認されており、関連が考えられる。また、本跡の東側には地下式坑が、南側には火葬土坑7基が検出されていることから、本跡の周囲は広く墓域となっていた可能性が考えられる。時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第87図 第162号土坑・出土遺物実測図

第162号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M 17	□□元寶	2.29	0.57	0.14	(1.9)	不明	銅	判読不能 欠け	底面	PL28
M 18	嘉祐元寶	2.41	0.78	0.12	(1.9)	1056	銅	北宋銭 篆書 無背 欠け	底面	PL28
M 19	政和通寶	2.43	0.58	0.10	2.2	1111	銅	北宋銭 篆書 無背	底面	PL28
M 20	元豊通寶	2.40	0.62	0.10	3.4	1078	銅	北宋銭 篆書 無背	底面	PL28
M 21	永楽通寶	2.48	0.56	0.13	2.8	1408	銅	明銭 真書 無背	底面	PL28
M 22	元祐通寶	2.38	0.71	0.12	(2.0)	1086	銅	北宋銭 真書 無背 欠け	底面	PL28

(9) 墓坑の可能性のある土坑（第88・89図）

調査Ⅰ区から検出された土坑は、遺物が少ないために時期や性格が不明なものが多いが、中央部に位置する一群は、人為的に埋め戻された痕跡があり、形態的には人骨と古銭が伴って出土している墓坑と類似していることから、同時期の墓の可能性が考えられる。以下、実測図と土層解説で紹介する。

第148号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量

第150号土坑土層解説

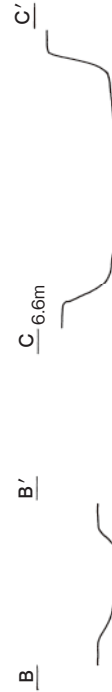
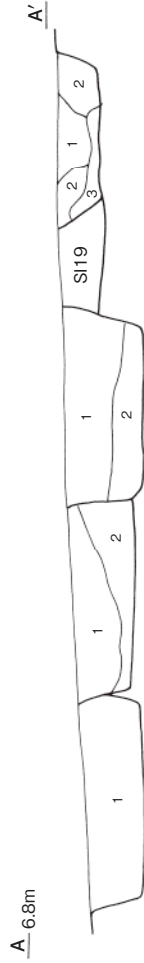
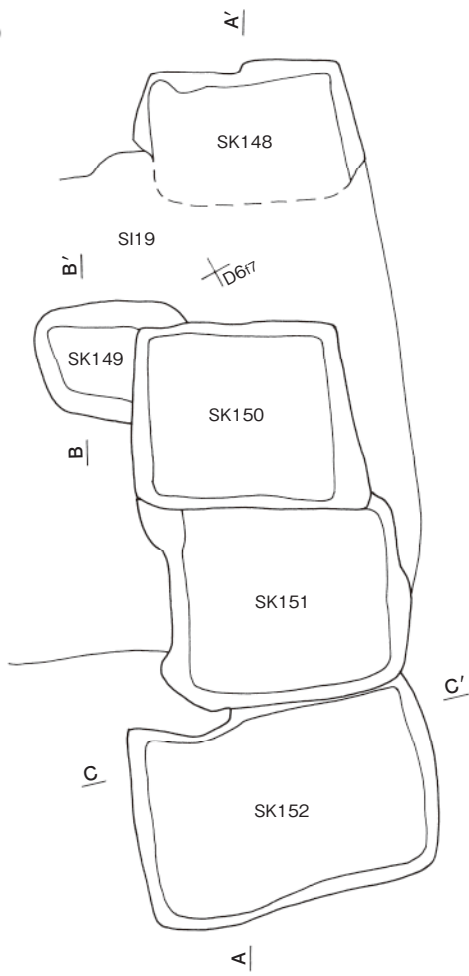
- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量, 炭化物粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量, 炭化物粒子微量

第151号土坑土層解説

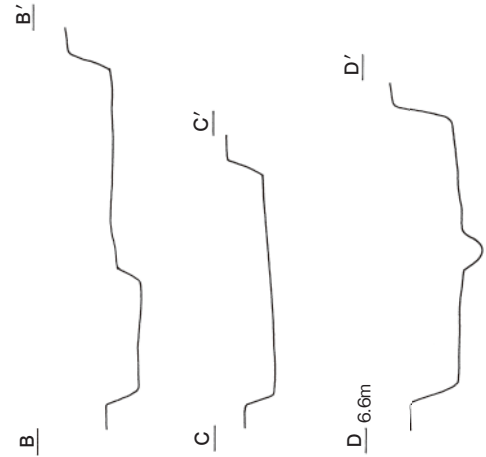
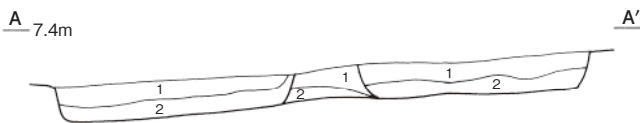
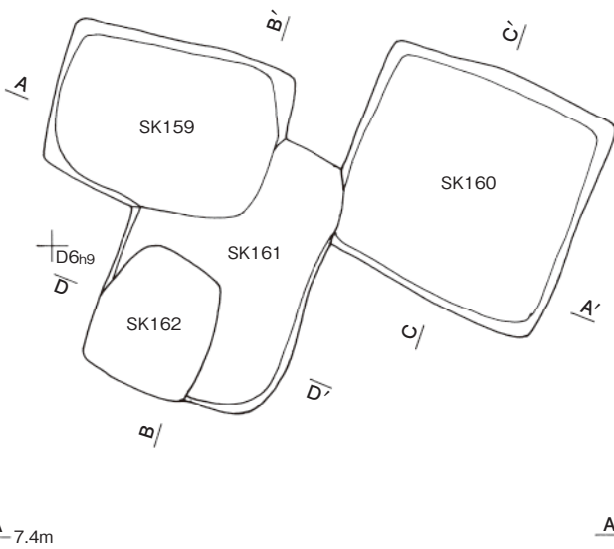
- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物・砂粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量, 炭化物微量

第152号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物・砂粒微量



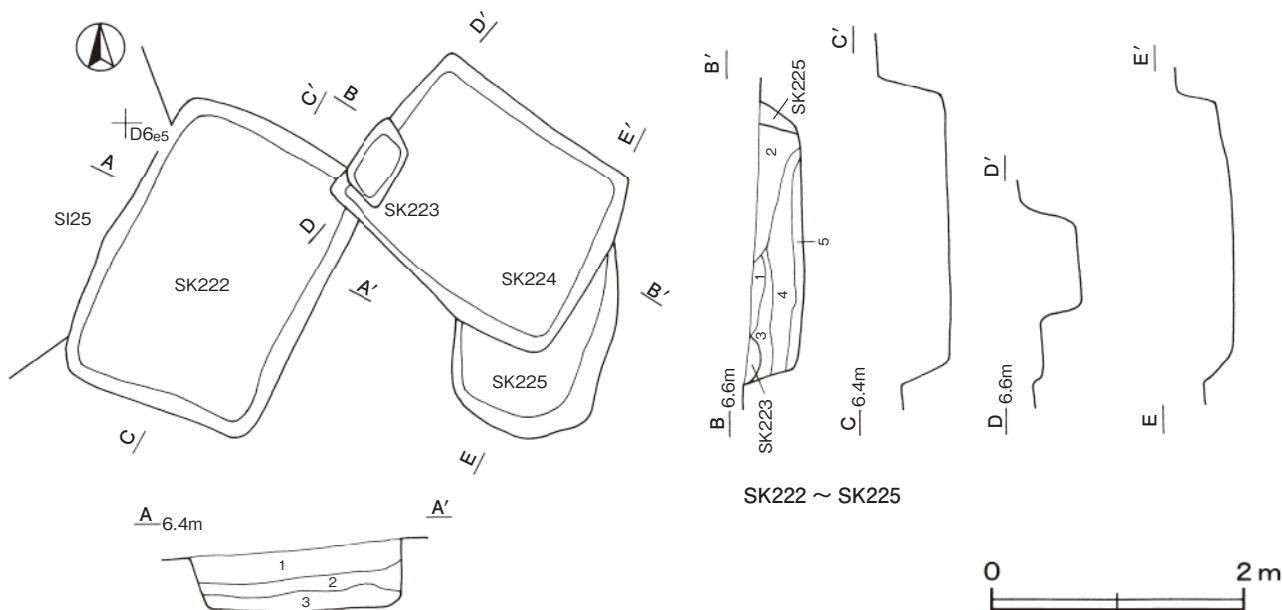
SK148 ~ SK152



SK159 ~ SK162



第88図 墓坑の可能性のある土坑実測図(1)



第89図 墓坑の可能性のある土坑実測図(2)

第 159 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒・細礫少量, ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 砂粒微量

第 160 号土坑土層解説

- 1 黄 褐色 砂粒中量, ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒子微量

第 161 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒微量

第 222 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 223 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 224 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ローム粒子少量

第 225 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

表11 中世墓坑の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			底面	壁面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)							
148	D 6 e7	N - 67° - W	[長方形]	1.70 × (1.12)	32	外傾	平坦	人為	無	土師器 須恵器	SI19 → 本跡	
149	D 6 e6	N - 68° - W	[隅丸長方形]	(1.18) × 0.98	42	緩斜	平坦	人為	無		SI19 → 本跡 → SK150	
150	D 6 f6	N - 64° - W	長方形	1.72 × 1.46	60	外傾	平坦	人為	無	土師器 須恵器 縄文土器	SI19 → SK149・151 → 本跡	
151	D 6 f6	N - 64° - W	[長方形]	1.90 × (1.41)	45	外傾	平坦	人為	無	縄文土器	SI19, SK152 → 本跡 → SK150	
152	D 6 f6	N - 77° - W	長方形	2.44 × 1.68	48	外傾	平坦	人為	無	土師器	本跡 → SK151	
159	D 6 g9	N - 77° - W	長方形	1.85 × 1.38	32	外傾	平坦	人為	無		SK161 → 本跡	
160	D 6 g9	N - 65° - W	方形	1.92 × 1.90	30	外傾	平坦	人為	無		本跡 → SK161	
161	D 6 g9	N - 22° - E	長方形	2.19 × 1.54	28	外傾	平坦	人為	無	土師器 須恵器 磁器 陶器	SK160 → 本跡 → SK159・162	
222	D 6 e5	N - 28° - E	隅丸長方形	2.46 × 1.70	50	外傾	平坦	人為	無	土師器 須恵器 縄文土器	SI25 → 本跡 → SB3, SK224 → SK223	
223	D 6 e5	N - 36° - E	隅丸長方形	0.60 × 0.38	10	外傾	平坦	人為	無	土師器 縄文土器	SK222 → SK224 → 本跡	
224	D 6 e5	N - 53° - W	隅丸長方形	2.10 × 1.70	42	外傾	平坦	人為	無		SK222・225 → 本跡 → SK223	
225	D 6 e5	N - 12° - E	[楕円形]	(1.50) × 1.20	26	緩斜	平坦	人為	無	土師器 須恵器 縄文土器	本跡 → SK224	

6 近世の遺構と遺物

近世の遺構は、掘立柱建物跡2棟、段切り状遺構1か所（溝跡1条、土坑12基、ピット群1か所）、溝跡2条、井戸跡1基、土坑4基、粘土貼り土坑1基、墓坑4基、墓坑の可能性のある土坑25基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第90図）

位置 調査Ⅱ区のF 9 d9区、標高23mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

重複関係 第16号溝跡を掘り込んでいる。

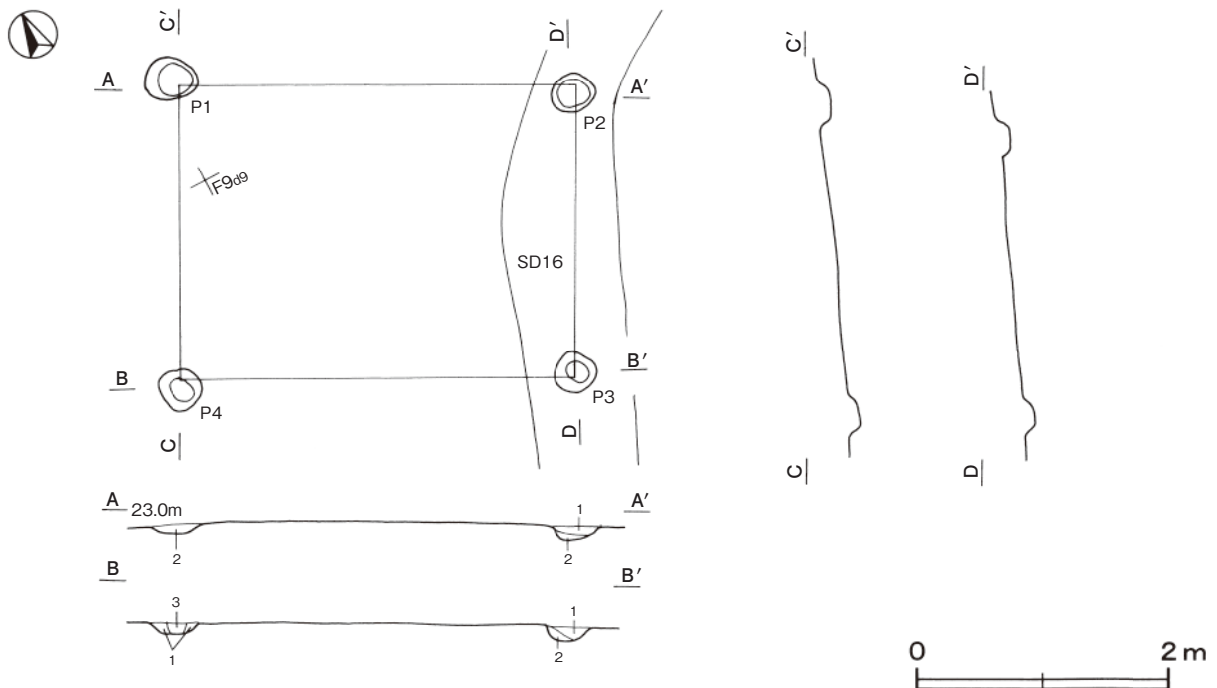
規模と構造 桁行、梁行とも1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-61°-Wの東西棟である。規模は桁行3.15m、梁行2.40mで、面積は7.56㎡である。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径34～44cm、短径32～36cmである。深さは8～11cmで、断面は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 炭化材少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 | |

所見 周辺には第2号粘土貼り土坑や第13・14号溝跡が確認されており、主軸方向がほぼ同じであることから、関連が考えられる。また、柱穴の規模が小さく、簡易な構造であることから、倉庫としての機能が想定される。時期は、周辺の土坑や溝跡の年代観から18世紀後半と考えられる。



第90図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡（第91図）

位置 調査Ⅰ区のD 6 d4区で、標高6.2mの河岸段丘上の微高地に位置している。

重複関係 第25号住居跡，第222号土坑を掘り込んでいる。

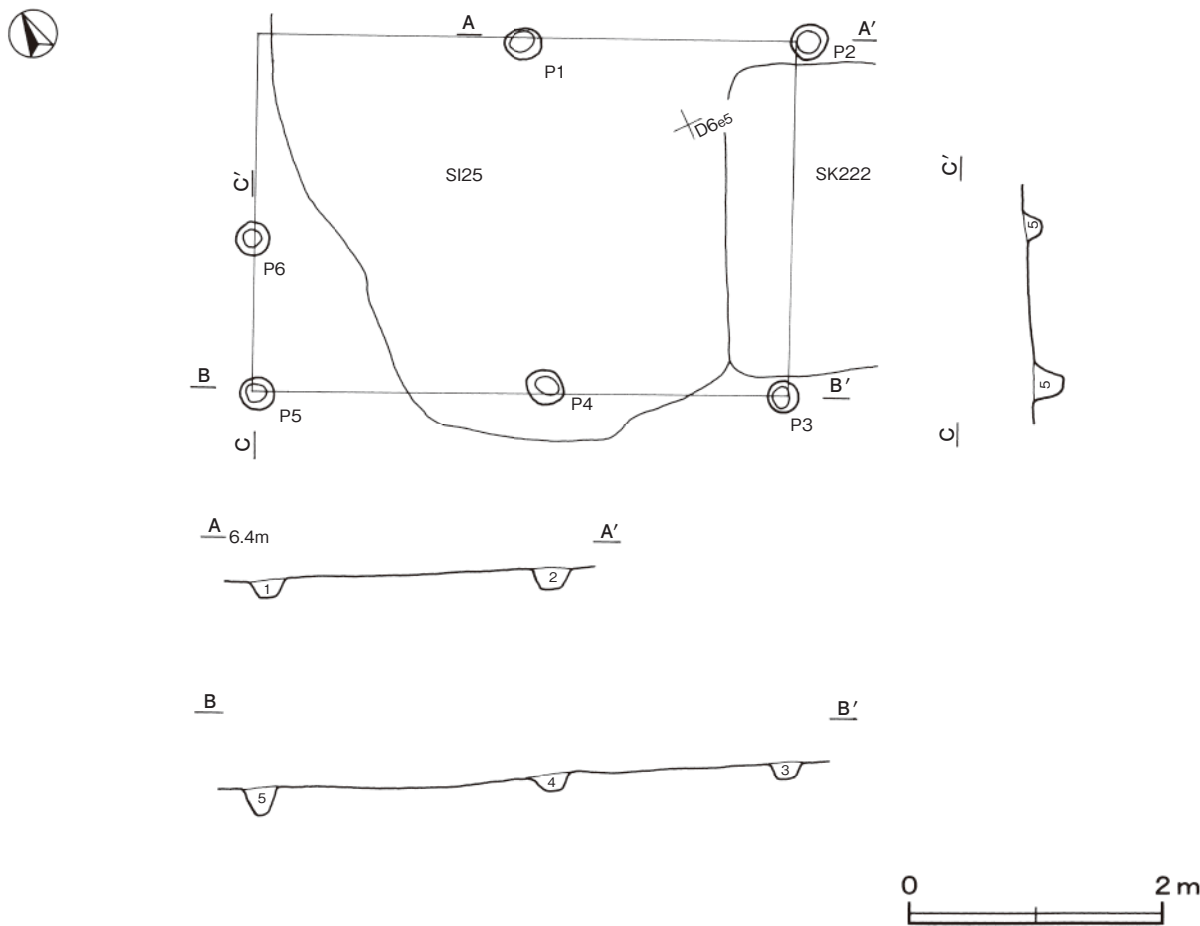
規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-64°-Wの東西棟である。規模は桁行4.20m，梁行3.00mで，面積は12.6㎡である。柱間寸法は桁行が2.10m（7尺）を基調とし，梁行は1.50m（5尺）を基調としているが，やや不規則である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形又は楕円形で，規模は長径34～44cm，短径32～36cmである。深さは10～42cmで，断面はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量 | | |

所見 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。時期は，出土土器がないため不明であるが，重複関係から近世と考えられる。



第91図 第3号掘立柱建物跡実測図

表12 近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴(cm)				主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
2	F 9 d 9	N-61°-W	1×1	3.15×2.40	7.56	3.15	2.40	側柱	4	円形・楕円形	8～11		SD16→本跡
3	D 6 d 4	N-64°-W	2×2	4.20×3.00	12.60	2.10	1.50	側柱	6	円形・楕円形	10～42		SI25・SK222→本跡

(2) 段切り状遺構

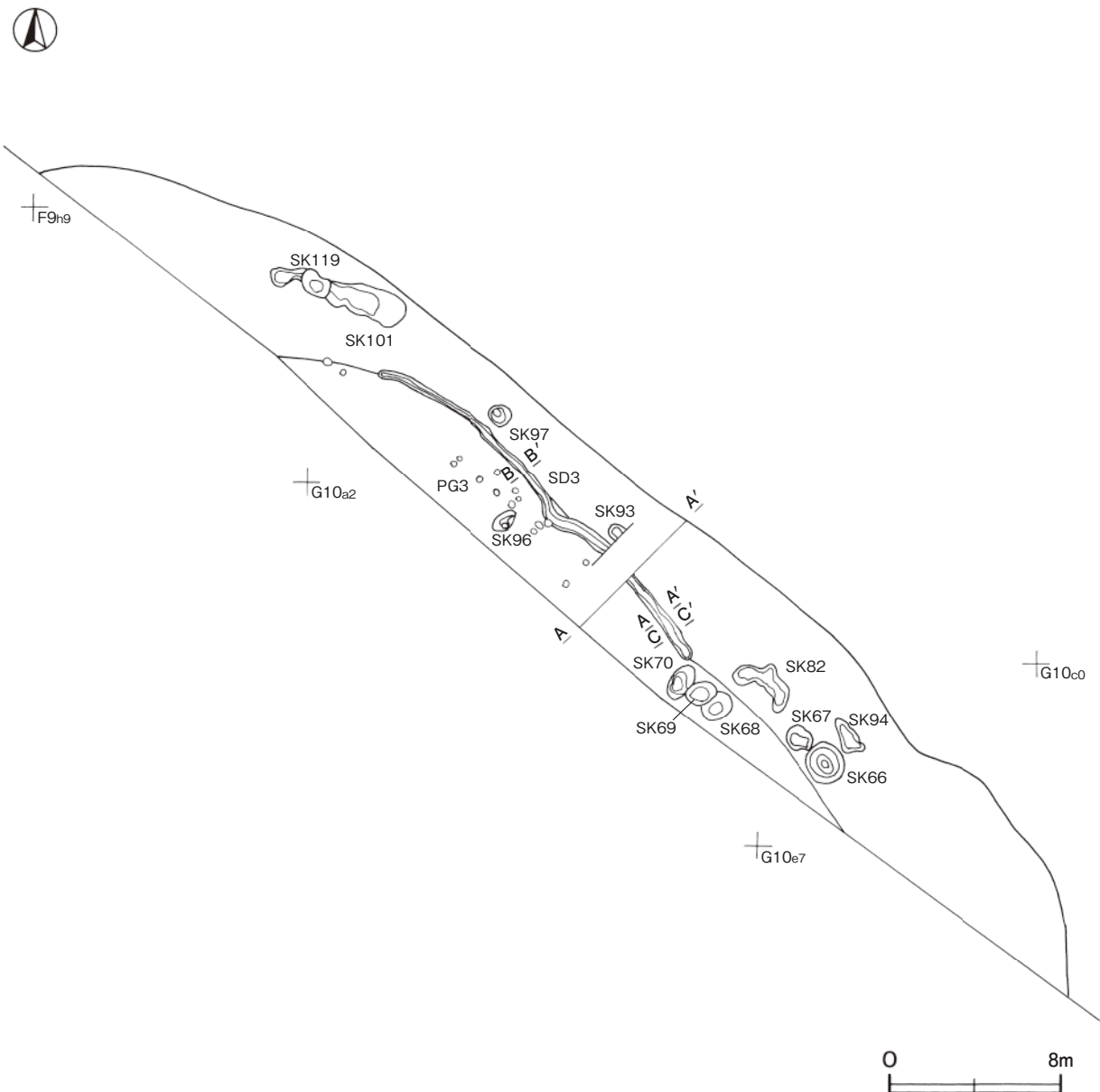
調査Ⅱ区の中央部で、斜面を削平して平坦面を構築した段切り状遺構1か所（溝跡1条，土坑12基，ピット群1か所）を確認した。以下，検出された遺構と遺物について記述する。なお，出土遺物がなく時期や性格が不明の土坑については一覧表と土層解説で紹介する。

段切り状遺構（第92・93図）

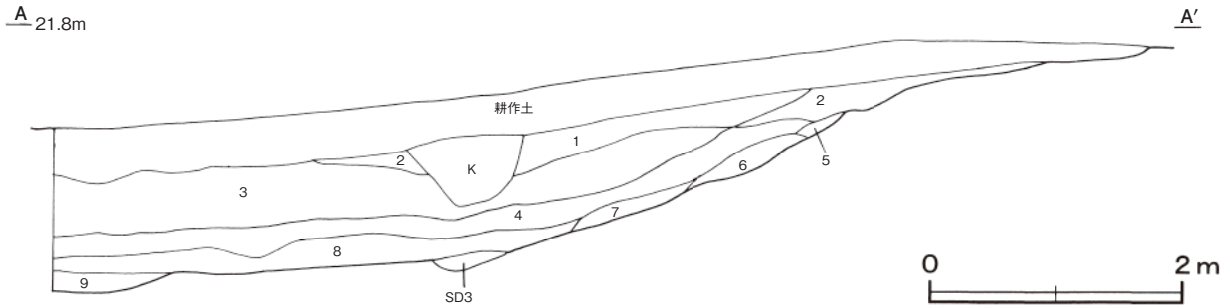
位置 調査Ⅱ区中央部のF 9 g9～G 10f0区，標高21.7～19.6mの河岸段丘端部の傾斜面に位置している。

確認状況 河岸段丘端部を削り出して平坦面を構築している。砂層の平坦面に溝跡1条，土坑12基，ピット群1か所が確認されている。南側は調査区域外に延びており，崖状の斜面に続いているため全容は不明である。

規模と形状 確認された規模は南北7.8m，東西58.3mで，確認面から底面に向かって緩やかに傾斜しながら，深さ128cmほど掘り込まれており，底面には南北3.2m，東西33.0mの平坦面が確認されている。



第92図 段切り状遺構実測図(1)



第93図 段切り状遺構実測図(2)

覆土 9層に分層される。第1～5層は後世の埋め戻しによる人為堆積、第6～9層は斜面に流れ込んだ自然堆積層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|----------|-------------------|
| 1 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 5 褐色 | 砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 砂粒少量 |
| 3 褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色 | 砂粒少量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子・砂粒微量 | 8 暗褐色 | 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 9 褐色 | 砂粒少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片7点, 土師質土器3点が覆土上層から出土しており, 後世の埋め戻しにより混入したものと考えられる。

所見 河岸段丘上の中央部を砂層の地山まで掘り込んで平坦面を削り出すために, 傾斜面を削平したものと考えられる。中央部の底面から第3号溝跡や第66～70, 82・93・94・96・97・101・119号土坑, 第3号ピット群が確認されていることから, 本跡を造成した後, これらの遺構が掘り込まれたと考えられる。時期は, 第101・119号土坑の年代観から, 近世後期には埋没していたと考えられる。

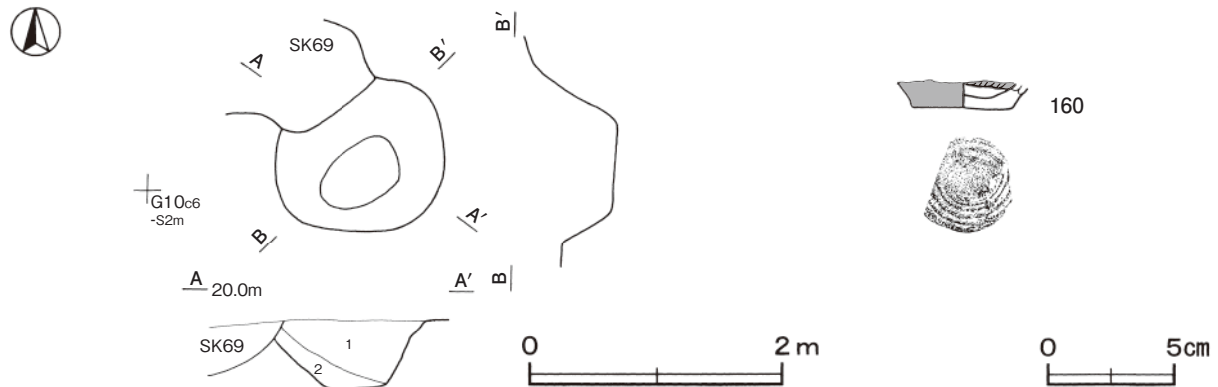
ア 土坑

第68号土坑 (第94図)

位置 調査Ⅱ区中央部のG10c6区, 段切り状遺構の東部に位置している。

重複関係 第69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.44m, 短軸1.05mの楕円形で, 深さは50cm, 主軸方向はN-46°-Eである。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっている。



第94図 第68号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層される。北側の高位から流れ込んだ堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量
- 2 褐色 砂質粘土粒子・細礫多量

遺物出土状況 土師器片1点，土師質土器片1点が覆土中から出土している。いずれも混入したものと考えられる。

所見 時期は，判定できる土器がないため不明である。

第68号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
160	土師質土器	小皿	—	(1.0)	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	10% 内・外面油煙付着

第101号土坑（第95・96図）

位置 調査Ⅱ区中央部のF10h2区，段切り状遺構の北西部の斜面に位置している。

重複関係 第119号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.20m，短軸1.40mの不定形で，長軸方向はN-66°-Wである。深さは20cm，底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

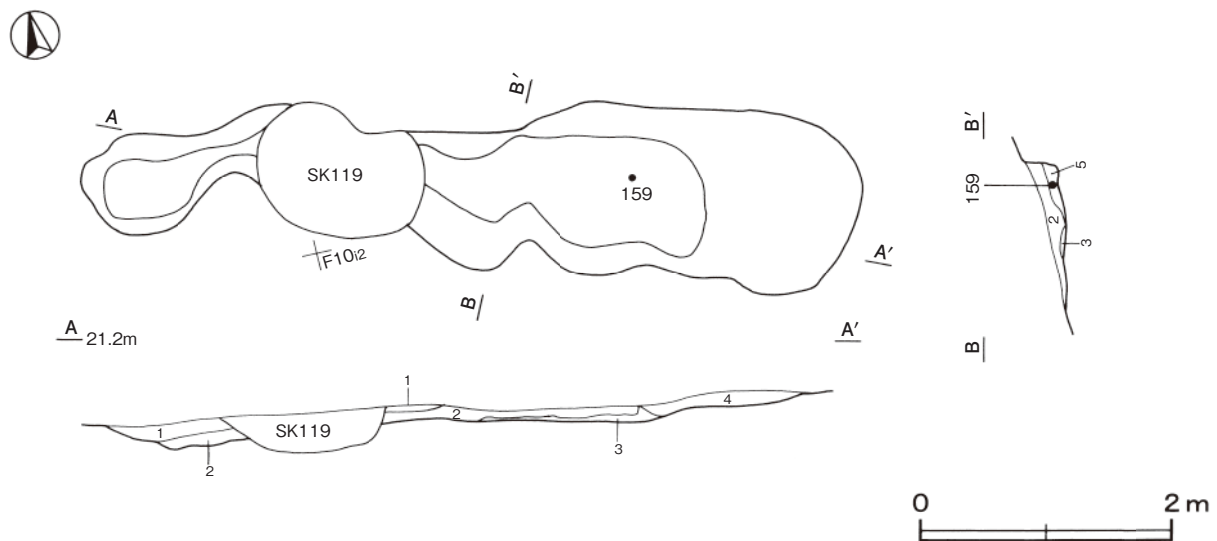
覆土 5層に分層される。斜面に位置しており，北側の高位から流れ込んだ砂粒による自然堆積である。

土層解説

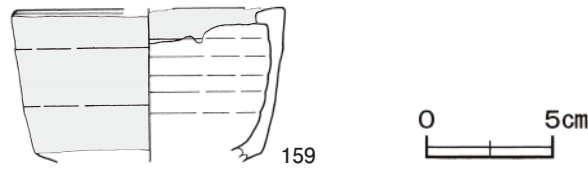
- 1 褐色 炭化粒子・砂粒微量
- 4 暗褐色 砂粒少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化物・砂粒微量
- 5 褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 3 にぶい黄褐色 砂粒中量，炭化物・ローム粒子微量

遺物出土状況 陶器片3点（碗2，香炉1），磁器片1点（碗）が出土している。その他，流れ込んだ土師器片8点も出土している。159は東部の底面から出土している。

所見 形状が不定形で，覆土が自然堆積による埋没のため，自然流路の可能性が考えられる。時期は，出土土器から19世紀前半には埋没していたと考えられる。



第95図 第101号土坑実測図



第96図 第101号土坑出土遺物実測図

第101号土坑出土遺物観察表（第96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
159	陶器	香炉	[10.6]	(6.1)	—	石英	長石 釉	にふい 黄橙・ 浅黄	普通	ロクロ成形 底部無釉 外面長石釉	覆土中	5% PL19 瀬戸・美濃系

第119号土坑（第97図）

位置 調査Ⅱ区中央部のF10h2区，段切り遺構内の北西斜面部に位置している。

重複関係 第101号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.30m，短径0.85mの楕円形で，長径方向はN-66°-Wである。深さは32cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

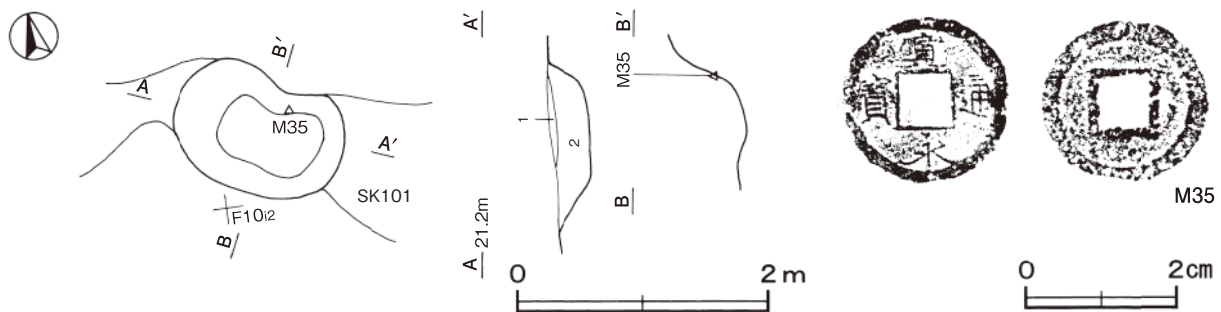
覆土 2層に分層される。炭化物や細礫を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 2 暗褐色 砂粒中量，細礫少量，炭化物微量

遺物出土状況 陶器片1点（碗），磁器片1点（碗），古銭（新寛永通寶）が出土している。その他，流れ込んだ土師器片3点，土師質土器片2点も出土している。M35は覆土中から出土しており，埋没過程で混入したものと考えられる。出土土器はいずれも細片のため，図示できない。

所見 時期は，重複関係と出土土器から19世紀前半と考えられる。



第97図 第119号土坑・出土遺物実測図

第119号土坑出土遺物観察表（第97図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M35	新寛永通寶	2.16	0.72	0.09	1.9	1697	銅	無背	底面	PL28

第66・67・69・70・82・93・94・96・97号土坑（第98・99図）

第66号土坑土層解説

- 1 にぶい橙色 砂粒・細礫少量，ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
- 3 黄褐色 砂質粘土ブロック・細礫少量，ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
- 5 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子・細礫少量，ローム粒子微量
- 6 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック・細礫微量
- 7 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック・細礫少量，ローム粒子微量

- 3 褐色 砂質粘土粒子多量，細礫中量
- 4 灰黄褐色 砂質粘土粒子・細礫少量

第93号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子・細礫中量
- 2 褐色 砂粒多量
- 3 褐色 砂質粘土粒子多量，細礫中量

第67号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 細礫少量，ローム粒子微量

第94号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂質粘土粒子・砂粒微量
- 2 にぶい黄色 砂質粘土粒子中量，砂粒微量
- 3 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子・砂粒少量
- 4 褐色 砂質粘土ブロック少量，砂粒微量

第69号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子・細礫中量
- 2 褐色 砂粒多量
- 3 褐色 砂質粘土粒子多量，細礫中量
- 4 灰黄褐色 砂質粘土粒子・細礫少量

第96号土坑土層解説

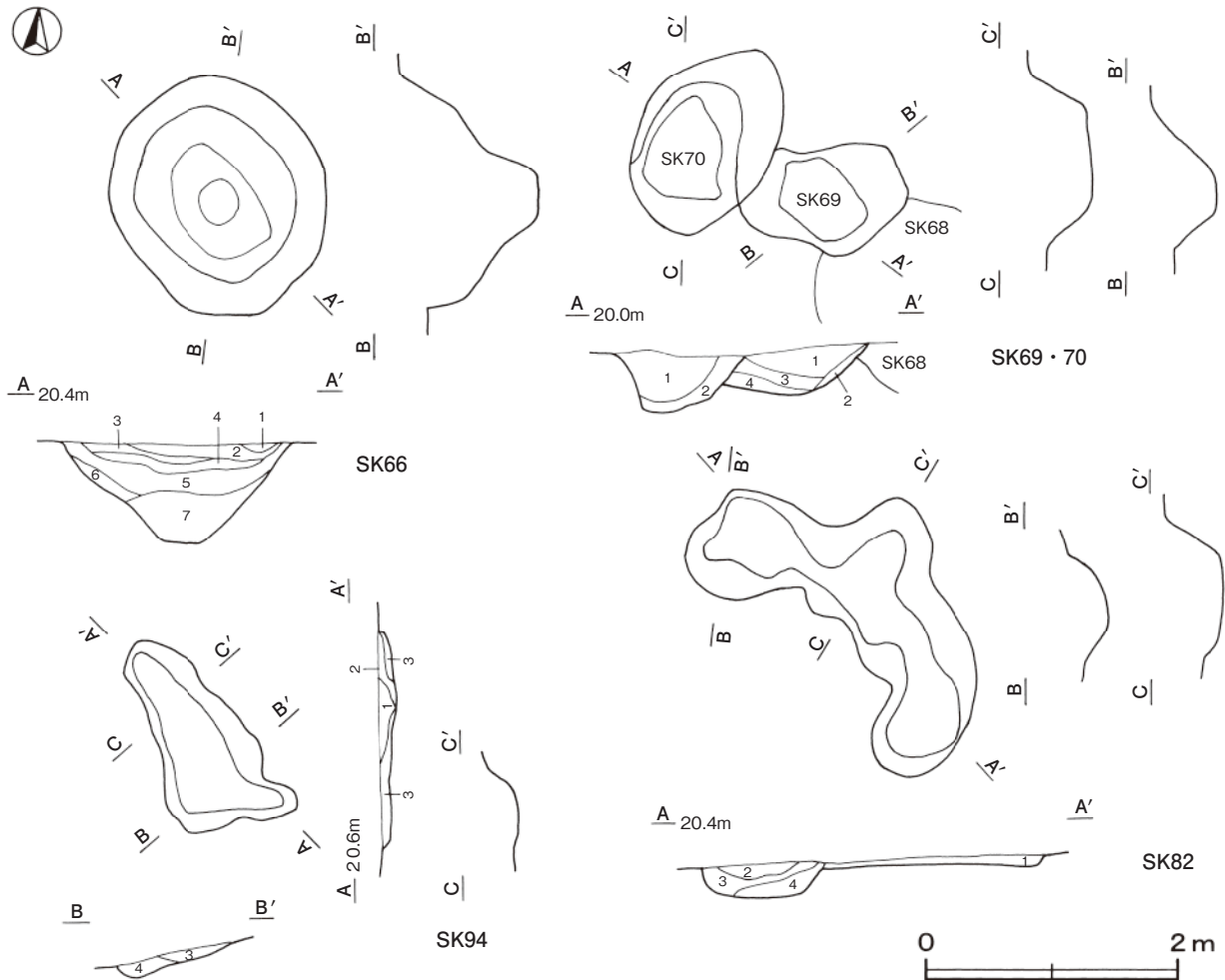
- 1 暗褐色 砂粒少量，ローム粒子微量
- 2 黄褐色 ローム粒子・砂粒中量，細礫微量

第70号土坑土層解説

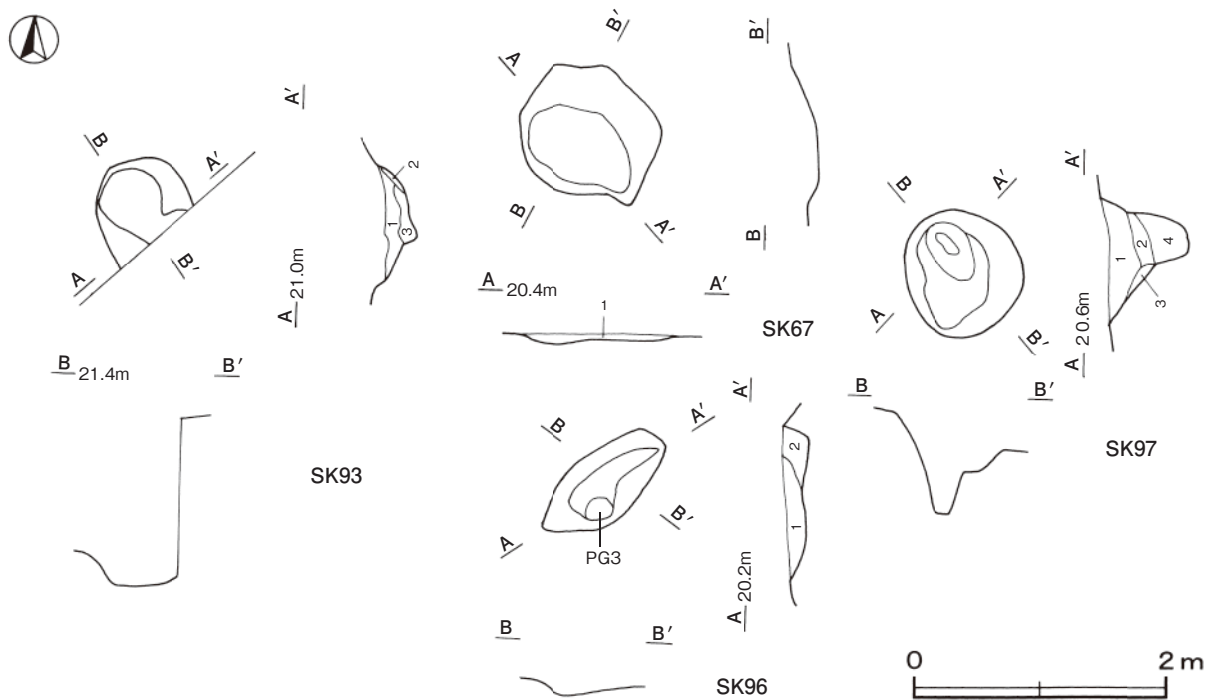
- 1 暗褐色 砂質粘土粒子・細礫少量
- 2 黒褐色 砂質粘土ブロック少量

第97号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 明黄褐色 砂質粘土ブロック・砂粒少量，ローム粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量



第98図 段切り状遺構内土坑実測図(1)



第99図 段切り状遺構内土坑実測図(2)

表13 近世段切り状遺構内土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径 (軸) × 短径 (軸)							重複関係 (古→新)
66	G10c7	N - 32° - W	楕円形	1.81 × 1.65	90	緩斜	平坦	自然			
67	G10c7	N - 30° - W	不定形	1.28 × 1.06	13	緩斜	平坦	自然			
68	G10c6	N - 46° - E	楕円形	1.44 × 1.05	50	緩斜	平坦	自然	土師質土器	本跡→SK69	
69	G10c6	N - 79° - E	楕円形	1.31 × 0.85	39	緩斜	皿状	自然		SK68 → 本跡 → SK70	
70	G10c6	N - 37° - E	楕円形	1.59 × 1.02	43	緩斜	平坦	自然		SK69 → 本跡	
82	G10c6	N - 44° - W	不定形	2.72 × 1.14	30	緩斜	平坦	自然			
93	G10a5	N - 20° - E	[楕円形]	(0.90) × 0.70	28	緩斜	平坦	自然			
94	G10c7	N - 35° - W	不定形	1.80 × 0.90	21	緩斜	平坦	人為			
96	G10a4	N - 50° - E	楕円形	1.20 × 0.56	20	緩斜	皿状	自然		本跡 → PG 3	
97	F10j4	N - 0°	円形	1.00 × 0.93	63	緩斜	平坦	人為			
101	F10h2	N - 66° - W	不定形	6.20 × 1.40	20	緩斜	平坦	自然	土師器 陶器 磁器	本跡 → SK119	
119	F10h2	N - 66° - W	楕円形	1.30 × 0.85	32	外傾	平坦	人為	土師器 土師質土器 陶器 磁器 古銭	SK101 → 本跡	

イ 溝跡

第3号溝跡 (第100図)

位置 調査Ⅱ区中央部のF10i2～G10b6区、河岸段丘上で標高19.6mの段切り状遺構の底面に位置している。

重複関係 第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 F10i2区からG10b6区まで、南東方向 (S - 52° - E) へ直線的に延びている。規模は長さ18.60m、上幅0.32～0.58m、下幅0.10～0.32m、深さ7cmである。底面は浅いU字状で、壁は直立している。

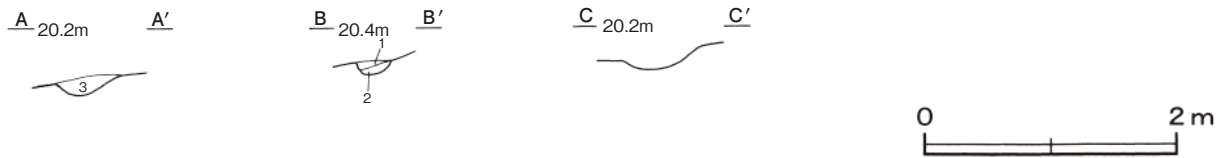
覆土 3層に分層される。周囲の砂粒が流れ込んだ自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 褐色 砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 砂粒中量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土ブロック・砂粒微量 | |

遺物出土状況 流れ込んだ土師器片1点が出土している。

所見 覆土の堆積状況から、自然流路の可能性も考えられる。時期は、判定できる土器がないため不明である。



第100図 第3号溝跡実測図

ウ ビット群

第3号ビット群 (第101図)

位置 調査Ⅱ区南部のF10i2～G10a5区で、標高20.0mの河岸段丘上の平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝跡と第96号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 範囲から16か所のビットが確認された。平面形は径(長径)16～45cmの円形又は楕円形で、深さは28～68cmである。

覆土 すべて抜き取り後の覆土であり、黄褐色土で締まりは弱い。

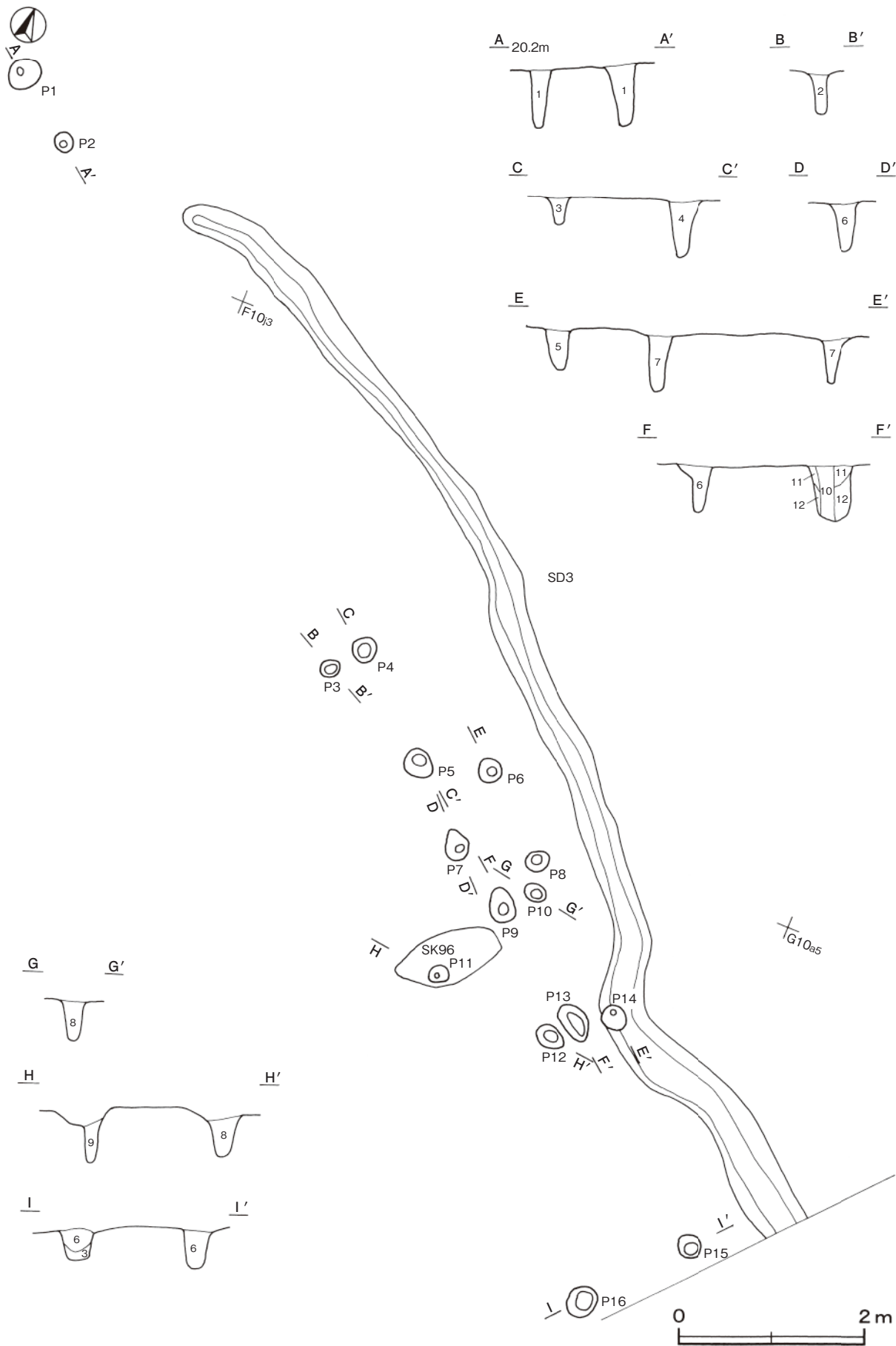
土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 砂粒中量, 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 7 黄褐色 砂粒中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 砂粒・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 8 にぶい黄褐色 砂粒多量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 砂粒多量 | 9 明黄褐色 砂粒・砂質粘土粒子中量 |
| 4 暗褐色 砂粒多量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 橙褐色 砂粒少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 11 褐色 砂粒多量, ローム粒子微量 |
| 6 褐色 砂粒多量 | 12 にぶい黄褐色 砂粒多量, 焼土ブロック微量 |

所見 ビットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ビット群としてとらえた。時期は、出土土器がないため不明である。

第3号ビット群ビット一覧表

ビット番号	形状	規模 (cm)			ビット番号	形状	規模 (cm)			ビット番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	35	30	65	7	楕円形	34	25	52	13	楕円形	45	25	56
2	楕円形	23	20	62	8	楕円形	30	23	68	14	円形	26	26	46
3	楕円形	21	19	43	9	楕円形	38	28	50	15	円形	26	25	40
4	円形	27	26	28	10	楕円形	25	16	34	16	楕円形	35	30	32
5	楕円形	35	30	65	11	楕円形	20	18	41					
6	円形	26	25	43	12	楕円形	32	21	43					

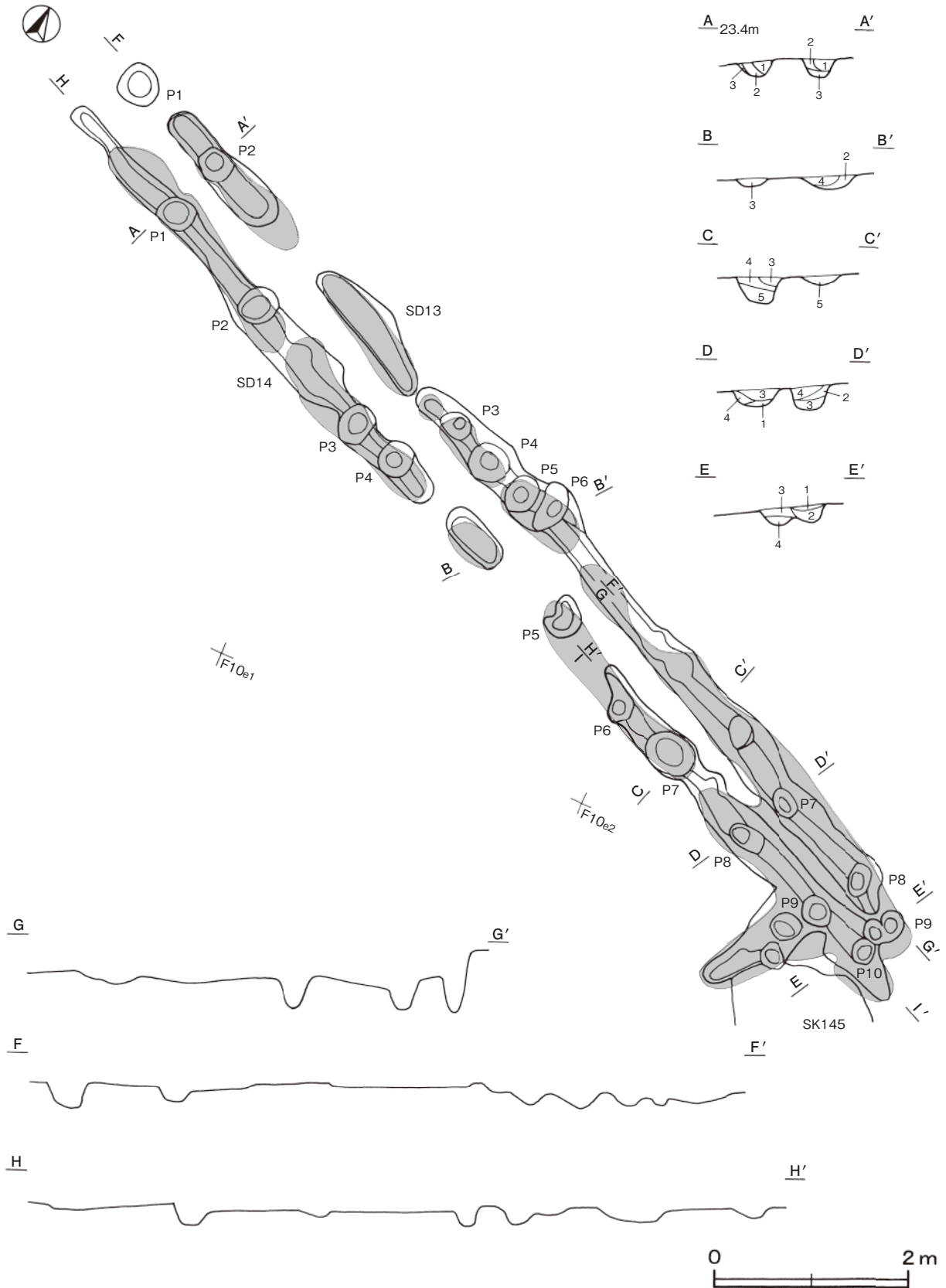


第101図 第3号ピット群実測図

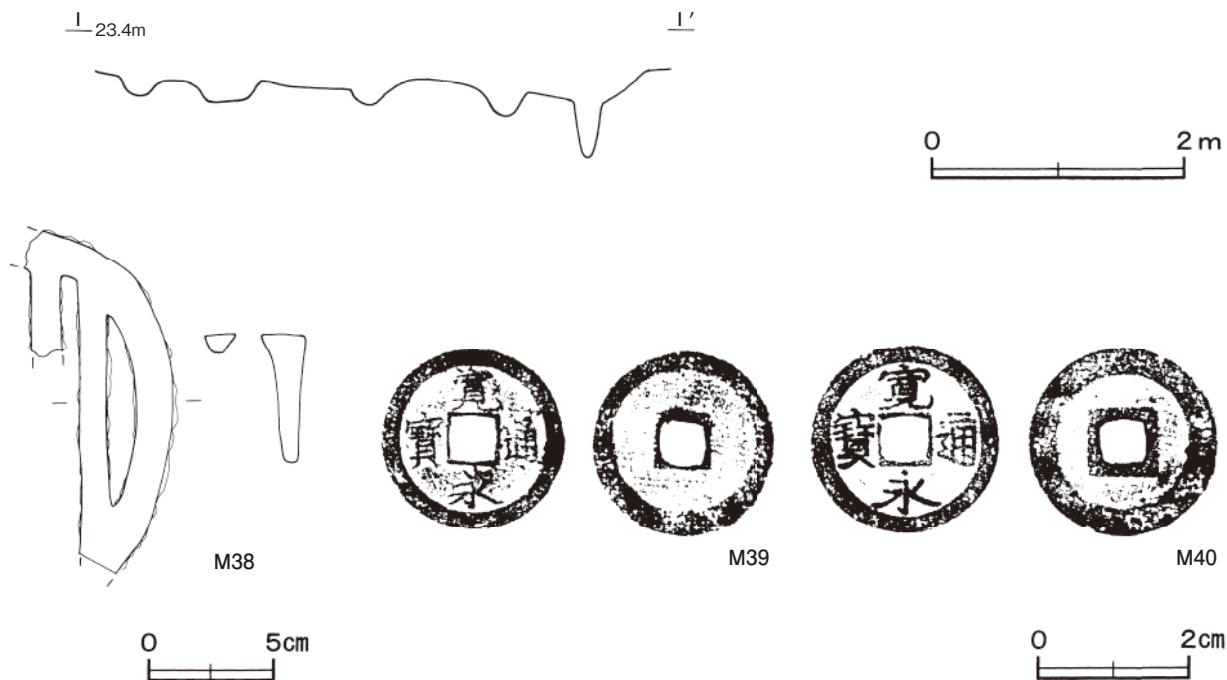
(3) 溝跡

第13号溝跡 (第102・103図)

位置 調査Ⅱ区西部F 9c0～F10e2区, 標高24.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。



第102図 第13・14号溝跡実測図



第103図 第14号溝跡・第13号溝跡出土遺物実測図

確認状況 形状と規模が似ている第14号溝跡が南側に平行して確認されており、両溝跡の確認面全体に焼土・炭化物が検出されている。

規模と形状 東西方向（N-64°-W）へ直線的に伸びている。一部掘り込みが浅いため、立ち上がっている部分が確認されているが、ほぼ直線上に掘り込まれているため同じ遺構と認識できる。規模は、長さ11.95m、上幅0.24～0.49m、下幅0.14～0.26m、深さ12cmである。断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 9か所。P1～P9は径22～38cmの円形で、深さは10～42cmである。規模や形状に規則性はないが、ほぼ一直線上に並んでいる。

覆土 5層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化材少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片2点, 陶器片3点, 鉄製品2点（五徳カ, 釘）, 古銭2点（寛永通宝）が出土している。いずれも混入によるものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から近世と考えられる。

第13号溝跡出土遺物観察表（第103図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 38	五徳カ	(13.7)	(5.7)	5.1	(199.7)	鉄	断面台形	覆土中	PL27

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M 39	古寛永通寶	2.44	0.62	0.12	2.8	1636	銅	無背	覆土中	PL28
M 40	古寛永通寶	2.49	0.58	0.12	2.9	1636	銅	無背	覆土中	PL28

第14号溝跡（第102・103図）

位置 調査Ⅱ区西部のF 9 c0～F 10e2区，標高24.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

確認状況 形状と規模が類似する第13号溝跡が北側に平行して確認されており，両跡の確認面全体に焼土・炭化物が検出されている。

重複関係 第145号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西方向（N-64°-W）へ直線的に延びている。一部掘り込みが浅いため，立ち上がっている部分が確認されているが，ほぼ直線上に掘り込まれているため同じ遺構と認識できる。規模は，長さ12.41m，上幅0.15～0.51m，下幅0.08～0.25m，深さ5cmである。断面形はU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 10か所。P 1～P 10は径24～48cmの円形で，深さは6～52cmである。規模や形状に規則性はないが，ほぼ一直線上に並んでいる。

覆土 5層に分層される。不規則な堆積状況と全層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・礫小微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量，焼土ブロック微量 | | |

所見 第13・14号溝跡は平行して延びており，覆土の含有物に若干の違いが見られるがほぼ同じ土層の堆積状況を呈していることから，同時期に機能した遺構，または作り替えの可能性が考えられる。時期は，第13号溝跡の年代観から近世と考えられる。

表14 近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					重複関係(古→新)
13	F 9 c0～F 10e2	N-64°-W	直線状	11.95	0.24～0.49	0.14～0.26	12	外傾	平坦	人為	土師器，陶器，五徳カ，釘，古銭	
14	F 9 c0～F 10e2	N-64°-W	直線状	12.41	0.15～0.51	0.08～0.25	5	外傾	平坦	人為		本跡→SK145

(4) 井戸跡

第3号井戸跡（第104図）

位置 調査Ⅰ区西部のD 6 c8区，標高6.0mの微高地の平坦面に位置している。

重複関係 第15号溝跡を掘り込んでいる。

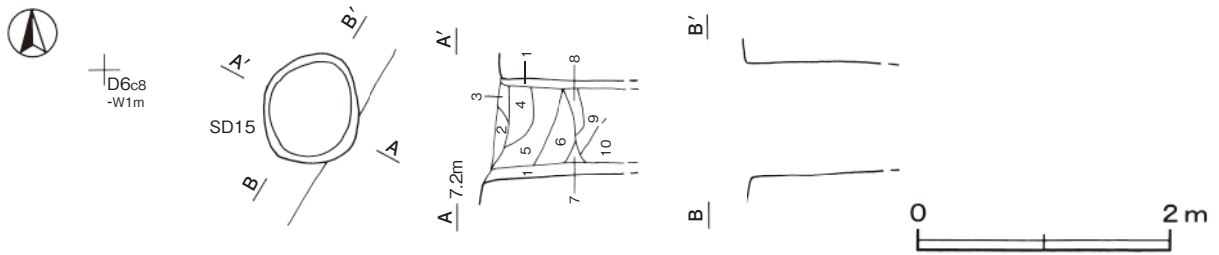
規模と形状 径0.88mの円形で，確認面から円筒状に掘り込まれている。深さ1.08mで崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

覆土 10層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。第1層は縦位に確認されていることから，木製の井戸枠が設けられていたと想定される。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | 砂粒微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，砂粒少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量，砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂粒微量 | 8 褐色 | ローム粒子・砂粒少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量，砂粒微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量，砂粒少量 |

所見 覆土第1層に縦位の層が見られることから，木製の桶を重ねた井戸枠が設けられていた可能性が考えられる。時期は，出土土器がないため不明であるが，重複関係から近世と考えられる。



第104図 第3号井戸跡実測図

(5) 土坑

第123号土坑 (第105・106図)

位置 調査Ⅱ区西部のF 9 d6区、標高22.5mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 第140号土坑を掘り込み、第122号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.66mの隅丸長方形で、深さは32cm、長軸方向はN-90°-Eである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

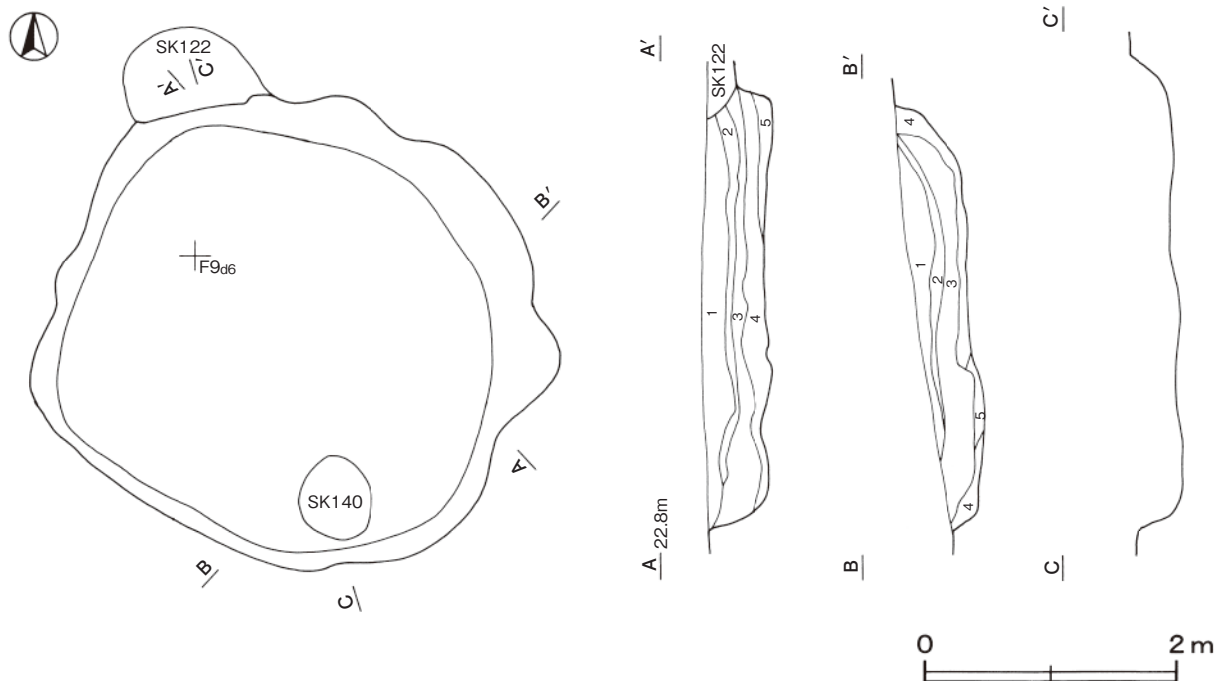
覆土 5層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

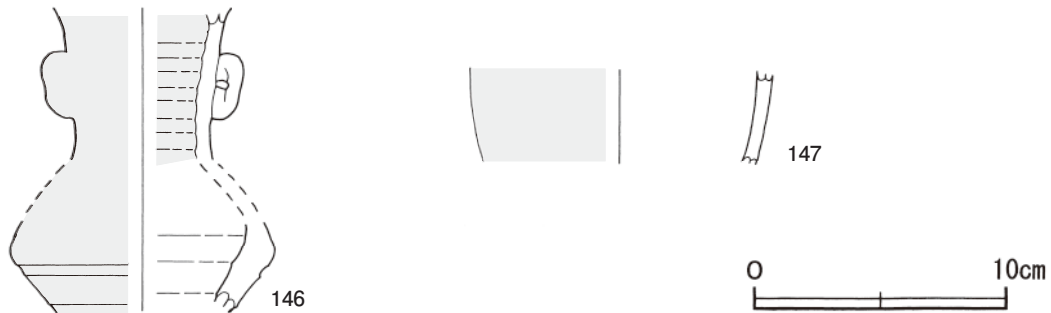
- | | | | |
|-------|----------------|------|------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 陶器片2点(仏花瓶, 瓶類), 磁器片3点(碗)が出土している。その他, 流れ込んだ土師器片2点, 須恵器片2点も出土している。146・147は覆土中から出土しており, 埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係と出土土器から18世紀後半と考えられる。



第105図 第123号土坑実測図



第106図 第123号土坑出土遺物実測図

第123号土坑出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
146	陶器	仏花瓶	—	(12.1)	—	長石	鉄釉	にぶい黄橙・黒褐	普通	頸部・体部破片 盤口形 ロクロ成形後耳貼り付け 体部横位2条の沈線 内・外面鉄釉	覆土中	10% PL19 瀬戸・美濃系
147	陶器	瓶類カ	—	(3.8)	—	長石	灰釉	灰黄・黄褐	普通	体部破片 ロクロ成形 外面灰釉	覆土中	5% 瀬戸・美濃系

第126号土坑（第107・108図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 9 il区、標高23.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

重複関係 第127号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.22m、短軸1.50mの隅丸長方形で、深さは85cm、長軸方向はN-75°-Wである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

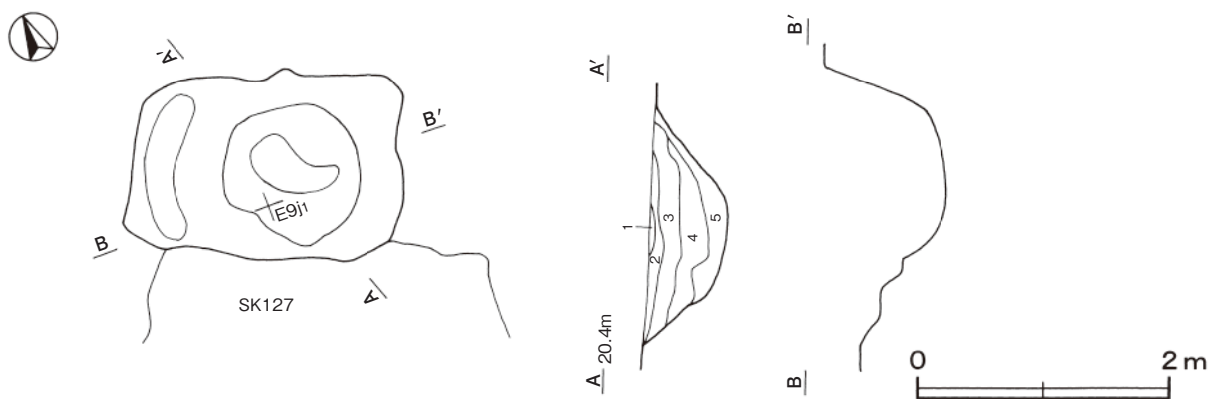
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

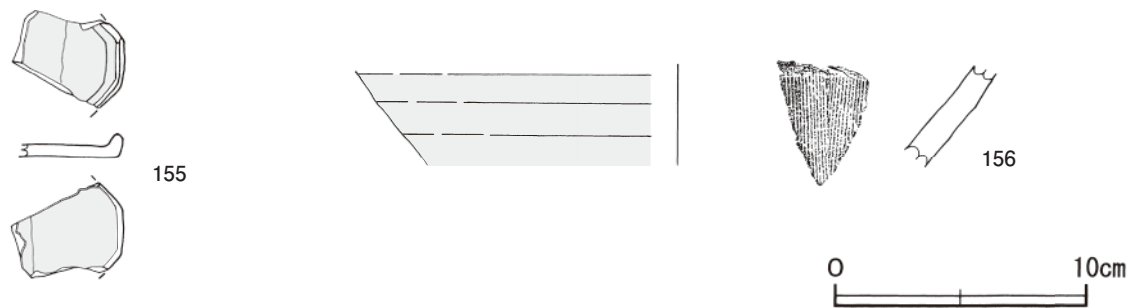
- | | | | |
|---------|-----------------|---------|---------------|
| 1 褐 色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 | 4 褐 色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | 砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 3 明 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶器片5点（碗3、皿1、挿鉢1）、磁器片7点（碗）が出土している。その他、流れ込んだ土師器片4点、縄文土器片1点も出土している。155・156は覆土中から出土しており、埋没過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から18世紀後半と考えられる。



第107図 第126号土坑実測図



第108図 第126号土坑出土遺物実測図

第126号土坑出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
155	陶器	青織部向付	—	1.0	—	緻密	銅緑釉 長石釉	淡黄	良好	口縁部銅緑釉 内面長石釉	覆土中	10% 瀬戸・美濃系
156	陶器	播鉢	—	(4.0)	—	石英	鉄釉	明赤褐	良好	外面鉄釉 12条1単位の播り目	覆土中	10%

第127号土坑（第109・110図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 9j1区、標高23.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

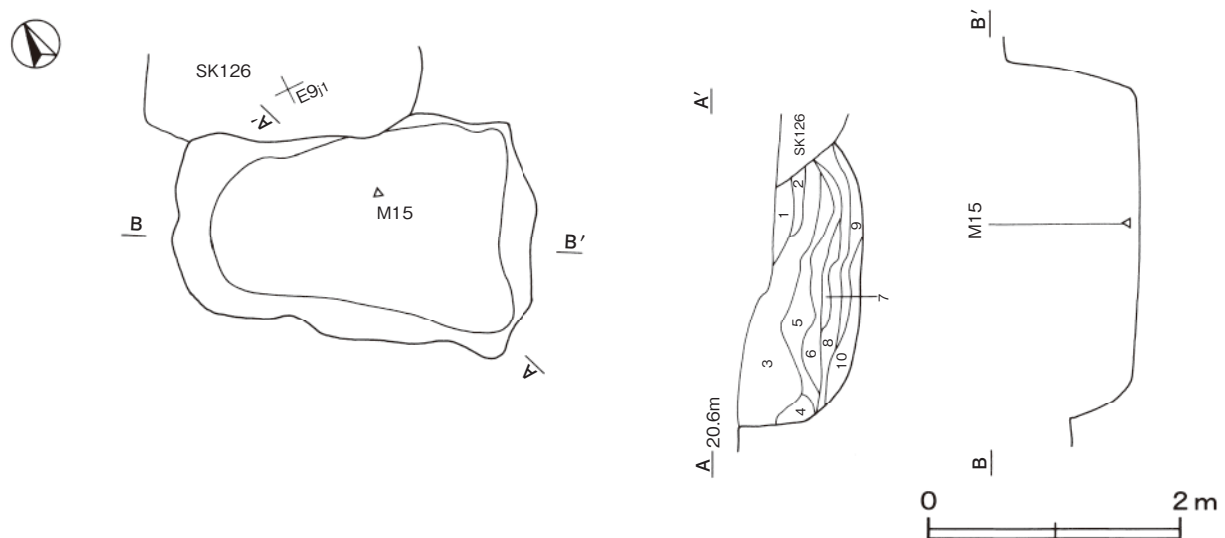
重複関係 第126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.85m、短軸1.80mの隅丸長方形で、深さは100cm、長軸方向はN-75°-Wである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 10層に分層される。粘土ブロックや細礫を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

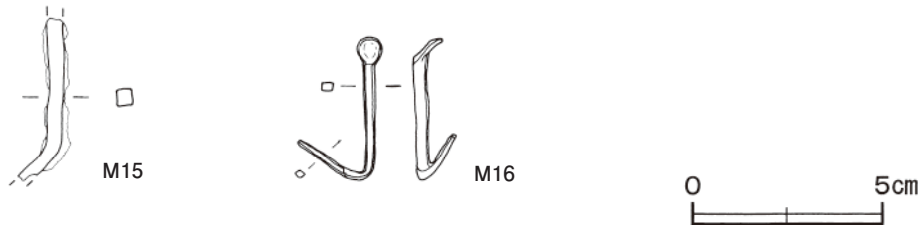
- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------------|----|--------|--------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 | 褐色 | 粘土ブロック・細礫少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黄褐色 | 粘土粒子・炭化粒子微量 | 7 | にぶい黄褐色 | 細礫少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | 細礫少量、炭化物・粘土ブロック・ローム粒子微量 | 8 | 褐色 | 細礫中量、粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 | 明黄褐色 | 砂粒少量、ローム粒子・細礫微量 | 9 | 暗褐色 | 細礫中量、砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子・粘土粒子・細礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 | にぶい黄褐色 | 細礫中量、砂粒少量、ローム粒子微量 |



第109図 第127号土坑実測図

遺物出土状況 鉄製品1点(釘), 銅製品1点(釘)が出土している。M15は覆土下層から出土しており, 埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係から18世紀後半と考えられる。



第110図 第127号土坑出土遺物実測図

第127号土坑出土遺物観察表 (第110図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 15	釘	(4.4)	0.5	0.5	(2.8)	鉄	断面方形	覆土下層	
M 16	釘	3.8	0.3	0.3	2.2	銅	断面方形 頭部平円形	覆土中	

第203号土坑 (第111図)

位置 調査I区東部のE7b1区, 標高6.0mの微高地の緩斜面に位置している。

規模と形状 径0.4mの円形である。深さは30cm, 底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

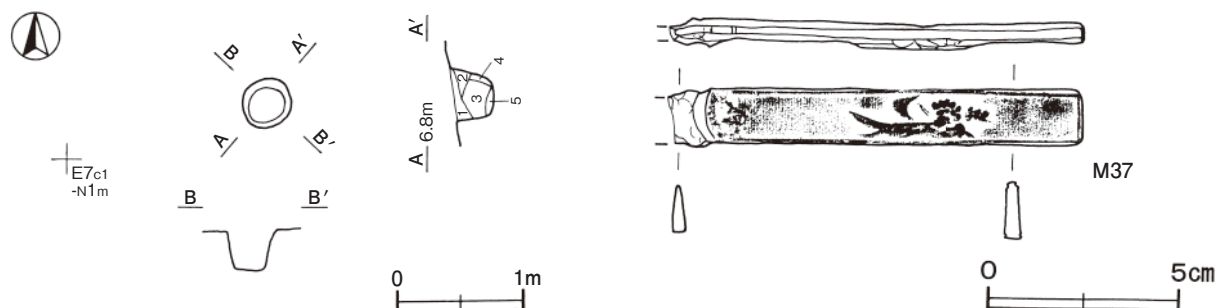
覆土 5層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 鉄製品1点(小柄)が出土している。M37は覆土中から出土しており, 埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 時期は, 出土遺物から近世と考えられる。



第111図 第203号土坑・出土遺物実測図

第203号土坑出土遺物観察表 (第111図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 37	小柄	(10.9)	1.6	0.7	(29.2)	鉄	断面三角形 刃部欠損 持ち手に帆掛け船陽刻	覆土中	PL27

表15 近世土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径 (軸) × 短径 (軸)						重複関係 (古→新)
123	F 9 d6	N - 90° - E	隅丸長方形	4.18 × 3.66	32	緩斜	平坦	人為	陶器 磁器	SK140 → 本跡 → SK122
126	E 9 i1	N - 75° - W	隅丸長方形	2.22 × 1.50	85	外傾緩斜	皿状	自然	陶器 磁器	SK127 → 本跡
127	E 9 j1	N - 75° - W	隅丸長方形	2.85 × 1.80	100	外傾緩斜	平坦	自然	銅製品 (釘)	本跡 → SK126
203	E 7 b1	N - 0°	円形	0.40 × 0.40	30	外傾	皿状	人為	鉄製品 (小柄)	

(6) 粘土貼り土坑

第2号粘土貼り土坑 (第112・113図)

位置 調査Ⅱ区東部のF 9 c9区、標高23.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

規模と形状 長径2.58m、短径1.06mの楕円形で、深さは30cm、長径方向はN - 24° - Eである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

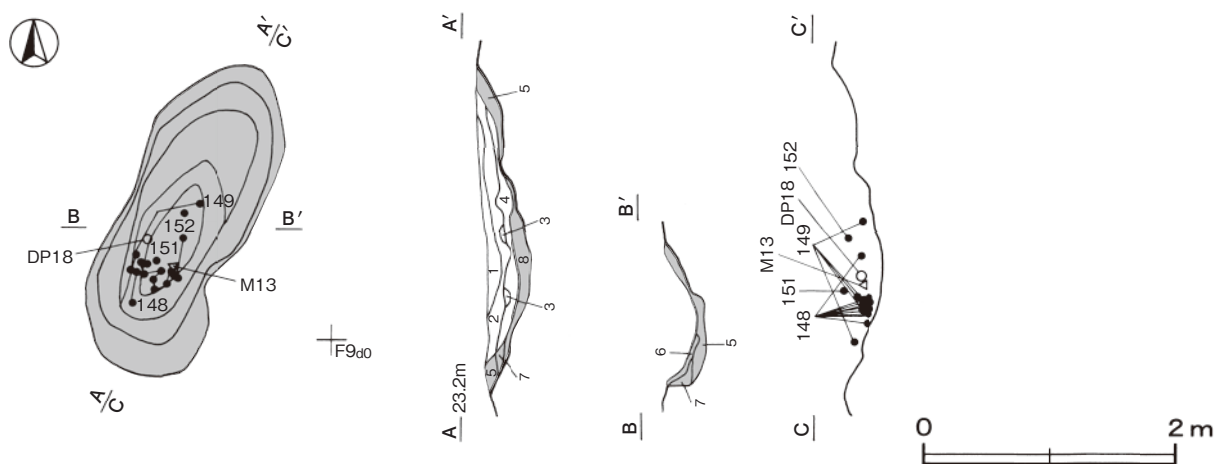
覆土 8層に分層される。不規則な堆積状態で、全層にローム土を含む人為堆積である。第5～8層は底面と壁面を構築する粘土層である。

土層解説

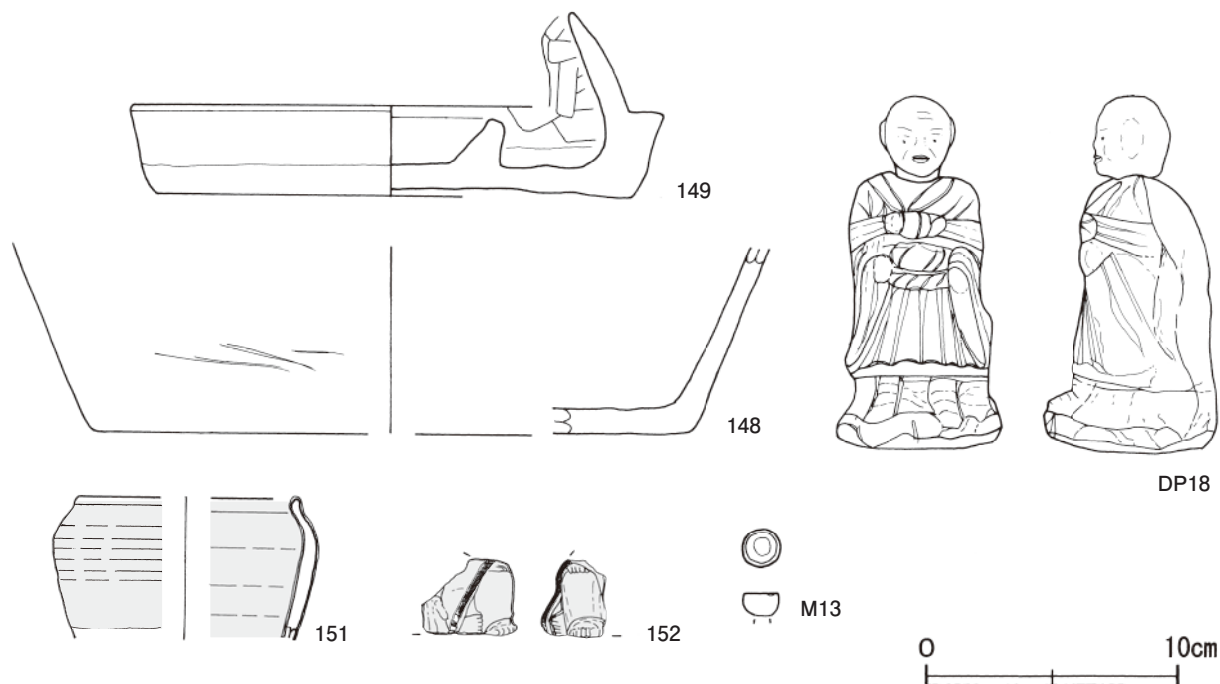
1	褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	5	灰褐色	砂質粘土ブロック多量
2	褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	6	灰褐色	砂質粘土ブロック中量
3	褐色	ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量	7	にぶい黄色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化物微量	8	にぶい黄橙色	砂質粘土ブロック少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器2点 (瓦灯皿、焙烙カ)、陶器片2点 (天目茶碗、人形)、磁器片1点 (碗)、瓦片1点 (平瓦)、土製品1点 (人形)、銅製品1点 (煙管)、礫13点が出土している。148・149は中央部から南部の底面にかけて出土した破片が接合したものである。DP18・M13は南部の覆土下層、151・152は中央部の覆土上層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から18世紀後半と考えられる。



第112図 第2号粘土貼り土坑実測図



第113図 第2号粘土貼り土坑出土遺物実測図

第2号粘土貼り土坑出土遺物観察表 (第113図)

番号	種別	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	胎土 釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
148	土師質土器	焙烙カ	-	(7.4)	23.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部内・外面横ナデ 底部ナデ調整	底面	5%
149	土師質土器	瓦灯皿	21.0	7.4	18.9	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端へら削り 中央部に皿状の突起貼り付け後へら削り ロクロ成形後 口唇端部に舌状の突起貼り付け後へら削り	底面	95% PL19
151	陶器	天目茶碗	[8.7]	(5.7)	-	長石 鉄釉	浅黄	良好	口縁部短く外反 内・外面鉄釉 体部下位露胎	覆土上層	20% 瀬戸・美濃系 PL19
152	陶器	人形	(3.0)	(3.6)	(2.5)	長石 長石釉	にぶ黄橙	良好	型合わせ成形 中空	覆土下層	

番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	胎土 材質	特徴	出土位置	備考
DP18	人形	14.2	6.5	7.0	325.0	雲母・赤色粒子	型押成形 胴部中実	覆土下層	PL24 西行カ
M13	煙管	-	火皿径 1.5	-	(2.3)	銅	火皿	覆土下層	

(7) 墓坑

第31号土坑 (第114図)

位置 調査Ⅱ区東部のG11j0区, 標高24mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

重複関係 第3号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.11m, 短径0.96mの楕円形で, 深さは54cm, 長径方向はN-90°-Eである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。各層にローム土を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

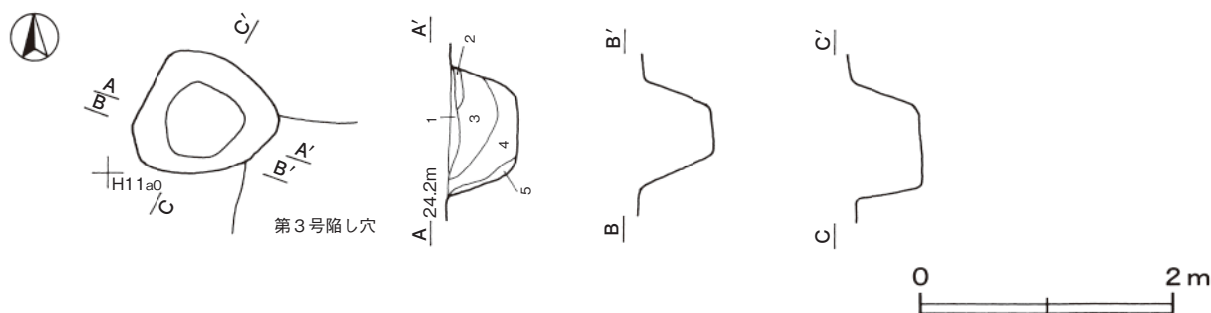
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶器片9点(碗), 磁器片5点(碗)が出土している。また, 第3・4層から毛髪が検出されている。

その他、混入した土師器片2点、須恵器片1点、土師質土器片7点も出土している。遺物は細片のため、図示できない。

所見 毛髪が検出されていることから、墓坑と考えられる。時期は、遺構の形状と出土土器から近世と考えられる。



第114図 第31号土坑実測図

第32号土坑（第115図）

位置 調査Ⅱ区東部のH11a0区、標高24.0mの河岸段丘上の平坦面に位置している。

規模と形状 長径1.20m、短径1.05mの楕円形で、深さは76cm、長径方向はN-40°-Wである。底面の中央部は平坦で、壁溝状のくぼみが東壁下から西壁下に半周している。壁は外傾して立ち上がっている。

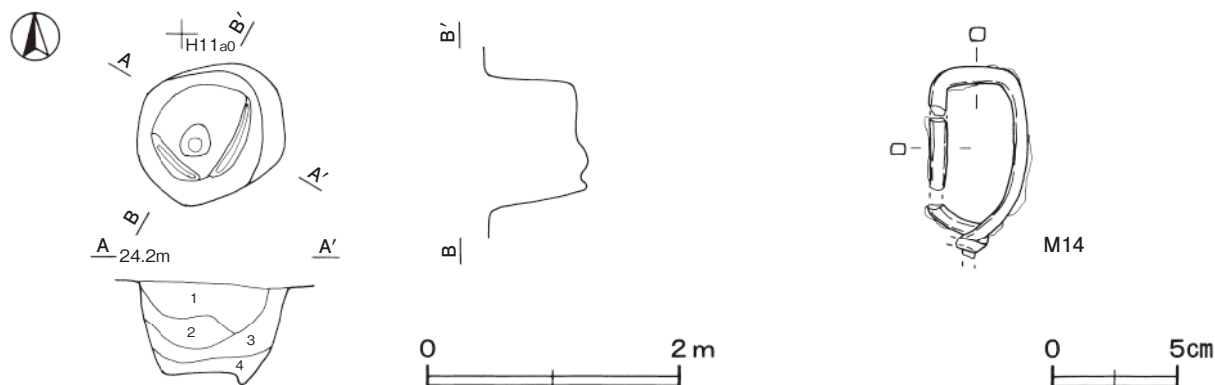
覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 陶器片3点（鉢）、磁器片3点（碗）、不明鉄製品1点が出土している。その他、混入した土師器片4点、須恵器片3点も出土している。M14は覆土中から出土しており、副葬品の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

所見 底面のくぼみの長径は60cmほどであり、早桶などの木棺が置かれていた痕跡と考えられる。時期は、遺構の形状から近世と考えられる。



第115図 第32号土坑・出土遺物実測図

第32号土坑出土遺物観察表（第115図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	不明	(7.5)	0.6	0.5	(16.1)	鉄	断面長方形	覆土中	

第81号土坑（第116図）

位置 調査Ⅱ区東部のG11b1区，標高22.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

規模と形状 長径0.81m，短径0.79mの円形で，深さは20cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

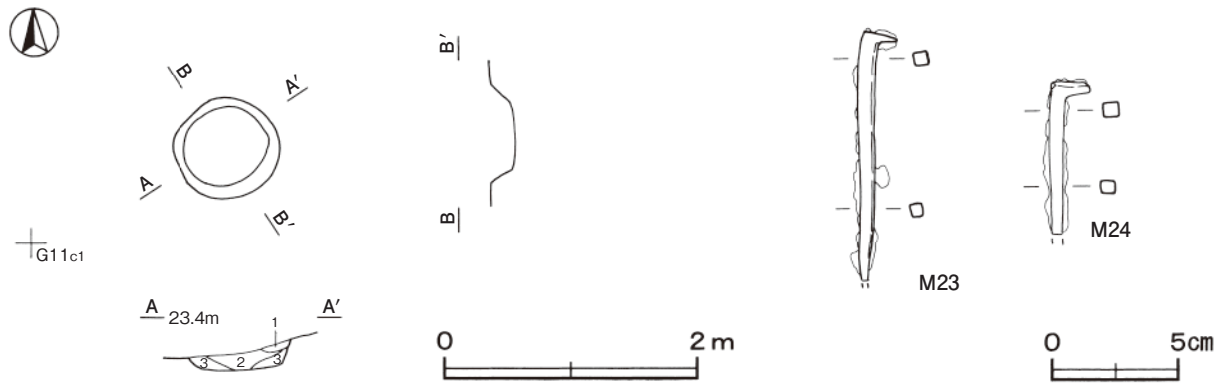
覆土 3層に分層される。各層にローム粒子と炭化粒子を含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|----|-----------------|---|----|---------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 3 | 黒色 | 炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 2 | 黒色 | 炭化物多量，ロームブロック微量 | | | |

遺物出土状況 鉄製品2点（釘）が出土している。また，覆土第2層には骨粉が検出されている。

所見 覆土には炭化物が多くみられるが，底面や壁には火を受けた痕跡がないことから，別の場所で火葬し，本跡に埋葬した墓の可能性が考えられる。時期は，遺構の形状から近世以降と考えられる。



第116図 第81号土坑・出土遺物実測図

第81号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M23	釘	(9.9)	1.6	0.6	(9.2)	鉄	断面方形 先端部欠損	覆土中	PL27
M24	釘	(6.0)	1.6	0.6	(7.2)	鉄	断面方形 一部欠損	覆土中	PL27

第86号土坑（第117図）

位置 調査Ⅱ区中央部のF10h5区，標高22.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

重複関係 第85号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径0.82mの円形で，深さは15cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

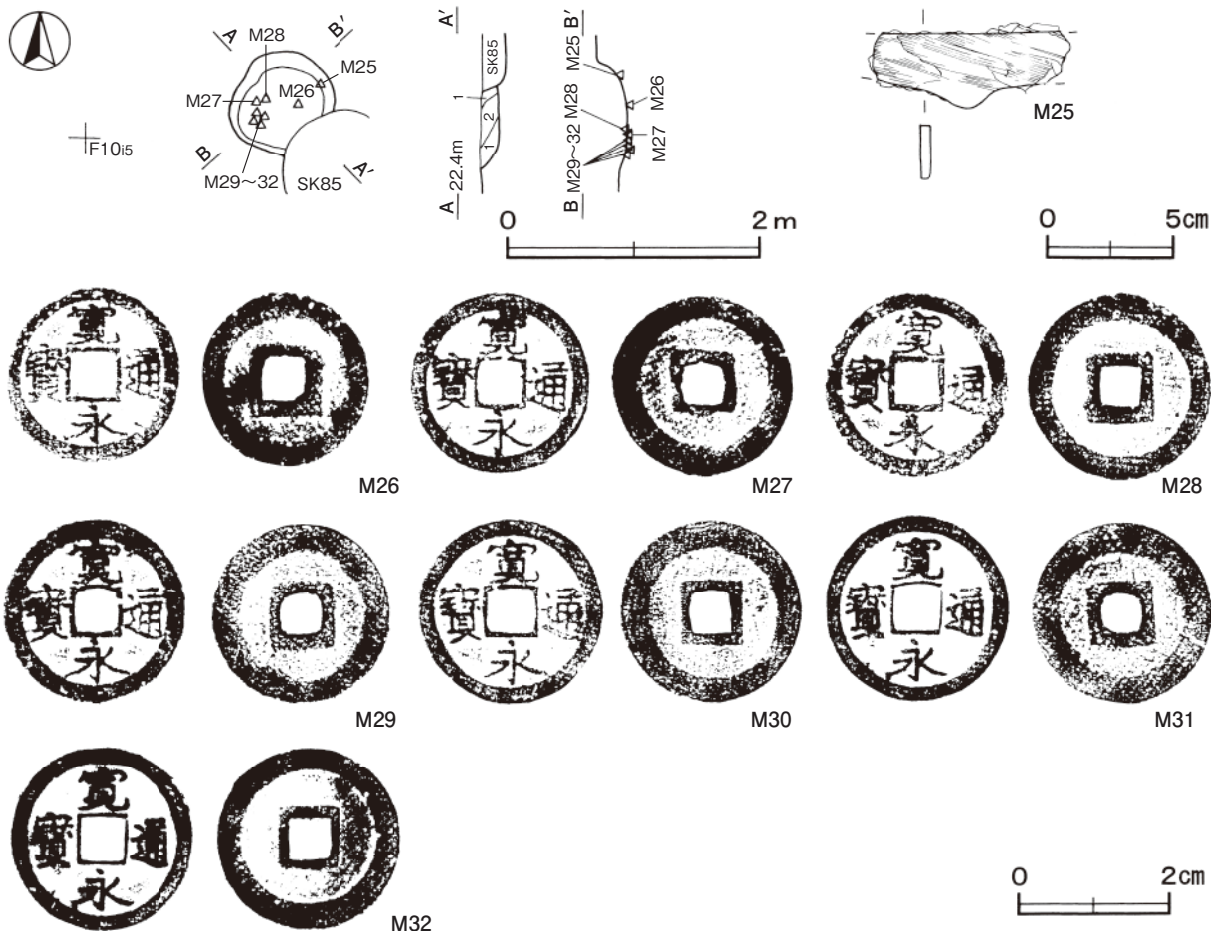
覆土 2層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|----|------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 2 | 黄褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
|---|----|------------------|---|-----|------------------|

遺物出土状況 鉄製品1点（短刀カ），古銭7点（古寛永通寶）とともに，人骨（頭蓋骨・大腿骨）が底面から出土している。M25は頭蓋骨の顎部下から横位で出土している。埋銭と考えられるM26～M32は，中央部の底面から出土している。

所見 埋銭として寛永通寶が7点出土していることや人骨が出土していることから，墓坑と考えられる。時期は，出土遺物から近世と考えられる。



第117図 第86号土坑・出土遺物実測図

第86号土坑出土遺物観察表（第117図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
M 25	短刀カ	(8.0)	(3.0)	0.4	(45.7)	鉄	断面長方形	刃部柄部欠損	木質付着	覆土中	PL27	
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴			出土位置	備考
M 26	古寛永通寶	2.32	0.60	0.09	2.3	1636	銅	無背			底面	PL28
M 27	古寛永通寶	2.38	0.54	0.09	2.5	1636	銅	無背			底面	PL28
M 28	古寛永通寶	2.45	0.54	0.11	3.4	1636	銅	無背			底面	PL28
M 29	古寛永通寶	2.38	0.50	0.12	3.2	1636	銅	無背			底面	PL28
M 30	古寛永通寶	2.41	0.55	0.10	3.1	1636	銅	無背			底面	PL28
M 31	古寛永通寶	2.38	0.55	0.11	3.0	1636	銅	無背			底面	PL28
M 32	古寛永通寶	2.42	0.57	0.12	3.7	1636	銅	無背			底面	PL28

表16 近世墓坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		底面	壁面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)						重複関係 (古→新)
31	G11j0	N - 90° - E	楕円形	1.11 × 0.96	54	平坦	外傾	人為	無	陶器 磁器	TP3 → 本跡
32	H11a0	N - 40° - W	楕円形	1.20 × 1.05	76	平坦	外傾	人為	無	陶器 磁器 不明鉄製品	
81	G11b1	N - 0°	円形	0.81 × 0.79	20	平坦	外傾	人為	有	釘	
86	F10h5	N - 0°	円形	0.82 × 0.82	15	平坦	外傾	人為	有	古銭 鉄製品 (短刀カ)	本跡 → SK85

(8) 墓坑の可能性のある土坑（第118・119図）

調査区から検出された土坑は、遺物が少ないために時期や性格が不明なものが多いが、調査Ⅱ区の河岸段丘上に位置する一群は、人為的に埋め戻された痕跡があり、形態的にも前述した墓坑と類似していることから、墓坑の可能性が想定される。以下、実測図と土層解説で紹介する。

第16号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第19号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第21号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第22号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第23号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 灰褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第34号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第36号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量

第51号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第58号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 にぶい橙色 ロームブロック多量、炭化物微量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 灰褐色 ロームブロック中量

第74号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第75号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 橙色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第76号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 橙色 ロームブロック中量、炭化物微量

第77号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量

第78号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第79号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

第80号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物・粘土粒子微量

第83号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第84号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第85号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第111号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量
- 4 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第112号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第113号土坑土層解説

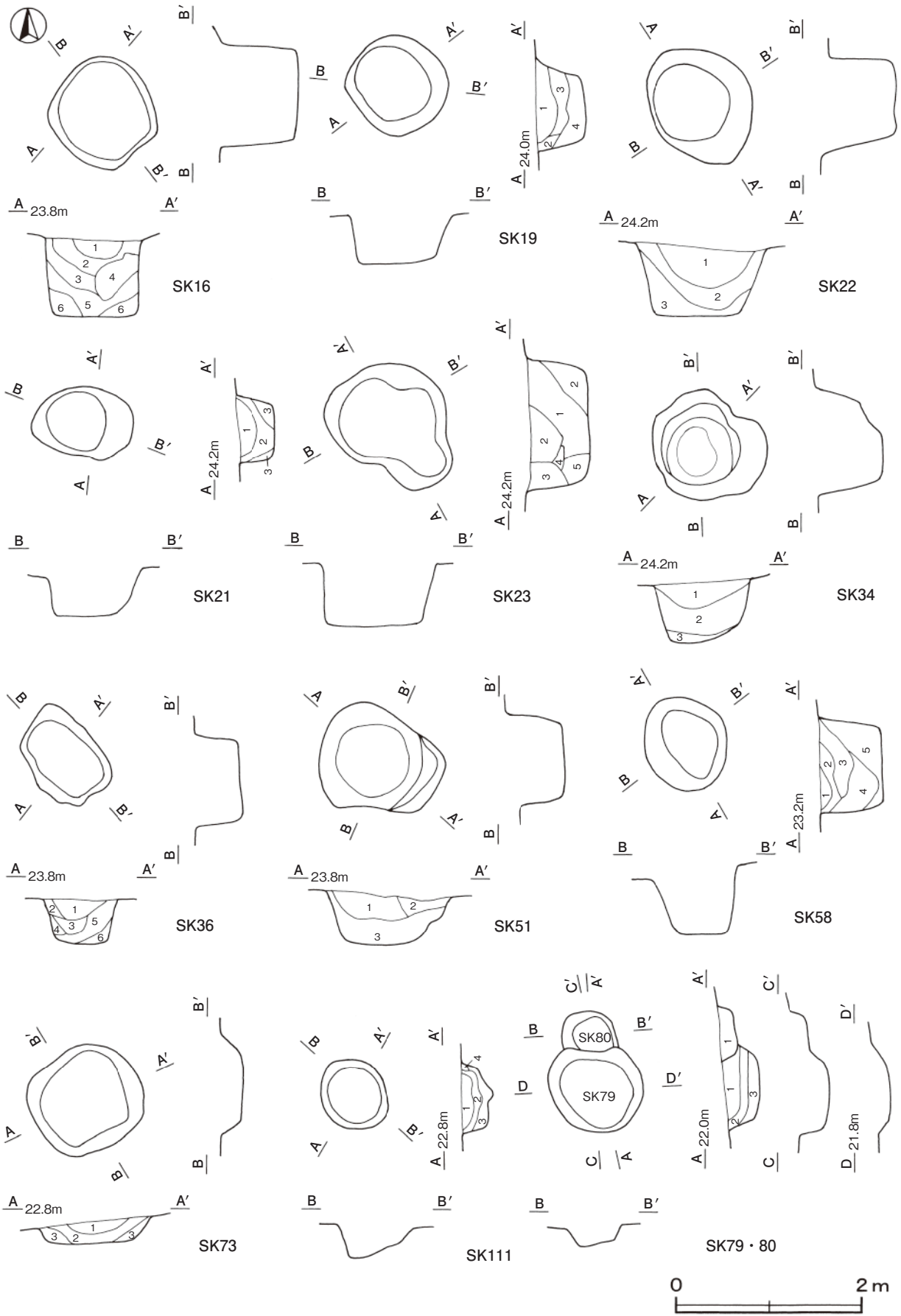
- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

第114号土坑土層解説

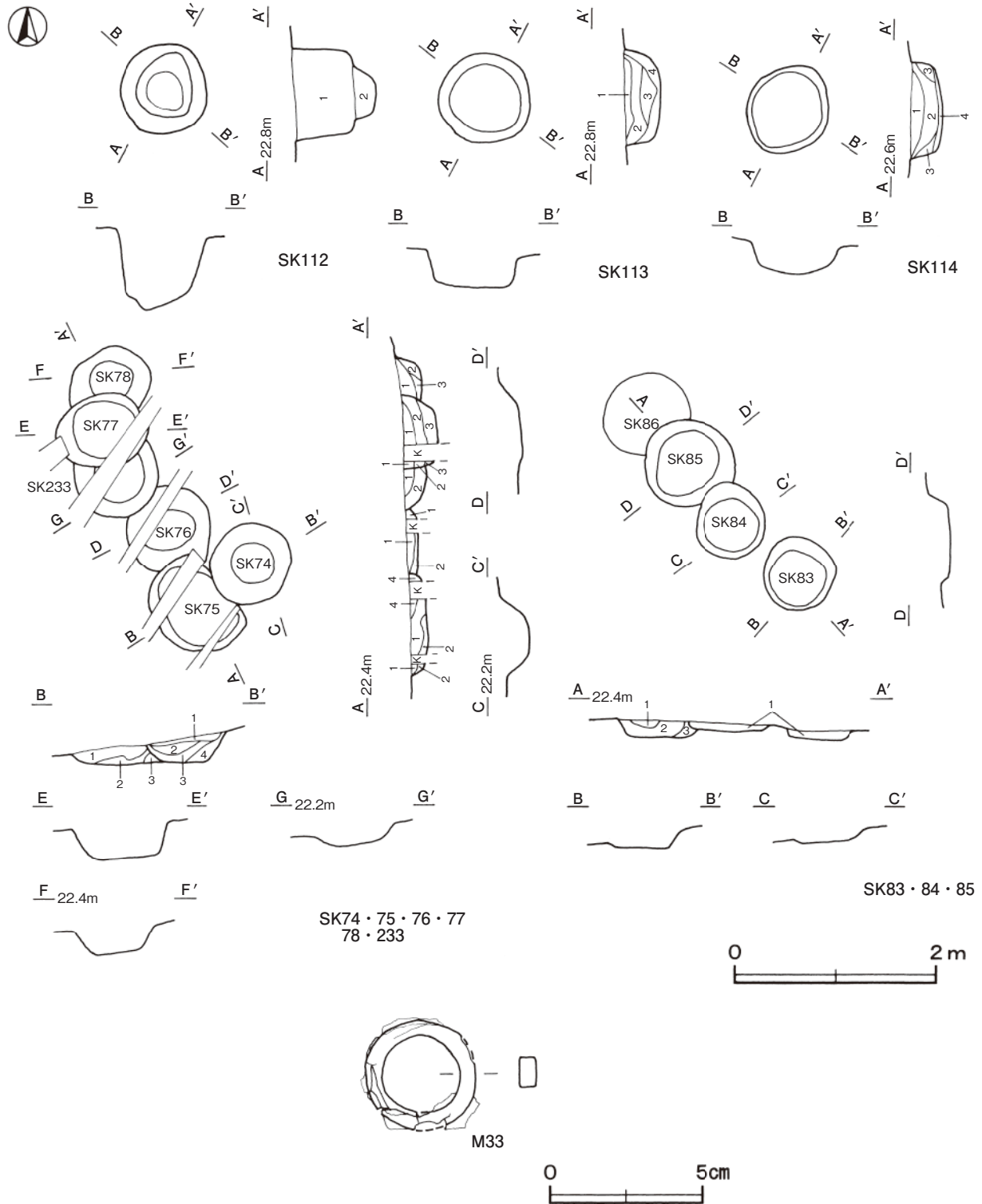
- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量、炭化物微量

第233号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量



第118図 墓坑の可能性のある土坑実測図



第119図 墓坑の可能性のある土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表 (第119図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 33	環状金具	3.7	3.7	1.0	(18.6)	鉄	断面長方形 木質付着	覆土中	PL27

表17 近世墓坑の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)					重複関係(古→新)
16	H11d9	N-0°	円形	1.21 × 1.11	84	平坦	直立	人為	陶器	
19	H11b9	N-0°	円形	1.11 × 1.09	53	平坦	外傾	人為	土師器 須恵器	
21	H11b9	N-85°-E	楕円形	1.10 × 0.72	47	平坦	直立 緩斜	人為	土師器 陶器	
22	H11a9	N-32°-W	楕円形	1.40 × 1.09	76	平坦	直立 外傾	人為	須恵器 陶器 磁器	
23	H11a9	N-47°-W	不整楕円形	1.49 × 1.18	66	平坦	直立 外傾	人為	陶器 磁器 瓦	
34	G11i7	N-54°-W	楕円形	1.26 × 1.08	67	平坦	外傾	人為	土師器 磁器 不明鉄製品	
36	G11g5	N-42°-W	長方形	1.02 × 0.78	51	平坦	直立	人為	土師器 須恵器 磁器	
51	G11g5	N-52°-W	楕円形	1.35 × 1.18	55	平坦	外傾	人為	土師器 土師質土器	
58	G11g3	N-28°-W	楕円形	1.05 × 0.93	67	平坦	直立	人為		
73	F10i7	N-0°	円形	1.24 × 1.24	25	平坦	外傾	人為	土師器 磁器	
74	F10i6	N-0°	円形	0.84 × 0.80	30	平坦	外傾	人為	土師器	SK75 → 本跡
75	F10j6	N-48°-W	楕円形	1.02 × 0.71	18	平坦	外傾	人為	鉄滓カ	SK76 → 本跡 → SK74
76	F10i6	N-0°	円形	0.86 × 0.83	14	平坦	緩斜	人為		本跡 → SK75・233
77	F10i6	N-85°-E	楕円形	0.92 × 0.70	34	平坦	外傾	人為	土師器 陶器 磁器	SK78・233 → 本跡
78	F10i6	N-0°	[円形]	(0.90) × 0.85	23	平坦	緩斜	人為		本跡 → SK77
79	F10i5	N-0°	円形	1.03 × 0.98	40	平坦	外傾	人為	須恵器	本跡 → SK80
80	F10i5	N-0°	円形	0.60 × 0.60	18	平坦	外傾	人為		SK79 → 本跡
83	F10i5	N-0°	円形	0.72 × 0.72	16	平坦	外傾	人為	土師器 磁器 瓦	
84	F10i5	N-0°	円形	0.72 × 0.70	8	平坦	緩斜	人為		SK85 → 本跡
85	F10i5	N-0°	円形	0.88 × 0.85	18	平坦	外傾	人為	土師質土器 陶器	SK86 → 本跡 → SK84
111	F9a5	N-48°-W	楕円形	0.80 × 0.70	36	皿状	外傾	人為		
112	F9a5	N-0°	円形	0.92 × 0.88	72	皿状	外傾	人為	陶器	
113	F9a5	N-0°	円形	0.92 × 0.90	38	平坦	外傾	人為		
114	F9b5	N-25°-E	楕円形	0.96 × 0.82	30	皿状	外傾	人為		
233	F10i6	N-0°	[円形]	0.86 × (0.85)	23	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器 須恵器	

7 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の遺構は、溝跡13条、土坑136基、柱穴列跡2か所、ピット群3か所が確認されている。また、遺構に伴わない縄文時代から近世にかけての遺物も出土しているが、特徴的な遺物を抽出して実測図(第141～143図)を掲載し、解説は観察表で記載する。

(1) 溝跡(第120・121図)

時期不明の溝跡13条について、一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。

第1号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

第2号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第5号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 砂質粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量

第6号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化物微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子・粘土粒子中量

第7号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック少量
- 4 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第8号溝跡土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

第9号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量

第10号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第11号溝跡土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第16号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 砂質粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量

第19号溝跡土層解説

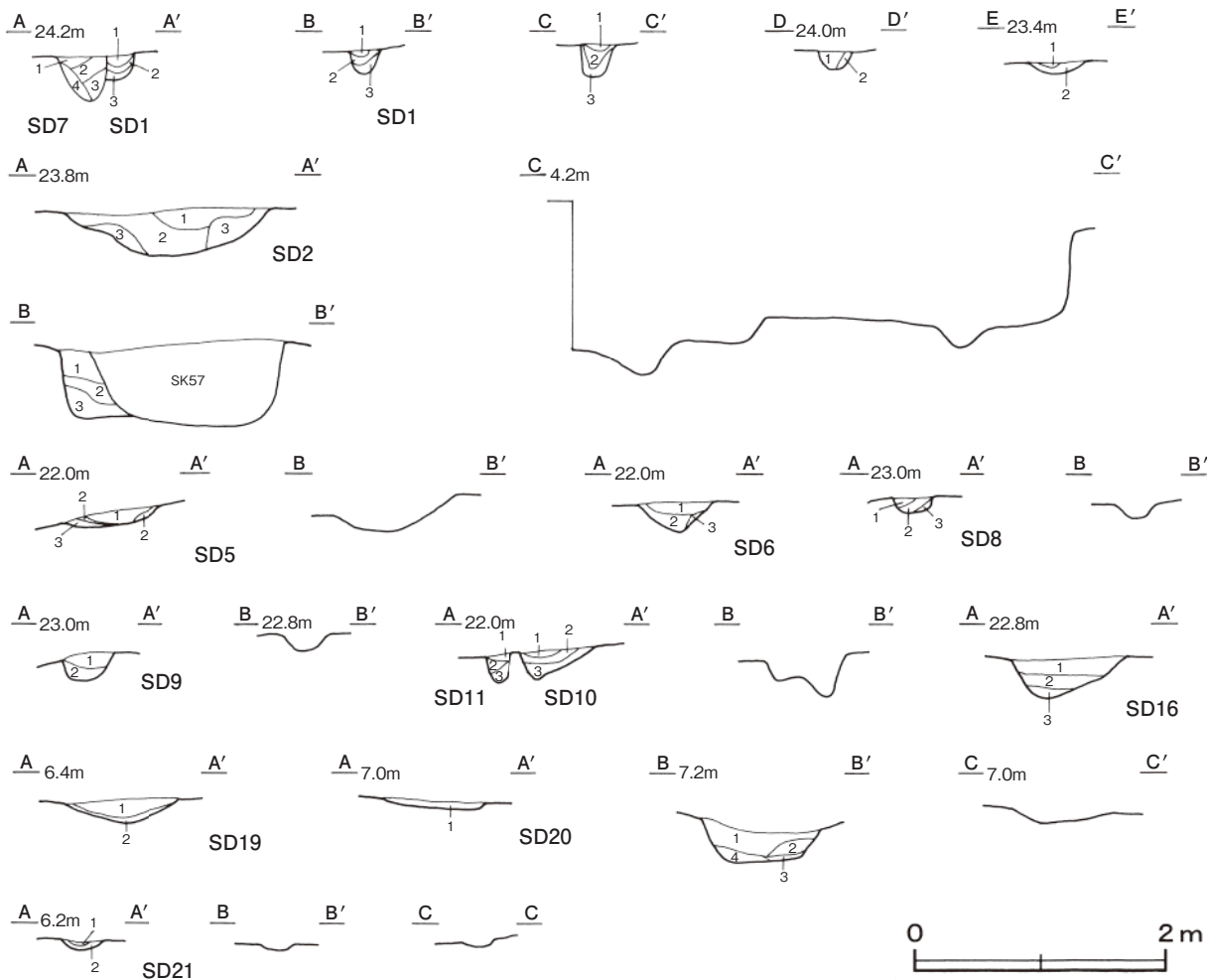
- 1 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 砂粒微量

第20号溝跡土層解説

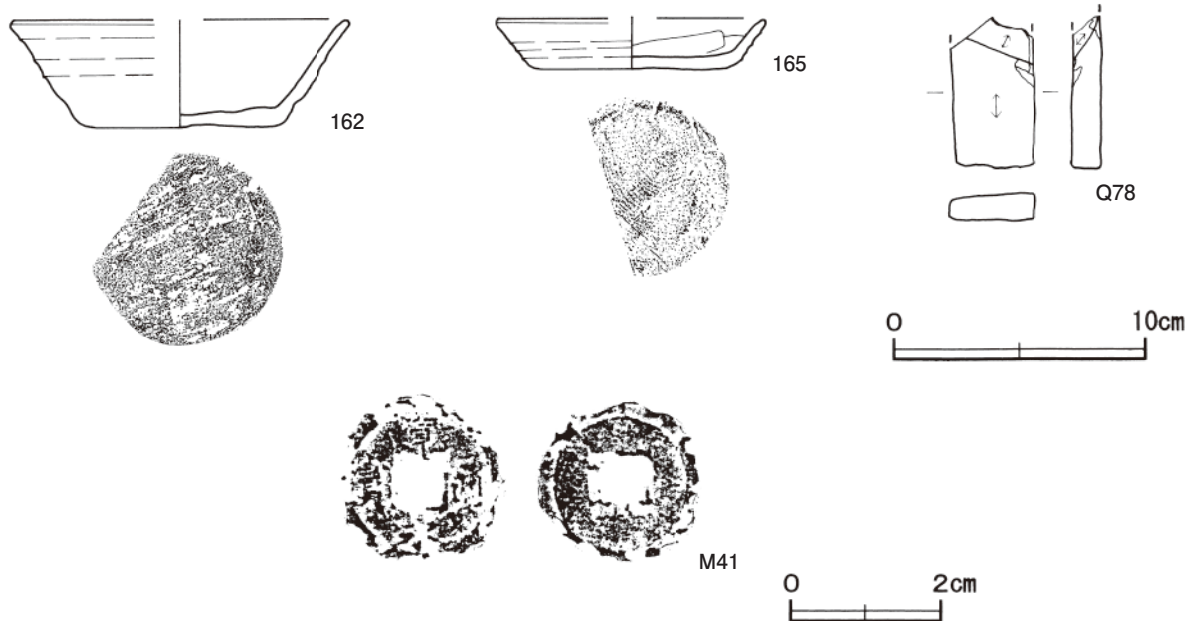
- 1 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・細礫微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子・細礫微量

第21号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量



第120図 その他の溝跡実測図



第121図 その他の溝跡出土遺物実測図

第7号溝跡出土遺物観察表（第121図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 78	砥石	(6.0)	3.3	1.1	(36.0)	陶石	砥面1面に研磨痕	覆土中	PL26

第10号溝跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
162	須恵器	坏	[13.2]	4.3	7.8	長石・石英	黄灰	良	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	30%

第20号溝跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	土師器	小皿	[10.5]	2.0	7.6	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	40% PL19

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M 41	新寛永通寶	-	0.61	0.11	(1.7)	1697	銅	無背 欠け	覆土中	PL28

表18 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					重複関係(古→新)
1	G11d2~H12f3	N-42°-W	直線状	64.48	0.34~1.67	0.16~1.26	32	外傾	平坦	自然	土師器 須恵器	SI 1・5, PG2, SK1・6・24・59・60・71→本跡
2	H11c8	N-36°-W	直線状	(2.92)	0.74~1.68	0.58~0.68	54	直立	平坦	人為		SK47→SK46→本跡→SK57
5	F10j6~G10b8	N-52°-W	直線状	10.48	0.62~0.94	0.28~0.48	20	緩斜	平坦	自然	土師質土器 陶器 磁器	
6	F10h2	N-25°-E	直線状	(2.04)	0.88	0.52	28	外傾	皿状	自然		SK102→本跡→SK98
7	G11c2~G11f5	N-42°-W	直線状	15.36	0.24~0.54	0.08~0.12	36	外傾	薬研状	人為	土師器 砥石	SD1→本跡
8	F 9 a7	N-32°-E	直線状	(2.04)	0.38	0.16	14	外傾	平坦	自然		
9	F 9 a6~F 9 a7	N-29°-E	直線状	(2.00)	0.48	0.18~0.30	24	外傾	平坦	自然		

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
10	E 9i4	N-50°-E	直線状	(2.01)	0.18~0.54	0.08~0.26	22	外傾	皿状凹凸	自然	須恵器	
11	E 9i4	N-52°-E	直線状	(2.26)	0.24~0.54	0.12	22	直立	平坦	自然	土師器 須恵器	
16	F 9c9~F 9e9	N-68°-W N-31°-E	L字状	8.20	0.43~0.94	0.15~0.42	31	外傾	皿状	人為	土師器 須恵器	本跡→SB2
19	C 6j5~D 6b8	N-44°-W	直線状	8.94	0.46~1.38	0.18~0.96	18	緩斜	皿状	人為		SD15→本跡
20	C 6i8~C 7h1	N-75°-E	直線状	13.30	0.66~0.90	0.28~0.60	24	緩斜	平坦	人為	土師質土器 古銭	
21	D 6a4~D 6b5	N-17°-W N-51°-E	L字状	5.10	0.24~0.36	0.04~0.14	8	緩斜	皿状	自然	土師器	

(2) 土坑

今回の調査で時期及び性格が明確でない土坑137基が確認された。以下、それらの土坑について、実測図(第122~135図)、土層解説及び一覧表を掲載する。

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量

第6号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量
- 2 明褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第2号土坑土層解説

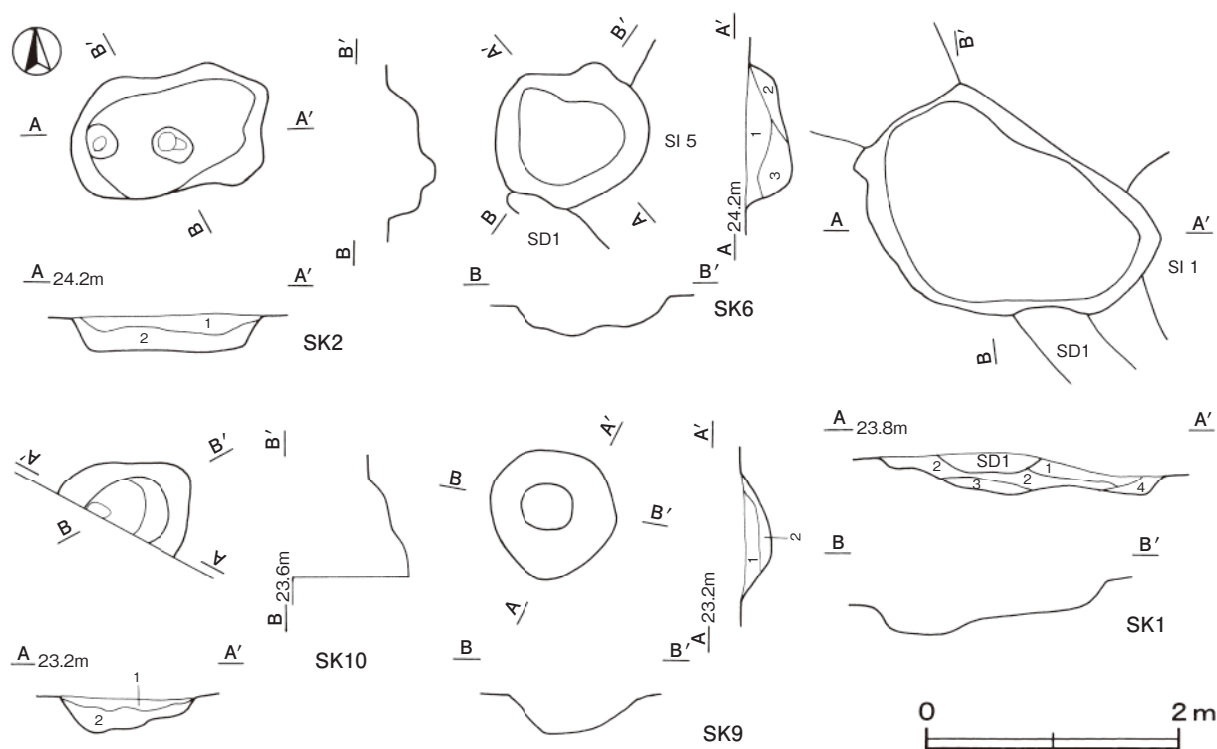
- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第9号土坑土層解説

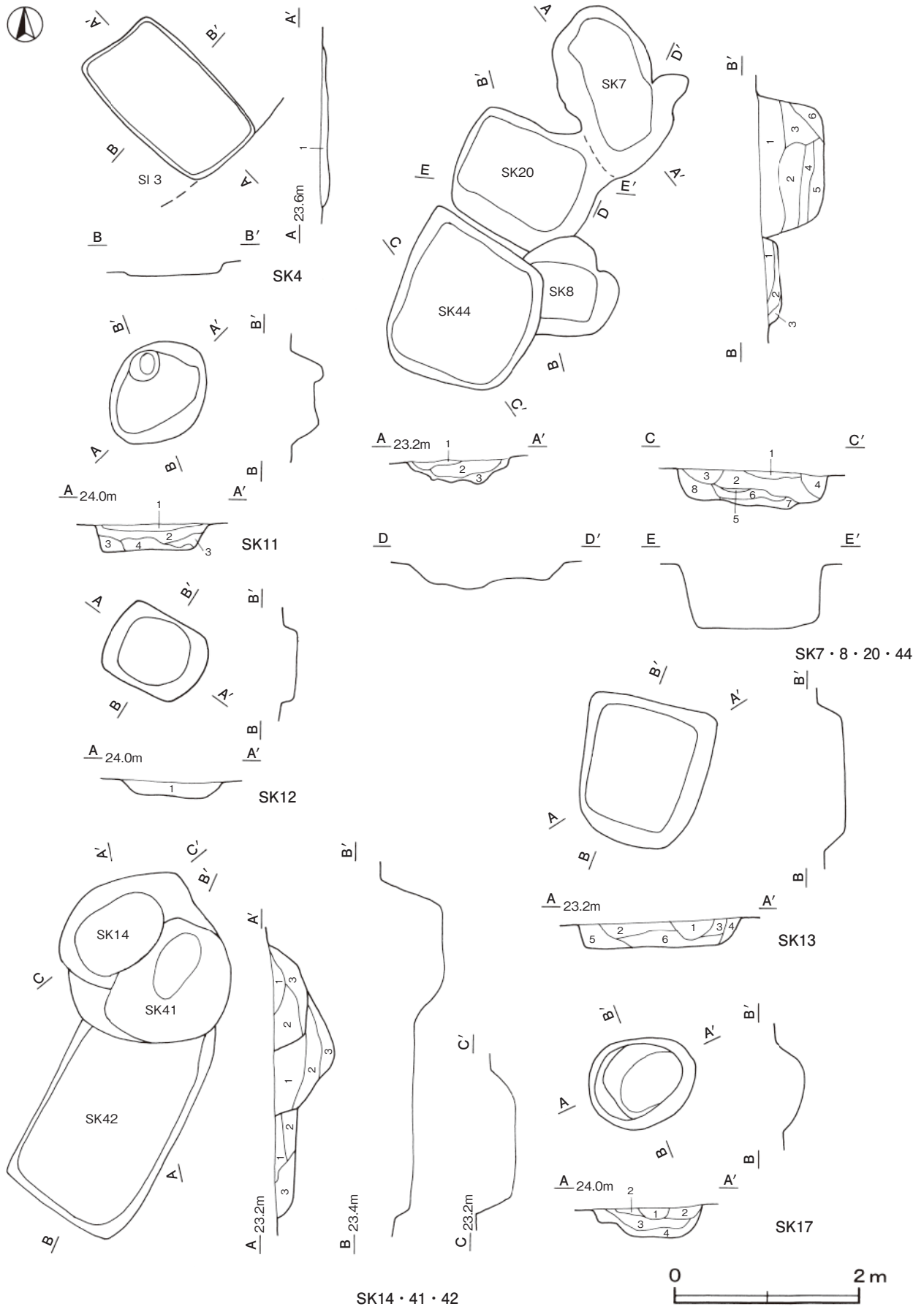
- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第10号土坑土層解説

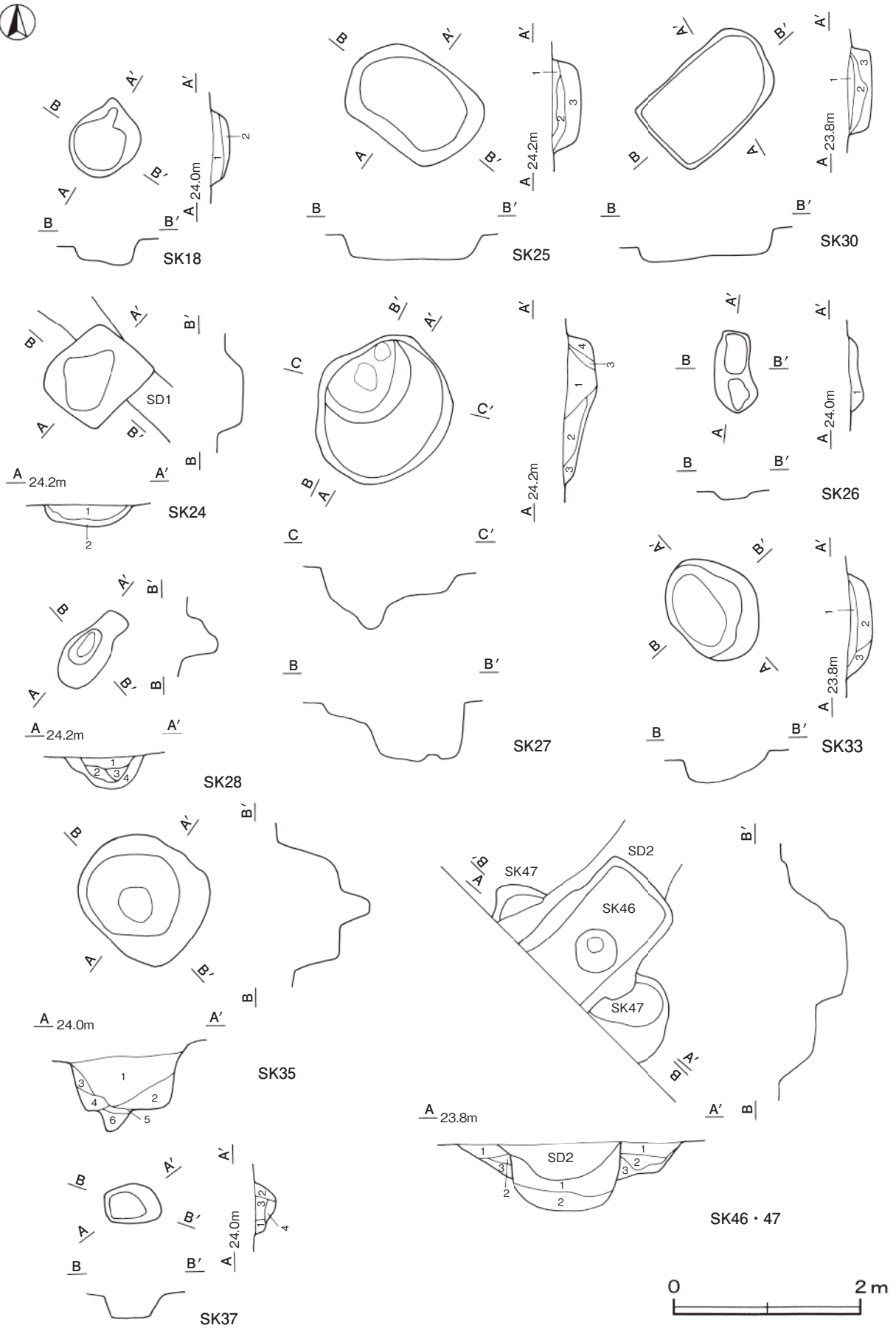
- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量



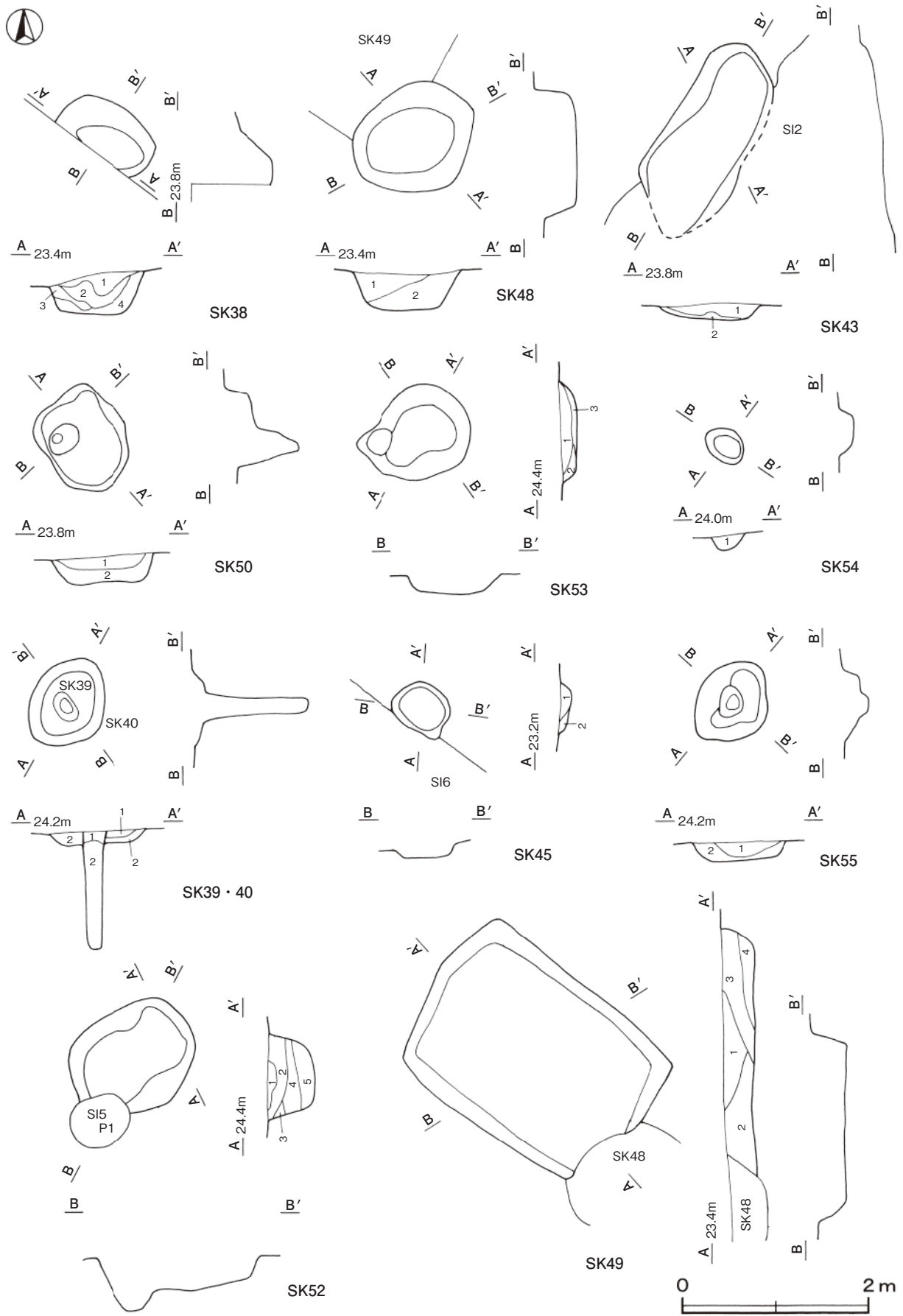
第122図 その他の土坑実測図(1)



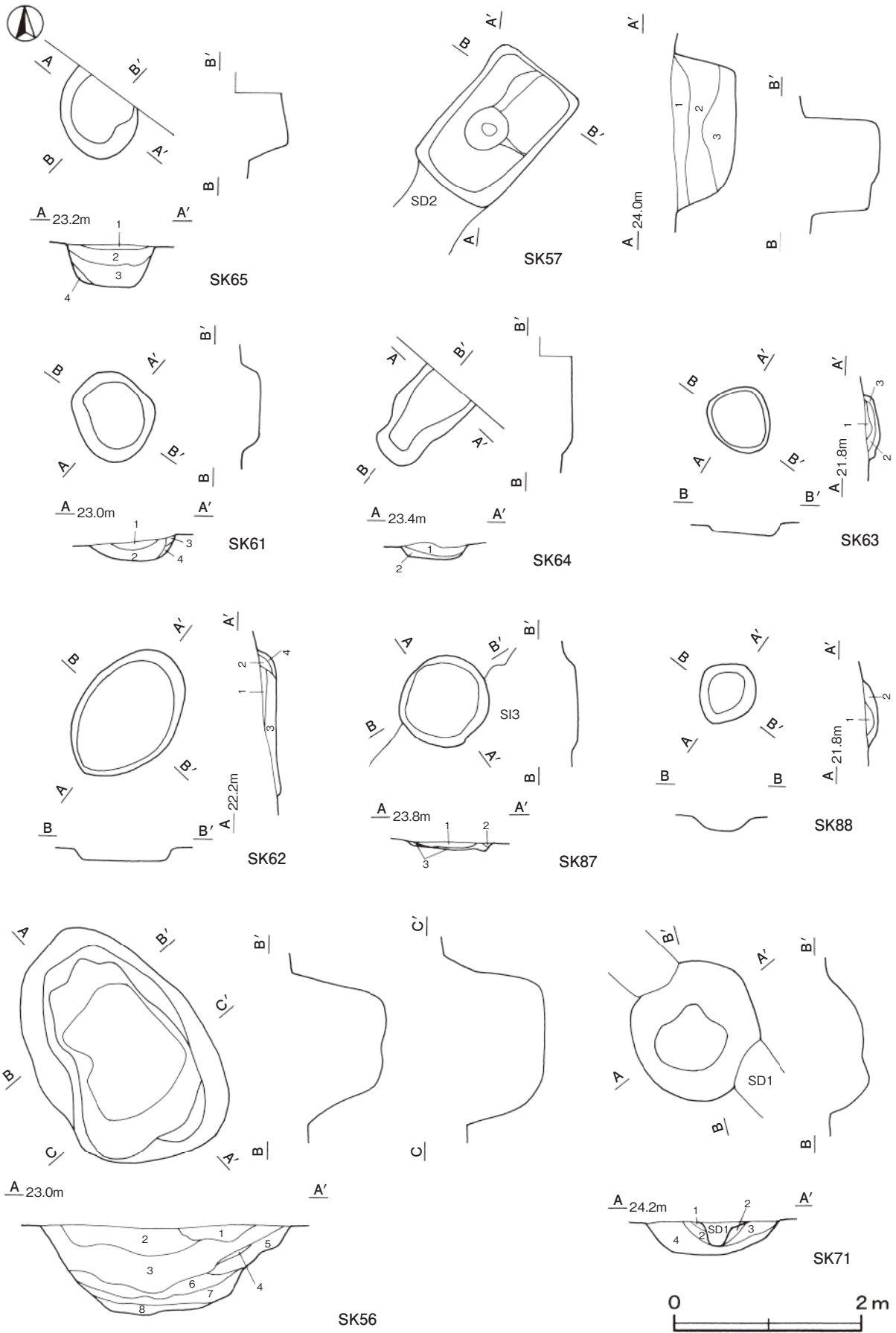
第123図 その他の土坑実測図(2)



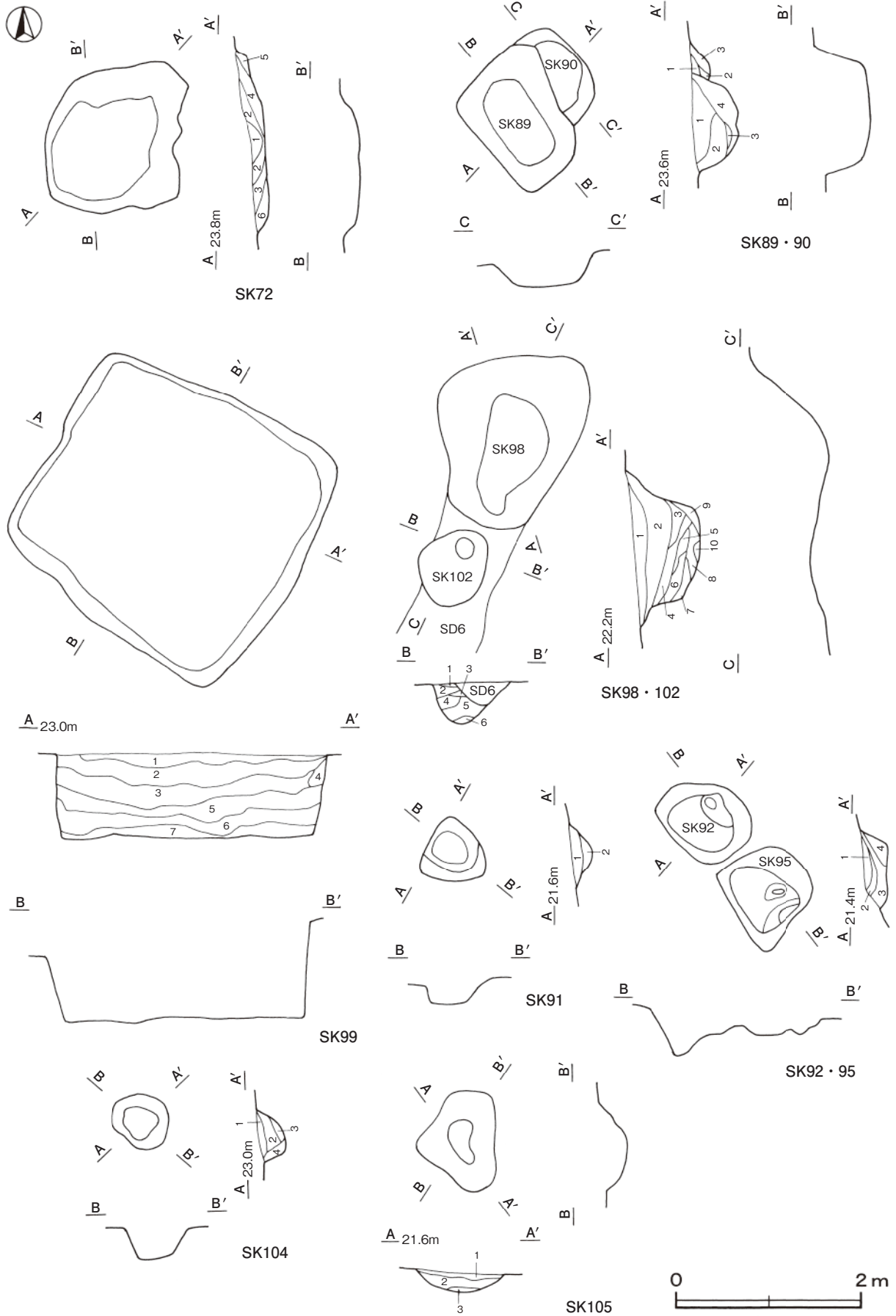
第124図 その他の土坑実測図(3)



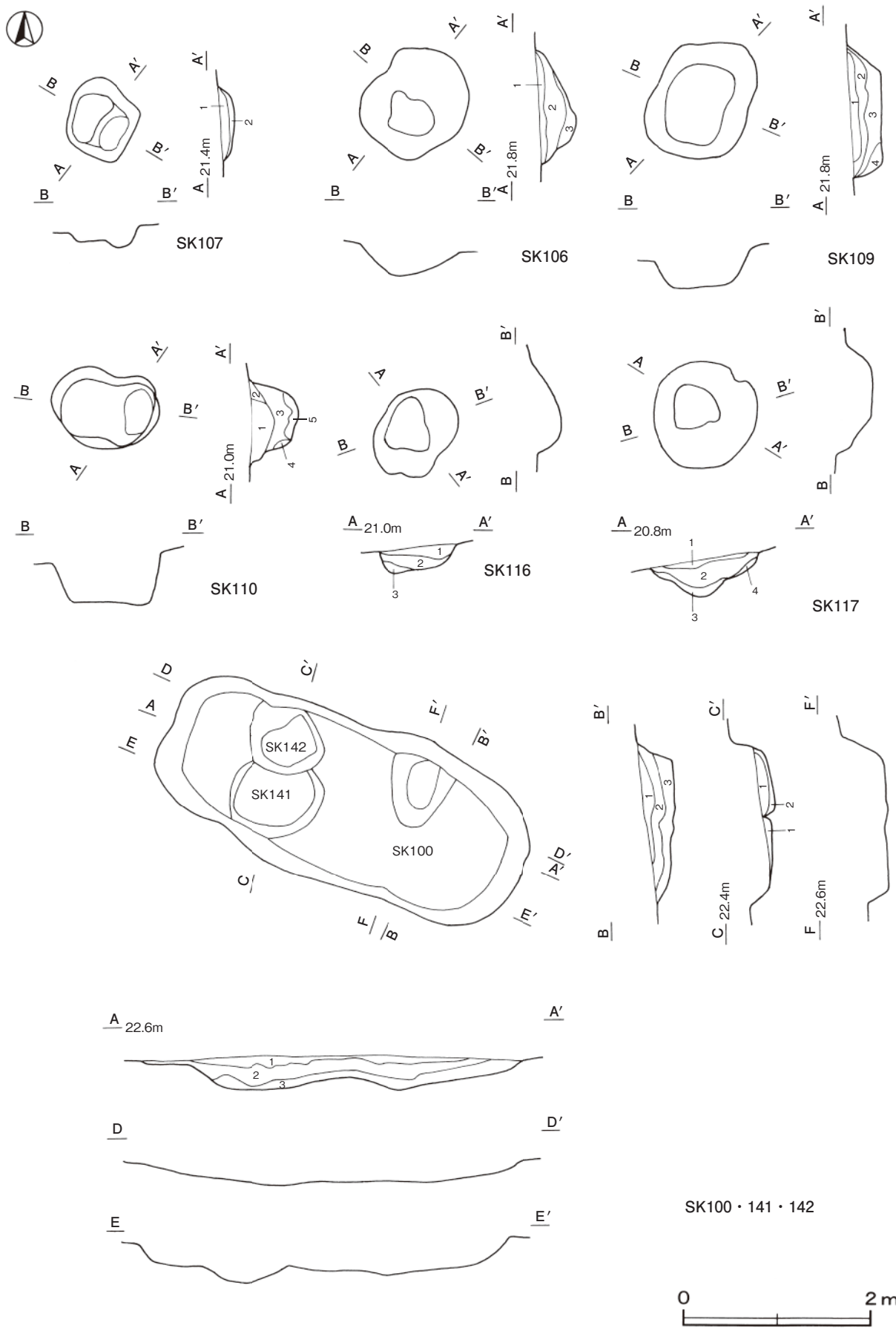
第125図 その他の土坑実測図(4)



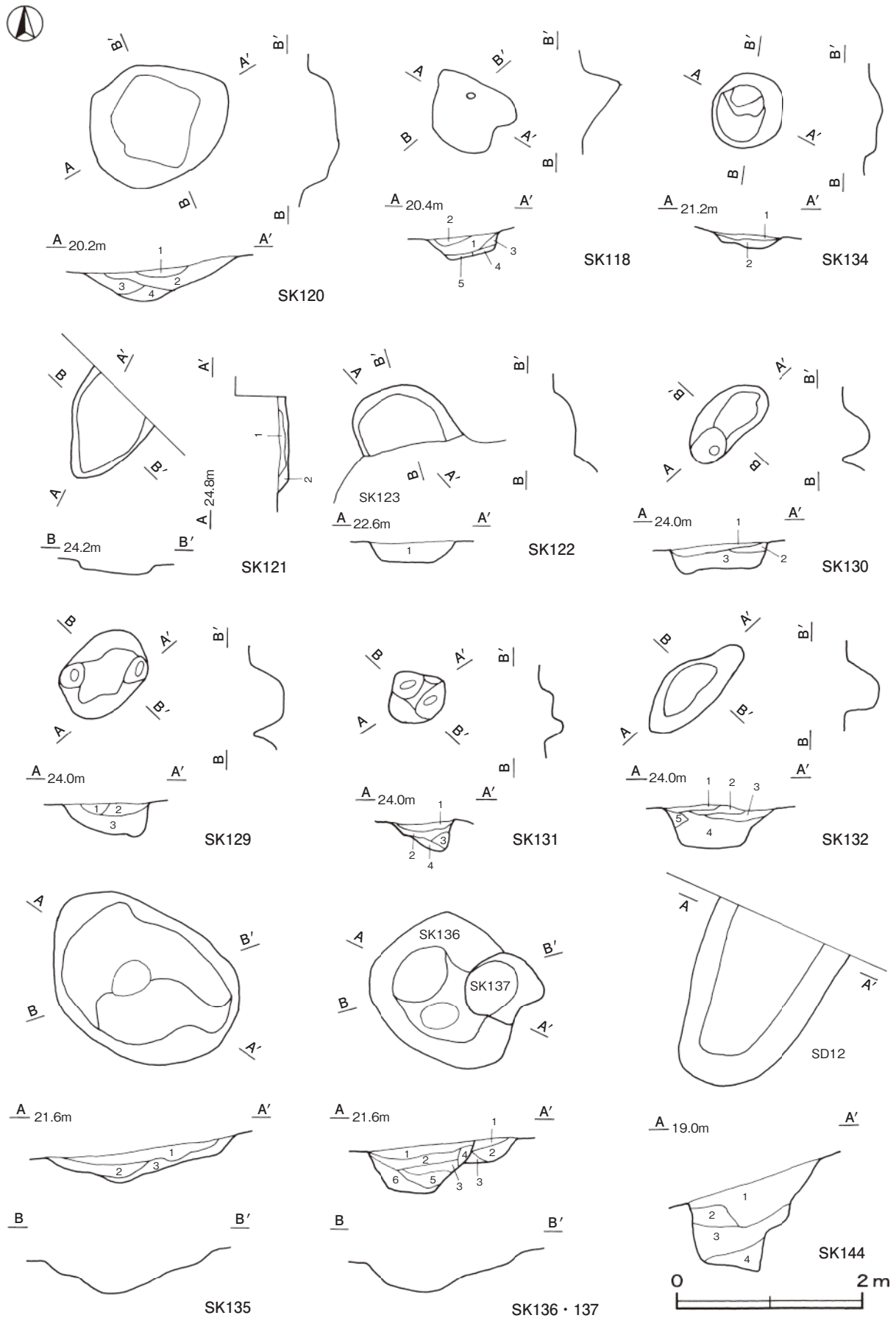
第126図 その他の土坑実測図(5)



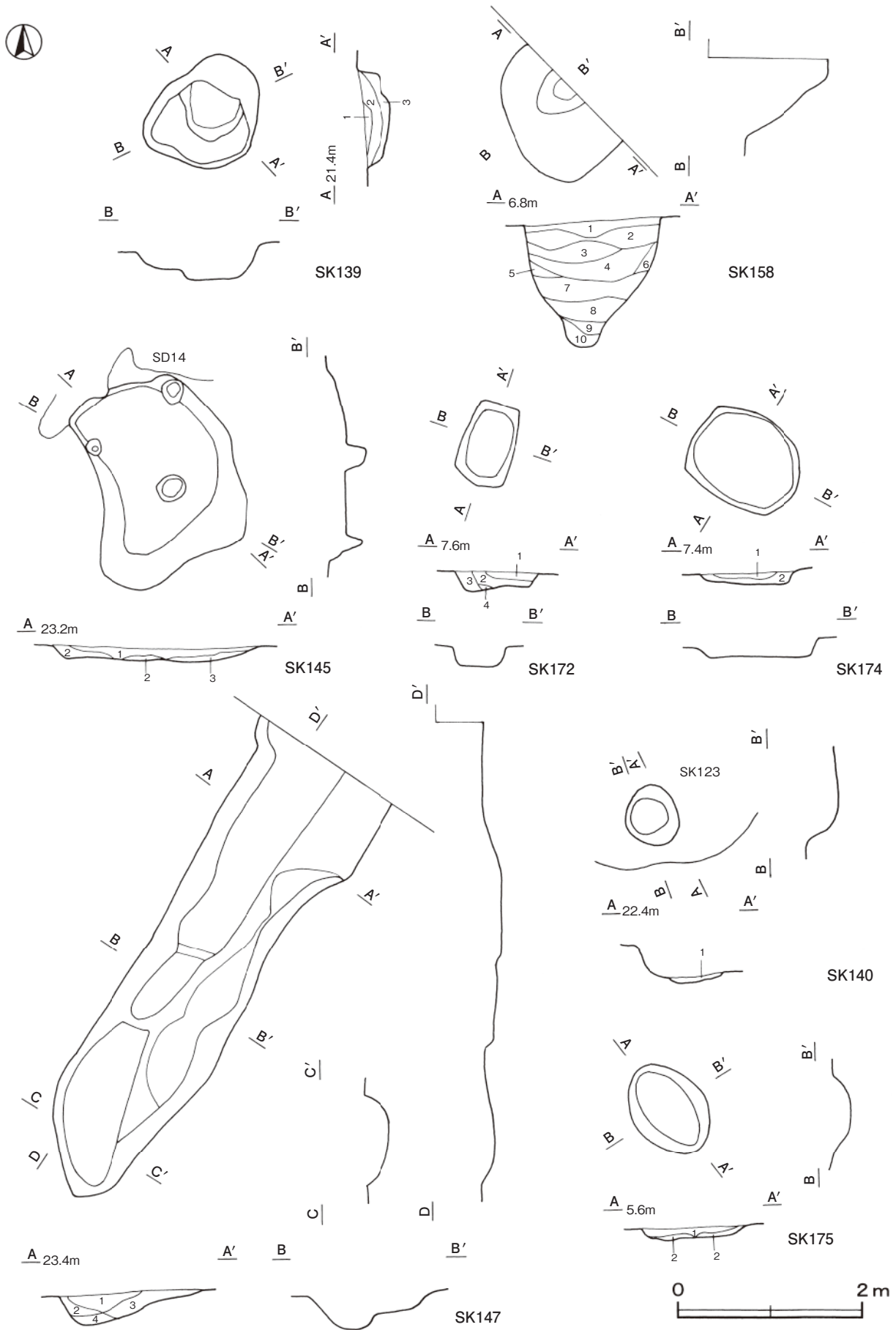
第127図 その他の土坑実測図(6)



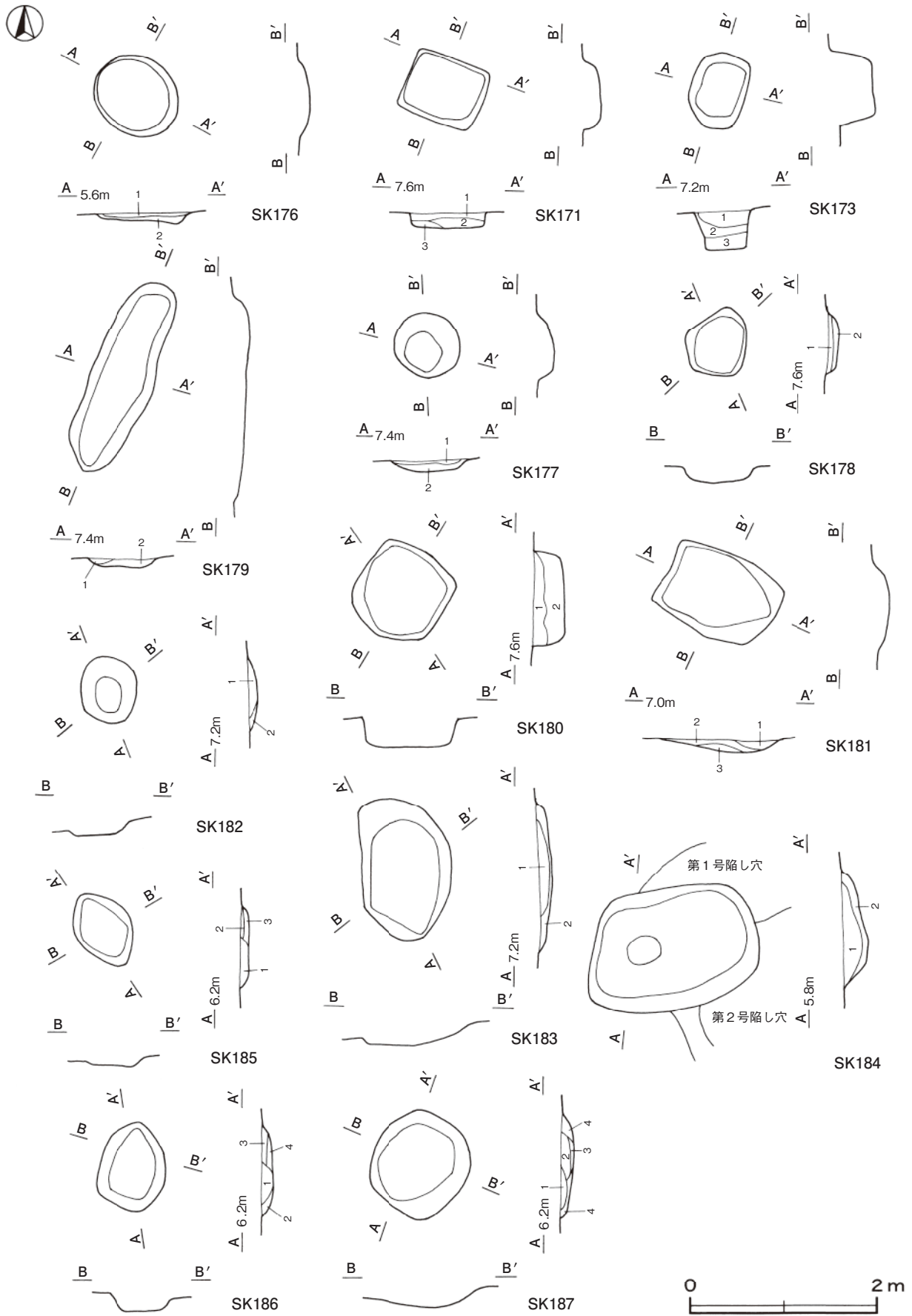
第128図 その他の土坑実測図(7)



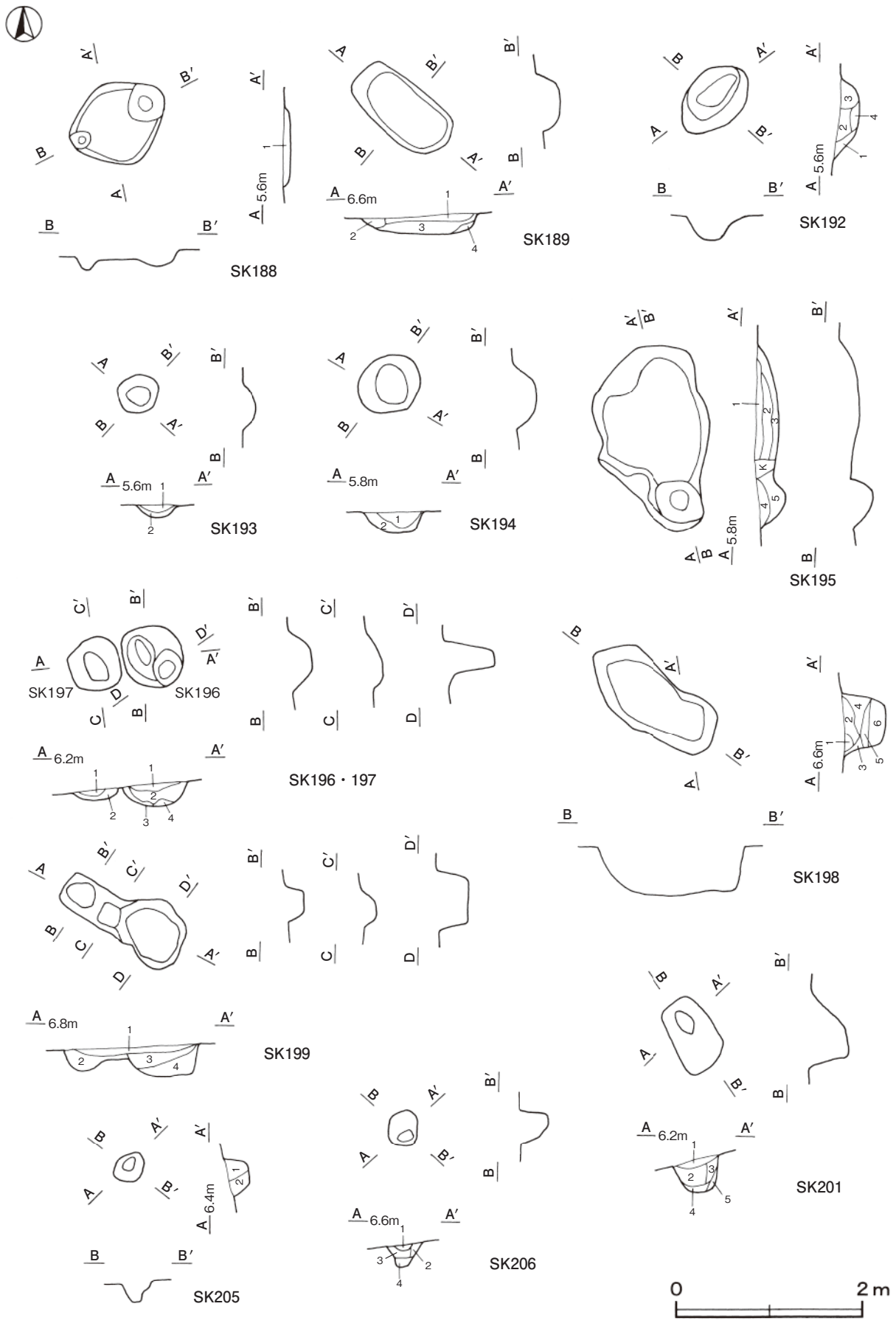
第129図 その他の土坑実測図(8)



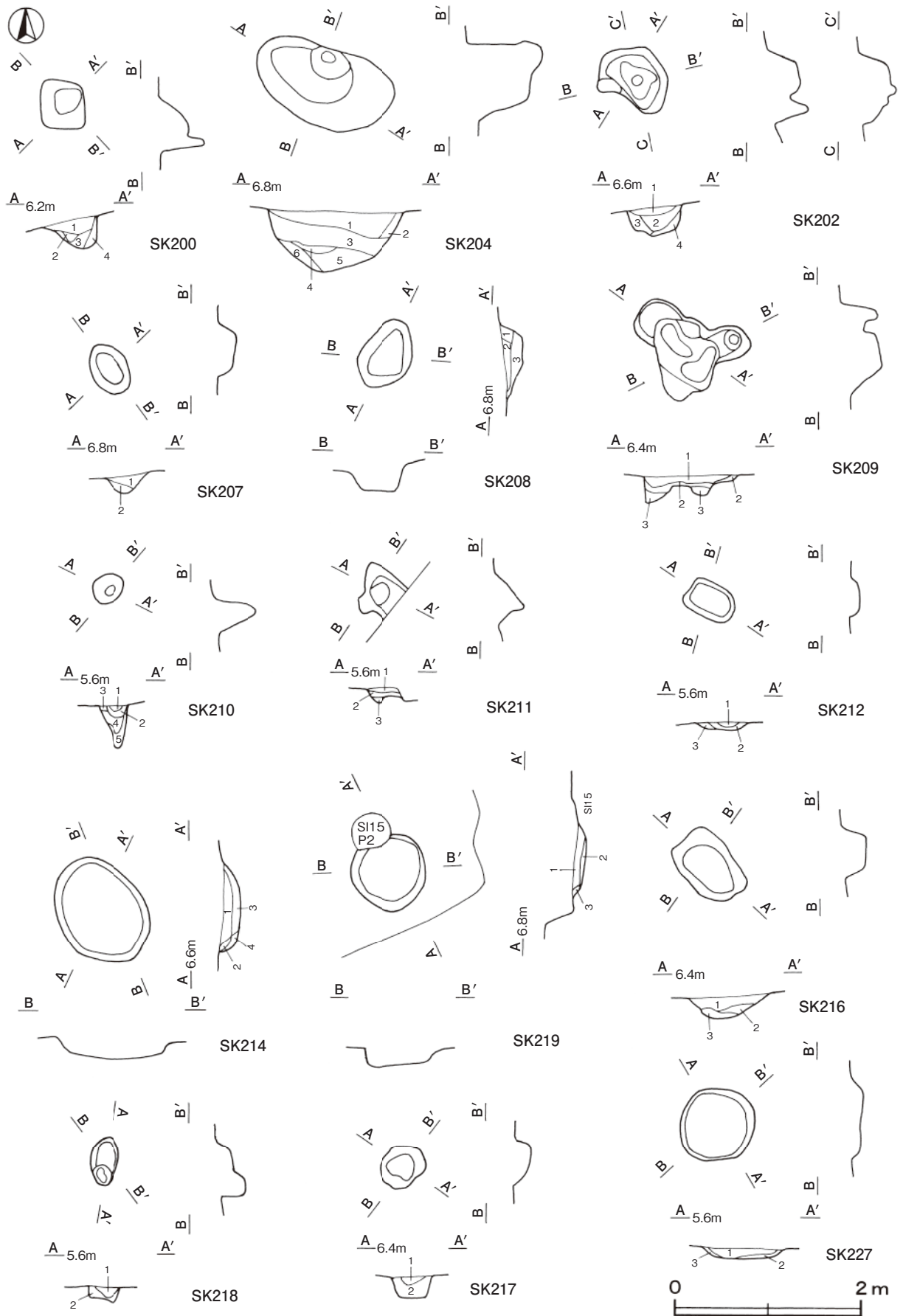
第130図 その他の土坑実測図(9)



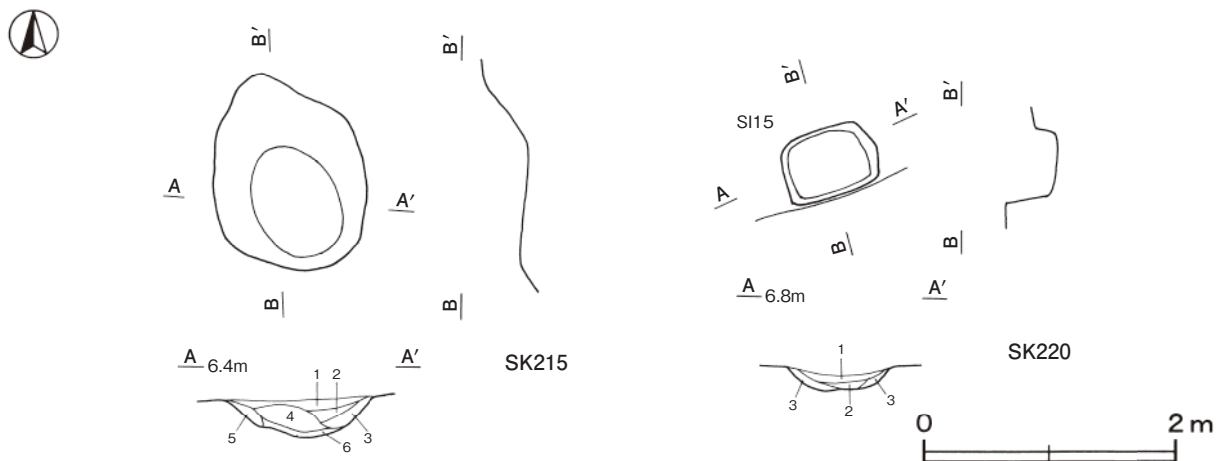
第131図 その他の土坑実測図(10)



第132図 その他の土坑実測図(11)



第133図 その他の土坑実測図(12)



第134図 その他の土坑実測図(13)

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第11号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 明褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第12号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第13号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第17号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第18号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 4 暗褐色 ロームブロック微量

- 5 褐色 ロームブロック少量

- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第24号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 明褐色 ロームブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第26号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第27号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第28号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック中量

第30号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第33号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 橙褐色 ロームブロック中量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第35号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子中量

第 37 号土坑土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 橙 色 ロームブロック多量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 38 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 39 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 40 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 42 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

第 43 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物・粘土ブロック・
焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・
炭化粒子微量

第 44 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 明 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 6 明 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 明 褐色 ロームブロック中量
- 8 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 45 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量

第 46 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 47 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第 48 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第 49 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 50 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 明 褐色 ロームブロック中量

第 52 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 53 号土坑土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子微量

第 55 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 56 号土坑土層解説

- 1 明 赤褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 明 赤褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 黄 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 明 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 黄 褐色 ロームブロック少量
- 8 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量

第 57 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 61 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 62 号土坑土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 63 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・粘土ブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量

第 64 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 65 号土坑土層解説

- 1 明 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい橙色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 4 明 褐色 ロームブロック少量

第71号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第72号土坑土層解説

- 1 にぶい橙色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 橙色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 橙色 ロームブロック中量
- 4 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 明褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第77号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第88号土坑土層解説

- 1 褐色 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量

第89号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第90号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量

第92号土坑土層解説

- 1 橙色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第98号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 にぶい褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 8 褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 9 にぶい褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

第99号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量, 黒色土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 にぶい褐色 ロームブロック中量

第100号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第102号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子中量, 粘土ブロック微量
- 2 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 6 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量

第104号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 にぶい橙色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 橙色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, 炭化物微量

第105号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 明黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子微量

第106号土坑土層解説

- 1 明黄褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック少量
- 2 橙色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 明黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

第107号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 2 明黄褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量

第109号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 明褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黄褐色 砂粒中量, ロームブロック・炭化物微量
- 4 明黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量
- 5 黄褐色 砂粒多量, ローム粒子微量

第116号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 2 明黄褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 明黄褐色 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

第117号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・砂粒微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明黄褐色 砂粒多量, ローム粒子微量
- 4 明黄褐色 砂粒中量, ローム粒子少量

第118号土坑土層解説

- 1 明黄褐色 砂粒中量, ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, 砂粒少量, 炭化粒子微量
- 3 黄褐色 砂粒多量, ローム粒子微量
- 4 灰オリープ色 砂粒多量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 灰黄色 砂粒多量, ローム粒子微量

第 120 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 121 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 122 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 129 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 130 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 131 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第 132 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ローム粒子少量

第 134 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量
- 2 褐 色 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量

第 135 号土坑土層解説

- 1 褐 色 砂質粘土ブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量, 砂粒微量
- 3 褐 色 砂粒少量, 砂質粘土ブロック微量

第 136 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 明 褐 色 ロームブロック微量
- 3 明 褐 色 ロームブロック少量
- 4 橙 色 ロームブロック中量
- 5 黄 褐 色 ローム粒子中量
- 6 黄 褐 色 ロームブロック少量

第 137 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 明 褐 色 ロームブロック少量

第 139 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量
- 3 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・砂粒微量

第 140 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 141 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 142 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 144 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 145 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 147 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 158 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子・砂粒少量, 細礫微量
- 3 にぶい黄褐色 砂粒少量, ロームブロック・細礫微量
- 4 明 褐 色 砂粒少量, ロームブロック・炭化物微量
- 5 褐 色 細礫少量, ローム粒子・砂粒微量
- 6 にぶい黄褐色 砂粒・砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック・炭化物・砂粒・砂質粘土粒子微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・砂粒・砂質粘土粒子微量
- 9 暗 褐 色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・砂粒微量
- 10 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量, 砂粒・細礫微量

第 171 号土坑土層解説

- 1 明 黄 褐 色 細礫中量, 砂粒少量, ローム粒子微量
- 2 黄 褐 色 ローム粒子・砂粒・細礫微量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子・砂粒少量

第 172 号土坑土層解説

- 1 明 黄 褐 色 細礫中量, 砂粒少量, ローム粒子微量
- 2 黄 褐 色 ローム粒子・砂粒・細礫少量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子・砂粒少量, 細礫微量
- 4 黄 褐 色 ローム粒子・砂粒少量

第 173 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 砂粒・細礫微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子・細礫微量
- 3 褐 色 ロームブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒微量

第 174 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐 色 砂粒少量, ローム粒子・細礫微量

第 175 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 明 褐 色 ローム粒子多量

第 176 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量

第 177 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂粒多量, ローム粒子・細礫微量
- 2 明 黄 褐 色 砂粒多量, 細礫微量

第 178 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ローム粒子・砂粒少量, 細礫微量
- 2 橙 色 砂粒多量, 細礫微量

第 179 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 砂粒少量, ロームブロック・粘土粒子・細礫微量
- 2 明 褐 色 砂粒少量, ローム粒子・粘土粒子・細礫微量

第 180 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 砂粒・粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量

第 181 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 にぶい褐色 砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

第 182 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 砂粒・細礫少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 橙 色 砂粒中量, 細礫少量, ローム粒子微量

第 183 号土坑土層解説

- 1 橙 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 2 橙 色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量

第 184 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 185 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック微量

第 186 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 明 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 187 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 188 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 189 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・細礫少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 192 号土坑土層解説

- 1 橙 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 明 褐 色 ロームブロック微量

第 193 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 明 褐 色 ロームブロック少量

第 194 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 195 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 橙 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 橙 色 ローム粒子多量

第 196 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 橙 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 197 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 198 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・細礫微量
- 2 明 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 明 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 6 にぶい褐色 ロームブロック中量

第 199 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 200 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 明 褐 色 ロームブロック少量
- 4 橙 色 ロームブロック中量

第 201 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 明 褐 色 ロームブロック少量

第 202 号土坑土層解説

- 1 明 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 明 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 明 褐 色 ローム粒子多量

第 204 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 明 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 6 橙 色 ロームブロック少量

第 205 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 明 褐 色 ロームブロック少量

第 206 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 明 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

第 207 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第 208 号土坑土層解説

- 1 橙色 ロームブロック多量
- 2 明褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第 209 号土坑土層解説

- 1 橙色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック・炭化物微量

第 210 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 橙色 粘土粒子中量, ロームブロック少量

第 211 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 212 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 橙色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック微量

第 214 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 215 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 5 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第 216 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 217 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 218 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック微量

第 219 号土坑土層解説

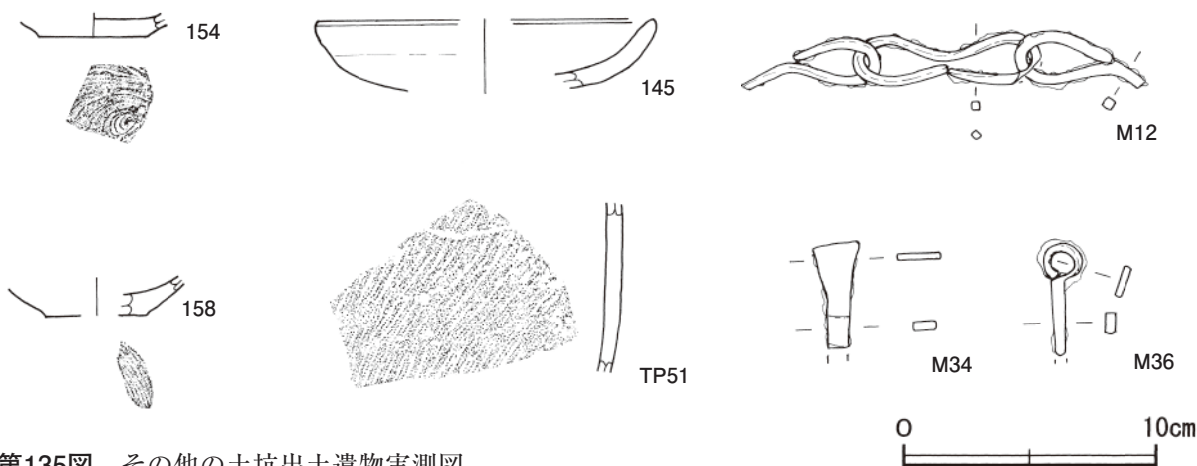
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 橙色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 220 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 227 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量



第135図 その他の土坑出土遺物実測図

第 27 号土坑出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP51	弥生土器	壺	石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文施文	覆土中	

第 30 号土坑出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	土師器	小皿	—	(1.0)	[4.2]	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	10%

第 38 号土坑出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
158	土師器	小皿	—	(1.5)	[4.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	5%

第44号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
145	土師器	坏	[13.4]	(2.8)	—	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面横ナデ	覆土中	20%

第41号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 34	鉄鍔カ	(4.2)	1.8	0.2～3.5	(4.5)	鉄	断面長方形 方頭斧箭式カ	覆土中	

第131号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 12	不明	16.1	2.4	0.4	24.6	鉄	断面方形	覆土中	PL27

第147号土坑出土遺物観察表（第135図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 36	不明	(4.5)	1.5	0.4	(7.1)	鉄	断面長方形 頭部円筒形	覆土中	

表19 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)							重複関係(古→新)
1	H12d2	N-51°-W	[不整長方形]	(2.31)×1.60	28	緩斜	傾斜	人為	獣骨	SI 1→本跡→SD 1	
2	H11a8	N-66°-E	不整楕円形	1.64×0.92	24	緩斜 直立	皿状	人為	土師器 剥片		
4	H11d0	N-44°-W	長方形	1.73×1.06	11	緩斜 直立	平坦	人為		SI 3→本跡	
6	G11g6	N-85°-E	不整形	1.11×1.04	11	緩斜	皿状	人為	須恵器	SI 5→本跡→SD 1	
7	H12f3	N-7°-W	不整楕円形	1.88×1.05	30	緩斜	凹凸	人為		SK20→本跡	
8	H12f3	N-78°-W	不整楕円形	1.19×1.05	19	緩斜	皿状	人為	土師器 縄文土器	SK20→本跡→SK44	
9	H12f2	N-0°	円形	1.07×1.05	30	緩斜	皿状	人為			
10	H12f1	不明	[楕円形]	1.64×(1.05)	26	緩斜	皿状	人為			
11	H12c3	N-42°-E	楕円形	1.24×0.98	28	外傾	平坦	人為	土師器 縄文土器		
12	H12b2	N-57°-W	長方形	1.85×1.10	15	外傾	平坦	人為	土師器 剥片		
13	H12f3	N-15°-E	隅丸長方形	1.58×1.35	28	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器 縄文土器		
14	H12e2	N-55°-E	楕円形	1.57×1.08	40	緩斜	平坦	人為	土師器	SK41→本跡	
17	H11c9	N-54°-E	楕円形	1.19×1.01	28	緩斜	皿状	人為			
18	H11b9	N-15°-E	不整楕円形	1.37×1.25	25	外傾 直立	皿状	自然	土師器		
20	H12f3	N-66°-W	長方形	1.55×1.25	39	外傾 直立	平坦	人為	土師器 須恵器 陶器	本跡→SK 8・7	
24	H11a9	N-43°-E	長方形	0.96×0.84	25	緩斜	平坦	自然		本跡→SD 1	
25	G11j8	N-51°-W	楕円形	1.46×1.00	30	緩斜	平坦	人為	土師器		
26	H12b1	N-1°-W	不整楕円形	0.85×0.38	8	緩斜	皿状	人為			
27	H12a1	N-23°-E	楕円形	1.65×1.46	53	外傾	皿状	人為	土師器 弥生土器		
28	H11a0	N-43°-E	楕円形	0.96×0.45	34	緩斜 直立	皿状	人為			
30	G11j6	N-45°-E	長方形	1.50×0.93	27	直立	皿状	人為	土師器 土師質土器		
33	G11j6	N-30°-W	楕円形	1.15×0.91	27	外傾 緩斜	皿状	人為			
35	G11g5	N-45°-E	楕円形	1.90×1.36	98	外傾 緩斜	皿状	人為	土師器 礫		
37	H12b2	N-85°-E	長方形	0.59×0.40	22	外傾	皿状	人為			
38	H11e0	N-53°-W	[楕円形]	1.08×0.57	36	緩斜	平坦	人為	須恵器 土師質土器 磁器 縄文土器		
39	G11i9	N-30°-E	楕円形	0.34×0.21	126	直立	皿状	人為		SK40→本跡	
40	G11i9	N-30°-E	楕円形	1.03×0.80	15	緩斜	皿状	自然		本跡→SK39	
41	H12e2	N-64°-W	楕円形	1.57×1.08	40	緩斜	平坦	人為	土師器 須恵器 鉄鍔	SK42→本跡→SK14	
42	H12f2	N-28°-E	[長方形]	(2.62)×1.50	27	外傾	緩斜	人為		本跡→SK41	
43	H12d1	N-32°-E	[隅丸長方形]	[2.00]×0.92	20	外傾	平坦	人為	土師器 縄文土器	SI 2→本跡	
44	H12f3	N-22°-E	方形	1.64×1.57	48	緩斜 直立	傾斜	人為	土師器 須恵器 弥生土器	SK 8→本跡	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)						重複関係(古→新)
45	G10b0	N-82°-W	楕円形	0.63 × 0.52	12	外傾	平坦	自然		SI 6 → 本跡
46	H11c8	N-45°-E	[長方形]	(1.48) × 0.96	72	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器 陶器 瓦質土器	SK47 → 本跡 → SD 2
47	H11d8	N-49°-W	不定形	2.06 × 0.76	40	緩斜	平坦	自然		本跡 → SK46 → SD 2
48	H11e0	N-61°-E	楕円形	1.39 × 1.21	44	外傾	皿状	人為	土師器 縄文土器	SK49 → 本跡
49	H11e0	N-54°-W	長方形	2.72 × 1.88	39	外傾	平坦	人為		本跡 → SK48
50	G11g4	N-34°-W	長方形	1.08 × 0.99	28	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器 磁器	
52	G11g6	N-16°-E	楕円形	1.82 × 1.20	50	外傾	平坦	人為	土師器	SI 5 → 本跡
53	G11h7	N-48°-E	楕円形	1.14 × 1.00	20	緩斜	平坦	人為		
54	G11i6	N-55°-W	楕円形	0.48 × 0.35	16	外傾	平坦	自然		
55	G11g5	N-41°-E	楕円形	1.00 × 0.79	20	外傾 緩斜	平坦	人為		
56	G11h3	N-34°-W	楕円形	2.71 × 1.78	98	外傾	平坦	自然 人為		
57	H11c8	N-41°-E	長方形	1.61 × 1.04	78	直立	平坦	人為		SD 2 → 本跡
61	F10i7	N-20°-W	楕円形	0.98 × 0.83	22	外傾	平坦	人為	陶磁器	
62	G10b8	N-35°-E	楕円形	1.54 × 1.05	16	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器	
63	G10b8	N-21°-W	楕円形	0.72 × 0.64	15	外傾	平坦	人為	土師器	
64	G11b1	N-45°-E	[不整長方形]	(1.04) × 0.68	14	緩斜	平坦	人為	土師器 陶器	
65	F10f3	不明	[楕円形]	(0.70) × 0.92	45	外傾	平坦	自然		
71	H11a9	N-0°	円形	1.40 × 1.37	42	緩斜	皿状	自然		本跡 → SD 1
72	G11f4	N-44°-E	不整楕円形	1.91 × 1.64	20	緩斜	平坦	人為	土師器	
87	H11d9	N-0°	円形	0.98 × 0.96	10	外傾 緩斜	平坦	人為		SI 3 → 本跡
88	F10j5	N-32°-E	楕円形	0.70 × 0.61	12	緩斜	平坦	人為		
89	G11c1	N-35°-W	長方形	1.39 × 1.05	52	外傾	平坦	人為		SK90 → 本跡
90	G11c1	N-40°-W	楕円形	1.03 × (0.50)	11	緩斜	平坦	人為		本跡 → SK89
91	F10i4	N-0°	不定形	0.69 × 0.69	21	外傾 緩斜	平坦	人為	土師器 陶器	
92	F10j4	N-20°-W	[楕円形]	1.04 × (0.85)	30	外傾	平坦	自然	土師器 土師質土器(内耳鍋)	
95	F10j4	N-32°-W	[楕円形]	1.00 × (0.88)	14	緩斜	皿状	自然	土師器	
98	F10h2	N-25°-E	楕円形	2.03 × 1.59	72	外傾	平坦	人為	土師器	SD 6 → 本跡
99	F10g4	N-57°-W	方形	3.00 × 2.81	97	直立	平坦	人為		
100	F9f9	N-67°-W	隅丸長方形	4.10 × 1.80	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK141 → SK142 → 本跡
102	F10h2	N-26°-E	楕円形	0.90 × 0.78	25	緩斜	皿状	人為		本跡 → SD 6
104	F10f3	N-50°-W	楕円形	0.70 × 0.55	35	緩斜	平坦	人為		
105	F9b2	N-0°	不定形	1.20 × 0.85	24	緩斜	皿状	自然		
106	F9a3	N-0°	円形	1.20 × 1.16	30	緩斜	皿状	自然	土師質土器	
107	F9a2	N-15°-W	楕円形	0.92 × 0.84	20	緩斜	皿状	人為		
109	E9j3	N-44°-E	楕円形	1.40 × 1.00	34	緩斜	平坦	人為	瓦質土器	
110	E9i2	N-68°-W	楕円形	1.14 × 0.90	50	外傾	平坦	人為		
116	E9j2	N-47°-E	楕円形	1.04 × 0.74	30	緩斜	皿状	人為		
117	E9i1	N-0°	円形	1.12 × 1.12	36	緩斜	平坦	人為		
118	E9i1	N-34°-W	不定形	1.00 × 0.72	40	緩斜	皿状	自然 人為		
120	E9g1	N-60°-E	楕円形	1.64 × 1.30	38	緩斜	皿状	人為		
121	G11j0	N-28°-E	[楕円形]	(1.02) × 0.88	10	外傾	平坦	人為		
122	F9c5	N-70°-E	[楕円形]	1.40 × (0.66)	20	緩斜	平坦	人為		SK123 → 本跡
129	G11e3	N-50°-E	隅丸長方形	1.00 × 0.76	34	外傾	平坦	自然		
130	G11e3	N-48°-E	楕円形	0.92 × 0.48	24	外傾	平坦	自然		
131	G11d3	N-87°-W	隅丸長方形	0.58 × 0.52	20	外傾 緩斜	皿状	自然	鉄製品	
132	G11d2	N-46°-E	楕円形	1.03 × 0.54	36	緩斜	平坦	自然		
134	E9j2	N-0°	円形	0.80 × 0.78	18	緩斜	皿状	自然		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)							重複関係(古→新)
135	F9a3	N-50°-W	楕円形	2.20×1.60		40	緩斜	皿状	自然		
136	E9i3	N-39°-W	隅丸長方形	1.70×1.44		51	緩斜	平坦	人為		SK137→本跡
137	E9i3	N-85°-E	[不整楕円形]	(0.85)×(0.72)		25	緩斜	皿状	自然	磁器	本跡→SK136
139	E9j2	N-65°-E	不整楕円形	1.36×1.06		33	緩斜	平坦	自然	土師器 須恵器	
140	F9d6	N-0°	円形	0.66×0.56		6	緩斜	平坦	不明		本跡→SK123
141	F9f9	N-65°-W	楕円形	1.04×0.88		6	緩斜	平坦	人為		本跡→SK142→SK100
142	F9f9	N-74°-W	楕円形	0.90×0.74		14	緩斜	平坦	人為		SK141→本跡→SK100
144	E8d9	N-25°-E	[楕円形]	(1.60)×(1.48)		120	外傾	平坦	人為		第1号掘跡→本跡
145	F10e2	N-26°-W	隅丸長方形	2.03×1.53		22	緩斜	平坦	人為		SD14→本跡
147	F9c9	N-31°-E	楕円形	5.51×1.20		38	緩斜	平坦	人為	土師器 須恵器 不明鉄製品	
158	C6h0	N-40°-W	[楕円形]	1.46×(0.78)		153	緩斜	平坦	人為	土師質土器 平瓦	
171	D6f9	N-71°-W	長方形	0.86×0.71		16	外傾	平坦	人為		
172	D6f9	N-20°-E	長方形	0.90×0.59		20	外傾	平坦	人為		
173	D6f8	N-19°-E	隅丸長方形	0.81×0.60		43	外傾	平坦	人為		
174	D6d8	N-60°-W	楕円形	1.25×0.99		16	外傾	平坦	人為		
175	D6e1	N-38°-W	楕円形	1.10×0.79		17	緩斜	平坦	人為		
176	D6f2	N-59°-W	楕円形	0.96×0.81		12	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SD17→本跡
177	D6c8	N-0°	円形	0.72×0.70		15	緩斜	平坦	自然		
178	D6e9	N-15°-E	楕円形	0.76×0.65		14	外傾	平坦	自然		
179	D6e9	N-21°-E	楕円形	2.16×0.70		11	緩斜	平坦	自然		
180	D6e0	N-0°	隅丸方形	1.01×0.99		33	外傾	平坦	人為		
181	D6g7	N-65°-W	長方形	1.25×0.93		16	緩斜	皿状	自然		
182	D6h9	N-20°-W	楕円形	0.75×0.61		10	緩斜	平坦	自然		
183	D6h9	N-15°-W	楕円形	1.55×0.98		14	緩斜	平坦	自然		
184	D6e1	N-80°-E	楕円形	1.90×1.21		26	緩斜	平坦	自然		TP2→TP1→本跡
185	D6b4	N-31°-W	楕円形	0.90×0.60		10	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
186	D6b4	N-25°-E	楕円形	0.91×0.73		12	緩斜	平坦	人為	土師器 縄文土器	
187	D6b4	N-0°	円形	1.08×1.05		12	緩斜	平坦	人為	須恵器 縄文土器	
188	D6f1	N-62°-E	楕円形	1.11×0.90		8	外傾	平坦	人為	須恵器 磁器 縄文土器	
189	D6h7	N-51°-W	隅丸長方形	1.20×0.59		21	外傾	平坦	自然	縄文土器	
192	D6g2	N-45°-E	楕円形	0.90×0.59		25	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
193	D6g2	N-0°	円形	0.46×0.42		16	緩斜	皿状	自然		
194	D6g3	N-58°-E	楕円形	0.70×0.62		25	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
195	D6g4	N-20°-W	不整楕円形	2.00×1.30		24	緩斜	平坦	自然	土師器 縄文土器	
196	D6i6	N-55°-W	楕円形	0.75×0.65		20~50	緩斜	平坦	自然		
197	D6i6	N-0°	円形	0.56×0.56		12	緩斜	皿状	自然		
198	D6i8	N-53°-W	楕円形	1.60×0.68		50	外傾 緩斜	平坦	人為		
199	D6i9	N-64°-W	不定形	1.42×0.68		16~32	外傾	平坦	人為		
200	E6b9	N-0°	隅丸方形	0.52×0.52		30~50	外傾	平坦	人為		
201	E6c0	N-40°-W	楕円形	0.80×0.50		40	外傾	平坦	人為		
202	E6b0	N-45°-W	不定形	0.82×0.70		30~36	外傾	皿状	人為	土師器	
204	E6b0	N-69°-W	楕円形	1.54×0.82		80	外傾 緩斜	平坦	人為	土師器 須恵器	
205	E6b0	N-52°-E	楕円形	0.38×0.30		20	外傾	平坦	人為		
206	E6b0	N-0°	楕円形	0.38×0.30		30	外傾	皿状	人為		
207	E6b0	N-40°-W	楕円形	0.60×0.42		20	外傾	平坦	人為		
208	E6a0	N-25°-E	楕円形	0.80×0.58		30	外傾	平坦	人為		
209	D6i8	N-49°-W	不定形	1.16×1.08		36	外傾	平坦	人為		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)						重複関係(古→新)
210	D6h3	N-50°-W	楕円形	0.36 × 0.30	46	外傾	皿状	人為	土師器	
211	D6h3	N-32°-W	[楕円形]	(0.52) × 0.42	26	外傾	皿状	人為		
212	D6h3	N-70°-W	隅丸長方形	0.56 × 0.38	10	外傾	平坦	人為		
214	D6a6	N-38°-W	楕円形	1.22 × 0.94	20	緩斜	平坦	人為	土師器 陶器	
215	E6a9	N-23°-W	楕円形	1.60 × 1.20	28	緩斜	平坦	人為	土師器 須恵器 縄文土器 剥片	
216	D6i7	N-35°-W	長方形	0.80 × 0.54	25	外傾	平坦	人為		
217	D6i7	N-0°	円形	0.50 × 0.48	20	外傾	平坦	人為	磔	
218	D6h3	N-0°	隅丸長方形	0.37 × 0.36	30	直立	皿状	人為		
219	D6c6	N-0°	円形	0.82 × 0.82	20	外傾	平坦	人為		SI15 → 本跡
220	D6d5	N-72°-E	隅丸長方形	0.78 × 0.50	18	外傾	平坦	自然	土師器 須恵器	SI15 → 本跡
227	D5f0	N-0°	円形	0.86 × 0.80	16	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器 須恵器 縄文土器	

(3) 柱穴列跡

第1号柱穴列跡(第136図)

位置 調査Ⅱ区中央部のG11f5～G11g6区で、標高24.0mの河岸段丘上の緩斜面に位置している。

規模と形状 4か所のピットが、第1号溝跡に沿ったN-45°-Wの方向で、1列に並んでいる。柱穴間の寸法は1.02～1.98mである。平面形は径25～50cmの円形または楕円形で、深さは30～50cmである。

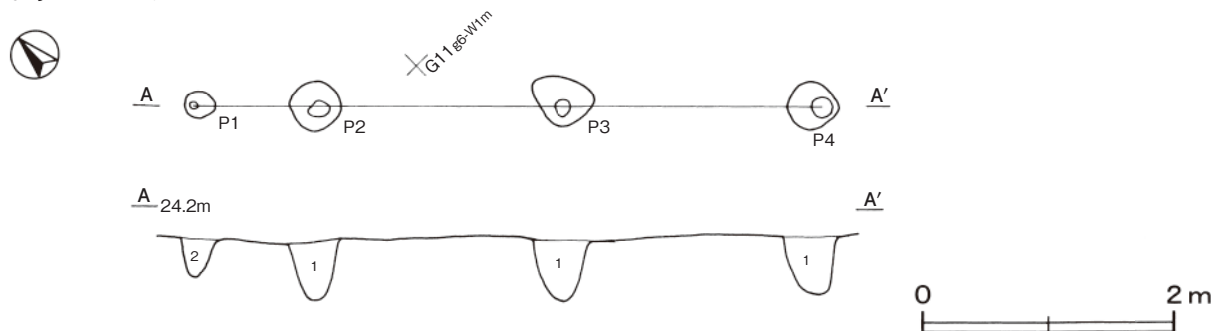
覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各ピット共通)

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

所見 地切り溝と考えられる第1号溝跡と平行して確認されていることから、関連性がうかがわれる。時期は、出土土器がないため不明であるが、柱穴間の寸法が1mを基調としていることから、近代以降の柵跡の可能性も考えられる。



第136図 第1号柱穴列跡実測図

第2号柱穴列跡(第137図)

位置 調査Ⅱ区のG11d3区で、標高24.0mの河岸段丘上の平坦部に位置している。

規模と形状 5か所のピットが、第7号溝跡に沿ったN-42°-Wの方向で1列に並んでいる。柱穴間の寸法は0.40～1.35mである。平面形は径30～52cmの円形または楕円形で、深さは25～55cmである。

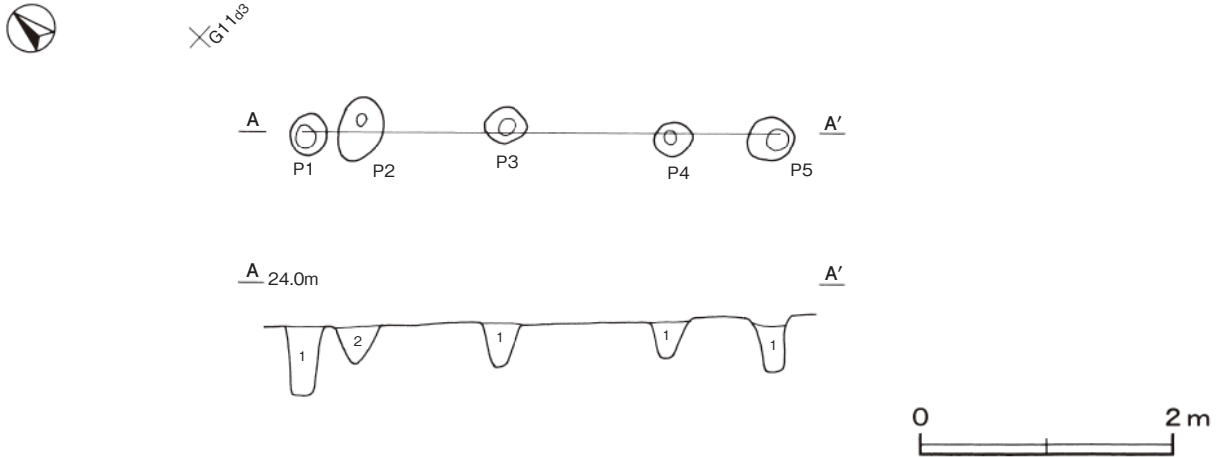
覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

所見 地切り溝と考えられる第7号溝跡と平行して確認されていることから, 関連性がうかがわれる。時期は, 出土土器がないため不明である。



第137図 第2号柱穴列跡実測図

表20 その他の柱穴列跡一覧表

番号	位置	方向	柱穴数	柱穴平面形	長さ(m)	柱穴間距離(m)	径(cm)	深さ(cm)	主な出土遺物	備考
										重複関係(古→新)
1	G11f5 ~ G11g6	N-45°-W	4	円形 楕円形	5.01	1.02 ~ 1.98	25 ~ 50	30 ~ 50		
2	G11d3	N-42°-W	5	円形 楕円形	3.76	0.40 ~ 1.35	30 ~ 52	25 ~ 55		

(4) ピット群

第1号ピット群 (第138図)

位置 調査Ⅱ区東部のH12a1 ~ H12c2区で, 標高24.0mの河岸段丘上の平坦部に位置している。

規模と形状 範囲から6か所のピットが確認された。形状は径(長径)24 ~ 58cmの円形又は楕円形で, 深さは20 ~ 33cmである。

土層解説 (各ピット共通)

1 明褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量

6 橙色 ロームブロック中量, 炭化物微量

2 橙色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

7 黄橙色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

3 橙色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

8 橙色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

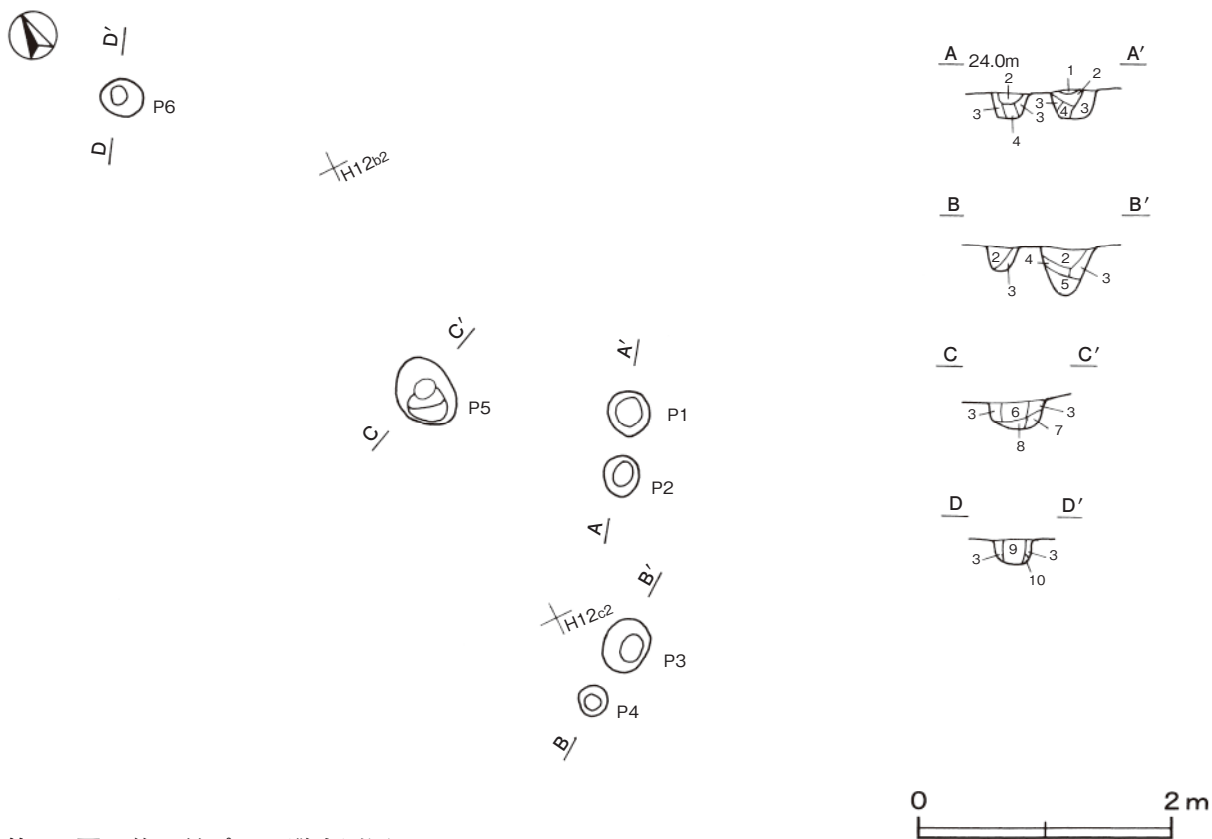
4 黄橙色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

9 橙色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

5 橙色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

10 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

所見 ピットの深さや配列などに規則性がないため, 掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく, ピット群としてとらえた。時期は, 出土土器がないため不明である。



第138図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	36	31	22	3	楕円形	44	35	33	5	楕円形	58	45	25
2	楕円形	33	27	22	4	円形	24	24	20	6	楕円形	35	30	26

第2号ピット群 (第139図)

位置 調査Ⅱ区東部のG11d2～G11e4区で、標高24.0mの河岸段丘上の平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝跡を掘り込んでいる。

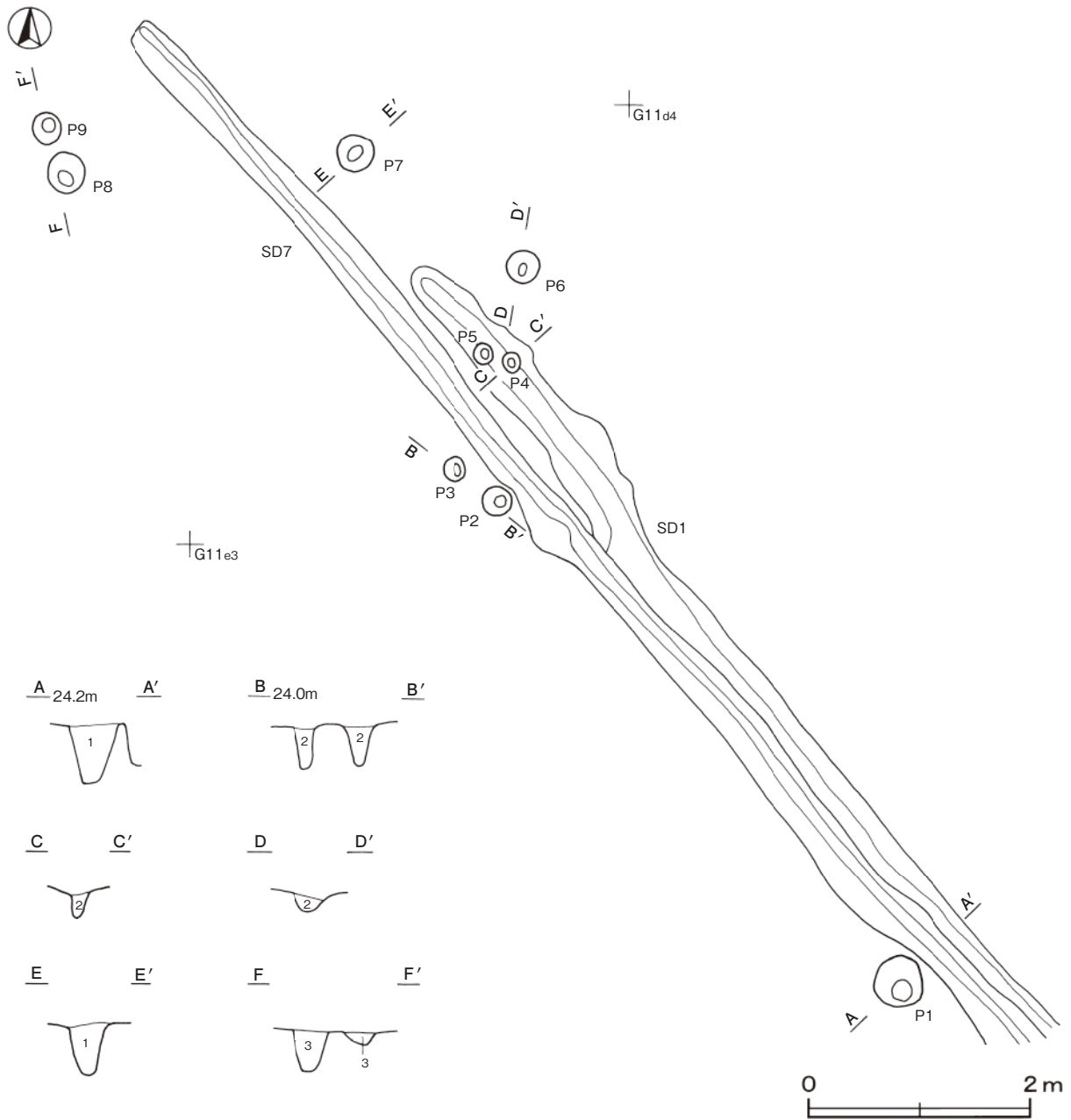
規模と形状 範囲から9か所のピットが確認された。形状は径（長径）21～48cmの円形又は楕円形で、深さは20～55cmである。

土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色 ロームブロック微量
2 褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子少量

所見 ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。時期は、出土土器がないため不明である。



第139図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群ピット一覧表

ピット番 ピット号	形状	規 模 (cm)			ピット番 ピット号	形状	規 模 (cm)			ピット番 ピット号	形状	規 模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	楕円形	48	44	45	4	楕円形	20	16	30	7	円形	35	33	50
2	円形	28	26	30	5	円形	21	21	55	8	楕円形	37	33	36
3	楕円形	23	18	35	6	円形	32	30	32	9	円形	28	26	20

第4号ピット群 (第140図)

位置 調査I区南部のD 6 g5 ~ E 6 a8区で、標高6.0mの微高地の平坦部に位置している。

重複関係 第26号住居跡を掘り込んでいる。



第140図 第4号ピット群実測図

規模と形状 範囲から41か所のピットが確認された。形状は径（長径）14～40cmの円形又は楕円形で、深さは11～62cmである。

覆土 柱抜き取り後の覆土であり、暗褐色土で締まりが弱い。

所見 ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。時期は、出土土器がないため不明である。

第4号ピット群ピット一覧表

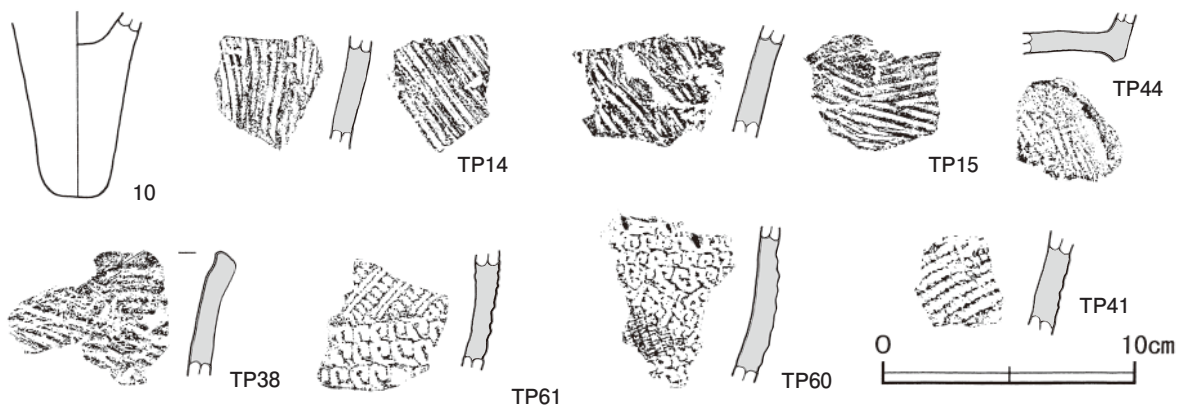
ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)			ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長径	短径	深さ			長径	短径	深さ			長径	短径	深さ
1	円形	35	34	27	15	楕円形	30	22	20	29	楕円形	36	30	37
2	楕円形	30	22	47	16	楕円形	25	22	-	30	円形	24	24	22
3	楕円形	40	35	25	17	楕円形	26	22	36	31	楕円形	25	20	18
4	[円形]	37	[36]	64	18	楕円形	27	20	32	32	楕円形	26	23	16
5	円形	35	30	28	19	楕円形	30	27	27	33	円形	26	24	15
6	楕円形	30	24	30	20	[円形]	27	[25]	33	34	楕円形	25	16	15
7	円形	30	27	20	21	楕円形	26	20	50	35	楕円形	18	14	32
8	円形	31	28	11	22	楕円形	34	26	27	36	楕円形	23	20	30
9	円形	30	30	15	23	円形	34	32	40	37	楕円形	24	20	14
10	楕円形	40	30	28	24	円形	25	25	26	38	楕円形	16	14	16
11	楕円形	46	35	30	25	円形	20	20	-	39	円形	26	25	10
12	円形	36	34	32	26	円形	30	29	45	40	円形	25	25	18
13	楕円形	33	25	-	27	円形	28	25	33	41	楕円形	32	24	24
14	楕円形	36	28	23	28	楕円形	25	19	30					

表21 その他のピット群一覧表

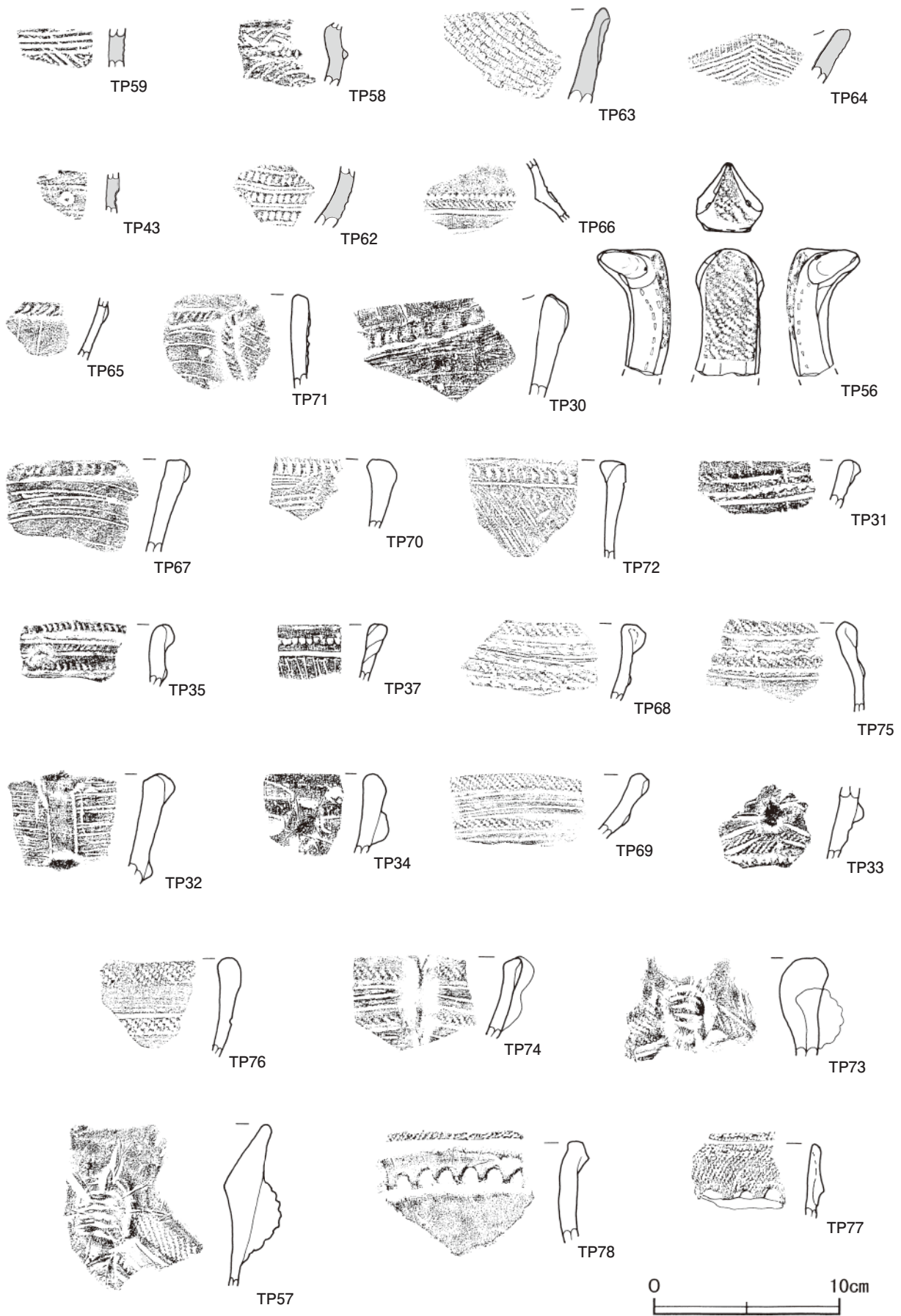
番号	位置	範囲		柱穴数	柱穴平面形	径 (cm)	深さ (cm)	主な出土遺物	備考
		東西 (m)	南北 (m)						重複関係 (古→新)
1	H12a1 ~ H12c2	3.0	6.5	6	円形 楕円形	24 ~ 58	20 ~ 33		
2	G11d2 ~ G11e4	8.5	8.2	9	円形 楕円形	21 ~ 48	20 ~ 55		SD 1 → 本跡
4	D6g5 ~ E6a8	16.0	20.0	41	円形 楕円形	14 ~ 40	11 ~ 62		SI26 → 本跡

(5) 遺構外出土遺物 (第141～143図)

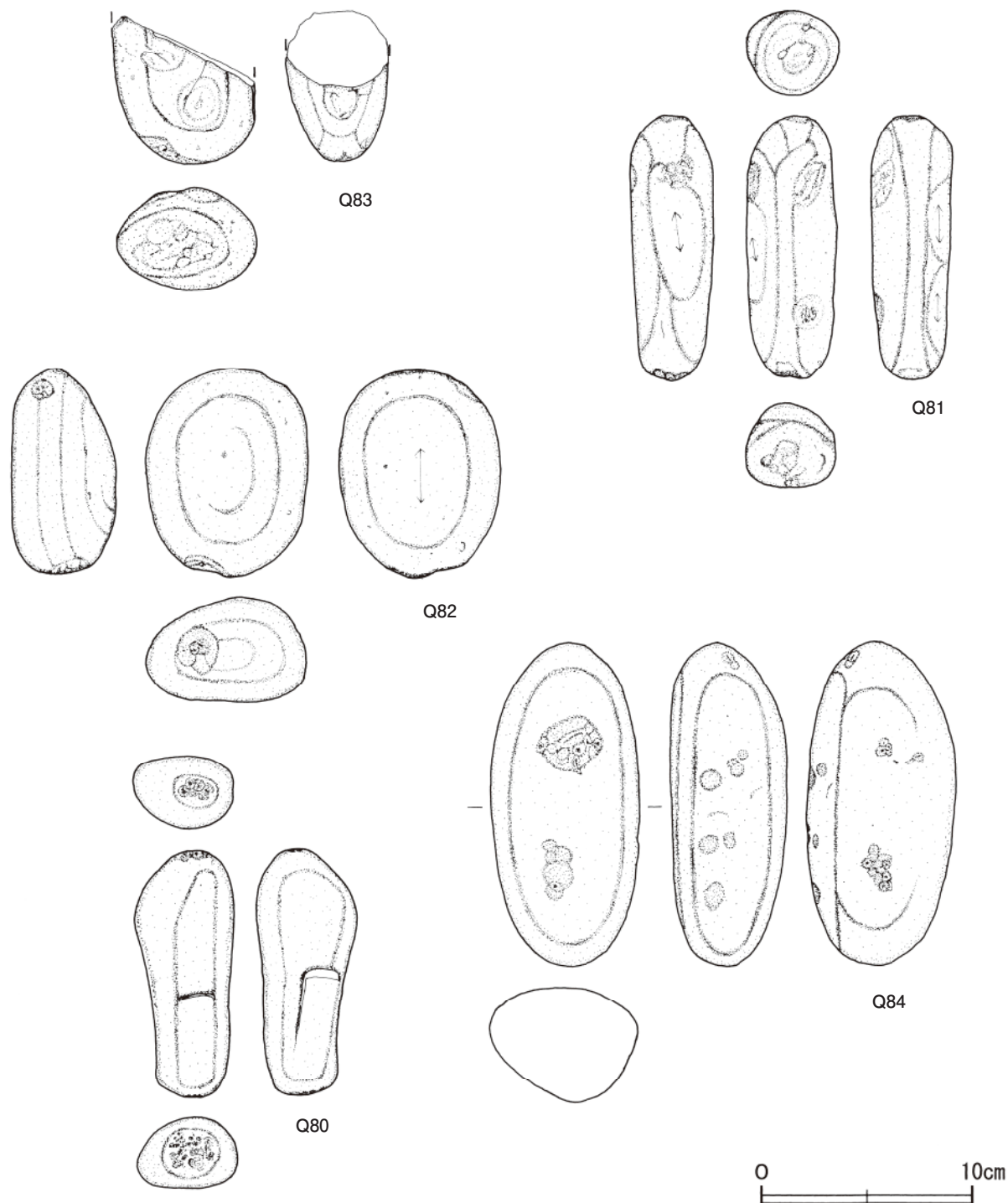
遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第141図 遺構外出土遺物実測図(1)



第142図 遺構外出土遺物実測図(2)



第143図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第141 ~ 143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部側面へラ状工具による削り尖底部に黒斑	床面	早期5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明褐	普通	内外面貝殻条痕文	SI25 覆土中	早期 PL22
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	赤褐	普通	内外面貝殻条痕文	SI25 覆土中	早期 PL22
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗褐	普通	底部上げ底 貝殻腹縁文	SI13 覆土中	前期

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	長石・繊維	褐	普通	摩耗のため不鮮明 斜位の沈線文	SI13 覆土中	前期 PL22
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗赤褐	普通	単節縄文 LR 内面磨き	SI13 覆土中	前期
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	瘤状の貼付文 ループ文 単節縄文 RL	SI 8 覆土中	前期 PL23
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	胴部附加条 1 種 (附加 1 条) ループ文	SI12 覆土中	前期
TP59	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	赤褐	普通	沈線文	SI 8 覆土中	前期
TP58	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にぶい褐	普通	口辺部山型の沈線文 刻み目のある隆帯貼付文 捺糸側面圧痕文	SI18 覆土中	前期
TP63	縄文土器	深鉢	雲母・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	絡条体圧痕文	SI12 覆土中	前期 PL23
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	波状口縁 口辺部縦位の刻み目 波状に沿って山型の平行沈線文	SI12 覆土中	前期
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰褐	普通	横位の絡条体圧痕文 円形竹管文	SI13 覆土中	前期
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	胴部附加条 1 種 (附加 1 条)	SI12 覆土中	前期
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	把手部片 蛇体をモチーフとしたものか 単節縄文 RL 側面に刺突文	I 区表土中	中期 PL23
TP65	縄文土器	深鉢	砂粒・赤色粒子	橙	普通	隆帯に爪形文 縦位の沈線文	SI12 覆土中	後期
TP66	縄文土器	深鉢	雲母	明赤褐	普通	鋸歯文 隆帯に爪形文 沈線文	SI11 覆土中	後期
TP71	縄文土器	土器片 鍬カ	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	隆帯に刻み目 条線文	SI11 覆土中	後期
TP30	縄文土器	深鉢	雲母	にぶい褐	普通	口辺部紐線文 胴部条線文	SI 9 覆土中	後期 PL22
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部隆帯に爪形文 横位の条線文	SI12 覆土中	後期
TP70	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部爪形文 横位の条線文	SI18 覆土中	後期
TP72	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部爪形文 斜位の条線文	SI18 覆土中	後期 PL23
TP31	縄文土器	深鉢	雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部縄文 刺突文と沈線文を施文	SI 9 覆土中	後期 PL22
TP35	縄文土器	深鉢	雲母・赤色粒子	橙	普通	紐線文施文 紐線文間縄文施文	SI10 覆土中	後期
TP37	縄文土器	深鉢	雲母	橙	普通	口辺部横位の連続刺突文 条線文	SI10 覆土中	後期
TP68	縄文土器	深鉢	雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部帯縄文 沈線文と連続刺突文	SI11 覆土中	後期 PL23
TP75	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部帯縄文 横位の連続刺突文で無文帯を区画	SI11 覆土中	後期
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部に貼瘤 沈線区画内に条線文施文	SI 9 覆土中	後期 PL22
TP34	縄文土器	深鉢	雲母	橙	普通	口辺部下貼付文 沈線区画	SI10 覆土中	後期
TP69	縄文土器	深鉢	石英・雲母	赤褐	普通	口辺部帯縄文 横位の平行沈線文	SI12 覆土中	後期 PL23
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部に貼瘤 平行沈線文 単節縄文 LR 頸部半截竹管による押引文	SI 9 覆土中	後期
TP76	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	口辺部帯縄文	SI18 覆土中	後期
TP74	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部帯縄文 横位の沈線文で無文帯を区画 帯縄文上に瘤状の貼付文	SI11 覆土中	後期 PL23
TP73	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	波状口縁 口縁部帯縄文に刻み目のある瘤状突起を貼付	SI18 覆土中	後期 PL23
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁 口縁部帯縄文に刻み目のある瘤状突起を貼付	I 区表土中	後期 PL23
TP77	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	複合口縁 口縁部単節 LR 縄文 口縁部下に指頭押捺	SI 2 覆土中	後期 PL23
TP78	弥生土器	壺	長石・石英	橙	普通	複合口縁 口唇部単節縄文 口縁部無文 口縁部下に指頭押捺	SI 2 覆土中	後期 PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q80	磨石	11.8	4.7	3.4	261.0	砂岩	表裏面に磨痕 先端部に敲打痕	SI11 覆土中	
Q81	敲石	12.4	4.3	3.9	283.0	砂岩	敲打痕 3 か所	SI11 覆土中	PL26
Q82	敲石	9.9	7.6	4.9	546.0	石英斑岩	敲打痕 2 か所	SI12 覆土中	
Q83	敲石	(7.1)	6.7	4.8	(227.0)	砂岩	敲打痕 4 か所	SI11 覆土中	
Q84	凹石	15.4	7.1	5.4	777.0	砂岩	表面に凹み 2 か所	SI11 覆土中	PL26

第4節 ま と め

今回の調査で、田島遺跡は縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが確認された。当遺跡の調査区全体を概観すると、集落と墓域が時期を隔てて存在していたことが分かってきた。ここでは、平成15・16年度に調査された田島遺跡（田島下地区）¹⁾との関連を踏まえて、各時代ごとに調査成果を概観し、集落及び墓域の変遷について若干の考察を行いまとめとしたい。

1 縄文時代

遺構は、竪穴住居跡5軒、陥し穴4基、集石土坑1基が確認されている。第3・4号陥し穴は調査Ⅱ区東部の河岸段丘上に確認されているが、他の遺構は調査Ⅰ区西部で確認されている。特に竪穴住居跡5軒の時期は、出土土器から前期初頭の花積下層式期と考えられる。これら住居跡は標高6mの河岸段丘の低位段丘上に位置しており、当該期の低地における集落遺跡の調査は、県内でも事例が少ないことから重要な資料となる。

はじめに、茨城県域や石岡市内における前期遺跡の分布を概観し、当遺跡の立地について検討するとともに、下郷古墳群²⁾で確認された集落と比較することによって集落の様相を検討する。次に、本跡出土の花積下層式土器の様相について検討するとともに、第23・25号住居跡からは600点以上の石器が出土していることから石器の様相についても検討したい。なお、石岡市域における縄文時代の遺跡とその様相については、『石岡市遺跡分布調査報告』³⁾を参照した。また、花積下層式土器の編年については谷藤保彦氏の「茨城県における縄文時代前期初頭の土器様相」⁴⁾を参考とした。

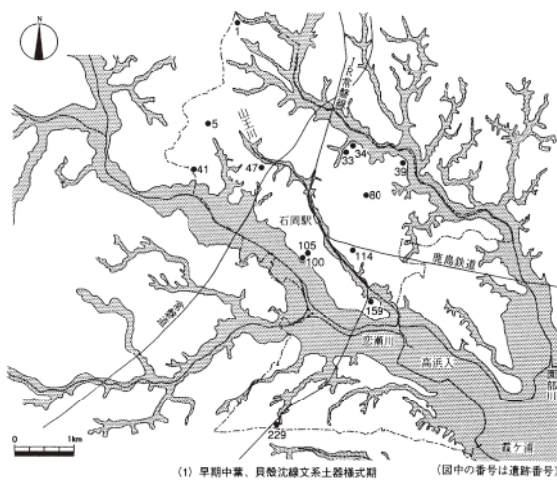
(1) 当遺跡の集落立地について

茨城県内の貝塚をみると、前期初頭の土器が出土しているのは水戸市大串貝塚・小美玉市野中貝塚・ひたちなか市道理山貝塚が有名であるが、いずれも標高15～20mの台地上から斜面部にかけて位置している。また、花積下層式期の住居跡が確認されている遺跡は、土浦市下郷古墳群（7軒）、茨城町奥谷遺跡（1軒）、東海村石神城跡（2軒）、日立市遠下遺跡（14軒）で報告例⁵⁾があるが、いずれも標高20～30mの台地上または台地縁辺部に位置している。当遺跡の住居跡は、他の台地上の遺跡とは立地が異なる点で興味深い。当該期で微高地に位置する遺跡は、石岡市域ではほとんど見られず、周辺市町村でもかすみがうら市一ノ瀬川右岸に位置する中島遺跡、小美玉市園部川右岸の氾濫原に面した微高地に位置する香取下遺跡において、土器片採集の報告がされているだけである⁶⁾。

2001年3月に刊行された『石岡市遺跡分布調査報告』によると、市域で縄文時代の遺物が発見されている遺跡は121か所で、そのうち発掘調査が実施されて時期や内容が判明している遺跡は、この時点で20か所である。早期後葉の貝殻条痕文系土器様式期では、19か所の遺跡が確認され、その内、恋瀬川・山王川流域では13か所である。これらの遺跡は、縄文海進の影響によるものか、他の時期と比べて北部の台地上に偏在する傾向がある。前期前半の羽状縄文系の土器片が採取されている遺跡は48か所（内、花積下層式土器の出土が確認されている遺跡は、当遺跡を含めて5か所）で、その内、住居跡の調査が行われた遺跡が5遺跡である。その内訳は対馬塚遺跡で関山式期の住居跡1軒、黒浜式期の住居跡は餓鬼塚遺跡1軒・宮部遺跡1軒・新池台遺跡7軒・外山遺跡3軒⁷⁾の合計13軒が確認されている。前期前半の遺跡の分布は、恋瀬川・山王川流域で23か所で、早期後葉に比べて南部の遺跡増加が著しい。また、前期後半の遺跡は48か所確認され、住居跡が調査された遺跡は4遺跡53軒である。遺跡の分布は、恋瀬川・山王川流域で19か

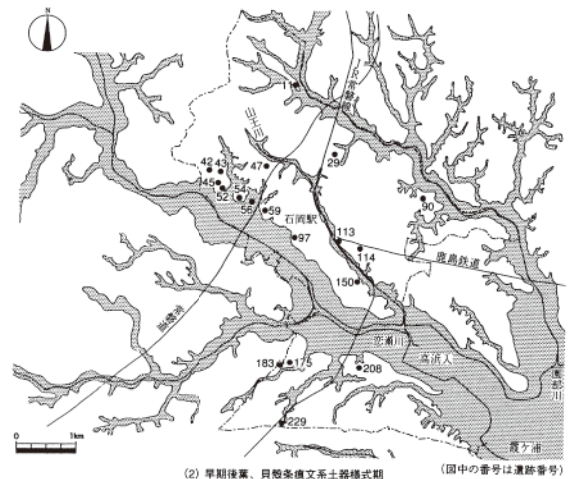
所で、前期前半に比べ恋瀬川左岸の遺跡がやや減少し、山王川・園部川流域に遺跡の増加がみられる。石岡市域におけるこうした遺跡分布の広がりや、漁労活動の活発化に伴う人口増加が要因の一つと考えられるが、恋瀬川南部と山王川・園部川流域に関しては、縄文海進による低地における環境の変化も考慮に入れる必要がある。前期は、早期末からの温暖化の中で縄文海進がピークに達した時期であり、低地部に海水が浸水し、霞ヶ浦沿岸は内湾を形成していた時期である。海水面は、現在より3～5mも高かったことが知られている。霞ヶ浦の高浜入に流入する恋瀬川流域でも、海水が内陸部まで進入していたことは、染谷に高根貝塚⁸⁾が確認されていることから明らかである。

当遺跡の住居跡は恋瀬川左岸の標高6mの微高地に位置することから、当時は海水が押し寄せていたと考えられ、本跡の立地する場所は霞ヶ浦内湾の沿岸部であったと想定される。茨城県においては当該期の低地部の調査事例が少なく、その集落痕跡については明らかではないが、当遺跡はその立地から低地に集落痕跡を示す希少な調査事例といえる。



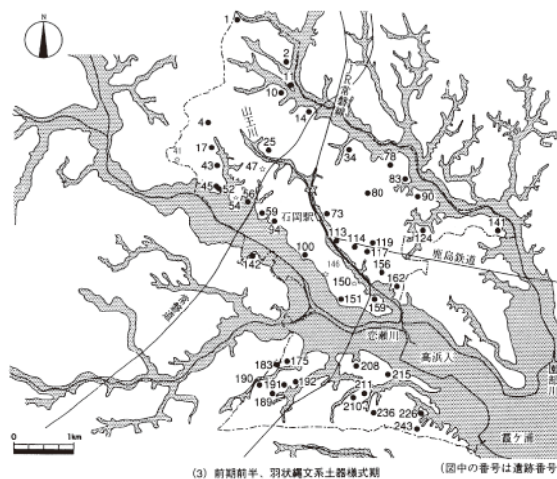
(1) 早期中葉、貝殻沈積文系土器様式期 (図中の番号は遺跡番号)

石岡市域における早期中葉の遺跡分布 (石岡市遺跡分布調査報告より)



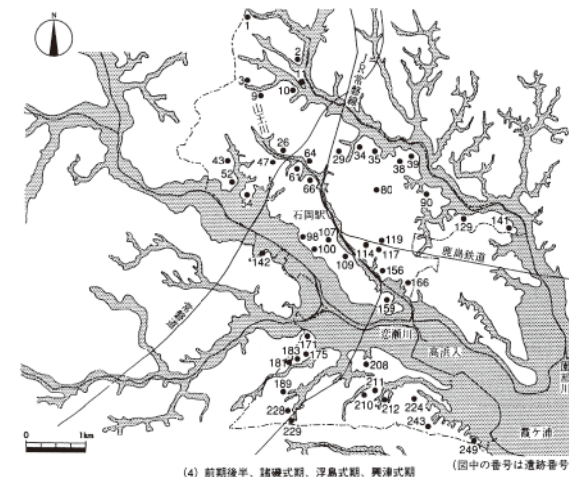
(2) 早期後葉、貝殻炭燻文系土器様式期 (図中の番号は遺跡番号)

石岡市域における早期中葉の遺跡分布 (石岡市遺跡分布調査報告より)



(3) 前期前半、羽状縄文系土器様式期 (図中の番号は遺跡番号)

石岡市域における早期中葉の遺跡分布 (石岡市遺跡分布調査報告より。一部改変 ☆花責下層式土器出土遺跡)



(4) 前期後半、踏碇式期、浮島式期、興津式期 (図中の番号は遺跡番号)

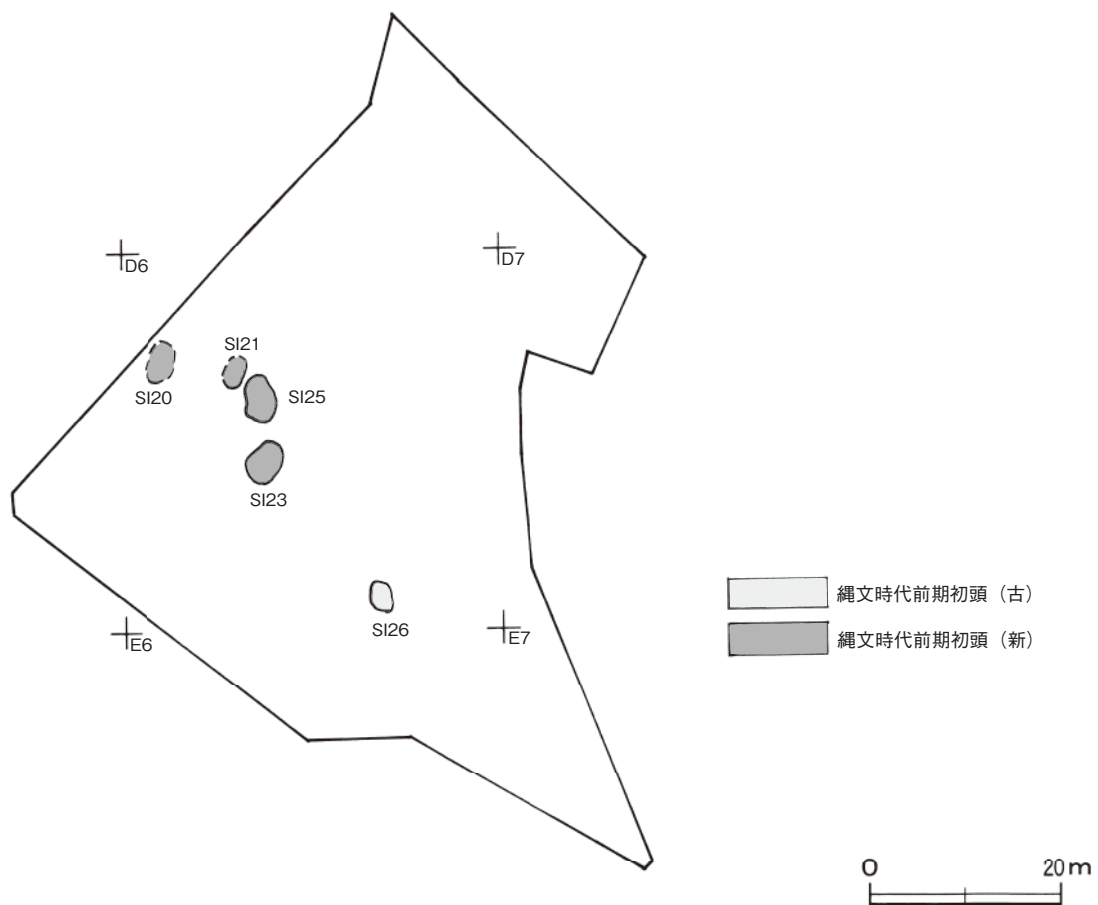
石岡市域における早期中葉の遺跡分布 (石岡市遺跡分布調査報告より)

第144図 石岡市における縄文時代（早期中葉～前期後期）の遺跡分布

(2) 集落の様相について

竪穴住居跡は5軒検出されており、出土土器から2時期と考えられる。第20・21・23・25号住居跡の4軒からは、口縁部が肥厚し、撚糸側面圧痕文を施すものや単節縄文で羽状構成に施文する土器であり、時期差は認められない。しかし、第26号住居跡からは貝殻背圧痕文が施文された土器が出土しており、花積下層I式に位置づけられるもの⁹⁾であることから、他の住居とは時期差があると想定される。同時期とした他の住居4軒については若干の時間差があるものと考えられる。集落変遷図(第145図)をみると、第20号住居跡と第23号住居跡の間隔が12m、第21号住居跡は第20・23号住居跡と6～7mの間隔で北側に位置する。しかし、第25号住居跡は第21号住居跡の南側に位置し、住居間が1mと近接することから、同時に存在したとは考えにくい。また、第25号住居跡の主軸(長軸)方向はやや北西に傾き(N-10°-W)、第26号住居跡と主軸方向(N-10°-W)を同じくする。それ以外の住居跡は主軸方向が東寄りに傾く(N-19°～42°-E)ことから、第25号住居跡は第20・21・23号住居跡とは時間差があるものと考えられる。以上のことから、近接した住居で主軸方向を同じくする第20・21・23号住居跡の3軒のまとまりで集落を構成した可能性が考えられる。関東地方の当該期の集落は小規模構成であり、下郷古墳群で確認された花積下層式期の住居跡も3軒程度のまとまりで集落を構成したとされている¹⁰⁾。当遺跡における集落も、小規模な構成であったと考えられる。

当遺跡で確認された住居の形態をみると、平面形状が長軸3.2～4.8mの隅丸長方形を呈し、柱穴の配置が不規則で、住居間での規格性が認められない。下郷古墳群の住居跡と比較すると、平面形や規模はほぼ



第145図 田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)集落変遷図(縄文時代前期初頭)

同程度であるが、下郷古墳群では炉をもつ住居が多く、また、第15号住居跡では建て替えの痕跡も確認されている。当遺跡で炉をもつ住居は第23号住居跡1軒だけである。その炉床からは焼土が微量検出されただけで、繰り返し使用された痕跡が認められず、また、増築や建替の痕跡も認められない。また、周辺には食料調理に使用されたと想定される集石土坑が1基確認されているが、他に炉穴等の遺構もみられないことから、長期に渡って生活したとは考えにくい。さらに出土土器の様相も第26号住居跡を除いては、ほぼ同時期で花積下層式期の後半の土器と考えられることから、集落遺跡としての継続期間はやや短いと考えることができる。

表22 当遺跡と下郷古墳群の花積下層式期の住居比較

遺跡名	番号	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉			重複関係 (古→新)
田島遺跡	20	-	不明	(2.56) × (1.00)	10～14	平坦	-	-	-	-	-	人為	花積下層式土器片 磨石	本跡→SI22→SI12
	21	N-19°-E	[隅丸長方形]	3.20 × 1.94	10～18	平坦	-	-	-	4	-	自然	花積下層式土器片 敲石・磨石	本跡→SI12→SD17 壁柱穴4か所
	23	N-42°-E	隅丸長方形	4.42 × 3.16	14～36	平坦	-	5	-	5	1	人為	花積下層式土器片 敲石・磨石・楔形石器・石鏃・尖頭器・石匙	棟持柱の柱穴2か所
	25	N-10°-W	隅丸長方形	4.76 × 3.04	16～30	平坦	-	-	-	13	-	人為	花積下層式土器片 敲石・磨石・楔形石器・石鏃	本跡→SK222, SB3 壁柱穴10か所
	26	N-9°-W	隅丸長方形	3.34 × 2.20	6～10	平坦	-	-	-	11	-	人為	花積下層式土器片 石鏃	本跡→PG4
下郷古墳群	5	N-34°-W	隅丸長方形	3.94 × 2.75	20～25	平坦	-	2	-	-	1	自然	花積下層式土器片 石鏃・磨石・剥片	TP2→本跡→SI3
	15	N-62°-W	隅丸長方形	4.08 × 3.32	25～38	平坦	-	-	-	27	2	自然	花積下層式土器片 磨石	SK35→本跡→SI14, SD2 壁柱穴26か所 (内9か所は建て替え)
	16A	N-43°-W	隅丸長方形	3.76 × 2.63	25～30	平坦	-	-	-	-	1	人為	花積下層式土器片 石鏃・打製石斧・石鏃・砥石	SI16B→本跡 中央部に内環を付設
	16B	N-33°-W	隅丸長方形	3.78 × 2.60	15～21	平坦	-	-	-	-	-	自然	花積下層式土器片 石鏃	本跡→SI16A, SK31
	17	N-38°-W	隅丸長方形	4.28 × 2.88	20～25	平坦	-	4	-	3	2	人為	花積下層式土器片 剥片	本跡→SI12, SK3, SD2
	19	N-21°-E	隅丸長方形	3.52 × 2.72	15～20	平坦	-	5	-	6	1	人為	花積下層式土器片 石鏃・剥片	補助柱穴3か所 性格不明柱穴3か所
24	N-58°-W	[隅丸長方形]	[4.80] × 3.08	20	平坦	-	2	1	-	-	自然	花積下層式土器片 剥片		

(3) 出土土器の様相

当遺跡の住居跡から出土した土器は、西部に隣接する田島遺跡（田島下地区）の第1号遺物包含層から出土した前期初頭の土器と特徴が類似している。このことから、前報告¹¹⁾において集落が包含層の周辺部にある可能性を指摘しているように、今回の調査で確認された竪穴住居跡5軒と第1号遺物包含層は、同一の遺跡と捉えられる。

本跡出土の花積下層式土器は口縁部が折り返されて肥厚し、口縁部文様帯を形成しているものがほとんどである。また、胴部以下には羽状縄文が施文されている土器が多い。肥厚口縁に複合鋸歯文や単節縄文・羽状縄文を施すもの（TP2～5・TP10・TP12・TP13）と、撚りの異なる2～3条一組の撚糸側面圧痕で蕨手状の文様構成および規則的な刺切文の配置等の文様を施すもの（P2・P5・TP1・TP46）は、谷藤編年によると花積下層Ⅲ式期に編年されるものである。それ以外に胴部に貝殻背圧痕文を施文するもの、底部が上げ底ぎみで貝殻腹縁文を施すもの（P11・P12）が第26号住居跡から出土している。これらは花積下層式土器Ⅰ式期に位置づけられる可能性¹²⁾があり、他の住居跡から出土した土器より古い段階の様相が認められる¹³⁾。

(4) 出土した石器について

第23・25号住居跡からは多くの加工具である石器、石鏃などの製品、製作過程で剥離した微細な剥片が出土している。これら大量の剥片に混じって、楔形石器が目立っている。石鏃の製作においては、まず両極打撃で薄く均一な素材を作り、それから周辺に押圧剥離で整形加工を行うものがみられ、ゆるやかな弧

状形態（Q18・Q21・Q34・Q36・Q37）や、一端に尖頭部を作る形態（Q17・Q32）が、石鏃の未製品とみられる。第23号住居跡から出土した楔形石器や剥片は、炉をはさんだ中央部北西寄りと南寄りの2か所に集中地点がみられることから、住居内で楔形石器を素材とした石鏃製作が行われていた可能性がある¹⁴⁾。また、第25号住居跡の覆土からは600点近くの石鏃や剥片が出土しているが、出土位置が高く、また、第23号住居跡以外の近接する遺構からは剥片類がほとんど検出されないことから、第25号住居跡が廃絶した後の窪地に一括廃棄されたものと想定される。第23・25号住居は隣接しており、両跡から出土している剥片の石材が類似することから、第25号住居跡が廃絶した後の窪地に、第23号住居跡で石鏃を製作した際の剥片を廃棄した可能性も考えられる¹⁵⁾。なお、両跡で検出された剥片の石材は、チャートが8割を占め、他に安山岩、石英、瑪瑙、黒曜石などであるが、チャート以外は極めてわずかである。これら石材は微細なものが多く、また母岩が少ないことから、小形の石材を持ち込んで、素材（楔形石器）作成→成形→仕上げ（石鏃）の工程が周辺で行われたものと想定される。また、主要な加工品である石鏃には、最大長が1.5～2.5cm、重量が0.2～1.0gほどで非常に小さく、また欠損品が多いという特徴がみられる。

表23 石材別重量・点数 (SI23)

	総重量 (g)		点数 (点)	
	重量	割合	点数	割合
チャート (内石鏃2点を含む)	167.3	32.1%	67	78.8%
黒曜石	0.7	0.1%	1	1.2%
石英	26.0	5.0%	2	2.4%
安山岩	6.7	1.3%	2	2.4%
瑪瑙	7.4	1.4%	3	3.5%
砂岩	5.6	1.1%	2	2.4%
トトロ石	304.7	58.5%	4	4.7%
頁岩	2.6	0.5%	4	4.7%
合計	521.0		85	

表24 器種別重量・点数 (SI23)

	総重量 (g)		点数 (点)	
	重量	割合	点数	割合
剥片	159.6	30.6%	73	85.9%
石核	238.3	45.7%	2	2.4%
楔形石器	114.5	22.0%	6	7.1%
尖頭器	1.3	0.2%	1	1.2%
石鏃	0.8	0.2%	2	2.4%
石匙	6.5	1.2%	1	1.2%
合計	521.0		85	

※ 石器類の石材、個別の重量については観察表を参照。

表25 石材別重量・点数 (SI25)

	総重量 (g)		点数 (点)	
	重量	割合	点数	割合
チャート (内石鏃11点を含む)	384.3	77.3%	497	83.0%
黒曜石	2.1	0.4%	12	2.0%
安山岩	28.9	5.8%	40	6.7%
瑪瑙 (内石鏃1点を含む)	44.9	9.0%	42	7.0%
砂岩 (内尖頭器1点を含む)	13.4	2.7%	4	0.7%
トトロ石	23.5	4.7%	2	0.3%
石英	0.04	0.1%	1	0.2%
赤玉石 (石鏃1点)	0.3	0.1%	1	0.2%
合計	497.3		599	

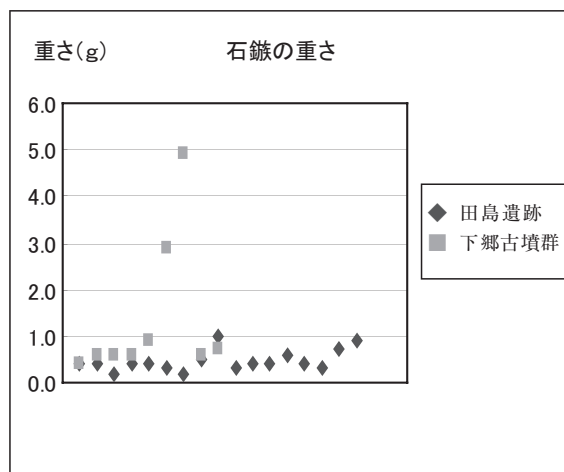
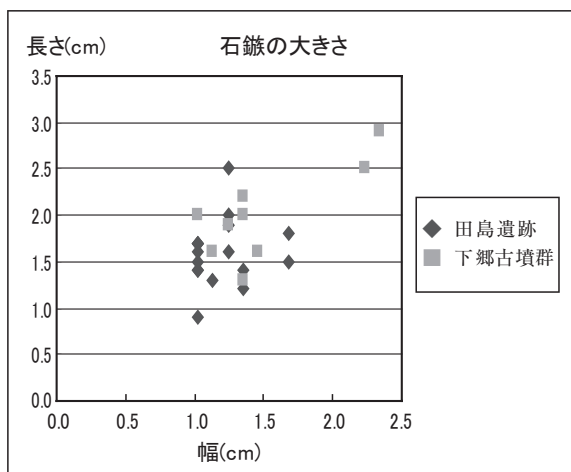
表26 器種別重量・点数 (SI25)

	総重量 (g)		点数 (点)	
	重量	割合	点数	割合
剥片	441.78	88.8%	575	96.0%
楔形石器	48.5	9.8%	9	1.5%
石鏃	7.0	1.4%	15	2.5%
合計	497.28		599	

※ 石器類の石材、個別の重量については観察表を参照。

表27 当遺跡と下郷古墳群の石鏃比較

	番号	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	出土した住居
田島遺跡	Q 22	1.7	(1.1)	0.3	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部と左脚部欠損	覆土下層	SI23
	Q 23 (1.3)	(1.2)	0.4	(0.4)	チャート	両面押圧剥離調整 脚部欠損	床面		
	Q 38	1.7	1.1	2.2	0.2	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整	覆土上層	
	Q 39	1.5	1.1	0.5	0.4	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整	覆土上層	
	Q 40	1.6	(1.1)	0.3	(0.4)	砂岩	三角鏃 両面押圧剥離調整	覆土上層	
	Q 41	1.4	1.4	0.2	0.3	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整	覆土上層	
	Q 42 (0.9)	1.1	0.2	(0.2)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	覆土上層		
	Q 43	2.0	(1.3)	0.3	(0.5)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土上層	
	Q 44	2.5	(1.3)	0.4	(1.0)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 未製品	覆土中	
	Q 45	1.6	(1.3)	0.3	(0.3)	赤玉石	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	
	Q 46	1.4	1.1	0.3	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部と基部欠損	覆土中	
	Q 47	1.4	1.1	0.3	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	
	Q 48 (1.5)	1.7	0.4	(0.6)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	覆土中		
	Q 49 (1.2)	1.4	0.4	(0.4)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	覆土中		
Q 50	1.7	1.1	0.3	(0.3)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中		
Q 51	1.9	1.3	0.4	(0.7)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中		
Q 52	1.8	1.7	0.4	(0.9)	瑪瑙	三角鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中		
下郷古墳群	Q 15	1.6	1.2	0.3	0.4	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整	南西部床面	SI5
	Q 46	1.9	1.3	0.4	0.6	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整	北東部床面	
	Q 48	2.2	(1.4)	0.4	(0.6)	チャート	無茎鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	覆土中	SI16 A
	Q 49 (1.3)	1.4	0.4	(0.6)	チャート	三角鏃 両面押圧剥離調整 先端部欠損	北壁中央付近床面		
	Q 50	2.0	1.4	0.4	0.9	チャート	三角鏃 両面押圧剥離調整	覆土中	
	Q 53	2.5	2.2	0.6	2.9	チャート	三角鏃 両面押圧剥離調整	覆土中	
	Q 109	2.9	2.3	1.0	4.9	チャート	両面押圧剥離調整 未製品カ	覆土中	
	Q 47	2.0	(1.1)	0.4	(0.6)	チャート	三角鏃 両面押圧剥離調整 基部欠損	南東部覆土下層	
Q 70	1.6	1.5	0.5	0.7	チャート	三角鏃 両面押圧剥離調整	南東部覆土下層	SI19	



以上のことから、当遺跡の縄文時代の集落の様相は次のようにまとめることができる。まず、集落における住居の配置は、恋瀬川の流路に沿った直線状の並びを意識しつつ、3軒程度の小集団で構成される集落が想定される。しかし、第20号住居跡は調査区域外に延びており、前回調査で確認された第1号遺物包含層までは約40mの距離があることから、当遺跡の西部から第1号遺物包含層まで集落が広がっていた可能性もある。その包含層において当該期の生活痕跡と思われる早・前期の土器片と堅果類（胡桃など）が出土しており、前回の報告では出土土器の様相と堅果類の出土量が多いことから、遺跡周辺に長期に渡る集落の存在が示唆されている¹⁶⁾。しかし、当遺跡の集落痕跡から考えると、住居跡には炉を持たないものが多く、周辺にも食料調理に関する痕跡が確認されないことから、長期に渡って集落を営んだ可能性は低い。当遺跡の集落は、少量の石材を持ち込み石鏃に仕上げて狩猟・漁労を行う拠点であり、このような想定から、第25号住居跡に廃棄された石鏃は、繰り返し使用されて欠損、または再加工によって小さくなったものが機能の限界に達して、一括廃棄されたものであった可能性が指摘できる¹⁷⁾。

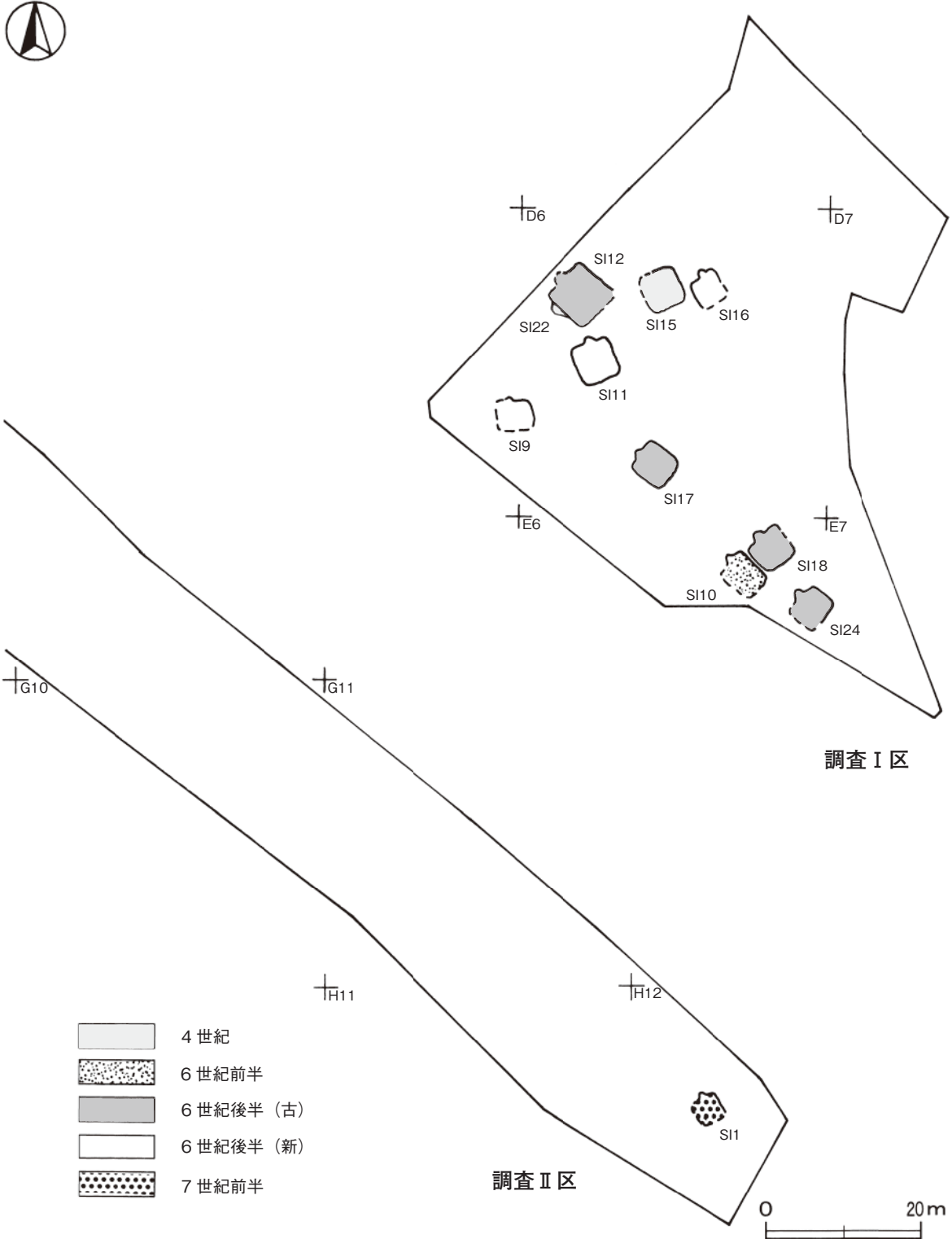
2 古墳時代

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡11軒が確認されている。これらの住居跡は第1号住居跡が標高24mの台地上に、その他はすべて標高6mの河岸段丘の低位段丘上に位置している。住居跡の時期を出土土器の様相¹⁸⁾から区分すると4世紀後半1軒（SI15）、6世紀前半1軒（SI10）、6世紀後半9軒（SI1・9・11・12・16～18・22・24）の3時期に区分される。5世紀代の遺構や遺物は確認されていないが、当遺跡東側の北根本地区には5世紀中葉に築造された東国第2位の規模を誇る舟塚山古墳があり、周辺部に当該期の集落の存在が予見される。また、4世紀後半と考えられる第15号住居跡、6世紀前半とみられる第10号住居跡は、それぞれ1軒が確認されただけで、集落の様相は不明である。

今回の調査では6世紀後半の住居跡が9軒確認されていることから、集落の盛期は当該期である。第12号住居跡は面積が約42㎡と当遺跡では最大である。出土遺物は少ないが、当該期の中心的な住居と考えられる。近接する住居では、第17・18・24号住居跡が主軸方向を等しくしており、これら4軒は5～15m間隔でほぼ直線上に展開していることから、生産と消費の基礎単位となる集団を形成していたとみられる。第11号住居跡は第12号住居跡が1.5m間隔で近接し、また、第9・16号住居跡を含めた3軒は主軸方向がやや北寄りで他と異なることから、若干の時期差があると考えられる。6世紀後半の住居跡からは、搬入品とみられる東海系の須恵器（短頸壺、坏）、琥珀製棗玉、まとめて出土した白玉15点など威信財的な遺物が出土して

おり、有力者の存在がうかがわれる。なお、白玉15点がまとまって出土した第11号住居跡は、床面から方形状に炭化材が検出されており、焼失住居と考えられる。これらの炭化材が支柱穴を巡ることから、支柱もしくは梁や桁として使用されたものと考えられ、樹種同定を行ったところ、周辺で入手可能な木材で強度の高いコナラを利用していたことが判明した。

7世紀代に該当する遺構は、I区では確認されておらず、集落に一時的な断絶があったと考えられる。なお、7世紀前半に該当する遺構は、調査II区で竪穴住居跡が1軒が確認されているだけである。



第146図 田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)集落変遷図(古墳時代)

3 奈良時代

8世紀代の遺構は、調査Ⅰ区で3軒、調査Ⅱ区で6軒の住居跡が確認されている。Ⅰ区の住居跡3軒は主軸方向がほぼ真北を向くようになり、時期は、出土土器から第14号住居跡が8世紀前葉、第8・19号住居跡が8世紀後葉と考えられる。Ⅱ区の住居跡の形態は、立地が台地上で北から南に下る傾斜面になっていることから、東西に主軸をとる構造になっている。これは、東西に延びる河岸段丘の軸線上に合わせて住居を構築したことによるものと考えられる。

Ⅰ区とⅡ区では住居跡の平面形にも違いが見られる。Ⅱ区の住居跡は長軸方向が竈と垂直な東西方向に長軸をとり、竈を主に見ると住居の平面形は横長の長方形となる。対して、微高地部の住居跡は竈の軸線方向が長軸方向となっていて、竈を主に見ると住居の平面形は縦長となる。住居の形態に違いが見られることから、単位集団を異にする二つの集団があった可能性が考えられる。

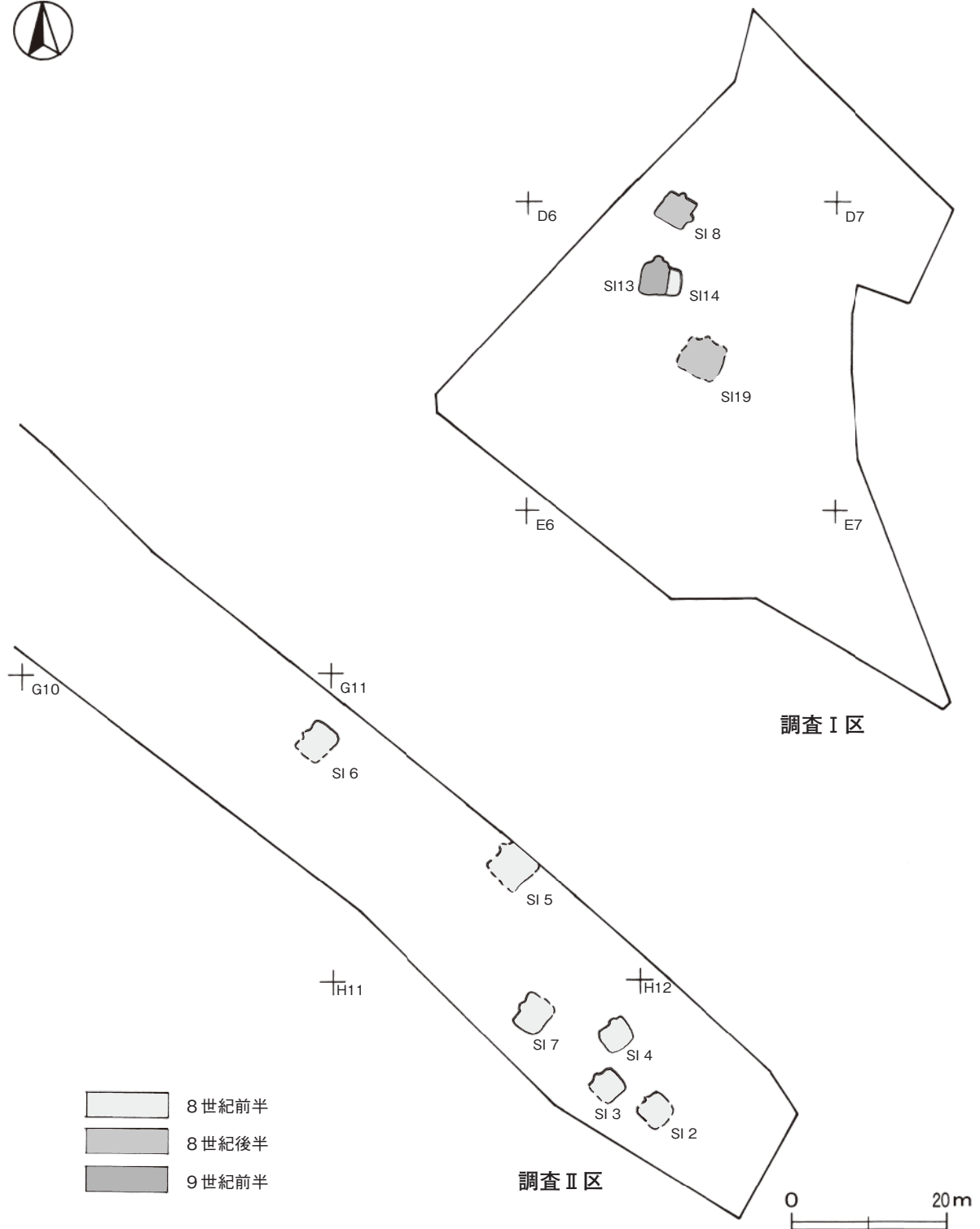
また遺物は、前回調査において当遺跡の西側にあたる谷地部に検出された第2号包含層出土土器とほぼ同時期のものと考えられる。その谷地部からは水田跡も検出されており、出土土器の様相と出土状況から奈良時代の律令体制下に置かれた人々によって開墾され、水田の経営が始まった可能性が指摘されている¹⁹⁾。今回の調査で当遺跡に7世紀代には途絶えていた集落が、8世紀代になって再び形成されており、水田の開墾時期と重なることから、律令体制下の開墾集落の可能性が高い。

4 平安時代

当該期の遺構は、竪穴住居跡1軒、墓坑3基が確認されている。住居跡は調査Ⅰ区から第13号住居跡1軒のみが検出されている。主軸方向はN-15°-Eで、奈良時代の住居とほぼ同じ方向を主軸としている。出土遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・蓋・盤・甕・甑、土製品（支脚）、鉄製品（刀子）であり、付近の住居跡より比較的多く出土している。須恵器片の胎土には白雲母が顕著にみられ、地理的關係からも新治窯のものと考えられる。また、これらの遺物の内には住居の廃絶後に一括投棄されたものも多く含まれている。前回調査で確認された第2号包含層からは、8世紀初頭から10世紀代までの土師器・須恵器を中心とし、施釉陶器片、瓦片、転用硯なども出土している。その内には、当該期の土器も含まれており、また、地理的環境からも本跡と第2号包含層との関連がうかがえる。

また、当遺跡では、集落の様相が9世紀前葉を最後に失われてしまい、Ⅰ・Ⅱ区ともにそれ以降の墓域が確認されている。

調査Ⅱ区では9世紀代の遺構が確認されず、10世紀代と考えられる墓坑が3基確認された。墓坑とみられる第59・60・103号土坑からは、遺構や土器の中に骨片は検出されなかったが、ほぼ完形の土師器坏（うち2点は墨書あり）、土師器高台付椀、灰釉陶器が出土しており、副葬品として埋納されたものと考えられる。灰釉陶器は折戸53号窯式とみられ、出土状況から口縁部に土師器坏が被せられた状態で埋納されたものと考えられる。こうした土器の出土状況や器種構成が、土坑墓とされる鹿の子C遺跡の第46・122号土坑と類似するもの²⁰⁾と捉えられることや、当時としては豪奢品であった灰釉陶器を副葬品としていることから、被葬者は役人もしくは富裕層であった可能性がある。また、これら墓坑の時期は、出土土器から10世紀前半とみられ、当遺跡の河岸段丘上は8世紀代まで集落として機能し、10世紀代には墓域に変容したものと想定される。



第147図 田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）集落変遷図（奈良・平安時代）

5 中世

中世の遺構は、方形竪穴遺構4基、地下式坑1基、堀跡1条、溝跡3条、井戸跡2基、粘土貼り土坑1基、火葬土坑8基、墓坑1基（墓坑の可能性のある土坑12基）である。特に調査I区では、中央部の第15・18号溝跡に区画された火葬土坑群と墓坑、地下式坑、粘土貼り土坑と井戸跡を有する範囲が注目される。火葬土

坑7基は2列に配され、ほぼ1～2mの等間隔で並んでいることから、その場所が墓域の中で火葬を行う場として定着していたか、もしくは短期間でほぼ同時に使用されたか、二つの可能性がある。いずれにしても、火葬土坑が一定の範囲内にまとまって検出された例は、水戸市十万原遺跡、鹿島市厨台No. 24遺跡に類例はあるが、非常に少ない²¹⁾。骨片に混じって燃料材とみられる炭化材が出土していたが、樹種同定の結果、クリ材と判明し、当遺跡周辺で手に入る燃料材を使用したものとみられる。群馬県白石大御堂遺跡や千葉県佐倉市の神門房下遺跡C地点の調査では、土坑墓や火葬墓、地下式坑、井戸、粘土貼り土坑、堂跡である掘立柱建物跡がまとまって確認されており、14世紀末から15世紀にかけての大規模な墓地造成地であると報告²²⁾されている。時期はやや前後するが、確認された遺構の構成や配置が類似しており、調査I区の中央部は中世の墓地²³⁾であった可能性が高い。

また、微高地から台地上に至る途中の標高18mの台地縁辺部に、掘り込みの深さが3mを超える第1号堀跡が確認されており、その掘り込み事業の時期は、遺構の形状から中世と考えられる。堀跡の立地と形状から台地部を隔絶する城郭の防御的な施設の可能性も考えられるが、当遺跡内に中世の城郭もしくは古館があったという伝承もなく、堀跡を境とした台地上にも城郭の存在を裏付けるような遺構・遺物は確認されなかった。また、当遺跡の台地上は平安時代末から幕末まで存続したとされる南光院跡地に比定されている²⁴⁾ことから城郭の一部であった可能性は低い。

6 近世以降

近世の遺構は、掘立柱建物跡2軒、段切り状遺構1か所、溝跡2条、井戸跡1基、土坑6基、粘土貼り土坑1基、墓坑4基(墓坑の可能性のある土坑25基)、が確認された。第2号粘土貼り土坑からは瓦灯皿、土人形、天目茶碗が出土し、18世紀後半のものと考えられる。粘土貼り土坑の周辺には、倉庫と想定される第3号掘立柱建物跡と柵状に柱穴が底面に確認された第13・14号溝跡が隣接し、関連が想定される。当遺跡は南光院跡地を含んでいることから、調査ではその痕跡を探したが、直接的な成果は得られなかった。しかし、南光院の廃絶は幕末とされ、ここに廃棄された遺物と時期が近い。また、第123号土坑からは18世紀後葉の仏花瓶が、段切り状遺構内の第101号土坑からは19世紀代の香炉²⁵⁾がそれぞれ出土し、南光院との関連が想定される。こうした仏具が出土していることは、南光院が当遺跡の調査II区の台地上に位置していた可能性を示すものである。南光院は三面寺の末寺で、三面寺が衰えた文明の頃から暫く栄えたが、幕末に廃寺となっている。『新編常陸国誌』に「和光院(南光院)は茨城田島村、本寺は醍醐三宝院にて朱印地十五石伝燈山と号す。」とあり²⁶⁾、真言宗の寺院だったことがわかる。しかし、東耀寺(もとは真言宗で、寛永年間に天台宗に改宗した。武州上野寛永寺末寺であった。)の末寺でもあり、後に天台宗へと改宗したものと思われる。南光院は、近世には東耀寺系統の末寺として村落内寺院へと変容した可能性が考えられる。また、中世期には寺辺に墓地を営む類例が多く²⁷⁾、当遺跡でも中世の墓域は調査I区(南光院下地区)で確認されている。対して、近世の墓坑はすべて台地上に位置していることから、近世以降に調査I区は南光院と関連する墓地となった可能性が可能性が考えられる。

註

- 1) 飯泉達司「一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書1田島遺跡(田島下地区)」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第253集 2006年3月
- 2) 平石尚和「下郷古墳群一般国道354道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第167集2000年3月

- 3) 石岡市遺跡分布調査会『石岡市遺跡分布調査報告』石岡市教育委員会 2001年3月
- 4) 谷藤保彦「茨城県における縄文時代前期初頭の土器様相」『考古学の深層』瓦吹堅先生還暦記念論文集刊行会 2007年1月
- 5) a 前掲2)
- b 鯉淵和彦「奥谷遺跡一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第50集 1989年3月
- c 小川和博他『石神城跡』東海村教育委員会 1992年3月
- d 佐藤政則『日立市遠下遺跡調査報告書』日立市教育委員会 1975年3月
- 6) 筑波大学考古研究室『霞ヶ浦町遺跡分布調査報告書-遺跡地図編-』霞ヶ浦町教育委員会 2001年3月
- 7) a 山本静男「兵崎遺跡・大谷津A遺跡・対馬塚遺跡・大谷津B遺跡・大谷津C遺跡・外山遺跡石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第13集 1982年3月
- b 佐藤正好・渡辺俊夫「宮部遺跡・鹿の子A遺跡・砂川遺跡常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第16集 1982年3月
- c 和田雄次「新池台遺跡石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第17集 1983年3月
- 8) 石岡市文化財関係資料編纂会『石岡市の遺跡歴史の里の発掘100年史』石岡市教育委員会1995年3月高根貝塚は、恋瀬川左岸の標高20～30mの台地上に位置し、昭和40年11月に4日間ほど慶應義塾大学考古学研究室によって発掘調査が行われ、シオフキ・ハイガイ・ハマグリを主体とする貝層と縄文時代早期後半の条痕文系土器が確認されている。その後、茨城県歴史館による調査が行われ、他12種類の貝類が確認されている。マガキ・サルボウ・オキシジミ・マテガイ・ヤマトシジミ・ウネナシトマヤガイ・オオノガイ・ナミガワシマ・カワニナ・ヘナタリ・カワアイ・ウミニナであり、これら15種類の内、最も多く出土したのがハマグリで全体の半分以上を占めている。出土した貝類の多くは海水域のものである。
- 9) 金子直行「縄文早期終末から前期初頭に於ける羽状縄文系土器群の成立について-花積下層式成立期の諸様相-」『第7回縄文セミナー-早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会1994年2月氏は花積貝塚第7号住を基準とした花積下層式の前段階を第Ⅲ段階とし、「第Ⅲ段階では、貝殻条痕文と縄文の中間的な効果を持つ貝殻背圧痕文が安定して存在する。これは、条痕文系土器群から縄文系土器群へと移り変わる段階における、折衷的な文様構成として成立したものと思われる。」と述べ、第Ⅲ段階の土器群を谷藤編年の花積下層Ⅰ式に並行するものと位置付けている。
- 10) 前掲2) なお、前期集落の研究史については石井寛「関東地方における集落変遷の画期と研究の現状」『縄文時代集落研究の現段階』縄文時代文化研究会 2001年12月を参照した。
- 11) 前掲1)
- 12) 前掲9)
- 13) 太田文雄・安井健一「石揚遺跡」『千葉県文化財センター調査報告』第255集1994年3月両氏は「花積下層式土器を特徴づける施文法として、撚糸圧痕文と並んで貝殻文があげられる。」と述べ、貝殻文を三つに分類している。なお、茨城県内では下郷古墳群の調査報告で花積下層式期とした第5・16A・16B・17・19号住居跡から出土した土器の中に貝殻背圧痕文を施文し、内面をヘラで磨いているものが数点出土している。
- 14) 小川和博・片平雅俊両氏は「微細剥片は作業「場」における「清掃行為」が行われていても素材剥片のように人為的に移動する確率よりも「原位置」をよく保持し続けているものと判断できる」ことから「製作の「場」の位置が確実に認定できるものと考えられる。」と述べている。「十王町風早遺跡調査報告書」『茨城県多賀郡十王町文化財調査報告書』第3集 1995年3月
- 15) 両跡から出土した剥片の接合を試みたが、微細なものが多く接合関係は見出せなかった。
- 16) 前掲1) P129「出土した土器は縄文時代前期の花積下層式がほとんどである。中略。正確な時間的経過を知ることはできないが、短期間ではなく長期的な経過があったと考えられる。」とし、土器や胡桃の分布状況から「北側の台地の縁辺部に集落が形成されていた可能性」を指摘している。
- 17) 三上哲也「縄文石器における「完成品」の概念について-石鏃を例とした考古学的資料批判の試論的实践-」『縄文時代第1号』縄文時代文化研究会 1990年5月
- 18) 櫻村直行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号茨城県教育財団1993年7月
- 19) 前掲1)
- 20) 佐藤正好・川井正一「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(5) 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第20集 1983年3月
- 21) a 皆川修「十万原遺跡1 十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集2001年3月
- b 「鹿島神宮駅北埋蔵文化財調査報告書XV」『鹿嶋市の文化財』第93集 1998年3月
- c 「中世墓資料集成-関東編(1)-」中世墓資料集成研究会 2005年5月
- 22) a 綿貫鋭次郎「白石大御堂遺跡関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第8集」『群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告』第122集 1991年3月
- b 「神門房下遺跡C地点-南部中学校埋蔵文化財調査-」印旛郡市文化財センター第213集 2004年3月
- 23) 笹生衛「東国における中世墓地の諸相-房総の事例を中心に-」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年1月 氏は中世墓地の類型化を行っているが、それによると当遺跡の中世墓地はD類型:上層農民主導型墓域=「多数の土壙墓を中心に火葬土坑・地下式壙を伴うが板碑が極端に少ない」に分類されるものであろう。
- 24) 石岡市市史編さん委員会『石岡市史上巻』石岡市1985年3月
- 25) 近世の土器の年代観は「東京都新宿区内藤町遺跡-放射5号線整備事業に伴う緊急発掘報告書-第Ⅱ分冊(遺物編)」新宿区内町遺跡調査会 1992年3月他を参照した。
- 26) 前掲24)
- 27) 齊藤忠「第4巻墳墓の考古学」『齊藤忠著作選集』雄山閣出版 1996年12月

参考文献

- ・石岡市文化財関係資料編纂会『常府石岡の歴史』石岡市教育委員会 1997年3月
- ・縄文時代文化研究会『列島における縄文時代集落の諸様相』『縄文時代集落研究の現段階』2001年12月
- ・山梨県考古学協会『「縄文集落を分析する」資料集』2006年12月
- ・谷藤保彦・関根慎二「早期終末・前期初頭の諸様相」『第7回縄文セミナー』縄文セミナーの会 1994年2月
- ・安井健一「沼南町石揚遺跡出土の花積下層式土器」『研究紀要』16号千葉県文化財センター 1995年1月
- ・藤巻幸雄「五目半清水田遺跡一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(縄文編)」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993年3月

付 章

田島遺跡から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

田島遺跡は、恋瀬川左岸の河岸段丘上に位置する。発掘調査により、縄文時代前期、古墳時代後期、奈良・平安時代等の遺構・遺物が検出されている。また、中世～幕末まで存続していた南光院跡地と考えられており、関連すると考えられる陶磁器片や瓦片が出土している。

本報告では、木材利用に関する資料を得るため、古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡や中世以降とされる火葬土坑から出土した炭化材の樹種同定を実施する。

1 試料

試料は、第11号住居跡から出土した炭化材2点（No.33,36）と第6号火葬土坑から出土した炭化材1点（No.1）の合計3点である。

2 分析方法

木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1991）、伊東（1995,1996,1997,1998,1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、いずれも落葉広葉樹で、2種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

表1. 樹種同定結果

遺構	時代時期	試料名	樹種
SI-11	古墳後期（鬼高式期）	No.33	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		No.36	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
SK-167	中世以降	No.1	クリ

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

4 考察

古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡とされるSI-11から出土した炭化材は、住居跡の床面上から出土しており、出土状況からNo.33がP3とP4を繋ぐ梁材、No.36がP1に伴う支柱の可能性があると考えられている。樹種は、いずれも落葉広葉樹のコナラ節であった。日本のコナラ節には4種（コナラ・ミズナラ・カシワ・ナラガシワ）があるが、現在の本遺跡周辺ではコナラが一般的である。コナラは、クヌギと共に関東地方の

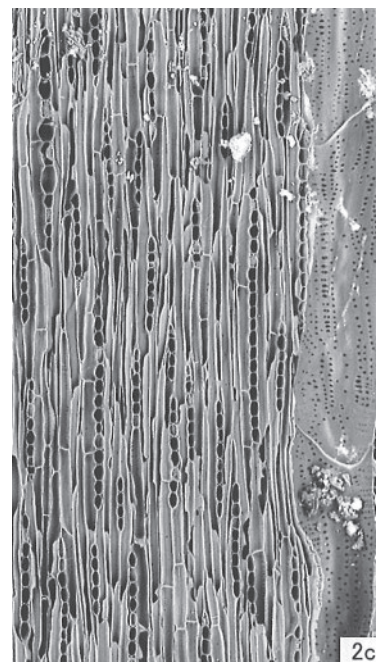
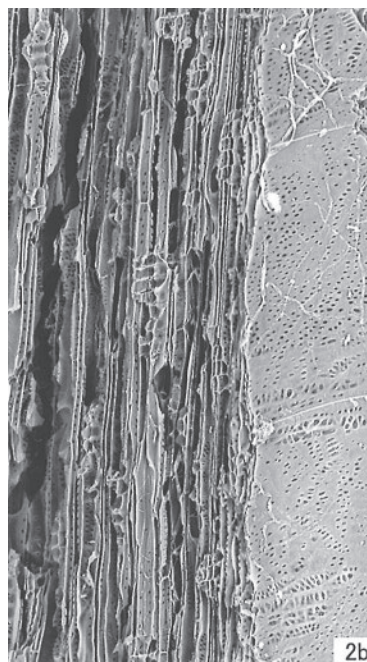
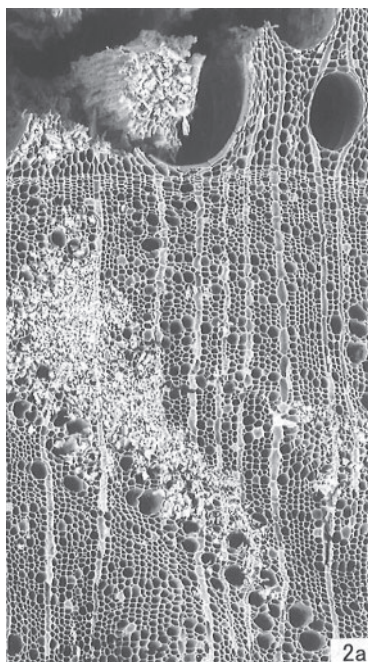
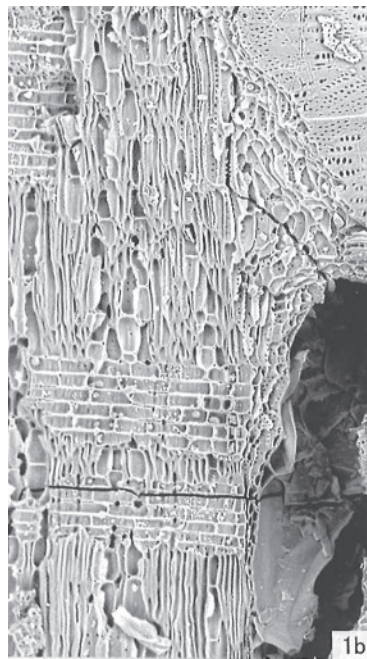
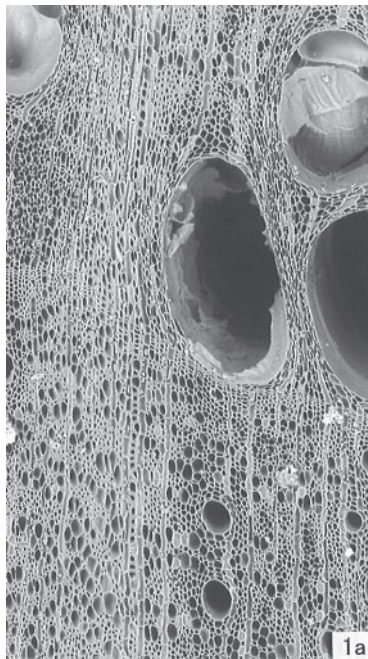
二次林を構成する種類であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。今回の結果から、SI-11では、周辺で入手可能な木材の中から強度の高いコナラ節を利用していたことが推定される。茨城県内では、これまでも古墳時代後期の住居跡から出土した炭化材について樹種同定を実施しており、沿海地でアカガシ亜属などの常緑広葉樹林構成種が多く、内陸部を中心にコナラ節やクスギ節の多い傾向がある（パリノ・サーヴェイ株式会社,1994,1996,1997,1998,1999,2002）。部位を明らかにした例が少ないため、部位別の樹種利用傾向等は不明な点が多いが、コナラ節の利用はこれまでの内陸部における傾向とも調和的である。

一方、中世以降の火葬土坑とされる第6号火葬土坑から出土した炭化材は、十字に掘られた土坑の北東部の床面付近に骨片と共に出土しており、火葬の際の燃料材と考えられている。炭化材は落葉広葉樹のクリに同定され、燃料材としてクリが利用されていたことが推定される。クリは、二次林や山地の落葉広葉樹林に生育しており、木材は極めて重硬で強度・耐朽性が高い材質を有する。現在の本遺跡周辺は住宅などにより二次林等もあまり見られなくなったが、本来は関東の二次林等に普通にみられる樹種であることから、周辺で入手可能な木材を利用したことが推定される。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1994,西ノ脇遺跡から出土した炭化材の種類.「茨城県教育財団文化財調査報告第87集 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 西ノ脇遺跡 前田村遺跡」,茨城県教育財団,278-280.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,馬場遺跡・行人田遺跡出土の炭化材・炭化種子同定報告について.「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ)」,茨城県教育財団,261-264.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1997,第5号住居跡出土炭化材の樹種.「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書」,茨城県教育財団,111-112.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1998,炭焼遺跡から出土した炭化材の樹種.「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」,茨城県教育財団,276-278.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1999,実穀寺子遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類.「荒川本郷地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」,茨城県教育財団,275-277.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2002,鳥名前野東遺跡他から出土した炭化材の樹種.「谷田部漆遺跡 下巻」,茨城県教育財団,1-9.
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材



1 コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (SI-11;No.36)

2 クリ (SK-167;No.1)

a:木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm : a

200 μm : b,c

写 真 图 版

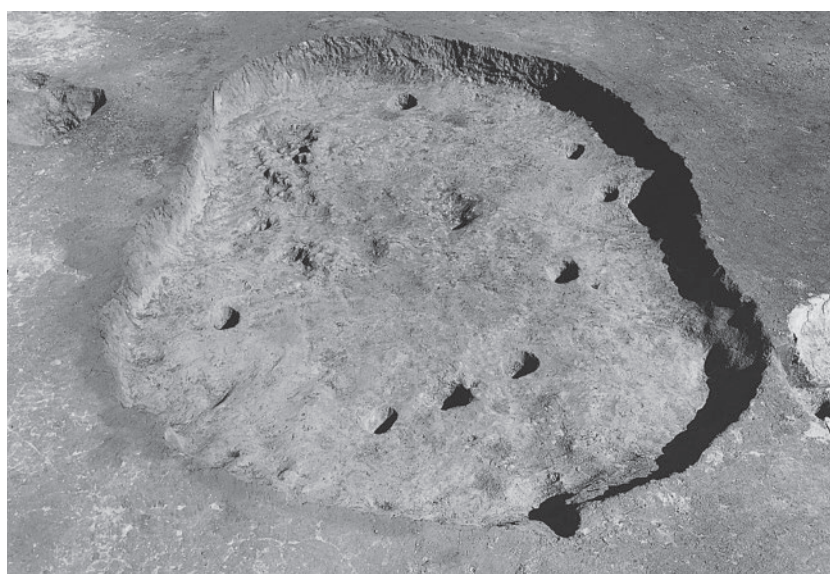
第12・20・22号住居跡
完掘状況



第21号住居跡
遺物出土状況



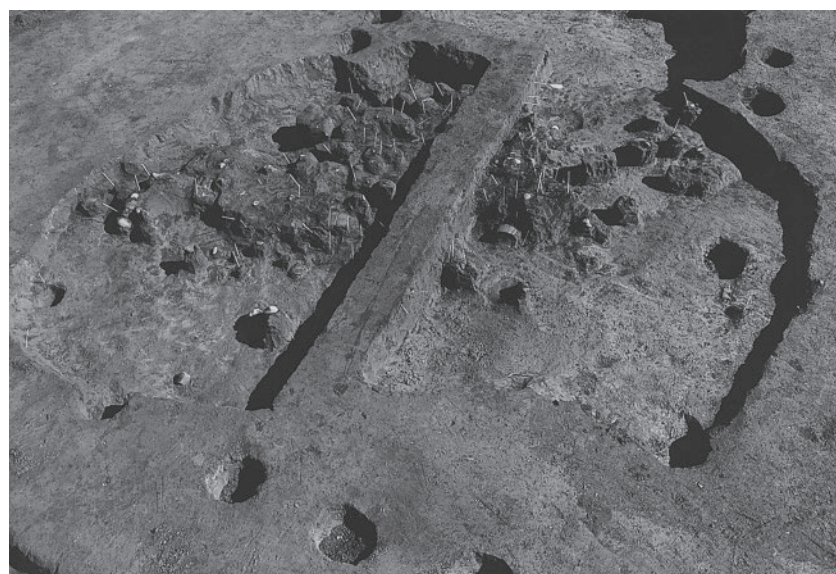
第23号住居跡
完掘状況



PL2



第25号住居跡
完掘状況



第25号住居跡
遺物出土状況



第26号住居跡
遺物出土状況

第1・2号陥し穴
完掘状況



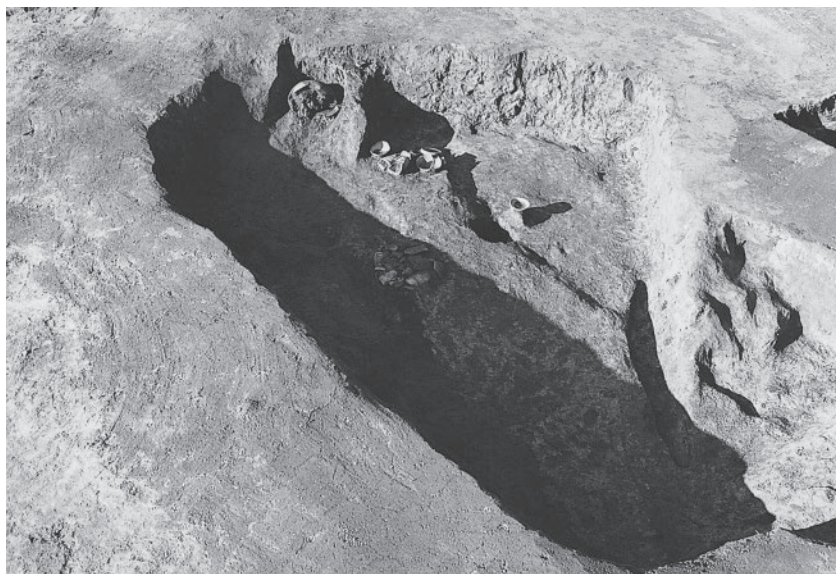
第1号集石土坑
確認状況



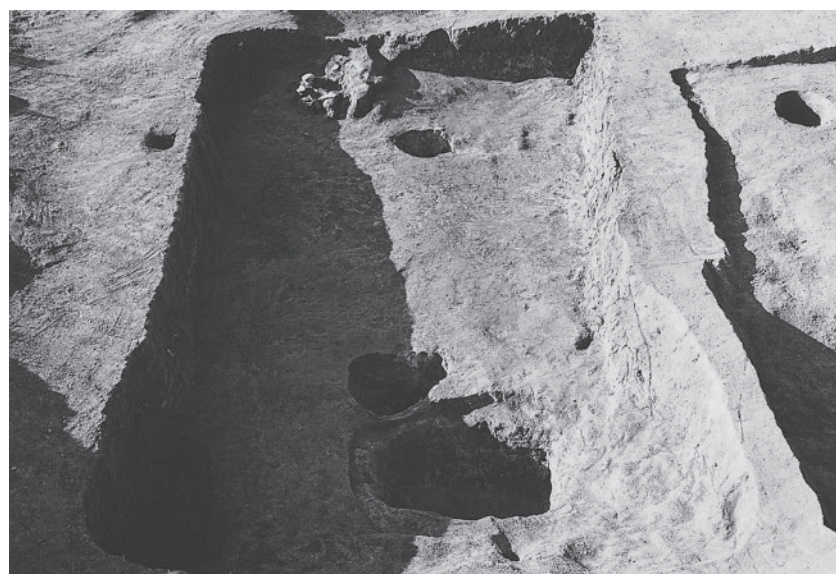
第1号住居跡
完掘状況



PL4



第9号住居跡
遺物出土状況・完掘



第10号住居跡
遺物出土状況・完掘



第10号住居跡
竈遺物出土状況

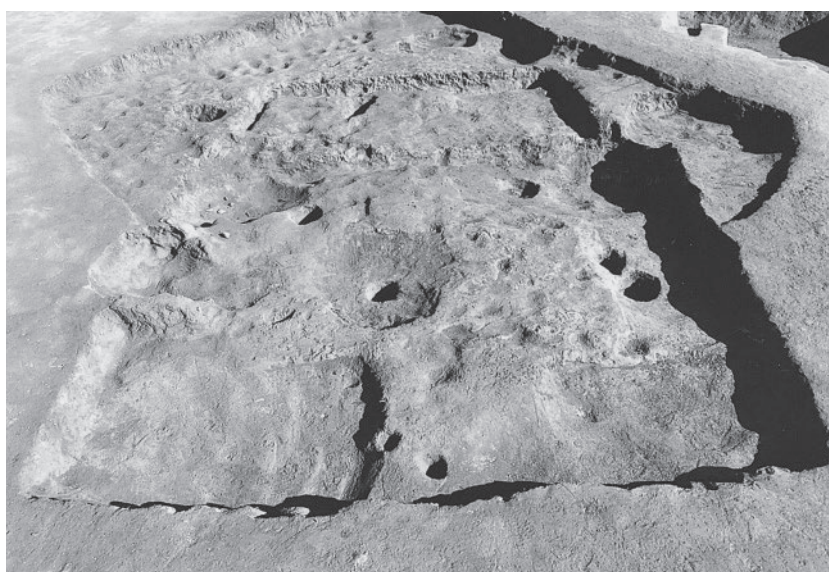
第11号住居跡
遺物出土状況・完掘



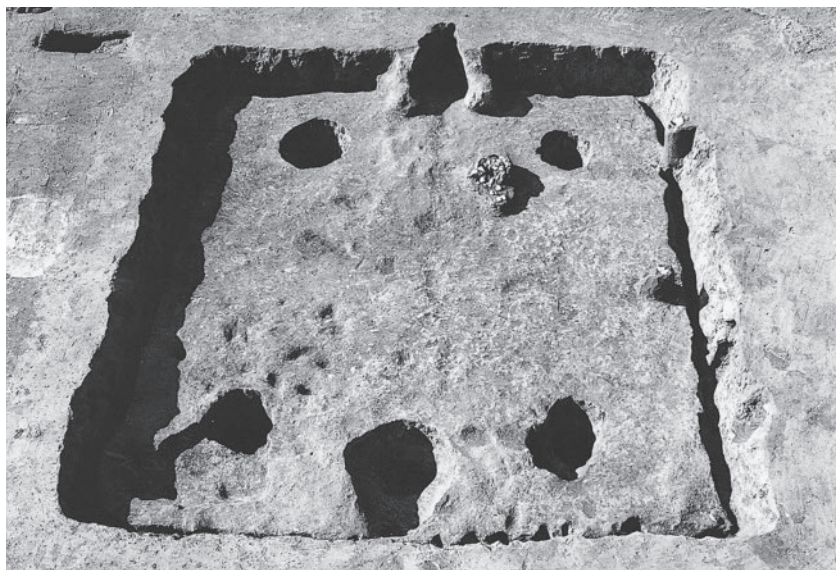
第11号住居跡
白玉出土状況



第13・14・15号住居跡
完掘状況



PL6



第17号住居跡
遺物出土状況・完掘



第17号住居跡
棗玉出土状況



第17号住居跡
竈完掘状況

第 24 号 住 居 跡
遺物出土狀況・完掘



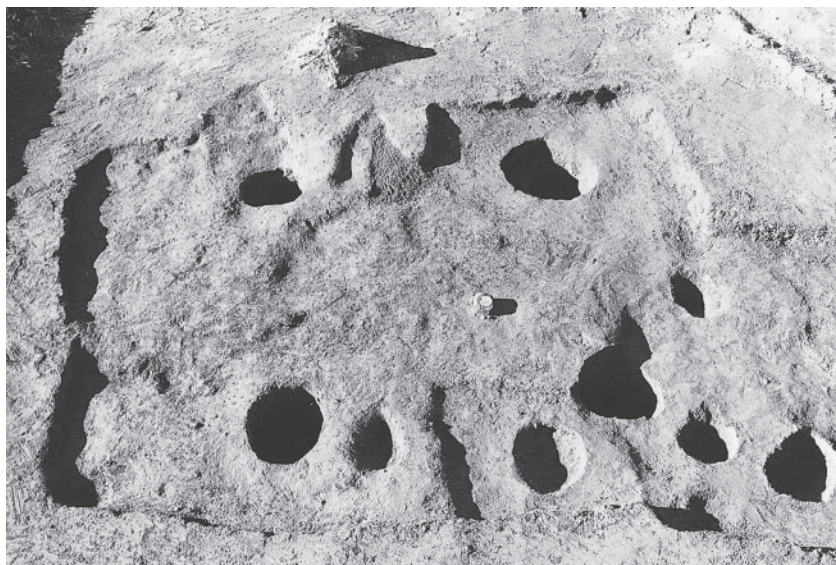
第 4 号 住 居 跡
遺物出土狀況・完掘



第 5 号 住 居 跡
完 掘 状 况



PL8



第 7 号住居跡
遺物出土状況・完掘

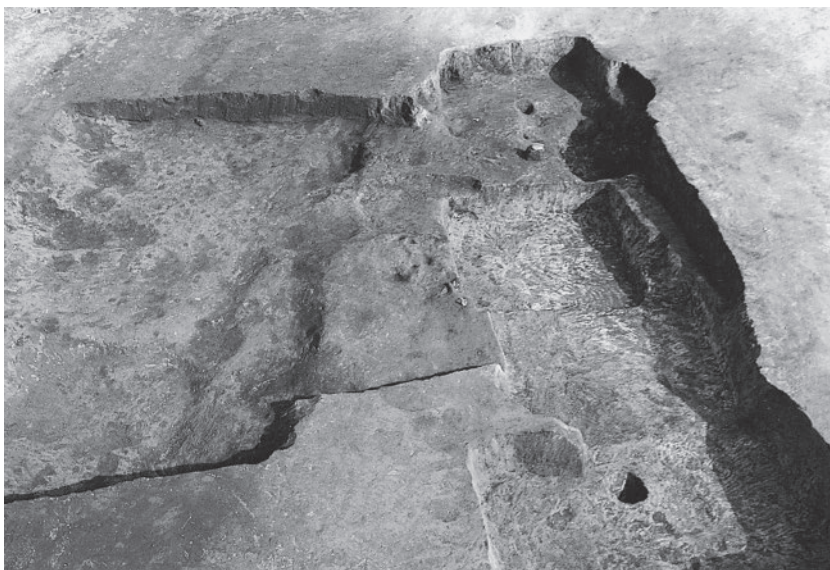


第 8 号住居跡
遺物出土状況・完掘



第 8 号住居跡
竈内遺物出土状況

第19号住居跡，第15号溝跡，
第148・149・150・151・152号土坑
完 掘 状 況



第59・60号土坑(墓坑)
遺物出土狀況



第103号土坑(墓坑)
遺物出土狀況・完掘



PL10



第 1 号 地下 式 坑
完 掘 状 况



第 1 号 地下 式 坑
土 層 断 面



第 1 号 掘 跡
完 掘 状 况

第 1 号 堀 跡
ピット確認状況



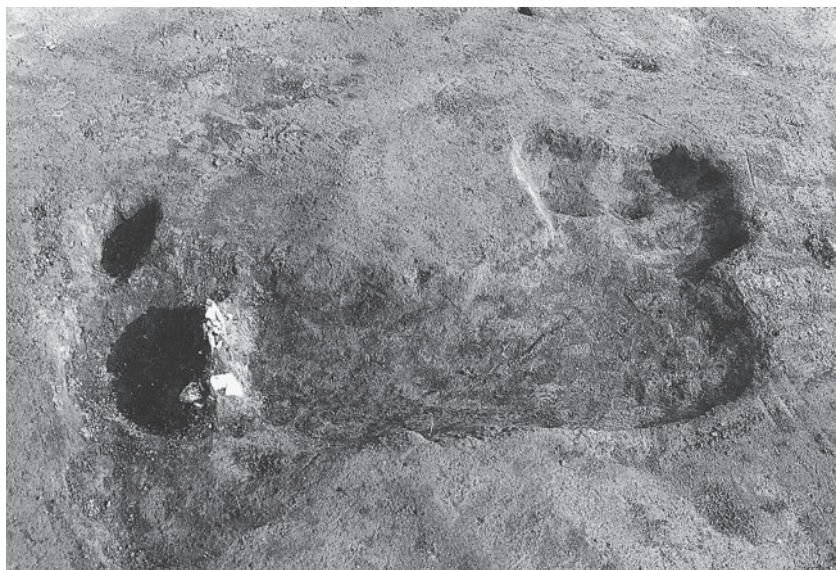
第 1 号 粘土 貼り 土 坑
完 掘 状 況



第 1 号 火 葬 土 坑
遺 物 出 土 状 況



PL12



第2号火葬土坑
遺物出土状況・完掘



第4号ピット群
完掘状況



第3号掘立柱建物跡
完掘状況

第2号粘土貼り土坑
遺物出土状況



第83・84・85・86号土坑（墓坑）
人骨出土状況・完掘



段切り状遺構
完掘状況



PL14

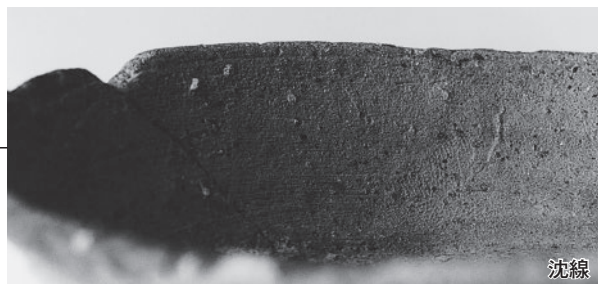




PL16



第60・103号土坑出土遺物



第4・8・10・12・13・15号住居跡，第59号土坑遺物，沈線・墨書土器





SD20-165



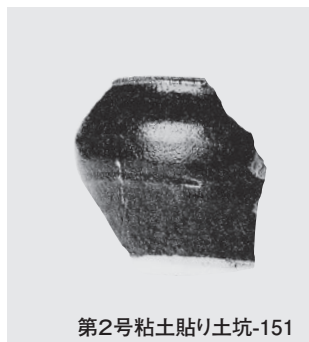
第1号地下式坑-138



第2号粘土貼り土坑-149



第1号火葬土坑-136



第2号粘土貼り土坑-151



SK123-146



SI13-94



SK101-159



SI13-95



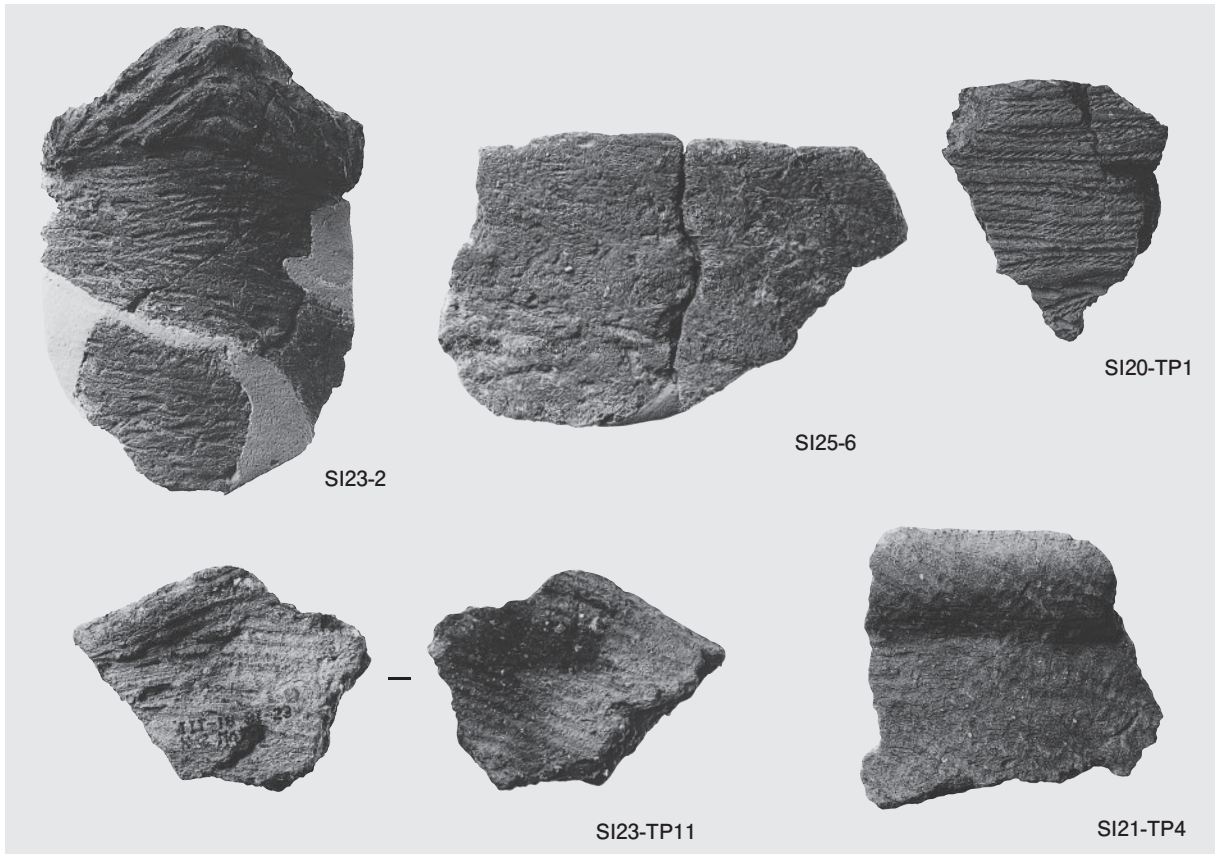
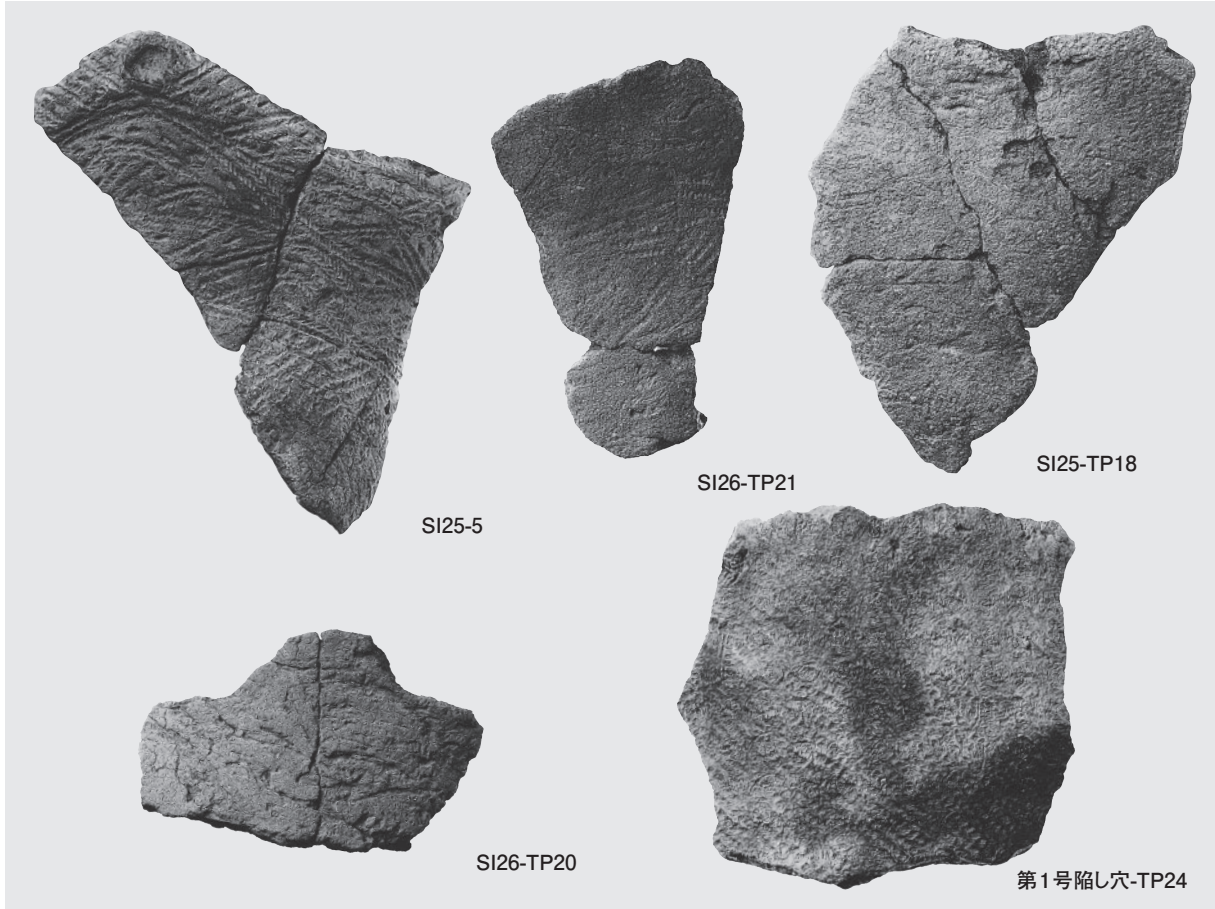
SK60-128



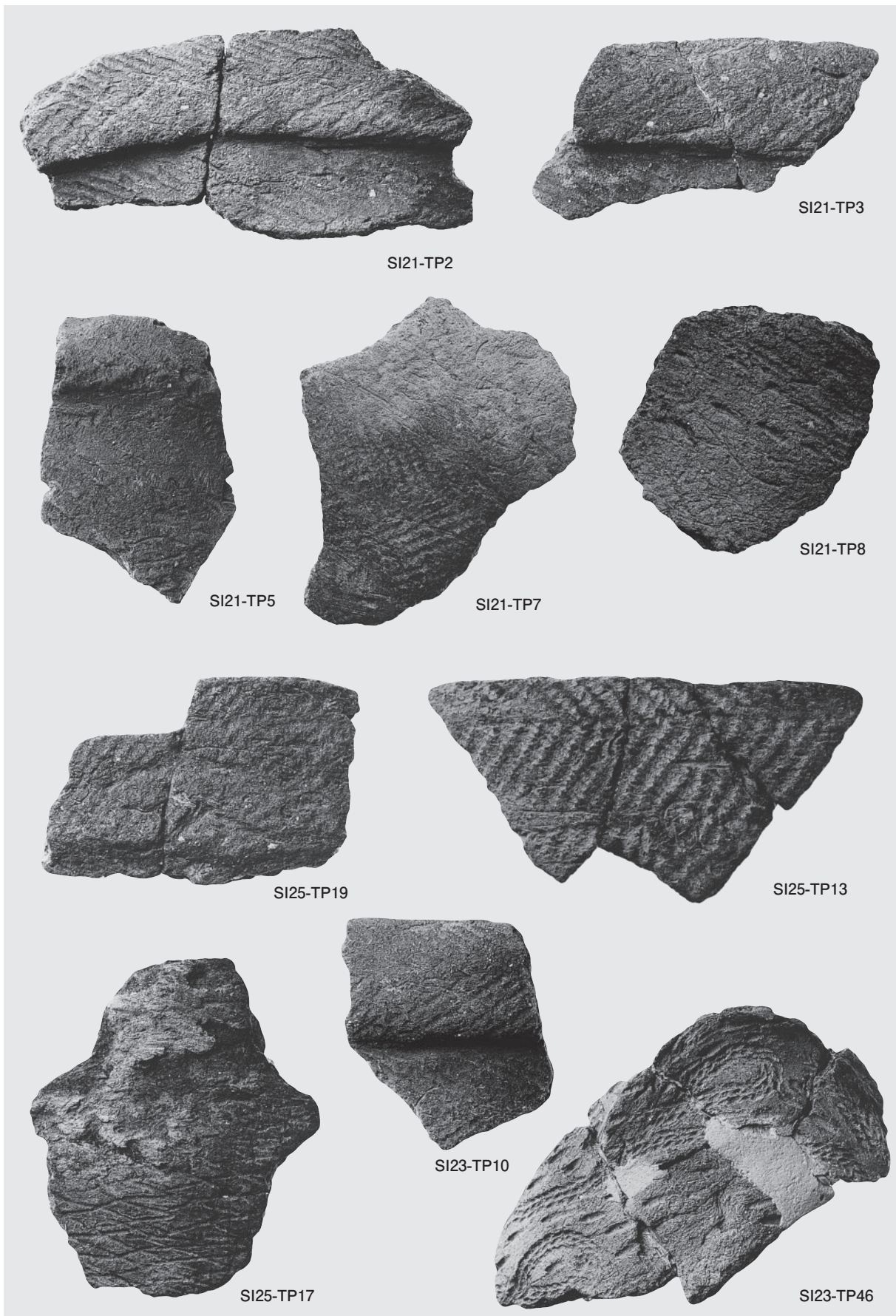
SI13-103

第13号住居跡, 第60・101・123号土坑, 第1号地下式坑, 第2号粘土貼り土坑, 第1号火葬土坑
第20号溝跡出土遺物

PL20



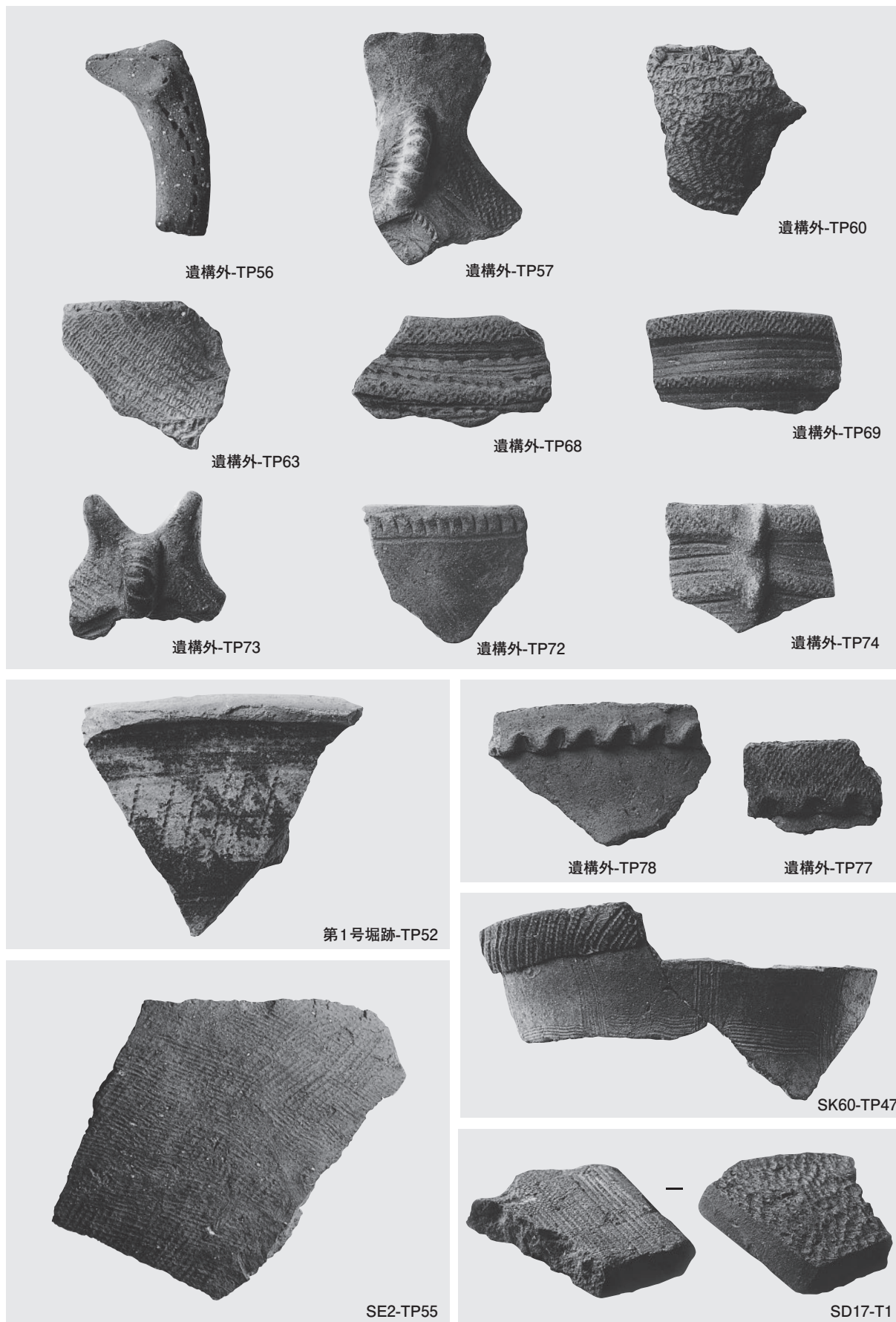
縄文土器



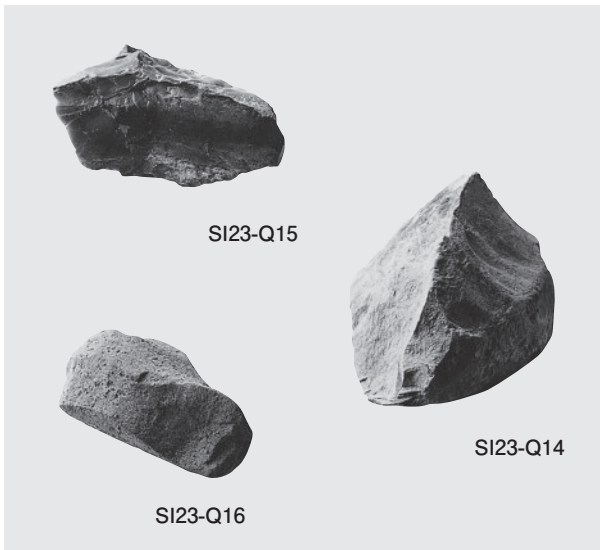
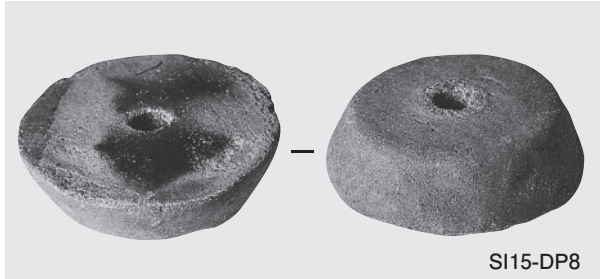
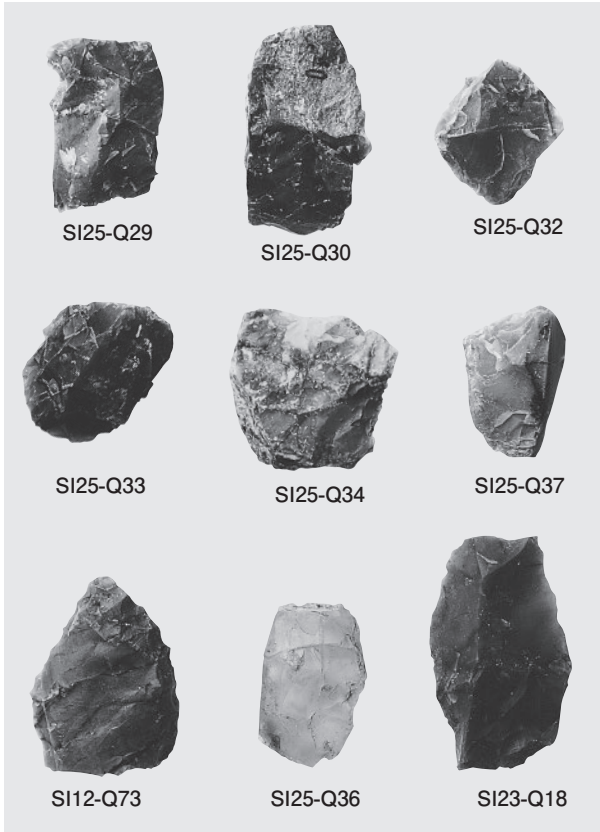
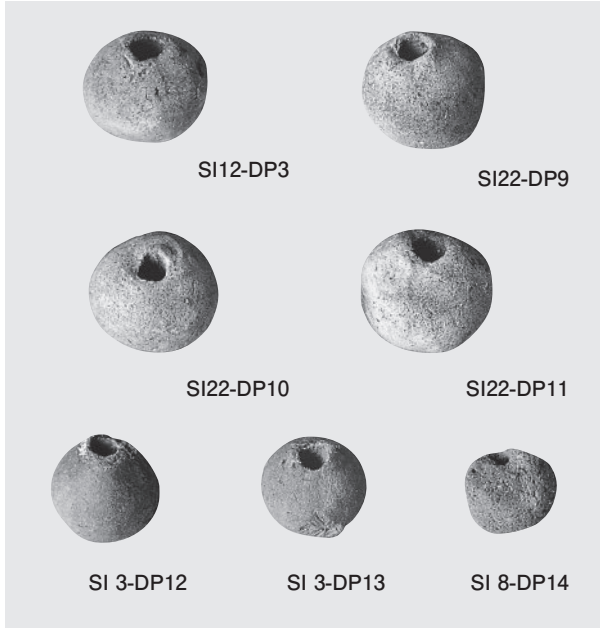
縄文土器

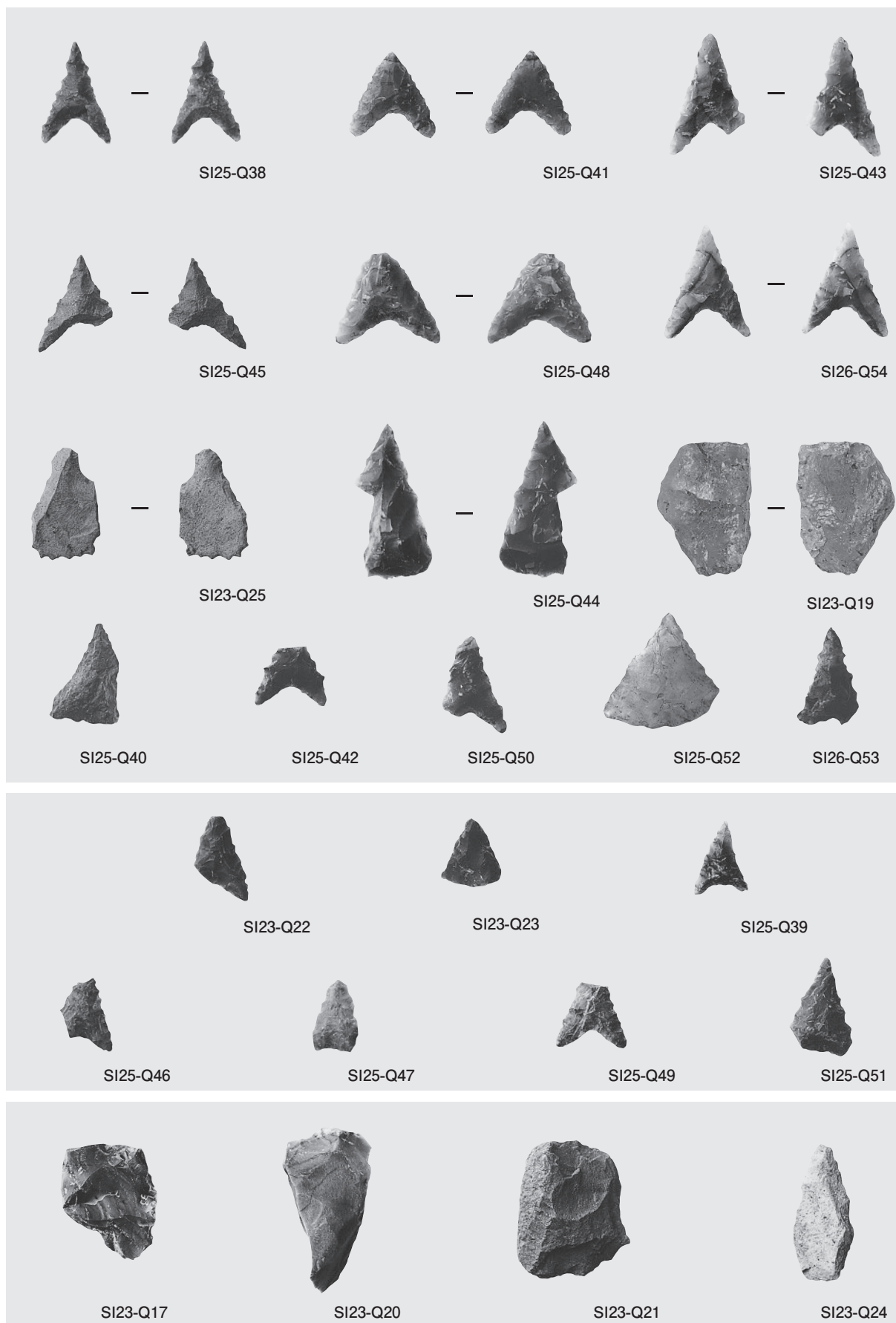


縄文土器

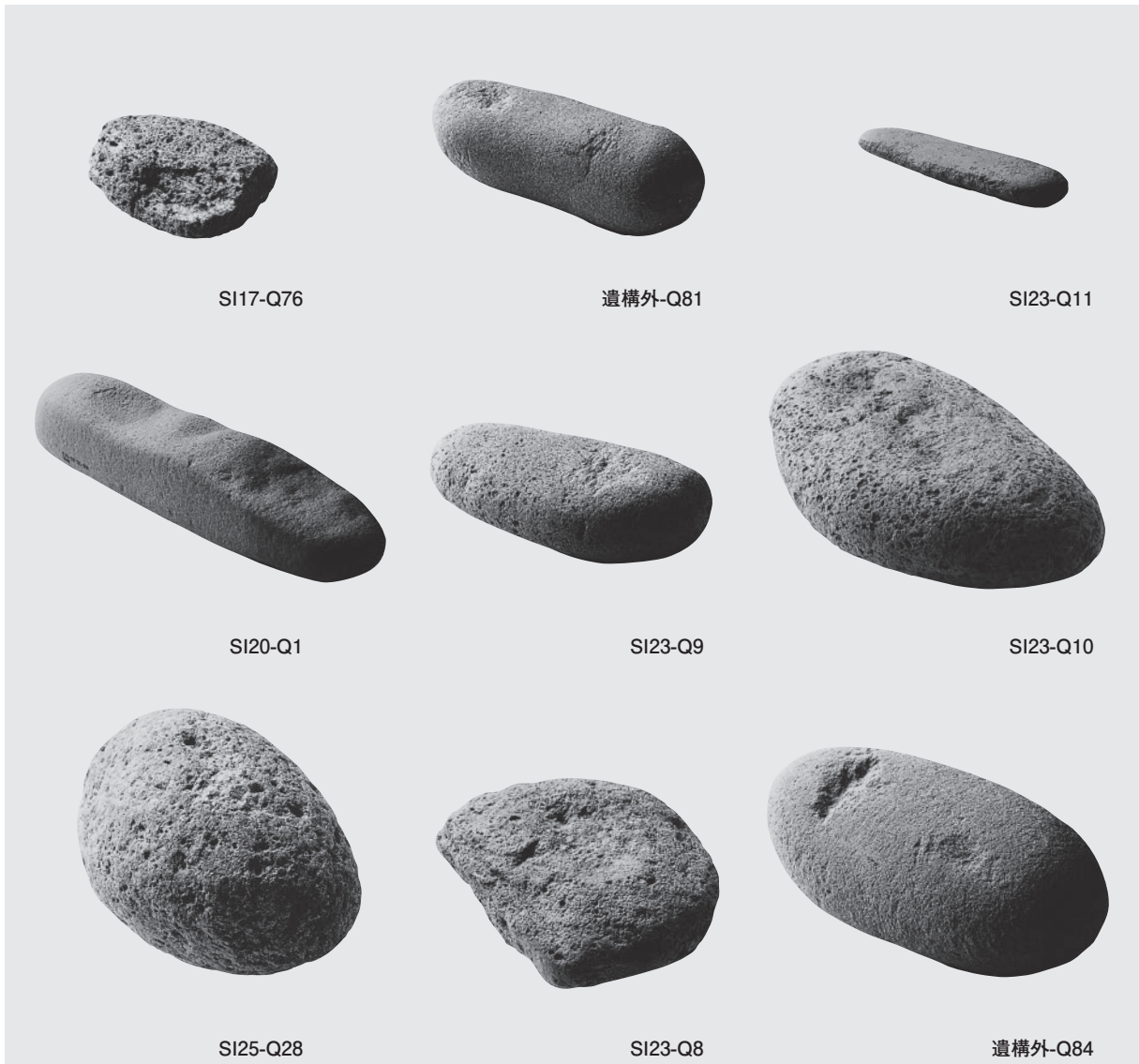
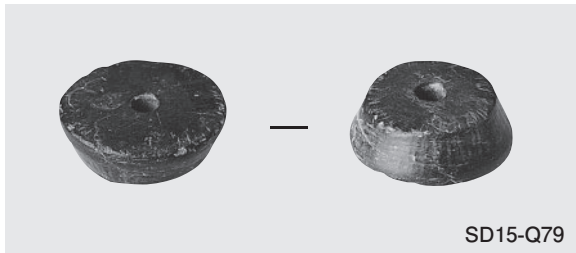
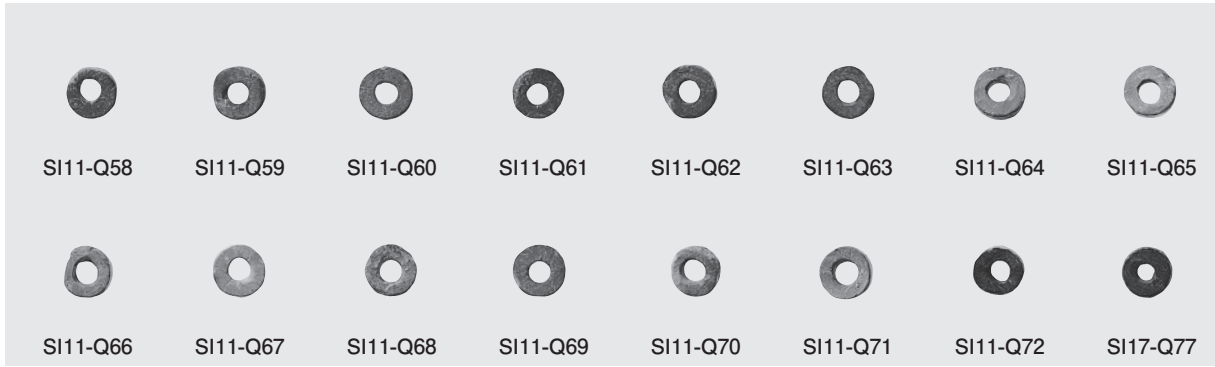


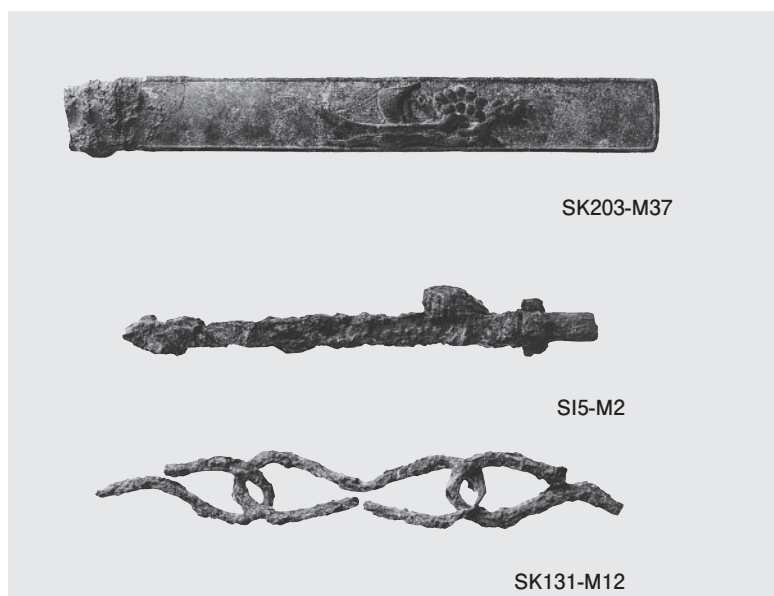
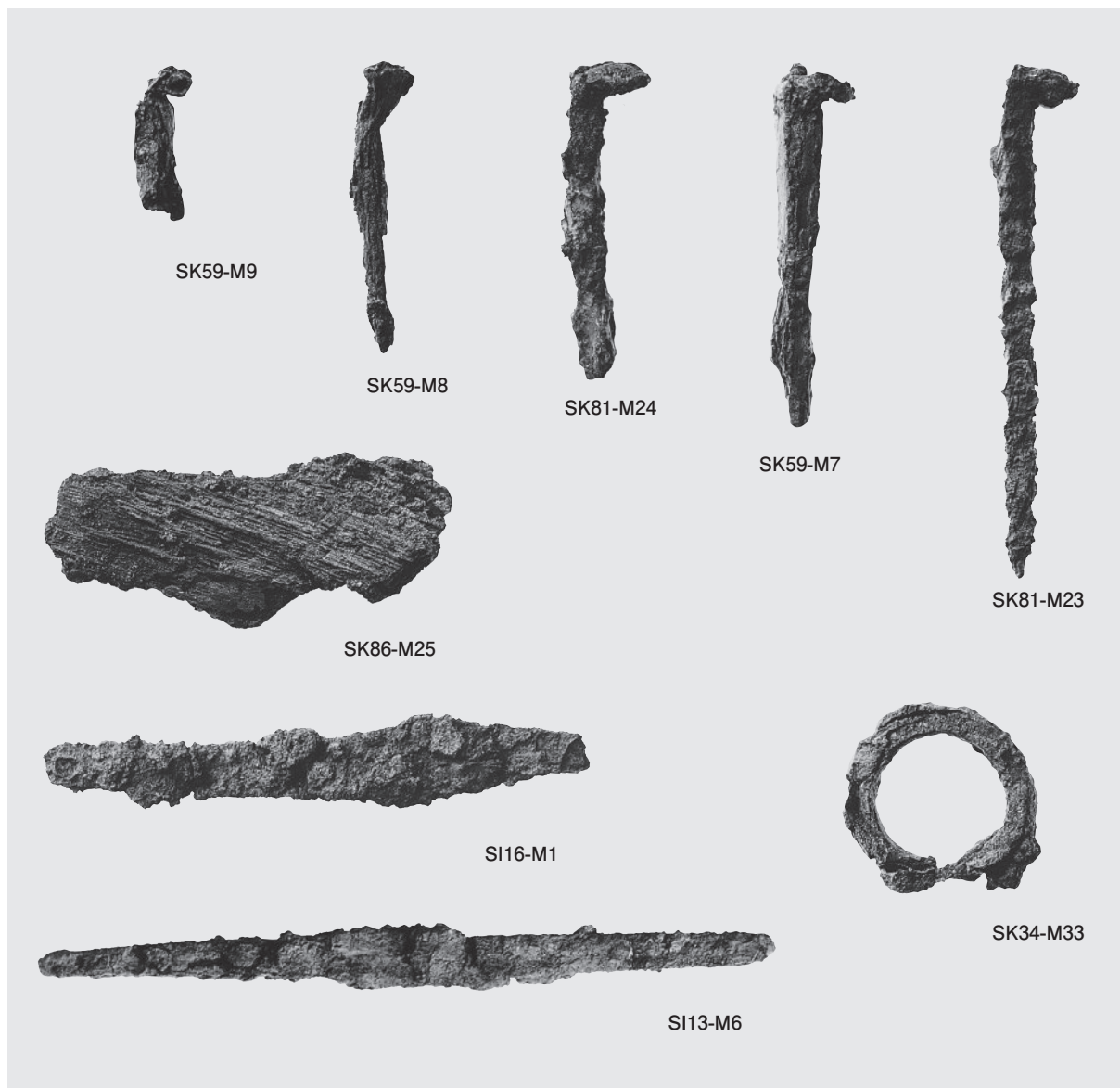
縄文土器・弥生土器・須恵器・瓦

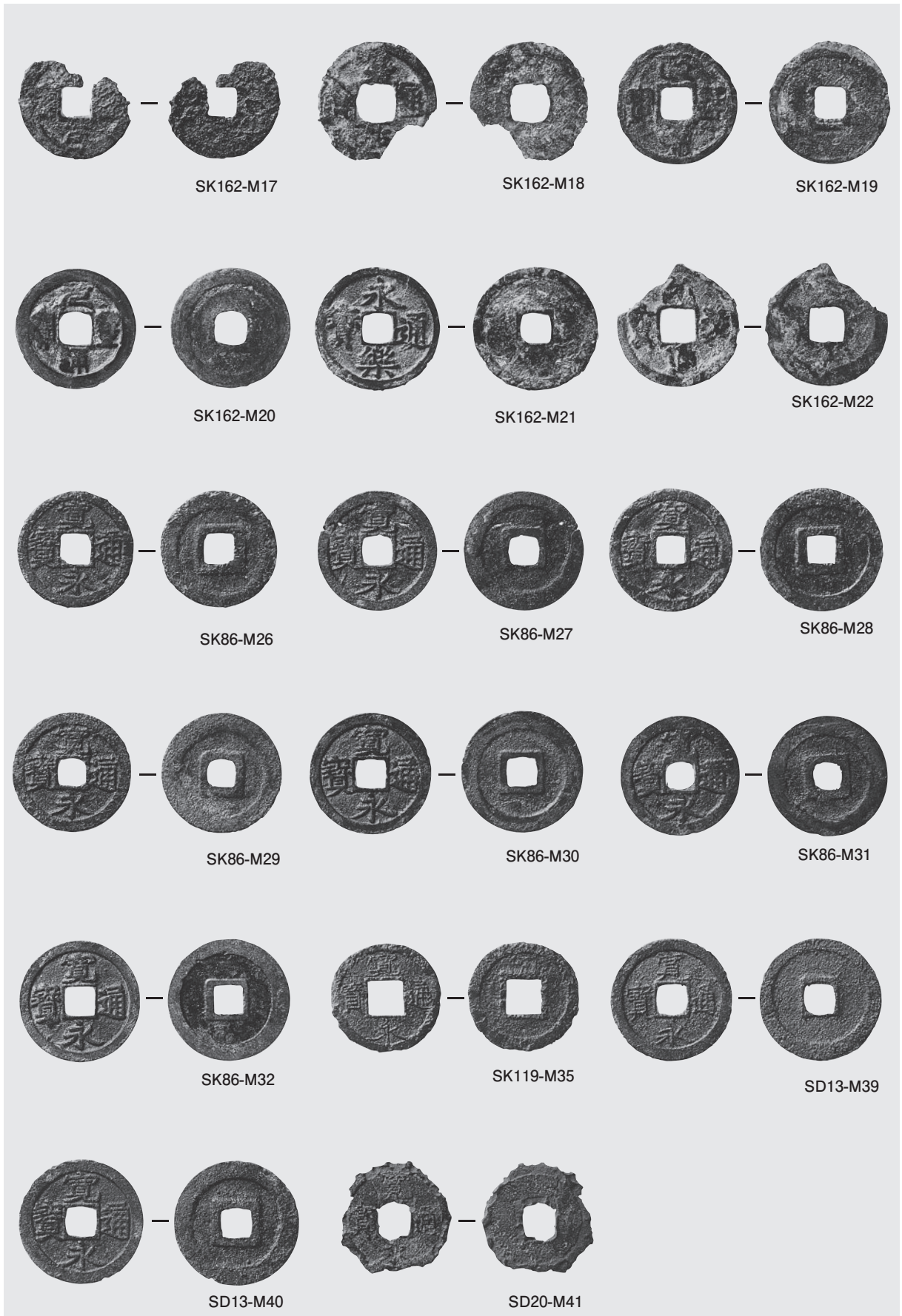




石器







茨城県教育財団文化財調査報告第287集

田 島 遺 跡
(南光院地区・南光院下地区)

一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～
石岡市東大橋)埋蔵文化財調査報告書2

平成20(2008)年3月19日 印刷

平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

T E L 029-227-5505